

令和6年度

# 経営情報学部履修要項



静岡県立大学  
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

# 履 修 要 項

## 年間行事予定表

履修案内	.....	P 1
1	はじめに	
2	単位制	
3	教育方針	
4	CAP（キャップ）制（平成 27 年度以降入学生対象）	
5-1	メジャー制（平成 31 年度以降入学生対象）	
5-2	コース制（平成 27 年度以降入学生対象）	
6	授業科目	
7	授業	
8	履修申告	
9-1	メジャーに関する科目の履修（平成 31 年度以降入学生対象）	
9-2	コースに関する科目の履修（平成 27 年度以降入学生対象）	
10-1	学習成果の把握（令和 6 年度以降入学生対象）	
10-2	学習成果の把握（令和 4 年度以降入学生対象）	
11	教職課程授業科目の履修	
12	英語科目の履修	
13	他学部の授業科目の履修	
14	静岡大学（人文学部及び教育学部）の科目の履修	
15	交流協定大学で取得した単位の認定	
16	試験	
17	学修の評価	
18	卒業・留年	
19	教職課程	
20	その他	

### 【参考資料】履修方法について

授業科目一覧（全学共通科目：全学生用）	.....	P 18
授業科目一覧（令和 6 年度以降入学生用）	.....	P 20
授業科目一覧（令和 2 年度以降入学生用）	.....	P 24
授業科目一覧（平成 31 年度入学生用）	.....	P 29
授業科目一覧（平成 26 年度から平成 30 年度入学者用）	...	P 34
履修細則（令和 6 年度以降入学生用）	.....	P 45

### 【注 意】

履修要項の再発行はできません。卒業後も履修要項が必要となる場合がありますので、各自で保管して下さい。

# 令和6年度 静岡県立大学年間授業予定表

2024年4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			2025年1月			2月			3月								
日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事			
1	月	学年・前期開始	1	水	月3[変則]	1	土	土7	1	月	月11	1	木	木16	1	日		1	火	火1	1	金	金5	1	日		1	水	元日	1	土	土15	1	土		1	土		1	土	
2	火		2	木	木3	2	日		2	火	火12	2	金	金16	2	月		2	水	水1	2	土	土5	2	月	月8	2	木		2	日		2	日		2	日		2	日	
3	水	春期休業終了	3	金	憲法記念日	3	月	月7	3	水	水12	3	土	土16	3	火		3	木	木1	3	日	文化の日	3	火	火9	3	金		3	月	月15	3	月		3	月		3	月	
4	木	ガイダンス	4	土	みどりの日	4	火	火8	4	木	木12	4	日		4	水		4	金	金1	4	月	振替休日	4	水	水9	4	土		4	火	火16	4	火		4	火		4	火	
5	金	ガイダンス	5	日	こどもの日	5	水	水8	5	金	金12	5	月	月16	5	木		5	土	土1	5	火	午前月3[変則] 午後月4[変則]	5	木	木9	5	日	冬期休業終了	5	水	水16	5	水		5	水		5	水	
6	土		6	月	振替休日	6	木	木8	6	土	土12	6	火	火16	6	金		6	日		6	水	水6	6	金	金10	6	月	月12	6	木	木16	6	木		6	木		6	木	
7	日		7	火	火4	7	金	金8	7	日		7	水		7	土		7	月	月1	7	木	木6	7	土	土9	7	火	火12	7	金	金16	7	金		7	金		7	金	
8	月	ガイダンス	8	水	水4	8	土	土8	8	月	月12	8	木		8	日		8	火	火2	8	金	金6	8	日		8	水	水12	8	土	土16	8	土	入試中期※	8	土		8	土	
9	火	入学式	9	木	木4	9	日		9	火	火13	9	金		9	月		9	水	水2	9	土	土6	9	月	月9	9	木	木12	9	日		9	日		9	日				
10	水	水1	10	金	金4	10	月	月8	10	水	水13	10	土		10	火		10	木	木2	10	日		10	火	火10	10	金	金13	10	月	月16	10	月		10	月				
11	木	木1	11	土	土4	11	火	火9	11	木	木13	11	日	山の日	11	水		11	金	金2	11	月	午前月4 午後月5	11	水	水10	11	土	土13	11	火	建国記念の日	11	火		11	火				
12	金	金1	12	日		12	水	水9	12	金	金13	12	月	振替休日	12	木		12	土	土2	12	火	火6	12	木	木10	12	日		12	水		12	水	入試後期	12	水				
13	土	土1 新入生 歓迎行事	13	月	月4	13	木	木9	13	土	土13	13	火	大学休業日	13	金		13	日		13	水	水7	13	金	金11	13	月	成人の日	13	木		13	木		13	木				
14	日		14	火	火5	14	金	金9	14	日		14	水	大学休業日	14	土		14	月	スポーツの日	14	木	木7	14	土	土10	14	火	火13	14	金		14	金		14	金				
15	月	月1	15	水	水5	15	土	土9	15	月	海の日	15	木	夏期休業開始 大学休業日	15	日	夏期休業終了	15	火	火3	15	金	金7	15	日		15	水	水13	15	土		15	土		15	土				
16	火	火1	16	木	木5	16	日		16	火	月13[変則]	16	金		16	月	敬老の日	16	水	水3	16	土	土7	16	月	月10	16	木	木13	16	日		16	日		16	日				
17	水	水2	17	金	金5	17	月	月9	17	水	水14	17	土		17	火		17	木	木3	17	日		17	火	火11	17	金	試験準備 (休講)	17	月		17	月		17	月				
18	木	開学記念日	18	土	土5	18	火	火10	18	木	木14	18	日		18	水		18	金	金3	18	月	午前月5 午後月6	18	水	水11	18	土	共通テスト※	18	火		18	火		18	火				
19	金	金2	19	日		19	水	水10	19	金	金14	19	月		19	木		19	土	土3	19	火	火7	19	木	木11	19	日	共通テスト※	19	水		19	水	学位記授与式						
20	土	土2	20	月	月5	20	木	木10	20	土	土14	20	火		20	金		20	日		20	水	水8	20	金	金12	20	月	月13	20	木		20	木	春分の日						
21	日		21	火	火6	21	金	金10	21	日		21	水	県民の日	21	土		21	月	月2	21	木	木8	21	土	土11	21	火	火14	21	金		21	金	春期休業開始						
22	月	月2	22	水	水6	22	土	土10	22	月	月14	22	木		22	火	秋分の日	22	日		22	火	火4	22	金	金8	22	日		22	水	水14	22	土		22	土				
23	火	火2	23	木	木6	23	日		23	火	火14	23	金		23	水	水振替休日	23	土	勤労感謝の日	23	月	月11	23	木	木14	23	日	天皇誕生日	23	日		23	日		23	日				
24	水	水3	24	金	金6	24	月	月10	24	水	水15	24	土		24	火		24	木	木4	24	日		24	火		24	金	金14	24	月	振替休日	24	月		24	月				
25	木	木2	25	土	土6	25	火	火11	25	木	木15	25	日		25	水		25	月	午前月6 午後月7	25	水		25	土	土14	25	火	入試前期※	25	火		25	火							
26	金	金3	26	日		26	水	水11	26	金	金15	26	月		26	木		26	土	土4 祭	26	火	火8	26	木		26	日		26	水		26	水							
27	土	土3	27	月	月6	27	木	木11	27	土	土15	27	火		27	金		27	日		27	水	水金9[変則]	27	金		27	月	月14	27	木		27	木							
28	日		28	火	火7	28	金	金11	28	日		28	水		28	土		28	月	午前休講 午後月3	28	木	午前月7[変則] 午後休講	28	土	土12	28	火	火15	28	金		28	金		28	金				
29	月	昭和の日	29	水	水7	29	土	土11	29	月	月15	29	木		29	日		29	火	火5	29	金	推薦・帰国生徒 入試※	29	日	冬期休業開始	29	水	水15	29	水		29	土		29	土				
30	火	火3	30	木	木7	30	日		30	火	火15	30	金		30	月	前期終了	30	水	水5	30	土	土8	30	月		30	木	木15	30	木		30	日		30	日				
			31	金	金7				31	水	水16	31	土					31	木	木5				31	火		31	金	金15				31	月							
前期及び通年科目の履修登録(下旬まで)									TOEIC-IPテスト(初旬) 【対象者】 全学部の1, 2年生						後期科目の履修登録(中旬まで)									TOEIC-IPテスト(初旬) 【対象者】 全学部の1年生、 国際関係学部2年生																	

は休業日  
 は通常授業が行われない日

赤字 は、主な行事、注意が必要な休講日、入構禁止日  
青字 は、変則日程

※印の日は入試のため大学構内への入構制限あり。一般学生は入構できません。



# 履 修 案 内

## 1 はじめに

この「履修案内」は、大学での授業の仕組みとその履修に必要な手続き等を、本学学則及び履修細則に従って解説したものである。授業の内容や事務上の手続きをよく知らなかったために学修におもわぬ支障をきたすことがあるので、そのようなことのないよう、この「履修案内」を十分活用すること。また、4月に行われるガイダンスを必ず受けるとともに、なお不明な点は学生室または指導教員を訪ね相談すること。

以下、単位制、授業科目、授業、履修登録、試験、評価、卒業等について記してあるので、熟読のうえ今後の学修に役立ててほしい。

## 2 単位制

### (1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して試験に合格すれば、単位が修得できることになっている。

本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級及び卒業の可否が決定される。これが単位制である。

本学部では、授業科目ごと配当年次が定められており、在学年次より上位の年次に配当される授業科目は原則として履修することができない。つまり、低学年次に配当されている必修科目は低学年のうちに履修しておく必要がある。

### (2) 単位と時間数

- ① 授業は前期・後期の2学期に分けて実施され、15週をもって1学期、30週をもって1学年とする。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし本学では、授業時間割の1時限を2時間とみなしている。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

区 分	授業時間	自習時間	計	備 考
講 義	1 5	3 0	4 5	
外 国 語・演習等	3 0	1 5	4 5	英語科目、身体運動科学など
実験・実習・実技	4 5	—	4 5	

以上のように1単位と計算される勉学の時間量には、教室内における講義だけでなく、学生の自学自習時間をふくめて計算することになっている。従って、学生の自主的勉学は、大学生活の不可欠の要素として重視されている。

### 3 教育方針

#### (1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営情報学部は、静岡県立大学学則に定める本学部の「人材養成等教育研究上の目的」を達成するため、教育課程（カリキュラム）を編成・実施しているが、学位（経営情報学）の授与に関する基本的な考え方は以下のとおりである。

『経営』『総合政策』『データサイエンス』『観光マネジメント』の4分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成する」

経営情報学部は、経営能力、政策企画力、情報学的解決能力を兼ね備え、これに加えて観光についての知識と能力を有し、社会の各分野においてイノベーションを担うことにより現代社会の課題を解決して、企業や地域社会に貢献する人材の育成を目標としている。学生は、所定の科目を習得することで学士（経営情報学）の学位を授与されるが、授与に際して以下の内容が重視される。

1. 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。
2. 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。
3. 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。
4. 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

#### (2) 教育課程の編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経営情報学部は、静岡県立大学学則に定める本学部の「人材養成等教育研究上の目的」を達成するため、以下の方針にしたがって教育課程（カリキュラム）を編成し、実施する。

1. 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4分野の専門的能力及びそれらを融合的に活用できる能力を育成するため、教育課程を編成する。
2. 授業の形態（講義・演習）と規模の適切な選択に基づき、効果的な教育方法を用いた授業を実施する。
3. 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」「英語」についての基礎的な知識や技術について習得するための学部基礎科目を配置する。
4. 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」について、より高度な専門性を身に付けるため、専門科目群を配置して、体系的・順次的に学習を進めるために配当年次を設定する。また、各分野の境界的・融合的な能力を身に付けるための複合科目を配置する。高度な専門性を身につけた学生に対して、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」のメジャーを認定する。
5. 少人数で実施されるゼミに所属して、「演習」等によって特定領域の研究を深め、学修の成果を卒業研究として完成させる。
6. 高等学校教諭一種免許状「数学」「情報」「商業」、簿記検定試験などの資格取得に必要な科目を設置する。
7. 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA（成績評価平均値）に基づくCAP（履修登録単位数制限）制を設定する。

## 4 CAP (キャップ) 制

### (1) CAP (キャップ) 制とは

- ① CAP (キャップ) 制とは、各学期において履修科目を取り過ぎることによる弊害 (学修レベルの低下等) を避けるため、各学期の履修登録できる単位数に上限を設けるものである。
- ② 1年次前期を除いて学期ごとに履修登録できる単位数は、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)の数値に基づいて上限が設けられる。GPAは国際標準となっている成績評価の基準で、以下の表および式に基づき計算された履修登録された全科目のGP (グレード・ポイント) の平均値で表される。不可となった科目はGPが0として計算されるので注意すること。

学修評価	GP (グレード・ポイント)
秀	4
優	3
良	2
可	1
不可	0

$$\text{GPA} = (4 \times \text{秀の単位数} + 3 \times \text{優の単位数} + 2 \times \text{良の単位数} + 1 \times \text{可の単位数}) / \text{総履修単位数}$$

の小数第2位を四捨五入し、小数第1位までにした値

なお、不可となった科目については、再履修した場合の成績により成績は変更できる。その場合、成績証明書に「不可」の記載は示されないが、成績原簿には履修の記録として残されるので、GPAの計算に際してはカウントされる。また、GPAは卒業研究履修資格の認定及び卒業要件には使用しない。

- ③ 履修登録単位数制限は、入学年度により異なる。

#### (令和4年度以降入学生)

- ・当学期の直前に在学していた学期のGPAが 3.0未満なら24単位、3.0以上ならば30単位
- ・履修登録単位数制限には、海外英語研修科目を含まない。
- ・1年次前期の履修登録科目単位数の上限は、24単位とする。

#### (令和2年度および令和3年度入学生)

- ・当学期の直前に在学していた学期のGPAが 3.0未満なら24単位、3.0以上ならば30単位
- ・履修登録単位数制限には、研究導入演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、集中講義対象科目、海外英語研修科目、経営情報総合C、経営情報総合D、及び卒業研究は含まない。
- ・1年次前期の履修登録科目単位数の上限は、24単位とする。

#### (平成31年度以前の入学生)

- ・GPAが 2.2未満なら 24 単位、2.2以上 3.0未満なら30 単位、3.0以上ならば無制限
- ・履修登録単位数制限には、研究導入演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、集中講義対象科目、海外英語研修科目、経営情報総合C、経営情報総合D、及び卒業研究は含まない。
- ・1年次前期の履修登録科目単位数の上限は、30単位とする。

- ④ 履修登録単位数制限を超えた登録が取り消されないまま「8 履修申告」の(2)履修登録確認期間を過ぎた場合には、原則として全ての履修登録を無効とする。
- ⑤ 英語等の通期履修で2単位の科目は前期1単位、後期1単位の割り当てとする。
- ⑥ GPA計算及び履修登録単位数制限には、教員の免許状に関わる教職に関する科目の単位は含まない。
- ⑦ このほか、特段の事情があると教授会において認められた場合には、CAP制の例外を認める。

### 5-1 メジャー制（平成31年度以降入学生対象）

本学部は、経営、総合政策、データサイエンス、観光マネジメントの4分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成することをミッション（使命）としているが、メジャー制は、学生が複数の専門分野を学び、融合して活用する力を磨くことができる制度である。学生は、単位修得状況に応じてメジャーが認定される。

### 5-2 コース制（平成27年度から平成30年度入学生対象）

#### (1) コース制とは

本学部は、経営、総合政策、情報の3分野の融合と専門性により、社会においてイノベーションを担う課題解決型の人材を育成することをミッション（使命）としているが、コース制は、学生が専門性を磨くために、2年次から「経営」、「総合政策」、「情報」の3コースのいずれかを学生が選択し、必要な専門教育科目を履修するものである。

#### (2) コースの変更

いったんコースを選択した後に、進路変更等の理由があれば、コースの変更を行うことができる。コースの変更の時期は、原則として2年次から3年次になる際とする。

## 6 授業科目

授業科目はその性質により、「全学共通科目」、「学部基礎科目」、「専門教育科目」に分類される。

また、「必修科目」は必ず修得しなければならない科目、「選択科目」は所定の単位を必ず修得しなければならない科目である。なお、学部基礎科目はすべて必修科目である。

## 7 授 業

#### (1) 学 期

本学での授業は、15週をもって1学期とする。

#### (2) 授業時間

授業時間は、原則として1時限90分とし、1日5時限に区切られている。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時 間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

#### (3) 授業時間割

授業時間割表は、4月のガイダンスの際及び後期授業開始時に配布される。

時間割は配布後多少変更する場合がありますので、掲示に注意すること。

#### (4) 休講、補講、集中講義等

##### ① 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、掲示板に掲示されるので、注意すること。

**授業開始時間を過ぎても講義が行われない場合、学生室（内線5009）へ連絡し確かめること。**

##### ② 補 講

夏季・冬季休業中に補講のための期間が設けられている。補講が行われる場合には、掲示等により連絡をするので日時・教室などをよく確かめ授業に出席すること。

##### ③ 集中講義、隔週連続講義

夏季・冬季休業中に設けられた期間に集中して行う講義や、通常期間内に隔週で行う講義がある。

詳細については、掲示で連絡する。



## 8 履修申告

### (1) 履修登録の意味

履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修登録をしなければならない。

この履修登録を怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学修したという実績があったとしても、単位を修得することができない。

### (2) 履修登録期間及び方法

履修登録は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web学生サービス支援システム」(以下システム。)により行う。システムへの登録期間は各学期のはじまりに通知される。(履修登録を取り消さないまま、その後の講義、試験等が未受講の場合には、成績は「不可」となる。)

### (3) 履修申告の注意事項

- ① 同一時間に2科目以上の科目を重複して履修登録することはできない。(重複はいずれの科目も登録されていないものと見なされる)
- ② 既に単位を修得した科目の再履修はできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修申告の事前または事後に履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それに従って登録すること。(特に英語科目)
- ⑤ 登録した授業を変更したい場合は、履修登録期間中に行うこと。
- ⑥ 「研究導入演習」は3年前期に、「演習Ⅰ」は3年後期に、「演習Ⅱ」「卒業研究(通年)」は4年前期に登録すること。
- ⑦ **(令和3年度以降入学生のみ)**「研究導入演習」「演習Ⅰ」を履修するためには、履修しようとする年度の前年度の10月1日において、学部基礎科目の中から30単位以上を修得していること。
- ⑧ 「研究導入演習」「演習Ⅰ」を修得していない者は、「演習Ⅱ」「卒業研究」を履修することができない。さらに「卒業研究」を履修できるのは、下記18(2)の「卒業研究履修資格」を満たした者に限るので注意すること。

## 9-1 メジャー制に関する科目の履修(平成31年度以降入学生対象)

### (1) メジャーの認定について

メジャーの認定については、学生がメジャーを選択する時期は特に設定せず、単位修得状況により、メジャーが認定されることとなる。卒業要件として、少なくとも一つのメジャーの認定を受けることが必要となる。また、複数のメジャーの認定を受けることが可能な為、積極的に複数のメジャーの認定を目指すことを強く推奨する。

### (2) メジャー毎の科目の履修

- ① 自身の目指すメジャーの認定に向けて、それぞれの分野での専門性を十分に養うために、当該メジャーの専門科目+数理科目+卒業研究の中から32単位を修得することが必要となる。ただし、各メジャーの具体的な認定要件はそれぞれ異なるため、注意すること。複数のメジャーにまたがる専門教育科目は、それらすべてのメジャーの単位数にカウントされる。「卒業研究」については、研究分野がメジャーと一致する場合に、メジャー認定の単位に加えることとする。ただし、複数のメジャーにまたがる内容の「卒業研究」だとしても、主査が判断した一つのメジャーの認定にのみ加えられる。
- ② 各メジャーの専門科目の中には、メジャーの必修科目が以下のとおり設定されており、それぞれのメジャーの専門的な知識を習得するために必要な科目である為、履修すること。

(令和6年度以降入学生)

経営メジャー＝「経営戦略論」「経営組織論」「マーケティングⅠ」「原価計算論」「ビジネス実践」

総合政策メジャー＝「公共政策論」「社会保障政策論」「法律学概論」

データサイエンスメジャー＝「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」「情報ネットワーク」「人工知能」「データサイエンス実習」

観光マネジメントメジャー＝「観光産業論」「観光政策論」「観光調査法」

(令和5年度以前入学生)

経営メジャー＝「経営戦略論」「組織行動論」「マーケティングⅠ」「原価計算論」

総合政策メジャー＝「公共政策論」「社会保障政策論」「公共ガバナンス論」

データサイエンスメジャー＝「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」「データベース」「Webシステム開発演習」

観光マネジメントメジャー＝「観光学概論」「観光産業論」「観光政策論」「観光調査法」

※メジャー制の履修方法については「【参考資料】履修方法について」のページを参照すること。

## 9-2 コースに関する科目の履修（平成27年度から平成30年度入学生対象）

### (1) コースの選択及び変更

1年次末に経営、総合政策、及び情報のいずれかのコースを選択し、2年次からコースに従った履修を始める。

1年次の冬にコース説明会があり、各コースで得られる知識、キャリアパス、ターゲットとする就職先などが説明される。

1年次のコース説明会の後にコース選択届けを提出する。各コースに定員はないが、コース選択届けの提出を忘れないよう注意すること。コース変更については、原則として、2年次末にコース変更届けを提出する。

### (2) コース毎の科目の履修

① 選択したコースにおいて、経営、総合政策および情報のそれぞれの分野において十分な専門性を養うために、コース毎の専門教育科目、すなわち、経営コースでは、数理科目＋経営科目、総合政策コースでは、数理科目＋総合政策科目、情報コースでは、数理科目＋情報科目、の中から24単位以上を履修すること。

② 各コースには、基本科目が以下のとおり設定されており、それぞれの分野で学ぶうえで基本的な知識を習得するために必要な科目であることから、履修すること。

経営コース＝「経営戦略論」、「組織行動論」、「マーケティングⅠ」、「原価計算論」

総合政策コース＝「公共政策論」、「社会保障政策論」、「公共ガバナンス論」

情報コース＝「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」、「データベース」

※H29年度以前入学者においては「ネットワーク管理」も基本科目に該当

※「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」は、H29年度以前入学者については「プログラミングⅡ」

なお、本学部は経営、総合政策、情報および数理という多彩な科目群を有することが特徴であり、選択したコース以外の分野の科目についても積極的に履修すること。

### (3) コースとゼミ

2年次の最後に経営分野、総合政策分野または情報分野の教員のゼミに配属され、3年次以降に研究導入演習、演習Ⅰ、演習Ⅱおよび卒業研究を履修するが、選択したコースとゼミの指導教員の専門分野を一致させる必要はない。すなわち、選択したコースの専門分野を学ぶことに加え、ゼミの演習において別の分野も専門的に学ぶことが可能である。

## 10-1 学習成果の把握（令和6年度以降入学生対象）

学位授与に際して、ディプロマ・ポリシー（「3 教育方針」を参照）を達成する必要がある。このディプロマ・ポリシーを達成するため、各自で学習成果を把握する必要がある。学習成果を把握するため、ルーブリックによる学習成果の達成具合を各自で確認し、ポートフォリオを作成する。なお、詳細は別途定める。

## 10-2 学習成果の把握（令和4年度から令和5年度入学生対象）

学位授与に際して、ディプロマ・ポリシー（「3 教育方針」を参照）を達成する必要がある。このディプロマ・ポリシーを達成するため、各自で学習成果を把握する必要がある。学習成果を把握するため、ルーブリックによる学習成果の達成具合を各自で確認し、ポートフォリオを作成する。なお、4つのルーブリック全てで評価点1以上を習得しなければならない。

### (1) ルーブリック

① メジャー修得数を評価点とする。

評価点	1	2	3
内容	メジャー修得数1	メジャー修得数2	メジャー修得数3

② 卒業研究への取り組みを評価点とする。

評価点	1	1	1	合計
内容	情報分析能力	論理的思考能力	論文作成能力	評価

③ 該当する科目の単位修得数に応じて評価点を決定する。

評価点	1	2	3
内容	該当科目2科目以上	該当科目7科目以上	該当科目11科目以上

### 【該当科目一覧】 23科目

消費者行動論、広告論、経営統計調査法Ⅰ、行政経営管理論、財政学、政策過程論、経営情報システム概論、公共ガバナンス論、商業論、マーケティングⅠ、観光政策論、観光経済学、地方創生論、観光学概論、観光政策論、会計学総論、保健医療システム論、地域福祉マネジメント論、医療介護マネジメント論、企業論、経営戦略論、応用経済学、社会保証政策論

④ 該当する科目の単位修得数に応じて評価点を決定する。

評価点	1	2	3
内容	該当科目 5科目以上	該当科目 12科目以上	該当科目 19科目以上

### 【該当科目一覧】 39科目

消費者行動論、広告論、経営統計調査法Ⅰ、情報ネットワーク、幾何学応用、情報処理演習、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ、データサイエンス実習、行政経営管理論、財政学、政策過程論、データベース、情報システム開発論、テキストマイニング、公共ガバナンス論、商業論、マーケティングⅠ、現代金融論、財務会計論、経営分析、会計学総論、地域経済学、企業論、経営戦略論、起業家論、多変量解析、マクロ経済学、計量経済学、応用経済学、ミクロ経済学、公共経済学、基礎数学Ⅱ、情報処理概論、情報工学実習、Webシステム開発演習、オブジェクト指向プログラミング、シミュレーション、情報リテラシⅠ、情報リテラシⅡ

#### (2) 学習成果確認手順

- ① 2年前期開始時にポートフォリオを小クラスにて提出し、内容について小クラス担当教員より適切な指導を受ける。
- ② 卒業研究着手時にポートフォリオを指導教員へ提出し、内容について指導教員より適切な指導を受ける。
- ③ 卒業研究発表会前に、卒業予定者全員がポートフォリオを教務委員会へ提出し、評価点を確認し、可否を決定する。卒業研究に関連する項目については主査、副査の先生にご意見を頂くこともある。

## 11 教職課程授業科目の履修

### (1) 教職課程履修生

毎年4月上旬に、2年次以上の学生を対象に、面談等を行って教職課程履修生として認定する。

募集要項・面談日程については、別途告知するので、見落とさぬよう注意すること。

### (2) 1年次授業科目の履修

教職課程授業科目として必要な授業科目が、1年次にも開設されているので、注意して履修すること。(それらの科目は、学部卒業に必要な単位として認定されるので、教職課程に所属できなくとも、無駄とはならない。)

1年次の履修状況(修得単位数及び成績)が、教職課程履修生認定の重要な判断基準となるので、しっかりと履修すること。

## 12 英語科目の履修

### (1) 基礎英語Ⅰ・基礎英語Ⅱ・検定英語Ⅰ・検定英語Ⅱ(平成31年度以前入学生は「基礎英語」「検定英語」)

上記英語科目は、TOEICの受験対策を想定したカリキュラムを組んでいる。大学構内にTOEIC L&R IPテストの受験会場を設けるので、履修者は全員受験すること。詳細は授業時や掲示等により連絡する。これ以外にも、各自TOEIC(公開テスト)を自主的に受験することが望ましい。

※各英語科目の評価については、英語科目評価表のページを参照すること。

### (2) クラス編成

英語科目についてはクラス編成を行うため、指定されたクラスと担当教員を確認したうえで履修すること。

## 13 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。所定の書式(学生室で受領するか、システムからダウンロード)により、履修登録期間内に学生室に提出すること。履修した場合は8単位を限度として専門教育科目(他学部開講科目)として単位の認定を行う。なお、履修できる科目は、在学年次と同じか下位の学年を対象としているものに限るので、履修しようとする学部のシラバス等により確認すること。

## 14 静岡大学（人文学部及び教育学部）の科目の履修

本学部と静岡大学人文学部・教育学部との間では、大学間協定に基づき、単位互換制度が実施されており、履修した場合は12単位を限度として専門教育科目（他大学等開講科目）として単位の認定を行う。履修の手続、履修できる科目、単位の認定等の詳細については、別途掲示等で知らせる。

なお、履修するときは、教務委員の承認を受けなければならない。

## 15 交流協定大学で修得した単位の認定

国際交流協定校に留学した場合、帰国後所定の手続きにより交流大学で修得した単位のうち12単位を限度として本学部の科目として読み替えることができるものとする。詳細については学生室に相談すること。

※注意：上記14、15あわせて単位の上限が12単位となる。

## 16 試 験

### (1) 試験とは

大学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験の上、単位を与える。

試験は、筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口答試問、実技テストのように他の方法により評価を決定する場合もある。また、出席状況その他平素の成績も評価を判定する資料となる。

### (2) 試験の種類

#### ① 定期試験

定期試験時間割は、試験開始10日前までに掲示により発表される。発表後も変更されることがあるので、注意すること。

#### ② 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。

この場合、授業や掲示等で伝達されるので、聞き漏らしや見落としのないように注意すること。

#### ③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気（ただし、医師の診断書を要する）

イ. 忌引（1、2親等に限り、死亡の日より1週間以内）

ウ. 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

エ. その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に学生室にて追試験受験願を受け取ってその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に提出する。追試験は、原則として試験日以後1か月以内に行う。

#### ④ 再試験

定期試験の結果が不可または不合格となった場合に、なお当該科目の単位を修得したいものは再履修するのが原則である。しかし、やむを得ない事情により授業科目の担当教員の判断により再試験を許されることがある。

### (3) 受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示またはあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。

定期試験の受験方法は次のとおりである。

- ① 本学学生らしく正々堂々と受験し、間違っても不正行為などしてはならない。
- ② もし、不正行為があれば、学則及び履修細則に照らし、処分する。
- ③ 受験時の座席については、特に指示がない場合は、1つ置きに着席すること。
- ④ 試験時は、使用が認められている物だけを机の上に置き、それ以外の持ち物は収納すること。
- ⑤ 机の上に学生証を置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。
- ⑥ 学生証を忘れた者は、学生室にて、定期試験仮受験票を発行してもらい、机の上に置くこと。
- ⑦ 原則として試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認めないので、注意すること。

## 17 学修の評価

### (1) 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可または合格・不合格の評語で表現される。

### (2) 評価の基準

合格					不合格	
秀	優	良	可	合	不可	不合
100 ～ 90	89 ～ 80	79 ～ 70	69 ～ 60	-	59 ～ 0	-

秀・優・良・可または合格と評定されたものは、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を登録し履修しなかった授業科目は不可または不合格と評定される。

### (3) 成績の確認

成績は、Web学生サービス支援システムで確認することができる。

### (4) 再履修

単位を修得できなかった授業科目については、他の学期に再び履修して単位の修得を図ることができる。

### (5) 授業科目の履修とみなし、単位を与える学修

日本商工会議所主催簿記検定（日商簿記）3級以上または全国商業高等学校協会主催簿記検定（全商簿記）2級以上に合格した者には、「簿記論」の単位を与える。評価は「優」とする。該当者は、この合格を証明する書類の原本を添え、学生室で配布する申請書により、「簿記論」の開講する年度内に学生室に届け出ること。（原本とそのコピーを持参する。）ただし、卒業年次生においては、後学期の試験期間の終了日までに届け出ること。

## 18 卒業・留年

### (1) 修業年限と在学年限

本学の修業年限は4年と定められている。また、在学期間は8年間を超えることができない。ただし、これらの期間には休学期間は算入されない。休学の手続きについては、学生便覧を参照のこと。

### (2) 卒業研究履修資格

卒業研究を履修するには、3年以上在学し、最低必要単位90単位以上を修得しなければならない。

なお、最低必要単位の構成は以下の通りである。

全学共通科目	学部基礎科目	専門教育科目		合計
		必修	選択	
8単位	38単位	4単位 (研究導入演習、演習Ⅰ)	40単位	90単位

### (3) 卒業要件

卒業するには、4年以上在学し、最低必要単位134単位以上を修得しなければならない。

なお、最低必要単位の構成は以下の通りである。

(令和6年度以降の入学生)

全学共通科目	学部基礎科目	専門教育科目		合計
		必修	選択	
8単位以上 16単位以下 ※必修科目及び必ずおか学 2単位を含む	40単位	12単位 (研究導入演習、演習Ⅰ 演習Ⅱ、卒業研究)	66単位以上 74単位以下	134単位

(注) 数理・データサイエンス・AI入門（全学共通科目）を必ず修得すること。

(注) 専門教育科目（選択）と全学共通科目をあわせて82単位を修得すること。

(注) 卒業までに少なくとも一つのメジャー認定を受けること。

(令和5年度以前の入学生)

全学共通科目	学部基礎科目	専門教育科目		合計
8単位以上 16単位以下 ※しずおか学2単位を含む	44単位	必修	選択	134単位
		12単位 (研究導入演習、演習Ⅰ 演習Ⅱ、卒業研究)	62単位以上 70単位以下	

(注) 専門教育科目(選択)と全学共通科目をあわせて78単位を修得すること。

(注) H31以降入学生は卒業までに少なくとも一つのメジャー認定を受けること。

(4) 9月卒業

9月卒業をするには、演習Ⅱ及び卒業研究を、卒業しようとする学期の開始前に修得していなければならない。

19 教職課程 ※令和3年度以前の学生は、入学年度の履修要項を参照すること。

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に基づき、本学に設置してある教職課程において所定の単位を修得しなければならない。

(1) 免許状の種類と免許教科

学部・学科	コース	免許状の種類	教科の種類
経営情報学部 経営情報学科	(教職課程) 数学コース	高等学校教諭一種免許状	数 学
	(教職課程) 情報コース	高等学校教諭一種免許状	情 報
	(教職課程) 商業コース	高等学校教諭一種免許状	商 業

※ 複数のコースに所属することができる。

(2) 基礎資格と最低単位数

所要資格	基礎資格	本学における最低修得単位数					
		教科及び 教科の指導法に 関する科目	大学が独自に 設定する科目	教職関連科目	教育の基礎的 理解に関する 科目	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	教育実践に関 する科目
免許状の種類  高等学校教諭 一種免許状	学士の学位 を 有すること	24	12	8	11	10	5
		36					

※「大学が独自に設定する科目」は、最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」について、併せて12単位以上を修得すること。

## (3) 教科及び教科の指導法に関する科目の授業科目名及び単位数

※ ( ) 内は令和5年度以前の入学生の科目名称

## 数学コース

免許法による教科及び教科の指導法に関する科目	本学授業科目	単位	学部 必修 単位数	教職 必修 単位数
代数学	離散数学	2		2
	経営数学	2		
	情報数学	2		2
	代数学応用	2		2
幾何学	行列とベクトル（基礎数学Ⅱ）	2		2
	幾何学応用	2		2
解析学	微分と積分（基礎数学Ⅰ）	2		2
	数理工学	2		
	解析学応用	2		2
「確率論、統計学」	基礎統計学Ⅰ	2	2	2
	経営工学	2	2	2
	基礎統計学Ⅱ	2		
	基礎統計学演習	2		
	確率論	2		
	時系列分析	2		
	数理統計学	2		
	多変量解析	2		
	計量経済学	2		
コンピュータ	情報理論	2		2
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2		2
	機械学習	2		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法Ⅰ	2		2
	数学科教育法Ⅱ	2		2

情報コース

免許法による教科及び教科の 指導法に関する科目	本学授業科目	単位	学部 必修 単位数	教職 必修 単位数
情報社会（職業に関する内容を 含む。）・情報倫理	情報社会と情報倫理	2		2
	情報と職業	2		2
コンピュータ・情報処理	情報科学概論	2		2
	情報処理概論	2	2	2
	情報処理演習	2	2	2
	オブジェクト指向プログラミング	2		2
	シミュレーション	2		2
	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2		
	人工知能	2		
	情報工学実習	2		2
情報システム	情報システム開発論	2		2
	経営情報システム探究	2		2
	経営情報システム概論	2	2	2
	データベース	2		2
情報通信ネットワーク	情報ネットワーク	2	※	2
	情報セキュリティ	2		2
	Webシステム開発演習	2		
マルチメディア表現・マルチメ ディア技術	メディア処理論	2		2
	情報リテラシⅡ	2	2	2
	画像処理と認識	2		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法Ⅰ	2		2
	情報科教育法Ⅱ	2		2

※令和5年度以前の入学生は必修（2単位）



商業コース

免許法による教科及び教科の指導法に関する科目	本学授業科目	単 位	学 部 必 修 単 位 数	教 職 必 修 単 位 数
商業の関係科目	基礎経営学	2	2	2
	会計学総論	2	2	2
	簿記論	2	2	2
	商業論	2		2
	マーケティングⅠ	2		2
	マーケティングⅡ	2		
	コーポレート・コミュニケーション	2		
	広告論	2		
	原価計算論	2		2
	経営組織論	2	※	
	組織行動論	2		
	会社会計	2		
	管理会計論	2		
	経営財務論	2		
	ビジネスロー	2		2
	経営分析	2		
	国際比較経営論	2		2
	プログラミング	2	2	2
	ビジネス実践（ビジネス・コミュニケーション）	2		2
	財務会計論	2		
	税務会計論	2		2
基礎英語Ⅰ	1	1	1	
基礎英語Ⅱ	1	1	1	
職業指導	職業指導論	2		2
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	商業科教育法Ⅰ	2		2
	商業科教育法Ⅱ	2		2

※令和5年度以前の入学生は必修（2単位）

## (4) 大学が独自に設定する科目

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」について、併せて12単位以上を修得すること。

## (5) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（教職関連科目）の授業科目名及び単位数

免許法による教職に関する科目	本学授業科目	単 位	学 部 必 修 単 位 数	教 職 必 修 単 位 数
日 本 国 憲 法	日本国憲法又は日本国憲法A又はB	2		2
体 育	身体運動科学A又はB	2		2
外国語コミュニケーション	英語会話Ⅰ	1	1	1
	英語会話Ⅱ	1	1	1
情報機器の操作	情報リテラシⅠ	2	2	2

## (6) 教育の基礎的理解に関する科目等の授業科目名及び単位数

※全ての免許教科必修

免許法による教職に関する科目	本学授業科目	単 位	学 部 必 修 単 位 数	教 職 必 修 単 位 数
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	2	-	11
	教育原理B	2		
	教師論	2		
	教育社会学	2		
	教育心理学	2		
	特別支援教育	1		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	2	-	10
	教育課程・特別活動論	2		
	教育方法	1		
	教育における情報通信技術の活用	1		
	生徒指導・進路指導論	2		
	学校カウンセリング	2		
教育実践に関する科目	教 育 実 習 Ⅰ	2	-	5
	教 育 実 習 Ⅱ	1		
	教職実践演習（高）	2		

## 20 その他

配布された学生便覧やガイダンス資料等の配布物についても、この履修案内とあわせて熟読しておくこと。

また、学部ホームページのweb掲示板及び学内の掲示版（はばたき棟・経営情報学部棟）などをよく見て、見落としのないよう注意すること。

【参考資料】履修方法について

履修方法
<p>「研究導入演習」「演習Ⅰ」を履修するために必要な最低修得単位数 (R3以降入学生)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学部基礎科目     必修科目30単位以上     ※履修しようとする年度の前年度の10月1日時点において。</li></ul>
<p>卒業研究履修資格に必要な最低修得単位数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全学共通科目     8単位以上</li><li>・学部基礎科目     38単位以上</li><li>・専門教育科目     必修科目4単位     (「研究導入演習」「演習Ⅰ」)     選択科目40単位以上</li></ul> <hr/> <p>合計 90単位</p>
<p>卒業に必要な最低修得単位数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全学共通科目     8単位以上16単位以下 (必修科目を含む)     ※卒業までにしずおか学から最低2単位修得すること。</li><li>・学部基礎科目     必修科目40単位 (令和5年度以前の入学生は44単位)</li><li>・専門教育科目     必修科目12単位     選択科目66単位以上74単位以下 (令和5年度以前の入学生は62単位以上70単位以下)</li></ul> <hr/> <p>合計134単位</p> <p>※H31以降入学生は卒業までに少なくとも一つのメジャー認定を受けること</p>

## 履修方法

### (H27-H30入学生)

経営コースでは、数理科目＋経営科目、総合政策コースでは、数理科目＋総合政策科目、情報コースでは、数理科目＋情報科目、の専門教育科目の中から24単位以上を履修すること。

各コースには、基本科目が以下のとおり設定されており、それぞれの分野で学ぶうえで基本的な知識を習得するために必要な科目であることから、履修すること。

経営コース＝「経営戦略論」「組織行動論」「マーケティングⅠ」「原価計算論」

総合政策コース＝「公共政策論」「社会保障政策論」「公共ガバナンス論」

情報コース＝「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」「データベース」

※H29年度以前入学者においては「ネットワーク管理」も基本科目に該当

※「アルゴリズムとデータ構造Ⅰ」は、H29年度以前入学者については「プログラミングⅡ」

### (R6以降入学生)

#### 経営メジャー

経営科目	経営戦略論、経営組織論、マーケティングⅠ、原価計算論、ビジネス実践	必修 10 単位
	その他経営科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限 8 単位
卒業研究 ※1		選択 6 単位
計		32 単位以上

#### 総合政策メジャー

総合政策科目	公共政策論、社会保障政策論、法律学概論	必修 6 単位
	その他総合政策科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限 8 単位
卒業研究 ※1		選択 6 単位
計		32 単位以上

#### データサイエンスメジャー

情報科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ、情報ネットワーク、人工知能、データサイエンス実習	必修 8 単位
	その他情報科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限なし
卒業研究 ※1		選択 6 単位
計		32 単位以上

#### 観光マネジメントメジャー

観光科目	観光産業論、観光政策論、観光調査法	必修 6 単位
	その他観光科目	選択 上限なし
観光に関連する他分野科目	マーケティングⅠ、消費者行動論、コーポレート・コミュニケーション、公共政策論、地方自治論、行政学、情報セキュリティ、データベース、Web システム開発演習	選択 上限 6 単位
数理科目		選択 上限 6 単位
卒業研究 ※1		選択 6 単位
計		32 単位以上

※1 「卒業研究」は、どれか一つのメジャー認定にのみ含めることができる。どのメジャーに含めるかは、指導教員の判断による。

(H31以降R5以前入学生)

経営メジャー

経営科目	経営戦略論、組織行動論、マーケティングⅠ、原価計算論	必修 8 単位
	その他経営科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限 8 単位
卒業研究 ※4		選択 6 単位
計		32 単位以上

総合政策メジャー

総合政策科目	公共政策論、社会保障政策論、公共ガバナンス論	必修 6 単位
	その他総合政策科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限 8 単位
卒業研究 ※4		選択 6 単位
計		32 単位以上

データサイエンスメジャー

情報科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ、データベース、Web システム開発演習	必修 6 単位
	その他情報科目	選択 上限なし
数理科目		選択 上限なし
卒業研究 ※4		選択 6 単位
計		32 単位以上

観光マネジメントメジャー

観光科目	観光学概論、観光産業論、観光政策論、観光調査法	必修 8 単位
	その他観光科目	選択 上限なし
観光に関連する他分野科目	マーケティングⅠ、消費者行動論、コーポレート・コミュニケーション、公共政策論、地域マネジメント論、公共ガバナンス論、情報セキュリティ、データベース、Web システム開発演習 ※3	選択 上限 6 単位 ※1
数理科目		選択 上限 6 単位 ※2
卒業研究 ※4		選択 6 単位
計		32 単位以上

※1 H31～R3年度入学生は上限なし。

※2 H31～R3年度入学生は上限8単位。

※3 H31～R3年度入学生は「社会保障政策論」「シミュレーション」「テキストマイニング」も対象。

※4 「卒業研究」は、どれか一つのメジャー認定にのみ含めることができる。どのメジャーに含めるかは、指導教員の判断による。

## 令和6年度全学共通科目

\*表中、「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合は、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

部門	科目名	単位数	担当教員 ( <small>斜体は非常勤講師</small> )	*相当科目
第1部門 (リテラシーとスキル)	ドイツ語入門	2	ファイファー・マティアス	
	フランス語入門	2	剣持 久木	
	スペイン語入門	2	杉田和歌子	
	中国語入門	2	王元武	
	日本語作文A	2	逢坂里恵	
	日本語作文B	2	逢坂里恵	
	中級日本語 I	2	水野かほる	
	中級日本語 II	2	水野かほる	
	情報検索実習	2	六井淳	
	数理・データサイエンス・AI入門	1	武藤伸明 ほか	
	ヒューマン・ケア	2	飯島本子	
	TOEFL留学英語 I	1	小田 透	TOEFL留学英語
	TOEFL留学英語 II	1	小田 透	
	TOEICビジネス基礎英語	1	堀内裕晃	
TOEICビジネス英語 I	1	山本好比古		
TOEICビジネス英語 II	1	山本好比古		
第2部門 (概論)	自然科学概論	2	橋本博 ほか	
	化学入門	2	眞鍋敬 ほか	
	生物学入門	2	竹内英之 ほか	
	薬剤発達史入門	2	賀川義之 ほか	くすりと医療の歩み
	物理学入門	2	本同宏成 ほか	
	環境科学入門	2	谷幸則 ほか	自然と環境・環境と健康
	哲学入門	2	飯野勝己	
	社会思想史入門	2	犬塚協太	社会思想史
	歴史学入門	2	栗田和典	
	宗教学入門	2	佐藤清子	現代の問題と宗教
	社会学入門	2	石井由香	グローバル社会学入門
	国際関係学入門	2	小窪 千早 ほか	国際関係学への招待
	文化人類学入門	2	金明美	エスニシティ論、多文化共生論
	公共政策入門	2	藤本 健太郎	社会保障とソーシャルインクルージョン
	心理学入門	2	西田公昭	日常生活と心理学
	生涯発達心理入門	2	笹宗一 ほか	心の発達と行動
	知的財産管理入門	1	居藤洋之	

部門	科目名	単位数	担当教員 ( <i>斜体</i> は非常勤講師)	*相当科目		
第3部門 (現代教養)	国際安全保障入門Ⅰ	2	西森之			
	国際安全保障入門Ⅱ	2	西森之			
	くらしと化学A	1	近藤啓 ほか			
	くらしと化学B	1	近藤啓 ほか			
	実用科学英語基礎編	2	太田敏郎			
	実用科学英語応用編	2	太田敏郎			
	基礎生命科学Ⅰ	【英語による科目】	2	太田敏郎		
	基礎生命科学Ⅱ	【英語による科目】	2	太田敏郎		
	現代日本文化入門A	【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス		
	現代日本文化入門B	【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス		
	経営分析入門A	【英語による科目】	1	上野、竹下		
	経営分析入門B	【英語による科目】	1	上野、竹下		
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	【英語による科目】	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	【英語による科目】	1	藤森敦之		
	英語で学ぶ日本語学ⅡA	【英語による科目】	1	吉村紀子		
	英語で学ぶ日本語学ⅡB	【英語による科目】	1	吉村紀子		
	財務会計入門A	【英語による科目】	1	上野雄史		
	財務会計入門B	【英語による科目】	1	上野雄史		
	言語の学習・習得ⅠA	【英語による科目】	1	吉村紀子	言語の学習・習得 A	
	言語の学習・習得ⅠB	【英語による科目】	1	吉村紀子	言語の学習・習得 B	
	言語の学習・習得ⅡA	【英語による科目】	1	藤森敦之		
	言語の学習・習得ⅡB	【英語による科目】	1	藤森敦之		
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	【しずおか学】	2	森本達也 ほか		
	静岡の防災と医療	【しずおか学】	2	森本達也 ほか		
	静岡地域食材学A	【しずおか学】	1	三好規之 ほか		
	静岡地域食材学B	【しずおか学】	1	江口智美 ほか		
	茶学入門	【しずおか学】	2	中村順行		
	ムセイオン静岡－ MUSEUMと文化A	【しずおか学】	1	立田洋司	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化A	
	ムセイオン静岡－ MUSEUMと文化B	【しずおか学】	1	立田洋司	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化B	
	ムセイオン静岡－ 世界の文化遺産A	【しずおか学】	1	立田洋司	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産A	
	ムセイオン静岡－ 世界の文化遺産B	【しずおか学】	1	立田洋司	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産B	
	ムセイオン静岡－ 舞台芸術A	【しずおか学】	1	立田洋司	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術A	
	ムセイオン静岡－ 舞台芸術B	【しずおか学】	1	立田洋司	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術B	
	静岡の市民活動	【しずおか学】	1	津富宏 ほか		
	歴史からみるしずおか学	【しずおか学】	2	上野雄史		
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】	2	上原克仁 ほか		
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】	2	上原克仁 ほか		
	SDGs概論	【しずおか学】	2	谷晃 ほか		
	ふじのくにが「フジ・ネットワーク」：観る・食べる・学ぶ	【しずおか学】	2	大久保あかね ほか		
	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	【しずおか学】	2	伊藤創平 ほか		
	総合科目	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	【しずおか学】	2	横井 香織 ほか	
		ふじのくに学 (お茶)	【しずおか学】	2	中村順行 ほか	
ふじのくに学 (観光学)		【しずおか学】	1	北上真一 ほか		
ふじのくに学 (演劇論)		【しずおか学】	2	宮城聡(静岡英和学院大学) ほか		
ふじのくに学 (南アルプスの自然)		【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか		
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーション)		【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか		
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅡ)		【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか		
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅢ)		【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか		
ふじのくに学 (農林業)		【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか		
ふじのくに学 (森林生態系からの恵み)		【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか		
ふじのくに学 (伊豆の温泉と産業おこし)		【しずおか学】	2	楠城一嘉、鴨川仁 ほか		
ふじのくに学 (魅力ある食と地域づくり)		【しずおか学】	2	大久保あかね ほか		
ふじのくに学 (静岡県西部地域の特性と産業)		【しずおか学】	2	静岡文化芸術大学教員 ほか		
健康イノベーション教育プログラム		【しずおか学】	2	新井英一 ほか		
キャリアデザイン概論			2	東野 定律		
男女共同参画社会とジェンダー			2	犬塚協太 ほか		
人権が支える社会			2	坪田 光平	人権問題を考える	
ジャーナリズム論			2	西森之 ほか		
キャリアと社会 <sup>※1</sup>			2	羽衣国際大学教員 ほか		
高野山で学ぶキャリアとわたし <sup>※1</sup>			2	高野山大学教員 ほか		
科運身学動体		身体運動科学A	2	窪田辰政 ほか		
		身体運動科学B	2	窪田辰政 ほか		

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる

\*1南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

令和6年度以降入学者用 科目一覧表

経営情報学部 専門科目						
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
学部基礎科目	基礎経営学	商 必	1	2		
	会計学総論	商 必	1	2		
	簿記論	商 必	1	2		
	基礎統計学Ⅰ	数 必	1	2		
	経営工学	数 必	1	2		
	基礎経済学		1	2		
	総合政策概論		2	2		
	行財政学概論		1	2		
	情報処理概論	情 必	1	2		
	経営情報システム概論	情 必	2	2		
	情報処理演習	情 必	1	2		
	情報リテラシⅠ	共 選 必	1	2		
	情報リテラシⅡ	情 必	1	2		
	プログラミング	商 必	2	2		
	観光学概論		1	2		
	基礎英語Ⅰ	商 必	1	1		
	基礎英語Ⅱ	商 必	1	1		
	英語会話Ⅰ	共 必	1	1		
	英語会話Ⅱ	共 必	1	1		
	英語講読Ⅰ		2	1		
	英語講読Ⅱ		2	1		
	検定英語Ⅰ		2	1		
	検定英語Ⅱ		2	1		
スタートアップ演習		1	2			
専門教育科目	経営科目	組織行動論	商 選	2	2	
		企業論		1	2	
		国際経営論		1	2	
		多国籍企業論		3	2	
		国際比較経営論	商 必	3	2	
		起業家論		3	2	
		ベンチャービジネス論		3	2	
		経営戦略論		2	2	経営メジャー必修
		経営史		1	2	
		商業論	商 必	2	2	
		マーケティングⅠ	商 必	1	2	経営メジャー必修
		マーケティングⅡ	商 選	2	2	
		コーポレート・コミュニケーション	商 選	3	2	
		広告論	商 選	2	2	
		技術経営論		3	2	
		財務会計論	商 選	2	2	
		会社会計	商 選	1	2	
		経営分析	商 選	2	2	
		経営組織論	商 選	2	2	経営メジャー必修
		管理会計論	商 選	3	2	
		原価計算論	商 必	1	2	経営メジャー必修
		監査論		3	2	
		税務会計論	商 必	3	2	
		経営財務論	商 選	3	2	
		職業指導論	商 必	3	2	
		消費者行動論		2	2	
		経営統計調査法Ⅰ		3	2	
経営統計調査法Ⅱ		3	2			
ビジネス実践	商 必	3	2	経営メジャー必修		
人的資源管理論		2	2			
国際人的資源管理論		2	2			



経営情報学部 専門科目							
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考	
				必修	選択		
総合政策科目	公共政策論		2		2	総合政策メジャー必修	
	ミクロ経済学		2		2		
	応用経済学		3		2		
	マクロ経済学		2		2		
	計量経済学	数 選	3		2		
	地域経済学		3		2		
	地域産業論		2		2		
	財政学		2		2		
	現代金融論		3		2		
	行政学		3		2		
	地方自治論		3		2		
	医療介護マネジメント論		3		2		
	保健医療システム論		2		2		
	地方財政論		3		2		
	社会保障政策論		2		2	総合政策メジャー必修	
	公共経済学		3		2		
	地域福祉マネジメント論		3		2		
	医療介護政策論		3		2		
	日本国憲法	共 選 必	3		2	総合政策メジャー必修	
	民法各論		3		2		
法律学概論		3		2			
ビジネスロー	商 必	3		2			
情報科目	情報科学概論	情 必	1		2	データサイエンスメジャー必修	
	情報理論	数 必	2		2		
	アルゴリズムとデータ構造 I	数 必	2		2		
	オブジェクト指向プログラミング	情 必	3		2		
	アルゴリズムとデータ構造 II	情 選	3		2		
	データベース	情 必	2		2		
	画像処理と認識	情 選	2		2		
	メディア処理論	情 必	3		2		
	人工知能	情 選	2		2		データサイエンスメジャー必修
	情報セキュリティ	情 必	2		2		
	Webシステム開発演習	情 選	3		2		
	情報システム開発論	情 必	2		2		
	経営情報システム探究	情 必	3		2	データサイエンスメジャー必修	
	情報社会と情報倫理	情 必	3		2		
	情報と職業	情 必	3		2		
	情報工学実習	情 必	3		2		
	テキストマイニング		3		2		
	シミュレーション	情 必	3		2		
	データサイエンス実習		3		2		
	情報ネットワーク	情 必	2		2		
数理科目	微分と積分	数 必	1		2		
	行列とベクトル	数 必	1		2		
	経営数学	数 選	2		2		
	確率論	数 選	2		2		
	基礎統計学 II	数 選	1		2		
	数理統計学	数 選	3		2		
	多変量解析	数 選	3		2		
	時系列分析	数 選	2		2		
	情報数学	数 必	2		2		
	数理工学	数 選	2		2		
	基礎統計学演習	数 選	2		2		
	離散数学	数 必	1		2		
	代数学応用	数 必	3		2		
	幾何学応用	数 必	3		2		
	解析学応用	数 必	3		2		
機械学習	数 選	3		2			

経営情報学部 専門科目						
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
観光科目	観光産業論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
	観光経営人材論		2		2	
	観光マネジメント		2		2	
	国際観光論		2		2	
	観光政策論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
	観光経済学		2		2	
	観光調査法		3		2	観光マネジメントメジャー必修
	観光情報システム		3		2	
	観光まちづくり論		2		2	
	地方創生論		3		2	
	異文化コミュニケーション		3		2	
	観光人類学		3		2	
複合科目	経営情報特別講義A		1		2	「会計専門職を目指すための講義」充当
	経営情報特別講義B		3		2	「ビジネスマンに学ぶビジネス入門」充当
	経営情報特別講義C		4		2	
	経営情報特別講義D		3		2	清水銀行「地域金融論」充当
	経営情報特別講義E		2		2	
	経営情報特別講義F		2		2	「リスクマネジメント論」充当
	経営情報特別講義G		2		2	「観光マネジメント」充当
	経営情報特別講義H		2		2	「国際観光論」充当
	経営情報特別講義I		2		2	「観光政策論」充当
	経営情報特別講義J		2		2	「観光経済学」充当
	経営情報特別講義K		3		2	「観光調査法」充当
	経営情報特別講義L		3		2	「観光情報システム」充当
	経営情報特別講義M				2	
	経営情報特別講義N		2		2	「観光学概論」充当
	経営情報総合A		3		2	
	経営情報総合B		3		2	
	経営情報総合C		1		2	ITパスポート試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで
	経営情報総合D		1		2	基本情報技術者試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで
経営情報総合E		2		2	「観光産業論」充当	
経営情報総合F		2		2	「観光経営人材論」充当	
経営情報イノベーション特別講義A		1		1		
経営情報イノベーション特別講義B		1		1		
英語科目	海外英語研修A		1		2	
	海外英語研修B		1		2	
	海外英語研修C		1		2	
	海外英語研修D		1		1	
自由選択科目	他学部開講科目	共選必			8以内	教職「共選必」は日本国憲法A又はB(～2012)
	他大学等開講科目				12以内	
演習	基礎演習Ⅰ		1		1	1年前期
	基礎演習Ⅱ		1		1	1年後期
	基礎演習Ⅲ		2		1	2年前期
	基礎演習Ⅳ		2		1	2年後期
	研究融合演習Ⅰ		3		1	
	研究融合演習Ⅱ		3		1	
	研究導入演習		3	2		3年前期 必修
	演習Ⅰ		3	2		3年後期 必修
演習Ⅱ		4	2		4年前期 必修	
卒業研究	卒業研究		4	6		4年通年 必修

令和6年度以降入学者用 教職科目一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)		
			必修	選択	教科	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	2			共通	2	
	教育原理B	2			共通	2	
	教師論	2			共通	2	
	教育社会学	3			共通	2	
	教育心理学	2			共通	2	
	特別支援教育	3			共通	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	3			共通	2	
	教育課程・特別活動論	3			共通	2	
	教育方法	2			共通	1	
	教育における情報通信技術の活用	2			共通	1	
	生徒指導・進路指導論	3			共通	2	
	学校カウンセリング	3			共通	2	
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4			共通	2	
	教育実習Ⅱ	4			共通	1	
	教職実践演習(高)	4			共通	2	
教職関連科目	日本国憲法 ※3	2		2	共通	2	
	日本国憲法A又はB ※1	2		2	共通	2	
	身体運動科学A又はB ※2	1		2	共通	2	
	英語会話Ⅰ	1	1		共通	1	
	英語会話Ⅱ	1	1		共通	1	
	情報リテラシⅠ	1	2		共通	2	

※1 日本国憲法、日本国憲法A、日本国憲法Bのうち1つを履修すること。

※2 身体運動科学A、身体運動科学Bのうち1つを履修すること。

各教科の指導法に関する科目							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)		
			必修	選択	教科	必修	選択
教科及び教科の指導に関する科目	数学科教育法Ⅰ	3			数	2	
	数学科教育法Ⅱ	3			数	2	
	情報科教育法Ⅰ	3			情	2	
	情報科教育法Ⅱ	3			情	2	
	商業科教育法Ⅰ	3			商	2	
	商業科教育法Ⅱ	3			商	2	

## 令和2年度以降入学者用 科目一覧表

※網掛けはR6年度非開講の科目です。

経営情報学部		専門科目				備 考	
科目分類	授業科目の名称	教職	配当 年次	単位数			
				必修	選択		
学部基礎科目	基礎経営学	商 必	1	2			
	経営組織論	商 選	2	2			
	会計学総論	商 必	1	2			
	簿記論	商 必	1	2			
	経営情報システム概論	情 必	2	2			
	基礎統計学Ⅰ	数 必	1	2			
	経営工学	数 必	1	2			
	法律学概論			1	2		
	基礎経済学			1	2		
	総合政策概論Ⅰ			1	2		
	総合政策概論Ⅱ			2	2		
	情報処理概論	情 必	1	2			
	情報処理演習	情 必	1	2			
	情報リテラシⅠ	共 選 必	1	2			
	情報リテラシⅡ	情 必	1	2			
	プログラミング	商 必	2	2			
	情報ネットワーク	情 必	2	2			
	基礎英語Ⅰ	商 必	1	1			
	基礎英語Ⅱ	商 必	1	1			
	英語会話Ⅰ	共 必	1	1			
	英語会話Ⅱ	共 必	1	1			
	英語講読Ⅰ			2	1		
	英語講読Ⅱ			2	1		
	検定英語Ⅰ			2	1		
検定英語Ⅱ			2	1			
スタートアップ演習			1	2			
専 門 教 育 科 目	経営科目	組織行動論	商 選	2	2	経営メジャー必修	
		企業論		1	2		
		国際比較経営論	商 必	3	2		
		国際経営論		1	2		
		多国籍企業論		3	2		
		起業家論		3	2		
		ベンチャービジネス論		3	2		
		経営戦略論		2	2	経営メジャー必修	
		経営史		1	2		
		商業論	商 必	2	2		
		マーケティングⅠ	商 必	1	2	経営メジャー必修	
		マーケティングⅡ	商 選	2	2		
		コーポレート・コミュニケーション	商 選	3	2		
		広告論	商 選	2	2		
		技術経営論		3	2		
		財務会計論	商 選	2	2		
		会社会計	商 選	1	2		
		経営分析	商 選	2	2		
		管理会計論	商 選	3	2		
		原価計算論	商 必	1	2	経営メジャー必修	
		監査論		3	2		
		税務会計論	商 必	3	2		
		経営財務論	商 選	3	2		
		職業指導論	商 必	3	2		
		消費者行動論		2	2		
		経営統計調査法Ⅰ		3	2		
		経営統計調査法Ⅱ		3	2		
		人的資源管理論		2	2		
国際人的資源管理論		2	2				
ビジネスロー	商 必	3	2				
ビジネス・コミュニケーション	商 必	3	2	R4以前は2年次配当			

		経営情報学部		専門科目			
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考	
				必修	選択		
専門 教育 科目	総合政策科目	公共政策論		2		総合政策メジャー必修	
		ミクロ経済学		2	2		
		応用経済学		3	2		
		マクロ経済学		2	2		
		計量経済学	教 選	3	2		
		地域経済学		3	2		
		地域産業論		2	2		
		財政学		2	2		
		現代金融論		3	2		
		行政経営管理論		3	2		
		公共ガバナンス論		3	2		総合政策メジャー必修
		地域マネジメント論		3	2		
		医療介護マネジメント論		3	2		
		保健医療システム論		2	2		～2020入学生は「公共健康政策論」
		政策過程論		3	2		
		社会保障政策論		2	2		総合政策メジャー必修
		公共経済学		3	2		
		地域福祉マネジメント論		3	2		
		日本国憲法	共 選 必	2	2		
	民法各論		2	2			
	医療介護政策論 <small>※2021以降入学生のみ</small>		3	2			
	情報科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	教 必	2	2	データサイエンスメジャー必修	
		オブジェクト指向プログラミング	情 必	3	2		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情 選	3	2		
		データベース	情 必	2	2	データサイエンスメジャー必修	
		経営情報システム探究	情 必	3	2		
		情報科学概論	情 必	1	2		
情報理論		教 必	2	2			
画像処理と認識		情 選	2	2			
Webシステム開発演習		情 選	3	2	データサイエンスメジャー必修		
情報システム開発論		情 必	2	2			
人工知能		情 選	2	2			
情報社会と情報倫理	情 必	3	2				
情報工学実習	情 必	3	2				
メディア処理論	情 必	3	2				
情報と職業	情 必	3	2				
情報セキュリティ	情 必	2	2				
シミュレーション	情 必	3	2				
テキストマイニング		3	2				
データサイエンス実習		3	2				

		経営情報学部		専門科目					
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考			
				必修	選択				
専門 教育 科目	数理科目	基礎数学Ⅰ	教 必	1		2			
		基礎数学Ⅱ	教 必	1		2			
		経営数学	教 選	2		2			
		確率論	教 選	2		2			
		基礎統計学Ⅱ	教 選	1		2			
		数理統計学	教 選	3		2			
		多変量解析	教 選	3		2			
		時系列分析	教 選	2		2			
		情報数学	教 必	2		2			
		数理工学	教 選	2		2			
		基礎統計学演習	教 選	2		2			
		離散数学	教 必	1		2			
		代数学応用	教 必	3		2			
		幾何学応用	教 必	3		2			
		解析学応用	教 必	3		2			
	機械学習	教 選	3		2				
	観光科目	観光学概論			1		2	観光マネジメントメジャー必修	
		観光産業論			2		2	観光マネジメントメジャー必修	
		観光経営人材論			2		2		
		観光マネジメント			2		2		
		国際観光論			2		2		
		観光政策論			2		2	観光マネジメントメジャー必修	
		観光経済学			2		2		
		観光調査法			2		2	観光マネジメントメジャー必修	
		観光情報システム			3		2		
		観光まちづくり論			2		2		
		地方創生論			3		2		
		異文化コミュニケーション			3		2		
	観光人類学			3		2			
	複合科目	経営情報特別講義A			1		2	「会計専門職を目指すための講義」充当	
		経営情報特別講義B			3		2	「ビジネスマンに学ぶビジネス入門」充当	
		経営情報特別講義C			4		2		
		経営情報特別講義D			3		2	清水銀行「地域金融論」充当	
経営情報特別講義E				2		2			
経営情報特別講義F				2		2	「リスクマネジメント論」充当		
経営情報特別講義G				2		2	「観光マネジメント」充当		
経営情報特別講義H				2		2	「国際観光論」充当		
経営情報特別講義I				2		2	「観光政策論」充当		
経営情報特別講義J				2		2	「観光経済学」充当		
経営情報特別講義K				2		2	「観光調査法」充当		
経営情報特別講義L				3		2	「観光情報システム」充当		
経営情報特別講義M						2			
経営情報特別講義N				2		2	「観光学概論」充当		
経営情報総合A				3		2			
経営情報総合B				3		2			
経営情報総合C				1		2	ITパスポート試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで		
経営情報総合D				1		2	基本情報技術者試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで		
経営情報総合E			2		2	「観光産業論」充当			
経営情報総合F			2		2	「観光経営人材論」充当			

経営情報学部 専門科目								
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考		
				必修	選択			
専門 教育 科目	英語科目	アドバンスト・イングリッシュA		3		1		
		アドバンスト・イングリッシュB		3		1		
		アドバンスト・ビジネス・イングリッシュA		3		1		
		アドバンスト・ビジネス・イングリッシュB		3		1		
		海外英語研修A		1		2		
		海外英語研修B		1		2		
		海外英語研修C		1		2		
		海外英語研修D		1		1		
	自由選択 科目	他学部開講科目	共選必			8以内		教職「共選必」は日本国憲法A又はB(～2012)
		他大学等開講科目				12以内		
	演習	基礎演習1		1		2		1年前期
		基礎演習2		1		2		1年後期
		基礎演習3		2		2		2年前期
		基礎演習4		2		2		2年後期
		研究融合演習1		3		2		
		研究融合演習2		3		2		
		研究導入演習		3	2			3年前期 必修
		演習 I		3	2			3年後期 必修
	演習 II		4	2		4年前期 必修		
	卒業研究	卒業研究		4	6			4年通年 必修

令和2年度以降入学者用 教職科目一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等								
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)			ページ
			必修	選択	教科	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	2			共通	2		
	教育原理B	2			共通	2		
	教師論	2			共通	2		
	教育社会学	3			共通	2		
	教育心理学	2			共通	2		
	特別支援教育	3			共通	1		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	3			共通	2		
	教育課程・特別活動論	3			共通	2		
	教育方法	2			共通	2or1 ※1		
	教育における情報通信技術の活用 ※2	2			共通	1		
	生徒指導・進路指導論	3			共通	2		
	学校カウンセリング	3			共通	2		
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4			共通	2		
	教育実習Ⅱ	4			共通	1		
	教職実践演習(高)	4			共通	2		
教職関連科目	日本国憲法 ※3	2		2	共通	2		
	日本国憲法A又はB ※3	2		2	共通	2		
	身体運動科学A又はB ※4	1		2	共通	2		
	英語会話Ⅰ	1	1		共通	1		
	英語会話Ⅱ	1	1		共通	1		
	情報リテラシⅠ	1	2		共通	2		

※1 令和3年度までの学生は2単位、令和4年度以降の学生は1単位。

※2 「教育における情報通信技術の活用」は、令和4年度以降入学生のみ対象。

※3 日本国憲法、日本国憲法A、日本国憲法Bのうち1つを履修すること。

※4 身体運動科学A、身体運動科学Bのうち1つを履修すること。

各教科の指導法に関する科目								
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)			ページ
			必修	選択	教科	必修	選択	
教科及び教科の指導に関する科目	数学科教育法Ⅰ	3			数	2		
	数学科教育法Ⅱ	3			数	2		
	情報科教育法Ⅰ	3			情	2		
	情報科教育法Ⅱ	3			情	2		
	商業科教育法Ⅰ	3			商	2		
	商業科教育法Ⅱ	3			商	2		



## 平成31年度入学者用 科目一覧表

※網掛けはR6年度非開講の科目です。

経営情報学部		専門科目				備 考
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		
				必修	選択	
学部基礎科目	基礎経営学	商 必	1	2		
	経営組織論	商 選	2	2		
	会計学総論	商 必	1	2		
	簿記論	商 必	1	2		
	経営情報システム概論	情 必	2	2		
	基礎統計学Ⅰ	数 必	1	2		
	経営工学	数 必	1	2		
	法律学概論		1	2		
	基礎経済学		1	2		
	総合政策概論Ⅰ		1	2		
	総合政策概論Ⅱ		2	2		
	情報処理概論	情 必	1	2		
	情報処理演習	情 必	1	2		
	情報リテラシⅠ	共 選 必	1	2		
	情報リテラシⅡ	情 必	1	2		
	プログラミング	商 必	2	2		
	情報ネットワーク	情 必	2	2		
	基礎英語	商 必	1	2		
	英語会話	共 必	1	2		
	英語講読		2	2		
	検定英語		2	2		
スタートアップ演習		1	2			
専 門 教 育 科 目	経営科目	組織行動論	商 選	2	2	経営メジャー必修
		企業論		1	2	
		国際比較経営論	商 必	3	2	
		国際経営論		1	2	
		多国籍企業論		3	2	
		起業家論		3	2	
		ベンチャービジネス論		3	2	
		経営戦略論		2	2	経営メジャー必修
		経営史		1	2	
		商業論	商 必	2	2	
		マーケティングⅠ	商 必	1	2	経営メジャー必修
		マーケティングⅡ	商 選	2	2	
		コーポレート・コミュニケーション	商 選	3	2	
		広告論	商 選	2	2	
		技術経営論		3	2	
		財務会計論	商 選	2	2	
		会社会計	商 選	1	2	
		経営分析	商 選	2	2	
		管理会計論	商 選	3	2	
		原価計算論	商 必	1	2	経営メジャー必修
		監査論		3	2	
		税務会計論	商 必	3	2	
		経営財務論	商 選	3	2	
		職業指導論	商 必	3	2	
		消費者行動論		2	2	
		経営統計調査法Ⅰ		3	2	
		経営統計調査法Ⅱ		3	2	
		人的資源管理論		2	2	
国際人的資源管理論		2	2			
ビジネスロー	商 必	3	2			
ビジネス・コミュニケーション	商 必	2	2			

経営情報学部 専門科目								
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考		
				必修	選択			
専 門 教 育 科 目	総合政策科目	公共政策論		2		2	総合政策メジャー必修	
		ミクロ経済学		2		2		
		応用経済学		3		2		
		マクロ経済学		2		2		
		計量経済学	数 選	3		2		
		地域経済学		3		2		
		地域産業論		2		2		
		財政学		2		2		
		現代金融論		3		2		
		行政経営管理論		3		2		
		公共ガバナンス論		3		2		総合政策メジャー必修
		地域マネジメント論		3		2		
		医療介護マネジメント論		3		2		
		公共健康政策論		2		2		総合政策メジャー必修
		政策過程論		3		2		
		社会保障政策論		2		2		
		公共経済学		3		2		
		地域福祉マネジメント論		3		2		
	日本国憲法	共 選 必	2		2			
	民法各論		2		2	データサイエンスメジャー必修		
	情報科目	アルゴリズムとデータ構造 I	数 必	2			2	
		オブジェクト指向プログラミング	情 必	3			2	
		アルゴリズムとデータ構造 II	情 選	3			2	
		データベース	情 必	2			2	データサイエンスメジャー必修
		経営情報システム探究	情 必	3			2	
		情報科学概論	情 必	1			2	データサイエンスメジャー必修
		情報理論	数 必	2			2	
		画像処理と認識	情 選	2			2	
		Webシステム開発演習	情 選	3			2	
		情報システム開発論	情 必	2			2	
		人工知能	情 選	2			2	
		情報社会と情報倫理	情 必	3			2	
		情報工学実習	情 必	3			2	
		メディア処理論	情 必	3		2		
	情報と職業	情 必	3		2			
	情報セキュリティ	情 必	2		2			
	シミュレーション	情 必	3		2			
	テキストマイニング		3		2			
データサイエンス実習		3		2				

経営情報学部 専門科目							
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考	
				必修	選択		
専門 教育 科目	数理科目	基礎数学Ⅰ	数 必	1		2	
		基礎数学Ⅱ	数 必	1		2	
		経営数学	数 選	2		2	
		確率論	数 選	2		2	
		基礎統計学Ⅱ	数 選	1		2	
		数理統計学	数 選	3		2	
		多変量解析	数 選	3		2	
		時系列分析	数 選	2		2	
		情報数学	数 必	2		2	
		数理工学	数 選	2		2	
		基礎統計学演習	数 選	2		2	
		離散数学	数 必	1		2	
		代数学応用	数 必	3		2	
		幾何学応用	数 必	3		2	
	解析学応用	数 必	3		2		
	機械学習	数 選	3		2		
	観光科目	観光学概論		1		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光産業論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光経営人材論		2		2	
		観光マネジメント		2		2	
		国際観光論		2		2	
		観光政策論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光経済学		2		2	
		観光調査法		2		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光情報システム		3		2	
		観光まちづくり論		2		2	
		地方創生論		3		2	
	異文化コミュニケーション		3		2		
	観光人類学		3		2		
	複合科目	経営情報特別講義A		1		2	「会計専門職を目指すための講義」充当
		経営情報特別講義B		3		2	「ビジネスマンに学ぶビジネス入門」充当
		経営情報特別講義C		4		2	
		経営情報特別講義D		3		2	清水銀行「地域金融論」充当
		経営情報特別講義E		2		2	
		経営情報特別講義F		2		2	「リスクマネジメント論」充当
		経営情報特別講義G		2		2	「観光マネジメント」充当
		経営情報特別講義H		2		2	「国際観光論」充当
		経営情報特別講義I		2		2	「観光政策論」充当
		経営情報特別講義J		2		2	「観光経済学」充当
経営情報特別講義K			2		2	「観光調査法」充当	
経営情報特別講義L			3		2	「観光情報システム」充当	
経営情報特別講義M					2		
経営情報特別講義N			2		2	「観光学概論」充当	
経営情報総合A			3		2		
経営情報総合B			3		2		
経営情報総合C			1		2	ITパスポート試験合格をもって単位を与える	
経営情報総合D			1		2	基本情報技術者試験合格をもって単位を与える	
経営情報総合E		2		2	「観光産業論」充当		
経営情報総合F		2		2	「観光経営人材論」充当		

経営情報学部 専門科目								
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考		
				必修	選択			
専門 教育 科目	英語科目	アドバンスト・イングリッシュA		3		1	教職「共選必」は日本国憲法A又はB(～2012)	
		アドバンスト・イングリッシュB		3		1		
		アドバンスト・ビジネス・イングリッシュA		3		1		
		アドバンスト・ビジネス・イングリッシュB		3		1		
		海外英語研修A		1		2		
		海外英語研修B		1		2		
		海外英語研修C		1		2		
		海外英語研修D		1		1		
	自由選択 科目	他学部開講科目	共選必			8以内		
		他大学等開講科目				12以内		
	演習	基礎演習1		1		2		1年前期
		基礎演習2		1		2		1年後期
		基礎演習3		2		2		2年前期
		基礎演習4		2		2		2年後期
		研究融合演習1		3		2		
		研究融合演習2		3		2		
		研究導入演習		3	2			3年前期 必修
		演習Ⅰ		3	2			3年後期 必修
	演習Ⅱ		4	2		4年前期 必修		
	卒業研究	卒業研究		4	6			4年通年 必修

## 平成 31年度入学者用 教職科目一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)		
			必修	選択	教科	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	2			共通	2	
	教育原理B	2			共通	2	
	教師論	2			共通	2	
	教育社会学	3			共通	2	
	教育心理学	2			共通	2	
	特別支援教育	3			共通	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	3			共通	2	
	教育課程・特別活動論	3			共通	2	
	教育方法	2			共通	2	
	生徒指導・進路指導論	3			共通	2	
	学校カウンセリング	3			共通	2	
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4			共通	2	
	教育実習Ⅱ	4			共通	1	
	教職実践演習(高)	4			共通	2	
教職関連科目	日本国憲法 *1	2		2	共通	2	
	日本国憲法A又はB *1	2		2	共通	2	
	身体運動科学A又はB	1		2	共通	2	
	英語会話	1	2		共通	2	
	情報リテラシⅠ	1	2		共通	2	

\*1 日本国憲法、日本国憲法A、Bのうち1つを履修すること。

各教科の指導法に関する科目							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)		
			必修	選択	教科	必修	選択
教科及び教科の指導に関する科目	数学科教育法Ⅰ	3			数	2	
	数学科教育法Ⅱ	3			数	2	
	情報科教育法Ⅰ	3			情	2	
	情報科教育法Ⅱ	3			情	2	
	商業科教育法Ⅰ	3			商	2	
	商業科教育法Ⅱ	3			商	2	

平成26年度から平成30年度入学者用 科目一覧表

※網掛けはR6年度非開講の科目です。

経営情報学部		専門科目				備 考
科目分類	授業科目の名称	教職	配当 年次	単位数 必修 選択		
学部基礎科目	基礎経営学	商 必	1	2		
	経営組織論	商 選	2	2		
	会計学総論	商 必	1	2		
	簿記論	商 必	1	2		
	経営情報システム概論	情 必	2	2		
	基礎統計学Ⅰ	数 必	1	2		
	経営工学	数 必	1	2		～2017入学生は「経営工学Ⅰ」
	法律学概論		1	2		※2012以降入学生必修
	基礎経済学		1	2		※2012以降入学生必修
	総合政策概論Ⅰ		1	2		※2012以降入学生必修
	総合政策概論Ⅱ		2	2		※2012以降入学生必修
	情報処理概論	情 必	1	2		
	情報処理演習	情 必	1	2		
	情報リテラシⅠ	共 選 必	1	2		
	情報リテラシⅡ	情 必	1	2		
	プログラミング	商 必	2	2		～2017入学生は「プログラミングⅠ」
	情報ネットワーク	情 必	2	2		
	基礎英語	商 必	1	2		～2015入学生は「英語LL」
	英語会話	共 必	1	2		
	英語講読		2	2		
検定英語		2	2			
スタートアップ演習 <small>※2012・2013入学生は「スタートアップ演習」</small>		1	2		※2012以降入学生必修	
専 門 教 育 科 目	経営科目	組織行動論	商 選	2	2	経営コース基本科目
		企業論	商 選	1	2	
		国際比較経営論	商 必	3	2	
		国際経営論		1	2	※2013以降入学生のみ
		多国籍企業論		3	2	※2013以降入学生のみ
		起業家論	商 選	3	2	
		ベンチャービジネス論	商 選	3	2	
		経営戦略論		2	2	経営コース基本科目
		経営史	商 選	1	2	
		商業論	商 必	2	2	
		マーケティングⅠ	商 必	1	2	経営コース基本科目
		マーケティングⅡ	商 選	2	2	
		コーポレート・コミュニケーション	商 選	3	2	
		広告論	商 選	2	2	
		技術経営論		3	2	
		財務会計論	商 選	2	2	～2014入学生は「会計学各論」
		会社会計 <small>(～2014入学生は2年配当*)</small>	商 選	1*	2	
経営分析	商 選	2	2			
管理会計論	商 選	3	2			

		経営情報学部		専門科目			
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考	
				必修	選択		
専門 教育 科目	経営科目	原価計算論 (～2014入学生は2年配当*)	商必	1*		2	経営コース基本科目
		監査論 (～2014入学生は2年配当*)	商選	3*		2	～2014入学生は「情報会計」
		税務会計論	商必	3		2	
		経営財務論	商選	3		2	
		職業指導論	商必	3		2	
		消費者行動論		2		2	
		経営統計調査法Ⅰ	商選	3		2	
		経営統計調査法Ⅱ	商選	3		2	
		人的資源管理論 ※2015以降入学生のみ		2		2	
		国際人的資源管理論		2		2	
		ビジネスロー	商必	3		2	
		ビジネス・コミュニケーション	商必	2		2	
	総合政策科目	公共政策論		2		2	総合政策コース基本科目
		ミクロ経済学		2		2	～2015入学生は「ミクロ経済学Ⅰ」
		応用経済学		3		2	～2015入学生は「ミクロ経済学Ⅱ」
		マクロ経済学		3		2	
		計量経済学	数選	3		2	
		地域経済学		3		2	
		地域産業論		2		2	
		財政学		2		2	
		現代金融論		3		2	
		行政経営管理論		3		2	
		公共ガバナンス論		3		2	～2014入学生は「自治体経営論」 総合政策コース基本科目
		地域マネジメント論		3		2	
		健康管理論 ※2015以前入学生のみ		3		2	
		経営情報システム応用 ※2017以前入学生のみ		2		2	
		医療経営学		3		2	
		観光産業政策論		3		2	
		公共健康政策論		2		2	
		政策過程論		3		2	
		社会保障政策論		2		2	総合政策コース基本科目
		公共経済学		3		2	
		介護福祉マネジメント論		3		2	
国際社会論 ※2015以前入学生のみ		3		2			
まちづくりアート※2015以前入学生のみ		2		2			
総合デザイン ※2015以前入学生のみ		1		2			
国際戦略論 ※2015以前入学生のみ		2		2			
日本国憲法 ※2012以降入学生のみ	共選必	2		2			
民法各論 ※2012以降入学生のみ		2		2			

		経営情報学部		専門科目					
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考			
				必修	選択				
専門教育科目	情報科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	数必	2		2	情報コース基本科目 ～2017入学生は「プログラミングⅡ」		
		オブジェクト指向プログラミング	情必	3		2	～2017入学生は「プログラミングⅢ」(情選)		
		プログラミングⅣ ※2017以前入学生のみ	情必	3		2			
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情選	3		2	～2017入学生は「アルゴリズムとデータ構造」		
		データベース	情必	2		2	情報コース基本科目		
		経営情報システム探究	情必	3		2	～2017入学生は「情報処理応用」		
		情報科学概論	情必	1		2			
		情報理論	数必	2		2			
		画像処理と認識	情選	2		2	～2017入学生は「画像処理」		
		ネットワーク管理 ※2017以前入学生のみ	情必	2		2	情報コース基本科目(2017以前入学生のみ)		
		Webシステム開発演習	情選	3		2	～2017入学生は「ネットワーク・アプリケーション」		
		情報システム開発論	情必	2		2			
		人工知能	情選	3		2			
		情報社会と情報倫理	情必	3		2			
		情報工学実習	情必	3		2			
		メディア処理論	情必	3		2	～2017入学生は「マルチメディア論」		
		情報と職業	情必	3		2			
		情報セキュリティ 2018以降入学生(情必)	情必	2		2			
		シミュレーション ※2018以降入学生のみ	情必	3		2			
		テキストマイニング ※2018以降入学生のみ		3		2			
データサイエンス実習 ※2018以降入学生のみ		3		2					
数理科目	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	数必	1		2			
		基礎数学Ⅱ	数必	1		2			
		経営数学	数選	2		2	～2017入学生は「経営数学Ⅰ」		
		確率論	数選	2		2	～2017入学生は「経営数学Ⅱ」		
		基礎統計学Ⅱ	数選	1		2			
		数理統計学	数選	3		2	～2017入学生は「経営工学Ⅱ」		
		多変量解析	数選	3		2			
		時系列分析	数選	2		2			
		情報数学	数必	2		2			
		数理工学	数選	2		2			
		基礎統計学演習	数選	2		2			
		離散数学	数必	1		2			
		抽象代数学 ※2017以前入学生のみ	数選	4		2			
		代数学応用	数必	3		2	～2017入学生は「代数学特別講義」		
		幾何学応用	数必	3		2	～2017入学生は「幾何学特別講義」		
		解析学応用	数必	3		2	～2017入学生は「解析学特別講義」		
		機械学習 ※2018以降入学生のみ	数選	3		2			
		複合科目	経営情報特別講義A	経営情報特別講義A		1		2	「会計専門職を目指すための講義」充当
				経営情報特別講義B		3		2	「ビジネスマンに学ぶビジネス入門」充当
				経営情報特別講義C		4		2	「リーダーシップ演習」充当
経営情報特別講義D				3		2	清水銀行「地域金融論」充当		
経営情報特別講義E				2		2			
経営情報特別講義F				2		2	「リスクマネジメント論」充当		
経営情報特別講義G				2		2	「観光マネジメント」充当		
経営情報特別講義H				2		2	「国際観光論」充当		
経営情報特別講義I				2		2	「観光政策論」充当		
経営情報特別講義J				2		2	「観光経済学」充当		
経営情報特別講義K				2		2	「観光調査法」充当		
経営情報特別講義L				3		2	「観光情報システム」充当		
経営情報特別講義M						2			
経営情報特別講義N						2			
経営情報総合A				3		2			
経営情報総合B				3		2			
経営情報総合C		1		2	ITパスポート試験合格をもって単位を与える				
経営情報総合D		1		2	基本情報技術者試験合格をもって単位を与える				
経営情報総合E		2		2	「観光産業論」充当				
経営情報総合F		2		2	「観光経営人材論」充当				



		経営情報学部		専門科目				
科目分類	授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備考		
				必修	選択			
専門教育科目	英語科目	上級検定英語		3		2		
		外書講読		3		2		
		海外英語研修A		1		2		
		海外英語研修B		1		2		
		海外英語研修C		1		2		
		海外英語研修D		1		1		
	自由選択科目	他学部開講科目	共選必			8以内	教職「共選必」は日本国憲法A又はB(～2012)	
		他大学等開講科目				12以内		
	演習	基礎演習1		1		2	1年前期	
		基礎演習2		1		2	1年後期	
		基礎演習3		2		2	2年前期	
		基礎演習4		2		2	2年後期	
		研究融合演習1		3		2		
		研究融合演習2		3		2		
		研究導入演習		3	2		3年前期 必修	
		演習 I		3	2		3年後期 必修	
	演習 II		4	2		4年前期 必修		
卒業研究	卒業研究		4	6		4年通年 必修		

平成26年度から平成30年度入学者用 教職科目一覧表

教職に関する専門科目等							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部(単位数)		教職(単位数)		
			必修	選択	教科	必修	選択
教職に関する科目	教師論	2			共通	2	
	教育原理A	2			共通	2	
	教育原理B	2			共通	2	
	教育心理学A	2			共通	2	
	教育心理学B	2			共通	2	
	教育社会学	3			共通	2	
	教育課程・特別活動論	3			共通	2	
	教育方法	2			共通	2	
	数学科教育法Ⅰ	3			数	2	
	数学科教育法Ⅱ	3			数	2	
	情報科教育法Ⅰ	3			情	2	
	情報科教育法Ⅱ	3			情	2	
	商業科教育法Ⅰ	3			商	2	
	商業科教育法Ⅱ	3			商	2	
	生徒指導・進路指導論	3			共通	2	
	学校カウンセリング	3			共通	2	
	教職実践演習(高)	4			共通	2	
	教育実習Ⅰ	4			共通	2	
	教育実習Ⅱ	4			共通	1	
	教職関連科目	日本国憲法 *1	2		2	共通	2
日本国憲法A又はB *1		2			共通	2	
身体運動科学A又はB		1		2	共通	2	
英語会話		1	2		共通	2	
情報リテラシⅠ		1	2		共通	2	

\*1 日本国憲法、日本国憲法A、Bのうち1つを履修すること。  
ただし、日本国憲法は2011以前入学生は履修できません。



【実務経験のある教員による科目】

令和6年度

〈全学共通科目〉

科目名	教員氏名	単位数
情報検索実習	六井淳	2
ヒューマン・ケア	飯島本子	2
TOEFL留学英語I	小田透	1
TOEFL留学英語II	小田透	1
自然科学概論	近藤啓	2
生物学入門	浅井知浩、南彰	2
薬剤発達史入門	賀川義之ほか4名	2
公共政策入門	藤本健太郎	2
生涯発達心理入門	篁宗一、保坂利男ほか3名、特別講師2名	2
知的財産管理入門	居藤洋之	1
環境科学入門	原清敬	2
くらしと化学A	近藤啓	1
くらしと化学B	近藤啓	1
言語の学習・習得IIA	藤森敦之	1
言語の学習・習得IIB	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IA	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IB	藤森敦之	1
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	森本達也、富安真理ほか3名、特別講師6名	2
静岡の防災と医療	森本達也ほか特別講師10名	2
静岡地域食材学A	特別講師5名	1
静岡地域食材学B	江口智美ほか3名、特別講師3名	1
茶学入門	中村順行ほか特別講師9名	2
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B		1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産B		1
ムセイオン静岡－舞台芸術A	特別講師1名	1
ムセイオン静岡－舞台芸術B		1
新聞でもっと静岡を知ろう	上原克仁・静岡新聞記者	2
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁・静岡県内企業経営者	2
静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	特別講師4名	2
SDGs概論	孫晧剛ほか7名	2
ふじのくに学(お茶)	中村順行、ステファン・ダントン	2
ふじのくに学(観光学)	北上真一、飯倉清太	1
ふじのくに学(演劇論)	宮城聰(静岡英和学院大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションII)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションIII)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	3
ジャーナリズム論	西恭之、小川和久	2
合計		61

【実務経験のある教員による科目（令和6年度以前入学生対象）】

<経営情報>

科目名	教員氏名	単位数
人的資源管理論	上原 克仁	2
企業論	落合 康裕	2
起業家論	落合 康裕	2
経営戦略論	落合 康裕	2
観光産業論	北上 真一	2
観光経営人材論	北上 真一	2
保健医療システム論	木村 綾	2
地域福祉マネジメント論	木村 綾	2
経営組織論	国保 祥子	2
組織行動論	国保 祥子	2
財政学	小西 敦	2
国際比較経営論	竹下 誠二郎	2
基礎経営学	竹下 誠二郎	2
コーポレート・コミュニケーション	竹下 誠二郎	2
公共経済学	藤本 健太郎	2
社会保障政策論	藤本 健太郎	2
基礎統計学Ⅰ	東野 定律	2
基礎統計学Ⅱ	東野 定律	2
基礎統計学演習	東野 定律	2
医療介護マネジメント論	天野 ゆかり 東野 定律	2
医療介護政策論	天野 ゆかり 東野 定律	2
観光政策論	八木 健祥	2
観光経済学	八木 健祥	2
現代金融論	八木 健祥	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	六井 淳	2
数理工学	六井 淳	2
機械学習	六井 淳	2
行財政学概論	松岡 清志	2
行政学	松岡 清志	2
地方自治論	松岡 清志	2
経営史	佐々木 聡	2
教育課程・特別活動論	野口 正武	2
職業指導論	野口 正武	2
商業科教育法Ⅰ	岡田 修二	2
商業科教育法Ⅱ	岡田 修二	2
監査論	越智 信仁	2
税務会計論	松井 富佐男	2
情報と職業	高橋 等	2
ビジネス実践	上原 克仁 ・ 静岡県内の大手企業の経営者もしくは現役社員	2
画像処理と認識	杉山 岳弘	2
時系列分析	馬場 康維	2
経営情報特別講義D	深澤 亘英 他	2
地域産業論	芦川 敏洋	2
情報システム開発論	池田 哲夫	2
情報理論	小田 紘久	2
情報科学概論	小田 紘久	2
情報リテラシⅠ	渡邊 貴之 他	2
情報リテラシⅡ	渡邊 貴之 他	2
シミュレーション	渡邊 貴之	2
オブジェクト指向プログラミング	渡邊 貴之	2
Webシステム開発演習	渡邊 貴之	2
合計		102

【実務経験のある教員による科目（令和5年度以前入学生対象）】

<経営情報>

科目名	教員氏名	単位数
人的資源管理論	上原 克仁	2
企業論	落合 康裕	2
起業家論	落合 康裕	2
経営戦略論	落合 康裕	2
観光産業論	北上 真一	2
観光経営人材論	北上 真一	2
保健医療システム論	木村 綾	2
地域福祉マネジメント論	木村 綾	2
経営組織論	国保 祥子	2
組織行動論	国保 祥子	2
財政学	小西 敦	2
行政経営管理論	小西 敦	2
政策過程論	小西 敦	2
国際比較経営論	竹下 誠二郎	2
基礎経営学	竹下 誠二郎	2
コーポレート・コミュニケーション	竹下 誠二郎	2
公共経済学	藤本 健太郎	2
社会保障政策論	藤本 健太郎	2
基礎統計学Ⅰ	東野 定律	2
基礎統計学Ⅱ	東野 定律	2
基礎統計学演習	東野 定律	2
医療介護マネジメント論	天野 ゆかり 東野 定律	2
医療介護政策論	天野 ゆかり 東野 定律	2
観光政策論	八木 健祥	2
観光経済学	八木 健祥	2
現代金融論	八木 健祥	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	六井 淳	2
教理工学	六井 淳	2
機械学習	六井 淳	2
公共ガバナンス論	松岡 清志	2
経営史	佐々木 聡	2
教育課程・特別活動論	野口 正武	2
職業指導論	野口 正武	2
商業科教育法Ⅰ	岡田 修二	2
商業科教育法Ⅱ	岡田 修二	2
地域マネジメント論	西野 勝明	2
監査論	越智 信仁	2
税務会計論	松井 富佐男	2
情報と職業	高橋 等	2
ビジネスコミュニケーション	上原 克仁 ・ 静岡県内の大手企業の経営者もしくは現役社員	2
画像処理と認識	杉山 岳弘	2
時系列分析	馬場 康維	2
経営情報特別講義D	深澤 亘英 他	2
地域産業論	芦川 敏洋	2
情報システム開発論	池田 哲夫	2
情報理論	小田 紘久	2
情報科学概論	小田 紘久	2
情報リテラシⅠ	渡邊 貴之 他	2
情報リテラシⅡ	渡邊 貴之 他	2
シミュレーション	渡邊 貴之	2
オブジェクト指向プログラミング	渡邊 貴之	2
Webシステム開発演習	渡邊 貴之	2
合計		104

## 英語科目評価表(令和5年度以降入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

### 【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。  
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP 受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

### 【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E(不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59以下
Low		100-90	89-75	74-60	59以下

### 【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満	未受験
教員 授業 評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		730以上	670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満・未受験
教員 授業 評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	可(60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

## 英語科目評価表(令和4年度以前入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

### 【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。  
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP 受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

### 【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E(不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59以下
Low		100-90	89-75	74-60	59以下

### 【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		600以上	550以上	500以上	450以上	400以上	400未満	未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		650以上	600以上	550以上	500以上	450以上	400以上	400未満・未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	可(60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可



(令和6年度以降入学生用)  
静岡県立大学経営情報学部履修細則

令和6年4月1日 細則第15号

## 第1章 目的

(目的)

第1条 この細則は、静岡県立大学学則第42条第2項の規定に基づき、授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

## 第2章 履修の登録

(履修登録)

第2条 学生は、履修案内に基づき、当該学部において履修しようとする授業科目等を始業後2週間以内に「Web学生サービス支援システム」により登録しなければならない。

2 履修登録していない授業科目は、履修することができない。

(同一時間重複履修の禁止)

第3条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して履修登録したときはいずれの科目も無効とする。

(既修得授業科目の再履修の禁止)

第4条 既に単位を修得した授業科目は、履修することができない。

(配当年次)

第5条 各授業科目の配当年次は、講義概要のとおりとする。

2 在学年次よりも上位の年次に配当される授業科目は、履修することができない。ただし、特別の事情があると授業科目の担当教員及び教務委員が認める場合はこの限りではない。

(CAP制)

第6条 各学期において履修科目として登録できる単位数について上限を設けることとする。

2 履修科目登録単位数の上限は、当該学生が直前に在学していた学期のGPA（グレードポイント・アベレージ）に基づいて決めることとする。

3 第1項及び第2項の適用除外となる学生及び科目を定めることができる。

## 第3章 試験及び成績の評価

(試験)

第7条 試験は、学期末に定められた期間又は授業科目の担当教員が別に定める日に行う。

(成績の評価)

第8条 成績の評価は、試験及び平素の成績等を総合して授業科目の担当教員がこ

れを行い、秀、優、良、可、不可の5区分とし、可以上を合格として所定の単位を与える。各評語と点数の関係は以下のとおりとする。

入学年度	秀	優	良	可	不可
平成23年度以降	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点

- 2 卒業研究は、合格、不合格の2区分とし、合格した者に所定の単位を与える。
- 3 履修を登録し、単位を修得しなかった授業科目は不可と判定する。

(成績の入力)

第9条 授業科目の担当教員は、試験終了後2週間以内に成績の評価を「Web学生サービス支援システム」に入力する。

(追試験)

第10条 次の理由で、試験を欠席した者については、追試験を行うことができる。

- (1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）
- (2) 忌引（1、2親等に限り、死亡の日より1週間以内）
- (3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- (4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

- 2 前項の事由により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に、所定の書式により学生室に届け出なければならない。

(再試験)

第11条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により当該授業科目の担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことができる。

(不正行為)

第12条 試験において不正行為を行った者には、当該科目を含むその学期（通年の科目においては年度）の、すべて或いは一部の科目の履修単位を無効とする。又、学則第57条第1項に基づき懲戒処分を行うことがある。

#### 第4章 科目の履修方法

(全学共通科目の履修方法)

第13条 全学共通科目については、必修科目を含む8単位以上を修得しなければならない。ただし、この8単位のうちに「しずおか学」科目群から2単位を含まなければならない。

- 2 第25条に規定する卒業要件に算入できる単位数は、16単位を上限とする。

(学部基礎科目の履修方法)

第14条 学部基礎科目については、40単位を修得しなければならない。

(専門科目の履修方法)

第15条 専門教育科目については、研究導入演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、卒業研究を含め、78単位以上を修得しなければならない。

(メジャー認定と履修方法)

第16条 専門教育科目から定められた科目のうち32単位を履修することにより、経営、総合政策、データサイエンス、観光マネジメントのメジャーの認定を受けることができる。なお、複数のメジャーの認定を受けることもできる。

- 2 経営メジャーについては、経営科目、数理科目（上限8単位）、卒業研究（6単位）から32単位を修得しなければならない。ただし、この32単位に経営戦略論、経営組織論、マーケティングⅠ、原価計算論、ビジネス実践の10単位を含まなければならない。
- 3 総合政策メジャーについては、総合政策科目、数理科目（上限8単位）、卒業研究（6単位）から32単位を修得しなければならない。ただし、この32単位に公共政策論、社会保障政策論、法律学概論の6単位を含まなければならない。
- 4 データサイエンスメジャーについては、情報科目、数理科目、卒業研究（6単位）から32単位を修得しなければならない。ただし、この32単位にアルゴリズムとデータ構造Ⅰ、情報ネットワーク、人工知能、データサイエンス実習の8単位を含まなければならない。
- 5 観光マネジメントメジャーにおいては、観光科目、観光に関連する他分野科目（マーケティングⅠ、消費者行動論、コーポレート・コミュニケーション、公共政策論、地方自治論、行政学、情報セキュリティ、データベース、Webシステム開発演習から上限6単位）、数理科目（上限6単位）、卒業研究（6単位）から32単位を修得しなければならない。ただし、この32単位に観光産業論、観光政策論、観光調査法の6単位を含まなければならない。
- 6 卒業研究（6単位）については、卒業研究の分野がメジャーの分野と一致する場合、メジャーの認定単位（32単位）に含める。

（他学部開講科目の履修方法）

第17条 他学部開講の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を受けなければならない。

- 2 前項に基づいて履修を行う場合は、所定の書式により第2条に定める期間内に学生室に届け出なければならない。
- 3 第1項に基づいて履修した者には、8単位を限度として、専門教育科目として単位の認定を行う。

（他大学等開講科目の履修方法）

第18条 学則第39条第1項の規定に基づき、他大学等開講の授業科目を履修しようとするときは、指導教員の承認を受けなければならない。

- 2 前項に基づいて履修を行う場合は、所定の書式により別に定める期間内に学生室に届け出なければならない。
- 3 第1項に基づいて履修した者には、12単位を限度として、専門教育科目として単位の認定を行う。

（大学以外の教育施設における学修）

第19条 学則第39条第2項に規定する、本学における授業科目の履修とみなし、単

位を与えることができる学修については次のとおりとする。

対象となる学修	授業科目	成績の評価
日本商工会議所主催簿記検定（日商簿記）3級以上合格	簿記論	優
全国商業高等学校協会主催簿記検定（全商簿記）2級以上合格		

2 第1項に定める学修を行った者は、当該授業科目が開講される年度内に、当該学修の成果を証する書類等の原本を添えて、所定の書式により学生室に届け出るものとする。ただし、卒業年次生においては、後学期の試験期間の終了日までに届け出ることとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第20条 学則第40条第2項に規定する、本学入学前に行った学修については前条の規定を準用する。

## 第5章 卒業研究・卒業要件

（研究導入演習及び演習Ⅰの履修）

第21条 研究導入演習及び演習Ⅰを履修するためには、履修しようとする年度の前年度の10月1日において、学部基礎科目について30単位を修得していなければならない。

（演習Ⅱ及び卒業研究の履修）

第22条 研究導入演習及び演習Ⅰを修得していなければ、演習Ⅱ及び卒業研究を履修することができない。

（卒業研究履修資格）

第23条 卒業研究を履修するためには、3年以上在学し、次に定める単位を修得しなければならない。

(1) 全学共通科目 8単位以上

(2) 学部基礎科目 38単位以上

(3) 専門教育科目 44単位以上（ただし、研究導入演習及び演習Ⅰを必ず含むこと。）

2 卒業研究履修資格の有無の決定は、教授会の議を経て学部長が認定する。

（卒業研究）

第24条 卒業研究の取扱いについては、学則に定めるもののほか、別途内規による。

（卒業要件）

第25条 卒業するためには、4年以上在学し、全学共通科目、学部基礎科目、専門教育科目等について第13条から第20条に定める履修方法に従い、合計134単位以上を修得し、かつ、少なくとも一つのメジャーの認定を受けなければならない。

（9月卒業）

第26条 9月卒業をするには、演習Ⅱ及び卒業研究を、卒業しようとする学期の開始前に修得していなければならない。

2 9月卒業をしようとするときは、所定の書式により第2条に定める期間内に学生室に届け出なければならない。

## 第6章 学習成果の把握

(ルーブリックによるディプロマポリシー達成度の把握)

第27条 卒業するためには、学部の定める4つのディプロマポリシーを達成していなければならない。各ディプロマポリシーの達成度はルーブリックにより評価し、全て規定の得点以上を習得しなければならない。

第28条 ルーブリックの達成度はポートフォリオにより学生自身が行い、ポートフォリオ内容について指導教員と学部教務委員会より承認を受けなければならない。

## 第7章 その他

(その他)

第29条 この細則に定めのない事項又はこの細則により難い特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

## 附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

【科目名】	ドイツ語入門	Basic German			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	ファイファー マティアス				
【担当教員】	ファイファー マティアス				
【授業目標】	ドイツ語の基本的な発音、綴り、日常的な場面での表現法と最低限度の文法の習得。ドイツ文化への興味の喚起。				
【授業概要】	外国語の学習においては、根底にその言語を話す国の文化への積極的関心があることが何より望ましいが、その言語を習得すると直接役に立つとか利益がある(勿論すばらしいことである!) 場合にもまして、その言語の学習プロセス自体が楽しい場合に、より持続的で可能性の大きい学習効果が見込まれることがわかっている。この授業では、会話や発表、聞き取りの練習に加え、面倒がられることが多い発音や文法の規則を覚えることが、決して辛いものではなく楽しさを伴うことを実感してもらえる指導を目指す。				
【授業方法】	各課において、テキストに沿って、キーセンテンス、文法、対話、練習問題の順に進んでいく。				
【授業展開】	第 1 回	第 1 課	やあ、僕はナオキ ～動詞の人称変化～		
	第 2 回	第 2 課	あっちの方にあるのが郵便局 ～名詞の性～		
	第 3 回	第 3 課	今小説を読んでいるところ ～名詞の格変化～		
	第 4 回	第 4 課	お皿とカップとグラスはここよ！ ～名詞の複数形～		
	第 5 回	第 5 課	夏休みには何をしますの？ ～前置詞～		
	第 6 回	第 6 課	これが私の両親 ～冠詞類～		
	第 7 回	復習			
	第 8 回	中間試験			
	第 9 回	第 7 課	テレビを見てるの？ ～分離動詞～		
	第 10 回	第 8 課	4 時にパウルとユーリア会うことにしてる ～再帰動詞～		
	第 11 回	第 9 課	鍵を見つけられないんだ ～話法の助動詞～		
	第 12 回	第 10 課	ここには黒い帽子と小さな人形と古いラジオがあるよ ～形容詞の格変化～		
	第 13 回	第 11 課	ハンブルクとミュンヘンではどっちの町が大きいの？ ～比較の表現～		
	第 14 回	第 12 課	ティーロには今朝もう会った？ ～現在完了形～		
	第 15 回	復習			
	第 16 回	期末試験			
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	中間試験 50%、期末試験 50%。欠席回数が 5 回を超えると試験が受けられない(第 1 回目は数に入れない)。				
【テキスト】	Grundstufe Deutsch ドイツ語ベーシック・コース(3 訂版) 三修社 2024 年				
【参考書】	辞書は次の 3 種類の中から選ぶことを強くお勧めする。  ・同学社『アポロン独和辞典』第 4 版 4200 円＋税 ・三省堂『クラウン独和辞典』第 5 版 4200 円＋税 ・三修社『アクセス独和辞典』第 4 版 4200 円＋税				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フランス語入門	Basic French			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	剣持久木				
【担当教員】	剣持久木				
【授業目標】	フランス語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。 発音と会話に重点をおき、最低限の文法の知識を踏まえて、日常のシチュエーションで役立つ表現を身につけられるようにします。フランスに皆さんが滞在しているイメージで、想定される場面での会話を学んでいきます。				
【授業概要】	教科書に沿ってフランス語の表現を学習します。				
【授業方法】	まず、授業で各課の事項を説明します。週一回の授業ですから、受講者は次回の授業までに必ず予習、復習をしてください				
【授業展開】	第 1 回: アルファベと発音の基礎 第 2 回: あいさつの表現、数字の言い方① 第 3 回: カフェでの注文、名詞と冠詞 第 4 回: 友人との会話、er 型規則動詞、否定文 第 5 回: ブティックで買い物、動詞?tre と avoir、指示形容詞、数字の言い方② 第 6 回: 友人を紹介、形容詞の位置と語尾変化、時刻の聞き方 第 7 回: 誕生プレゼント、動詞 aller と venir、近接未来と近接過去、曜日と月 第 8 回: ホテルにチェックイン、疑問文、所有形容詞、前置詞 第 9 回: ir 型規則動詞、不規則動詞、命令形、数字の言い方③ 第 10 回: フランス語学習の動機、疑問視、動詞 faire と prendre 第 11 回: 映画を観に行く、複合過去形 第 12 回: 列車の切符を買う、疑問形容詞、動詞 vouloir、pouvoir、devoir 第 13 回: 日本についての会話、比較級、最上級 第 14 回: 文法のまとめ 第 15 回: 全体のまとめ				
【履修条件】	受講希望者が適正人数を越えた場合、第 1 回授業の際に選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に参加してください。				
【評価方法】	出席回数 (25%)、授業での取組 (25%)、期末試験 (50%) によって評価します。				
【テキスト】	松村博史、バンドロム・エディ『クロワッサン1』朝日出版社				
【参考書】	仏和辞典の購入をお勧めします。例: プチロワイヤル仏和辞典(旺文社)、クラウン仏和辞典(三省堂)、デイク仏和辞典(白水社)、プログレッシブ仏和辞典(小学館)など。				
【備考】	対面授業				
【社会人聴講生】	×	【科目等履修生】	×	【交換留学生】	×

【科目名】	スペイン語入門	Basic Spanish		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	杉田和歌子			
【担当教員】	杉田和歌子			
【授業目標】	スペイン語の基本的な文法と語彙を学び、日常生活に関する表現を身に付ける。			
【授業概要】	<p>スペイン語は世界で最も使用されている言語のひとつであり、その言語人口は約 3 億 5 千人にものぼります。日本でも重要な位置を占め、その需要は観光、商取引、教育、司法、医療など、幅広い分野に渡ります。現在日本には多くの中南米出身者が居住しており、その一方で企業の中南米進出も増加しています。今後もスペイン語の重要性は増していくことでしょう。</p> <p>スペイン語は発音が日本語に比較的似ており、日本人には大変学習しやすい言語です。その上、文法体系はかなり明解で、文法事項を整理しながら学習すれば、早い段階で辞書を片手に長文を理解することも可能です。始めてスペイン語を学ぶ人を対象とした授業です。基本的な文法事項と語彙を学んだあと、それらを用いた表現練習をします。</p>			
【授業方法】	<p>授業形態は、講義形式を基本とします。基本的な文法事項と語彙を学び、練習問題で確認します。そのうえで、それらを用いた身近な表現を練習します。語学の学習には積み重ねが不可欠です。予習・復習は必ず行って下さい。</p> <p>【新型コロナ対策】</p> <p>遠隔講義とし、以下の2つのいずれかを予定しています。どちらで実施するかは掲示で案内します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユニパを利用した学習管理(Dropbox を利用したオンデマンド)</li> <li>2. オンライン(Zoom)授業</li> </ol>			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1課 アルファベット／発音</li> <li>2. 2課 名詞の性／名詞の数／冠詞</li> <li>3. 3課 主格人称代名詞／動詞 ser／形容詞／疑問文・否定文</li> <li>4. 4課 直接法現在・規則動詞 I (－AR 動詞)／直接法現在の用法／頻度の表現／曜日の表現</li> <li>5. 5課 直接法現在・規則動詞 II (－ER 動詞・－IR 動詞)／所有詞(前置形)／時刻の表現</li> <li>6. 6課 指示詞／HAY＋不定の名詞／ESTAR</li> <li>7. まとめ 発展練習1・2</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 7課 直接目的格人称代名詞／SABER・CONOCER／1人称単数形が不規則なその他の動詞</li> <li>10. 8課 間接目的格人称代名詞／語根母音変化動詞 e→ ie 型／TENER</li> <li>11. 9課 語根母音変化動詞 o→ ue 型・e→ i 型／不定語・否定語</li> <li>12. 10課 IR・VENIR・DECIR・O/R／IR＋a＋不定詞・TENER＋que＋不定詞・HAY＋que＋不定詞／所有詞(後置形)</li> <li>13. 11課 前置詞人称代名詞／GUSTAR／比較</li> <li>14. まとめ 発展練習3・4</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
【履修条件】	毎回授業に出席し、積極的に参加すること。予習・復習を欠かさないこと。			
【評価方法】	試験(中間・期末)+授業態度(授業参加・予習・復習・課題提出等)			
【テキスト】	四宮瑞枝/落合佐枝/Paloma Trenado De?n『?Acci?! Primeros pasos アクション《ライト版》』白水社。 辞書を購入すること。			
【参考書】	<p>?垣 敏博ほか『ポケットプログレッシブ ?和・和?辞典 ?学館。</p> <p>原誠ほか『クラウン?和辞典 ?三省堂。</p> <p>カルロス・ルビオほか『クラウン和?辞典』三省堂。</p> <p>?直『プログレッシブスペイン語辞典』?学館。</p> <p>* 辞書は必ず購?すること。</p>			
【備考】	授業中の携帯電話の使?は固く禁じる(使?した場合は退室してもらう)。?学?にふさわしい態度で受講すること。			
【社会人聴講生】	可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】



【科目名】	中国語入門	Basic Chinese		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	王元武			
【担当教員】	王元武			
【授業目標】	このコースは、初心者に設けられる中国語入門コースである。中国語の基本発音から基本的文法と日常生活・中国への留学・旅行のための会話までのものを修得するように朗読・対話の練習や書き取り・聞き取りの練習などを行う。			
【授業概要】	1回目から4回目までの授業は、自分の名前の中国語での読み・発音の基礎と簡単な日常挨拶のことばを学ぶ。 5回目の授業からは、基本文法や会話などの学習を行う。			
【授業方法】	教科書に沿って授業を進める。本文の朗読・練習問題の解答の発表を行う。			
【授業展開】	1 中国語概説 2 声調「四声」・母音の練習 3 子音の練習 4 発音の復習・発音のいろいろな現象と決まり 5 挨拶 6 自己紹介 7 年月日や番号の聞き方 8 動詞の文 9 名詞の文 10 形容詞の文 11 「在」の文 12 「有」の文 13 時の表現 14 完了の表現・助動詞 15 まとめ			
【履修条件】	受講生の人数は、60人までとする。 60人を超える場合は、抽選とするので、希望者は必ず初回の授業に出席すること。 なお、中国語を母語とする学生は履修できない。 国際関係学部で地域言語に中国語を選択した学生は履修を認めない場合がある。			
【評価方法】	出席と定期試験の成績による総合評価。			
【テキスト】	中国語入門テキスト＜漢語会話入門＞ 王元武 著（静楽出版会）			
【参考書】				
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	日本語作文 A	Japanese Essay A			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	水曜1限		
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【担当教員】	逢坂里恵Rie.Osaka				
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.				
【授業概要】	授業では、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読み・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え、日本語作文を学ぶことを通し交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life,culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.				
【授業方法】	1 日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章や資料を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2 日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1 をもとに、2 を使いながら、作文を書く。さらに、作文をいっしょに読み合い、推敲し、基礎的な作文力をつける。 *日本人学生は、留学生といっしょにディスカッションしたり、各国の話の聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 *留学生が大学の日常生活に必要な基礎的な作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 1Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture,and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 2Students will learn how to express and write Japanese essay,and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. *The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.				
【授業展開】	1.授業ガイダンス Class guidance 参加学生間の紹介、「絵を見て説明しよう」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2.テーマ1「生活習慣」"Lifestyle habits" (基本的な作文の書き方) 原稿用紙の使い方とPCでの文書作成の書き方 3.テーマ1について作文、(作文表現) 比較して述べる 4.テーマ2「大学生活」"University life" (基本的な作文の書き方) 話し言葉と書き言葉(文のスタイル) 5.テーマ2について作文、(作文表現)メールの書き方、欠席届の書き方 6.テーマ3「コミュニケーション」"Communication" (基本的な作文の書き方) くだけた表現・整った表現 7.テーマ3作文発表1 (作文表現) コメントペーパーの書き方 8.テーマ4「住みたい場所、訪れたい場所」"Places I Want to Live and Visit" (基本的な作文の書き方) 文章の構成 9.テーマ4について作文、(作文表現)理由を述べる表現、 10.発表2「住みたい場所、訪れたい場所」 11.テーマ5「男と女」"Men and Women"、(基本的な作文の書き方) 助詞相当句1 12.テーマ5について作文、(作文表現)例をあげる表現 13.テーマ6「食生活、食文化」"Eating habits, food culture" (基本的な作文の書き方) 助詞相当句2 14.テーマ6について紹介文を書く (作文表現) 共通点、類似点、相違点を述べる表現 15.発表3「私の町のお菓子」"Sweets in my town"、まとめ				
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。 International students.And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%),Assingments(30%), Pesentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	・『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』(ASK出版)				
【備考】	日本語作文B(後期)受講者は日本語作文Aを履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力により、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed.

【科目名】	日本語作文B	Japanese Essay B			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時間】	水曜1限		
【科目責任者】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【担当教員】	逢坂里恵 Rie Osaka				
【授業目標】	異文化について考え、留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力を身につける。 To understand different cultures and acquire the basic Japanese writing skills necessary for international students in their daily lives at university.				
【授業概要】	前期に続き、日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、参加学生の各国と比較しながら、日本語で話し・聞き・読む・書くことを通して考え、日本や異文化の理解を深めるとともに、語彙、表現力を養い、基礎的な作文の書き方を学ぶことで、大学生活でのメールや手紙、基礎的な作文、研究計画書などが書けるようになる。留学生と日本人学生とともに考え日本語作文を学ぶことを通し、交流を深めたい。 In the class, students will think about themes related to Japan's life,culture, and society through speaking, listening, reading, and writing in Japanese while comparing them with the students' countries. And students will learn how to write basic essays. I would like to deepen exchanges by thinking together with international students and Japanese students.				
【授業方法】	1 日本の生活や文化、社会に関するテーマについて、日本語で新聞記事などの文章を読み、参加学生の各国と比較しながら、ディスカッションをし、語彙や表現力を養うとともに、異文化理解を深める。 2 日本語作文の表現技術や書き方を学ぶ。1をもとに2を使いながら、作文を書く。作文をいっしょに読みあい、推敲し、基礎的な作文力を習得する。 *日本人学生は、留学生とともにディスカッションしたり、各国の話を聞いたりして、自国の文化や異文化について知り考える機会となり、また留学生が日本語で読むことや作文をサポートすることにより、日本語や日本語教育について学ぶ機会となる。 *留学生が大学の日常生活に必要な日本語作文力の習得を目標としているが、初級の学生であれば基本文型を使い文を書くところから学ぶなど、個々の日本語力に応じ対応する。 1Students will read newspaper articles and other materials in Japanese on themes related to Japan's life, culture,and have discussions while comparing them with the students' countries. It will deepen their cross-cultural understanding. 2Students will learn how to express and write Japanese essay,and write an essay on the each theme discussed. In addition, students will read and refine essays together to develop basic writing skills. *The main goal is for international students to improve the basic writing skills necessary for daily life at university, but if you are a beginner student, you can learn from writing sentences using basic sentence patterns, depending on your individual Japanese ability.				
【授業展開】	1. (* 逸隔) 授業ガイダンス Class Guidance 参加学生間の紹介、「夏休みのこと About Summer Vacation、Cool Japan」 日本語の書く力、書くことに関わるニーズについて確認 2. テーマ7 「教育」"Education"、(作文の書き方) 名詞・動詞・形容詞のスタイル 3. テーマ7 教育問題 (作文の書き方) 視点・呼称の表現 4. テーマ7 発表「国の教育問題」 5. テーマ8 「結婚」"Marriage" (作文の書き方) 和語と漢語 6. テーマ8 「結婚」、資料を読む (作文表現) 定義する表現・問題提起する表現 7. テーマ9 「働き方」"Work Style"、(作文の書き方) 数値に関する表現 8. テーマ9 発表「結婚・働き方」/職業適性 (作文の書き方) 図表・データの表現1 9. テーマ9 について作文、(作文表現) 図表・データの利用 10. テーマ10 「日本語」"Japanese" (作文の書き方) 手紙を書く・敬語表現 11. テーマ10 「日本語」今年の漢字、若者言葉 12. テーマ11私のテーマ「もっと知りたい日本」"What I want to know about Japan" 「テーマと構成」(研究計画書の作成) (表現) インタビューの表現 13. テーマ11 「もっと知りたい日本」インタビュー 14. 「もっと知りたい日本」、発表の準備、レジュメ/power point作成 15. 発表「もっと知りたい日本」				
【履修条件】	外国人留学生を対象とする。また、留学生に対する日本語教育や異文化に関心があり、チューターとして共に学習できる日本人学生も対象とする(ただし人数は限る)。 International students. And also Japanese students who can study with them as tutors (but the number is limited).				
【評価方法】	授業への取り組み、課題提出、発表、試験による総合評価とする。 授業への取り組み(30%)、課題提出(30%)、発表(20%)、試験(20%)による総合評価とする。 Grades are based on class participation(30%),Assingments(30%), Pesentation (20%), and Exam (20%).				
【テキスト】	プリント配布、また授業のなかで提示 Distribution of printouts				
【参考書】	『日本語を学ぶ人のためのアカデミックライティング講座』(ASK出版) その他、授業の中で随時紹介				
【備考】	日本語作文B(後期)受講者は日本語作文Aを履修していることが望ましい。 参加する留学生の日本語力に応じ、授業内容を検討する。 授業を通して、留学生と日本人学生とのコミュニケーションを楽しみましょう。 It is desirable for students who take Japanese Essay B (Second Semester) to take Japanese Essay A. The content of the class will be examined according to the Japanese proficiency of the participating international students. Let's enjoy communication between international students and Japan students through classes.				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講不可	【科目等履修生】	科目等履修生履修不可	【交換留学生】	交換留学生可 Exchange students are welcomed

【科目名】	中級日本語 I	Intermediate Japanese for Exchange Students I			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】	水野かほる				
【担当教員】	水野かほる				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴くの技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につける。				
【授業概要】	前半は初級後期の教科書を使用し、初級日本語の復習と確認を行っていく。授業後半は中級教材を使用し、より実践的なコミュニケーション能力を養うこととそのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	まずは、初級の文法や語彙、表現を踏まえた上で質問をしたり答えたりすることができ、日常的なことに対応できる会話ができるかを教科書の復習と教室活動での練習で確認を行う。その後の上級レベルへの移行を目指した活動では、教科書の会話文やそこで使用される表現・文法を学習しながら実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力といろいろな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して会話練習や発表練習等を行う。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり説明を聞くことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報を得る活動を実施する。				
【授業展開】	1. イントロダクション 2. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 18 課 3. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 19 課 4. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 20 課 5. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 21 課 6. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 22 課 7. 『初級日本語 げんきⅡ』会話・文法編 第 23 課 8. 『上級へのとびら』第 1 課 日本の地理 9. 『上級へのとびら』第 1 課 10. 『上級へのとびら』第 2 課 日本語のスピーチスタイル 11. 『上級へのとびら』第 2 課 12. 『上級へのとびら』第 3 課 日本のテクノロジー 13. 『上級へのとびら』第 3 課 14. 『上級へのとびら』第 4 課 日本のスポーツ 15. 『上級へのとびら』第 4 課、まとめ				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み(出席状況、授業への取り組み、課題の提出状況など)と定期試験の成績で評価する。				
【テキスト】	・坂野永理他(2020)『初級日本語 げんき[第 3 版]Ⅱ』the japan times PUBLISHING ・近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可

【科目名】	中級日本語Ⅱ	Intermediate Japanese for Exchange Students Ⅱ			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】	水野かほる				
【担当教員】	水野かほる				
【授業目標】	初級で習った文法や語彙を定着させつつ、話す・聴くの技能を高め、またコミュニケーションに必要な文化社会知識を身につける。				
【授業概要】	授業は、「中級日本語 A」で使用する教材『上級へのとびら』を継続して使用し、実践的なコミュニケーション能力を養うこととそのために必要な知識や情報を得ることを目指す。				
【授業方法】	『上級へのとびら』は、この教科書を終了した学習者が、中級の最終段階に到達して上級に入る「とびら」を開けることができるようにという願いを込めて名付けられた教科書である。上級レベルへの移行を目指した活動では、教科書の会話文やそこで使用される表現や文法を学習しながら実践的な会話力、意見を言う・説明するなどのコミュニケーション能力とさまざまな情報を聞き取るための聴解力獲得を目指して会話練習や発表練習等を行う。これらの活動の中には実際の場面での会話を聞いたり日本語話者とのコミュニケーション活動を含む。さらに、教科書で扱う課のトピックに関連した日本文化について調べたり説明を聞く、資料を読むことによって、コミュニケーションに必要な知識や情報が得られるように、楽しくしかし丁寧な活動をする予定である。				
【授業展開】	1. イントロダクション 2. 『上級へのとびら』第 5 課 日本の食べ物 3. 『上級へのとびら』第 5 課 4. 『上級へのとびら』第 6 課 日本人と宗教 5. 『上級へのとびら』第 6 課 6. 『上級へのとびら』第 7 課 日本のポップカルチャー 7. 『上級へのとびら』第 7 課 8. 『上級へのとびら』第 8 課 日本の伝統芸能 9. 『上級へのとびら』第 8 課 10. 『上級へのとびら』第 9 課 日本の教育 11. 『上級へのとびら』第 9 課 12. 『上級へのとびら』第 10 課 日本の便利な店 13. 『上級へのとびら』第 10 課 14. 『上級へのとびら』第 11 課 日本の歴史 15. 『上級へのとびら』第 11 課、まとめ				
【履修条件】	初級日本語の基本的な文法事項や語彙・表現等が学習済みであること。				
【評価方法】	授業への取り組み（出席状況、授業への取り組み、課題の提出状況など）と定期試験の成績で評価する。				
【テキスト】	・近藤純子他(2009)『上級へのとびら』くろしお出版				
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。				
【備考】	本科目は、本学協定校からの交換留学生を主な対象としている。ただし、交換留学生以外でも、担当教員が認めた場合は履修可能である。 授業内容や方法は、受講生の日本語のレベルや状況によって変わる可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可

【科目名】	情報検索実習	Practice of Information Retrieval		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】				
【担当教員】	*六井 淳			
【授業目標】	インターネットで公開されているウェブページを利用して、様々な情報を臨機応変に検索できるようにし、情報社会において勉学、仕事や生活に必要な情報を自ら得られるようにする。			
【授業概要】	まずは学内情報システムの使い方に習熟する。 次いで、実習中心の講義を通して、様々な情報の検索方法を学ぶ。 毎回講義の内容に沿った課題を提出するので、課題を解くことによって情報検索の理解を深めてもらう。			
【授業方法】	実習を中心に進める。毎回課題を出すので、情報を探し出し、Web 学生サービス支援システムあるいはメールシステムを使ってレポートする。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内情報システムの使用の確認、レポート提出法などの確認</li> <li>2. 情報検索とは</li> <li>3. データベースと検索の仕組み</li> <li>4. サーチエンジンの使用法</li> <li>5. 図書館での情報検索方法(その1)</li> <li>6. 図書館での情報検索方法(その2)</li> </ol> <p>&lt;補足&gt;図書館での情報検索方法は図書館の館員の方に講義していただく予定です。 図書館の館員のご都合によって実施の回が前後にずれることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 論文検索と記事検索</li> <li>8. 統計情報検索</li> <li>9. 法律、判例検索</li> <li>10. 機械翻訳</li> <li>11. 論理和と上位概念(グループワーク)</li> <li>12. 制限検索(グループワーク)</li> <li>13. スニペット活用(グループワーク)</li> <li>14. フィードバック検索(グループワーク)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
【履修条件】	ウェブ閲覧ソフトウェア(インターネット・エクスプローラやグーグル・クローム等)の使用経験があること。また、Web 学生サービス支援システムおよびメールシステムを使用するため、学内アカウントによるログイン経験があること。			
【評価方法】	個別レポート課題(42%)、附属図書館講習の演習課題成績(10%)、グループ課題(48%)の合計点数で評価する。			
【テキスト】	講義中に適宜提示する			
【参考書】				
【備考】	IT 企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。経営情報学部の講義と一部重複するので、経営情報学部の学生は受講できない。 本講義は原則、対面講義です。ただし、感染症拡大等の事情があった場合には遠隔講義にて行われます。			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	数理・データサイエンス・AI 入門	Introduction to Mathematics, Data Science and Artificial Intelligence			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	月曜 6 限		
【科目責任者】	武藤伸明				
【担当教員】	武藤伸明、六井淳、栗木清典、中野祥吾、橋本博、伊藤由彦、青山知靖、宮崎晋生、堀芽久美、山田紋子				
【授業目標】	現在社会のさまざまな局面で活用される、数理・データサイエンス・AI と関連する情報技術について、基本的な概念や考え方を学ぶ。				
【授業概要】	数理・データサイエンス・AI を構成し支える学問や技術、その応用について学習する。特に次のことを学ぶ。 1. 数理・データサイエンス・AI が現代社会の基盤をなすものであることを理解し、各分野における活用事例を学ぶ 2. データから特徴を抽出し、可視化する方法を理解し、より高度なデータ分析の例を学ぶ 3. 個人情報保護やデータの収集や活用における倫理、データを活用する社会におけるリスクを学ぶ 4. データサイエンスに関連する情報技術や人工知能技術を学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド形式で授業を実施する。数理・データサイエンス・AI について動画を視聴する。授業は全 8 回で、授業への取り組みと試験またはレポートにより成績評価する。				
【授業展開】	1. ビックデータと AI、社会における活用 2. 統計学入門 —尺度水準と代表値— 3. データの可視化 4. データの関係を調べる —相関係数、回帰直線、相関関係と因果関係— 5. データ分析の流れ —データの収集、データの保存、前処理、データの前処理、分析手法の選択、回帰分析— 6. データの取り扱い 1 —個人情報保護法、データの取り扱いに関する注意、情報セキュリティ— 7. データの取り扱い 2 —情報の信頼性、改竄、再現性、チャンピオンデータ— 8. PPDAC サイクル、人工知能と機械学習				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	授業への取り組み (50%) と試験またはレポート (50%) により成績評価する。他人のレポートをコピーした場合、成績を不可とする。				
【テキスト】	動画による講義資料として配信する。				
【参考書】	授業中に適宜指示する。				
【備考】	・令和6年度以降入学生は必修科目であり、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。 ・【遠隔授業】オンデマンド形式で授業を実施する。 参考資料: 文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm</a>				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ヒューマン・ケア	Human Care			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	*飯島本子				
【担当教員】	*飯島本子				
【授業目標】	聴覚障害を理解すると共に、ろう者の言語である手話を学ぶ。				
【授業概要】	聴覚障害や、手話の基礎知識、歴史、福祉施策について学び、基本的な手話を習得する。				
【授業方法】	講義・実技を通して手話指導を行なう。 障害当事者の体験について学ぶ。				
【授業展開】	1 講義:「聞こえないということ」・手話実技 2 講義:「手話とは」・手話実技 3 講義:「ろう者の歴史」・手話実技 4 講義:「手話の基礎知識」・手話実技 5 講義:「聴覚障害の基礎知識」・手話実技 6 講義:「家族、趣味、職業」・手話実技 7 講義:「ろう者のスポーツ」「ろう文化①」・手話実技 8 講義:「ろう教育」・手話実技 9 講義:「ろう者の学生時代」・手話実技 10 講義:「手話言語条例」・手話実技 11 講義 :「手話通訳者と通訳活動」・手話実技 12 講義 :「ろう者の生活、防災」・手話実技 13 講義:「手話通訳士になるまで／全国手話検定試験とは」 14 講義:「手話の広がり」「ろう文化②」・手話実技 15 講義:試験 ※講義内容は順番が変わる場合があります。 ※講義はすべてテキストを使用 ※内、2 回ろう者講師による講義・実技指導あり。				
【履修条件】	受講を希望する者は、第1回目の授業を必ず受講してください。 履修登録は先着順に 100 人まで受け付けます。 授業は公共交通機関の遅延以外は、9時を過ぎると入室不可です。				
【評価方法】	ペーパー試験 ※状況によっては変更する可能性があります。その都度ユニパでお知らせします。				
【テキスト】	公益社団法人静岡県聴覚障害者協会発行テキストを使用します。 『静岡発～手話は言語～手話学習テキスト』1,000 円(非課税対象)  大学内の書店では扱いません。  ●第1回講義(4月11日(木)1限)および第2回講義(4月25日(木)1限)において販売します。 第3回講義以降での販売は行いません。				
【参考書】	なし				
【備考】	手話通訳士資格を持つ公益社団法人静岡県聴覚障害者協会職員が、聴覚障害や手話の基礎知識、歴史、福祉施策、基本的な手話について指導する。				
【社会人聴講生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、社会人聴講生の聴講を受け入れる。  履修条件については本学学生と同一。	【科目等履修生】	本学学生の受講が定員を下回った場合に限り、科目等履修生の受講を受け入れる。  履修条件については本学学生と同一。	【交換留学生】	



【科目名】	TOEFL 留学英語 I	TOEFL English for Studying Abroad I	
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限
【科目責任者】	小田透		
【担当教員】	*小田透		
【授業目標】	この授業では、北米の大学・大学院留学に必要な TOEFL (Test of English as a Foreign Language) で求められる英語技能およびテスト形式やその内容について理解するとともに、スコアの向上を目指す。TOEFL-ITP (reading と listening) 対策を中心に授業を展開し、最終的には TOEFL iBT 70 点以上のスコアを取得できるように学習を進めて行く。		
【授業概要】	TOEFL は海外の大学で英語での授業内容を理解、英語での意見交換や議論提供、英語での試験やレポート作成に必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境において情報量の多い講義を理解し、ノートを取って教科書や文献を読み要点を把握していくためには、上級レベルの英語力が求められる。本授業では、様々な学術分野に関するボキャブラリーを学習し、複雑な文法事項をしっかりと理解することで、基礎英語力を強化する。その上で、英語耳を育てるリスニング、読解・速読の習得に取り組み、アカデミック英語力の向上を図る。		
【授業方法】	テキストを使用し、演習形式で行う。科目の達成目的とその特性を考えて、この授業では「反転学習」を試みる。受講生は毎週出される課題を必ず予習し参加する。クラスでは、それらの結果に基づき、学習上のむずかしいと思われる点について討議し、わかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction &amp; Pre-test</li> <li>2. Reading - Learning how academic readings are organized</li> <li>3. Reading - Question types and their purposes</li> <li>4. Reading - Timed reading</li> <li>5. Reading - Practice set 1</li> <li>6. Reading - Practice set 2</li> <li>7. Reading - Practice set 3</li> <li>8. Reviewing reading skills</li> <li>9. Listening - Question types</li> <li>10. Listening - Understanding campus talks</li> <li>11. Listening - Understanding long lectures</li> <li>12. Listening - Practice set 1</li> <li>13. Listening - Practice set 2</li> <li>14. Listening - Practice set 3</li> <li>15. Reviewing listening skills</li> </ol>		
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を持っていることが望ましい。学期末には TOEFL ITP テストを受験すること。		
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、その解答に基づいて授業に積極的に参加する必要がある。単位取得には、3分の2以上の出席と課題提出等が必須である。		
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Sixth Edition (McGraw-Hill)		
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ベレ出版)		
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。後期開講の TOEFL 留学英語 II への受講に繋がるような学習を期待する。		
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。
		【交換留学生】	不可。

【科目名】	TOEFL 留学英語Ⅱ	TOEFL English for Studying Abroad Ⅱ		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限	
【科目責任者】	小田透			
【担当教員】	*小田透			
【授業目標】	この授業は、北米の大学・大学院への留学に必要な TOEFL (Test of English as a Foreign Language) で求められている技能およびテスト形式やその内容についてさらに理解を深めて、スコア向上を目指す。特に、TOEFL iBT の Speaking と Writing タスクを中心に扱い、iBT 70 点以上のスコアが取得できるように学習を進めて行く。			
【授業概要】	TOEFL は海外の大学で英語での授業内容を理解、英語での意見交換や議論提供、英語での試験やレポート作成に必要な英語力を測定するテストである。特に、アカデミックな環境において情報量の多い講義を理解し、ノートを取り、教科書や文献を読み要点を把握していくためには、上級レベルの英語力が求められる。本授業では、実践問題を通して、留学先で必要となる Speaking 及び Writing の技能を高める。また、学習者が誤りやすいボキャブラリー、文法事項等をピンポイントで学習する事により、さらなる英語力の向上を図る。			
【授業方法】	テキストを使用し、演習形式で行う。科目の達成目的とその特性を考えて、この授業では「反転学習」を試みる。受講生は毎週出される課題を必ず予習し参加する。クラスでは、それらの結果に基づき、学習上のむずかしいと思われる点についてグループで討議し、担当教員がわかりやすく詳細に説明して問題解決を図る。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction &amp; Pretest</li> <li>2. The writing section</li> <li>3. Integrated writing tasks and scoring rubric</li> <li>4. Writing – Practice set 1</li> <li>5. Independent writing tasks and scoring rubric</li> <li>6. Writing – Practice set 2</li> <li>7. Timed writing</li> <li>8. Reviewing writing skills</li> <li>9. The speaking section</li> <li>10. Independent speaking and scoring rubric</li> <li>11. Speaking – Practice set 1</li> <li>12. Integrated reading/listening/speaking</li> <li>13. Speaking – Practice set 2</li> <li>14. Timed speaking</li> <li>15. Reviewing speaking skills</li> </ol>			
【履修条件】	受講生は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級、またはそれと同等の英語力を持っていることが望ましい。受講期間内に TOEFL iBT Online Practice Test を必ず受験すること。(詳細は初回授業にて案内する。)			
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、その解答に基づいて授業に積極的に参加する必要がある。単位取得には、3分の2以上の出席と課題提出等が必須である。			
【テキスト】	The Official Guide to the TOEFL Test, Sixth Edition (McGraw-Hill)			
【参考書】	改訂新版 TOEFL TEST 必須英単語 5600 (ベレ出版)			
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。			
【社会人聴講生】	不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語	TOEIC Business English-Basic		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 3 限	
【科目責任者】	堀内裕晃			
【担当教員】	堀内裕晃			
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。			
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、500 点獲得を目指します。			
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形でいきます。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。また、テキスト以外に文法・語法を強化するためのプリント教材も使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。			
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験			
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。			
【評価方法】	学期末試験を受験するためには、3 分の 2 以上の出席が必要です。 小テスト(30%) 中間試験(35%) 期末試験(35%)			
【テキスト】	Score Booster For the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)			
【参考書】	クラスで適宜紹介します。			
【備考】	授業での積極的な取り組みが重要です。定員は Web にて先着 30 名とします。			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講 不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス基礎英語	TOEIC Business English-Basic		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 3 限	
【科目責任者】	堀内裕晃			
【担当教員】	堀内裕晃			
【授業目標】	本授業では、TOEIC (Test of English for International Communication) 用の教材を用いて、中高校までの英語知識の復習と定着を図りつつ、スコアの向上を目指します。			
【授業概要】	授業では、TOEIC 用のテキストやプリント教材を用いて演習を行います。TOEIC L&R に頻出する単語と文法の復習をし、その定着を図り、600 点獲得を目指します。			
【授業方法】	毎週単語・熟語や基本表現の小テストを行い、語彙と基本表現の定着を図ります。教科書のリスニング課題とリーディング課題はクラスにおいて演習の形でいきます。文法については、事前に教科書の解説を読んでください。テキスト以外に文法・語法強化のためのプリント教材を使用します。授業で取り上げるトピック及び重視する事項は以下のような構成となります。			
【授業展開】	1. Introduction 2. Unit 1 Travel 3. Unit 2 Dining Out 4. Unit 3 Media 5. Unit 4 Entertainment 6. Unit 5 Purchasing 7. Unit 6 Clients 8. 中間試験 9. Unit 7 Recruiting 10. Unit 8 Personnel 11. Unit 9 Advertising 12. Unit 10 Meetings 13. Unit 11 Finance 14. Unit 12 Offices 15. Unit 13 Daily Life 16. 期末試験			
【履修条件】	中高校で学習した基礎英語力を習得していること。Web での先着順で 30 名を定員とします。			
【評価方法】	学期末テストを受けるためには、2/3 の出席が必要です。 小テスト(30%) 中間試験(35%) 期末試験(35%)			
【テキスト】	Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate (金星堂)			
【参考書】	クラスで適宜紹介します。			
【備考】	定員は Web にて先着 30 名とします。			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講 不可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス英語 I	TOEIC Business English I
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	山本好比古	
【担当教員】	*山本好比古	
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) L&R + Writing のスコアアップを目指す。	
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なスキル — リスニング力、語彙・文法の知識、リーディング力に加え、ライティング力 — の習得を目指して進めて行く。特に、ビジネスシーンに特有な会話文・広告・メール・アナウンスメント等に使用される文型・語彙・表現に重点を置き、理解の向上に努める。	
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。特に、学習では焦点を問題を解き復習で知識の定着に置き、頻出度の高いポキャプラリー、間違いやすい問題を重点的に習得し、さらなるスコアアップ(800 点以上)を目指す。学期末に実施される TOEIC L&R + Writing テストに向けて実践的な解決策を学習する。	
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション TOEIC について</li> <li>2. Part 5 語彙の問題</li> <li>3. Part 5 文法の問題</li> <li>4. Part 2 応答問題</li> <li>5. Part 6 長文読解</li> <li>6. Write a sentence based on a picture</li> <li>7. Part 3 会話問題</li> <li>8. 中間テスト</li> <li>9. Part 3 会話問題</li> <li>10. Part 7 文章</li> <li>11. Writing -respond to a written request</li> <li>12. Part 4 説明文問題</li> <li>13. Write an opinion essay 1</li> <li>14. Write an opinion essay 2</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 期末テスト+TOEIC L&amp;R IP テスト+TOEIC Writing IP テスト</li> </ol>	
【履修条件】	<p>本授業は、TOEIC L&amp;R + Writing のスコアアップに強い興味を持ち、積極的に TOEIC L&amp;R 及びライティングの課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。</p> <p>TOEIC L&amp;R 730 点(または英検準1級)以上を取得していることが望ましい。</p> <p>履修希望者は初回授業時に TOEIC L&amp;R 730 点(目安とする)のスコアシートまたは英検準1級の証書(コピー可)を提示してください。未受験の場合は初回授業時に相談すること。定員は 30 名とする。</p>	
【評価方法】	<p>授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC L&amp;R IP テストの受験が必須である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 受講生は学期末に実施される TOEIC L&amp;R IP を受験する事(3 年生以上は実費)</li> <li>* 受講生は学期末に実施される TOEIC Writing IP テストも受験すること(受験料は実費)</li> <li>* 学期末に TOEIC L&amp;R IP と TOEIC Writing IP の両方を受験すること(TOEIC L&amp;R IP の代わりに、TOEC L&amp;R 公開テストでも可能:受験料は実費)</li> </ul>	
【テキスト】	公式 TOEIC? Listening & Reading 問題集 10 (国際ビジネスコミュニケーション協会)	
【参考書】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会) *後期にテキストとして使用予定	
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】

【科目名】	TOEIC ビジネス英語 II	TOEIC Business English II		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	山本好比古			
【担当教員】	山本好比古			
【授業目標】	本授業では、さまざまなビジネスコミュニケーションの場面に必要な英語力の測定を目的とした TOEIC (Test of English for International Communication) Speaking のスコアアップを目指す。			
【授業概要】	授業は対面で実施される。学習はグローバルなビジネスコミュニケーションに不可欠となってきた英語力の基本的なアウトプットスキル、特にスピーキング力の習得を目指して進めて行く。ビジネスシーンに特有な会話を意識しながら、様々な状況下で英語で即応できるの能力の訓練を行う。			
【授業方法】	テキストに基づく演習形式で進めて行く。Q&A、描写、意見陳述などの課題にペアまたはグループで取り組みながら、英語の発音、語彙、文法、構成など様々な側面から自分のスピーキング力を内省する訓練を行う。また、毎回実施するスピーキングクイズを通して即応力を養っていく。あわせて、アウトプットの観点から、TOEIC L&R テストの分析も行ってみたい。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション TOEIC Speaking について</li> <li>2. Read a text aloud</li> <li>3. イントネーション練習</li> <li>4. Respond to questions</li> <li>5. 文法事項の確認</li> <li>6. Respond to questions using information provided</li> <li>7. Speaking における構成</li> <li>8. 中間テスト</li> <li>9. Describe a picture</li> <li>10. Brainstorming</li> <li>11. Express an opinion</li> <li>12. 実践練習 1</li> <li>13. 実践練習 2</li> <li>14. 実践練習 3</li> <li>15. TOEIC L&amp;R との関わり</li> <li>16. 期末テスト+TOEIC Speaking IP テスト</li> </ol>			
【履修条件】	本授業は、TOEIC Speaking に強い興味を持ち、積極的に Speaking の課題に取り組める学生を対象とする。初回授業時に抽選を行うので、履修希望者は初回授業前に UNIPA 上で登録を行わず、必ず初回授業に出席すること。 定員は 25 名とする			
【評価方法】	授業で予定される教科書の範囲を予習し、授業で学んだことを繰り返し練習する事が重要である。単位取得には、3分の2以上の課題、クイズの提出および TOEIC Speaking IP テストの受験が必須である。			
【テキスト】	公式 TOEIC Speaking & Writing ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)			
【参考書】	授業中に適宜紹介する。			
【備考】	毎回の予習及び課題提出が重要である。			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	自然科学概論	Science of Light	
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】 木曜 1 限	
【科目責任者】	橋本 博		
【担当教員】	橋本 博、原 幸大、菱木麻美、淵上壮太郎、轟木堅一郎、古庄 仰、近藤 啓、照喜名孝之		
【授業目標】	現代は科学技術の時代である。この科学技術の中核を担う物理学、化学そして生物学は、西洋世界でどのような経緯で生まれ、発展してきたのだろうか。この自然科学の発展に伴い、我々の自然観、科学観も大きく変質してきている。また、現代のイノベーションを推進する巨大科学とプロジェクト科学、および環境との共生を目指す視点が求められている。さらに、エセ科学の蔓延などの問題も抱えており、生命観、宗教観および倫理観までの波及を思考することが求められている。これらの問題意識をもって、西洋 2000 年の通史を俯瞰し、最新の科学と技術も		
【授業概要】	<p>大まかに次の4主題に別けて概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然科学通史(自然哲学から近代科学へ、科学倫理)</li> <li>2. 光と物質(光とは何か、量子化学の誕生、原子・分子が見える)</li> <li>3. 「はかる」の科学</li> <li>4. 環境、健康科学での科学技術の展開</li> </ol>		
【授業方法】	配布するプリントを使用したオムニバス講義を行う。演習形式も取り入れた形成評価も実施して学習効果を計る。対面授業を予定しているが、状況に応じて遠隔講義となる可能性もある。		
【授業展開】	<p>( )内はキーワード</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学史</li> <li>2. 科学論文</li> <li>3. 科学技術と科学者の役割</li> <li>4. 光の科学史</li> <li>5. 波動の性質</li> <li>6. 計算科学の発展</li> <li>7. 分析科学とは(分析技術の進歩、これから目指すもの)</li> <li>8. 臨床と分析科学(画像診断、診断キット、遺伝子診断など)</li> <li>9. 食品と分析科学(食品分析、機能性表示食品、残留農薬分析など)</li> <li>10. 裁判と分析科学(科学鑑定、DNA 鑑定、薬物鑑定、ドーピング検査など)</li> <li>11. 環境と分析化学(環境分析、年代測定、放射線測定など)</li> <li>12. 先端技術と倫理(1)</li> <li>13. 先端技術と倫理(2)</li> <li>14. くすりの開発とアドヒアランス</li> <li>15. まとめ(現代科学技術の問題点など)</li> </ol>		
【履修条件】	理(医療)系の学生を主な対象としているが、文系の学生にも分かり易く説明し、数式などはあまり使わない。		
【評価方法】	授業への取り組み、課題、レポートなどの総合評価。		
【テキスト】	なし(必要に応じてプリントを配布)。		
【参考書】	随時指定(図書館に配備されているものを指示する)。		
【備考】	<p>・講義ごとに演習、レポート作成を課すので、遅刻などは厳禁である。全講義回数数の 3 分の 2 以上の出席を単位認定のための必要条件とする。薬学部の生命物理化学分野、生体機能分子分析学分野、創剤科学分野の構成教員が分担する。</p> <p>・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、企業の研究開発業務で考慮されている倫理観を交え、科学・技術の進展と生命倫理について解説する。</p> <p>・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p>		
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】 聴講可	【交換留学生】 聴講可

【科目名】	化学入門	Introduction to Chemistry			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	眞鍋 敬				
【担当教員】	眞鍋 敬、濱島義隆、大内仁志				
【授業目標】	21 世紀を豊かに生きるために、日常生活をとりまく物質に関する入門的知識を養うとともに、エネルギー、環境、生命と化学のかかわりを地球規模で概観する。				
【授業概要】	我々の暮らしには化学が大きくかかわっていることを理解する。次いで、物質化学の基礎的知識を学習し、さらに衣、食、住、環境、エネルギー、生命にかかわる化学を概観する。高等学校で化学を学習していない学生にもわかりやすい授業を行う。 【薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【授業方法】	授業方法 対面で行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 化学物質の基礎(物質の基本粒子としての原子とその種類、分子とイオン、化合物の分類)</li> <li>2 生活の物質と化学-1(生活のなかの無機化合物、有機化合物、洗剤、染料)</li> <li>3 生活の物質と化学-2(衛生用品と化粧品、香料、貴金属)</li> <li>4 高分子化合物と生活物質-1(高分子化合物)</li> <li>5 高分子化合物と生活物質-2(繊維、ゴム)</li> <li>6 生命と物質-1(生命活動を支える基本的物質、タンパク質)</li> <li>7 生命と物質-1(核酸、ビタミンとホルモン、医薬品)</li> <li>8 食品と健康の化学-1(炭水化物、油脂)</li> <li>9 食品と健康の化学-2(アミノ酸とタンパク質、食品の保存と食品添加物、ミネラル)</li> <li>10 環境の化学-1(人間活動が自然環境におよぼす影響、酸性雨、窒素酸化物、二酸化炭素)</li> <li>11 環境の化学-2(フロンとオゾン層)</li> <li>12 環境の化学-3(化学物質、殺虫剤、農薬、環境ホルモン)</li> <li>13 エネルギーの化学と環境-1(エネルギー資源、石油、石炭)</li> <li>14 エネルギーの化学と環境-2(バイオマスと自然エネルギー、原子力、エネルギーと環境問題)</li> <li>15 地球環境(人間活動と地球環境、地球温暖化)</li> </ol>				
【履修条件】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【評価方法】	原則として、定期試験 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 特別な理由なくして5回以上欠席相当となったものは試験の受験資格なし。				
【テキスト】					
【参考書】	「日常の化学 新訂版」-地球環境と生活様式の変革のために-、渡辺啓著、サイエンス社 その他、必要に応じ、担当教員から紹介する。				
【備考】	【薬学部および食品栄養科学部の授業と一部重複するので、薬学部および食品栄養科学部の学生は受講できない。】				
【社会人聴講生】	聴講を認める。	【科目等履修生】	聴講を認める。	【交換留学生】	聴講を認める。



【科目名】	生物学入門	Introduction to Biology			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	吉成浩一				
【担当教員】	吉成浩一、*浅井知浩、梅本英司、竹内英之、高橋忠伸、大橋若奈、小出裕之、米澤 正、志津怜太、紅林佑希、疋田智也				
【授業目標】	教養としての基礎生物学全体を把握する。本講義を通して科学的なものの見方や考え方も学ぶ。				
【授業概要】	生物を理解するための基礎として、生態系、種、細胞から生物を構成する分子の基礎について講義する。生物の動的な側面である代謝、生物の設計図である遺伝子、生物としての安定性を担う恒常性(免疫を含む)について講義する。				
【授業方法】	講義形式で進める。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物とは何か</li> <li>2 生態系、種</li> <li>3 細胞</li> <li>4 生物の分子:アミノ酸、タンパク質、糖質</li> <li>5 生物の分子:脂質、核酸</li> <li>6 代謝:エネルギーと代謝</li> <li>7 代謝:主要代謝経路</li> <li>8 代謝:脂質・タンパク質の代謝、</li> <li>9 遺伝:遺伝子の転写、翻訳、変異、修復、遺伝子疾患、がん</li> <li>10 遺伝:遺伝子多型、個人差、個別化医療</li> <li>11 恒常性:受容体の種類と細胞シグナル、受容体とホルモン</li> <li>12 恒常性:シグナル伝達、細胞接着分子</li> <li>13 恒常性:品質管理、遺伝子組換え動物</li> <li>14 恒常性:免疫</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み(課題・レポート提出、授業態度、質疑応答等)で評価する(100%)。単位取得には2/3以上の出席を必要とする。				
【テキスト】	必要に応じてプリントを配布する。				
【参考書】	<p>参考書:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい教養のための生物学(赤坂甲治著)裳華房 2017 年</li> <li>(2) 生物科学入門:代謝・遺伝・恒常性 (白木賢太郎著)東京化学同人 2009 年</li> <li>(3) ヒトを理解するための 生物学(八杉貞雄 著)裳華房 2013 年</li> <li>(4) 若い読者のための第三のチンパンジー(ジャレド・ダイヤモンド著)草思社文庫 2017 年</li> <li>(5) レーニンジャーの新生化学 第 7 版 上下 2015 年 廣川書店</li> <li>(6) キャンベル・ファーレル生化学 第 6 版 2010 年 廣川書店</li> <li>(7) 細胞の分子生物学 第 6 版</li> </ol>				
【備考】	薬剤師業務や医薬品開発に携わった経験を持つ教員が、生体を構成する分子の働きや代謝に関連する医薬品や診断薬について発見の歴史、作用機序、臨床応用等について講義する。				
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	薬剤発達史入門	Introduction to history of the Drugs			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	*賀川 義之				
【担当教員】	*賀川義之、石川智久、*伊藤邦彦、*尾上誠良、黒川洵子、*森本達也、*山田浩				
【授業目標】	文系・理系に関係なく、各専門領域を学ぶ際のモチベーションを高め、問題解決の糸口がつかめるようになるために、くすりや医療の発展におけるエピソードを通して難問に対する取り組み方を具体的に説明できる。				
【授業概要】	<p>人類の繁栄に大きく貢献してきたくすりの発見や開発に関わってきた人々のひらめき、取り組み方、苦悩・挫折をナラティブに学ぶことで、学問に対するモチベーションを高めると共に、難問を解決するための前向きな姿勢や手法を修得する。</p> <p>薬学部の教授陣が、文系の学生にも理解しやすいように難解な数式を使わず、平易に医薬品開発の歴史を説明する。</p>				
【授業方法】	<p>テキスト、パワーポイント、プリント等を用いて講義形式を進める。</p> <p>基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p>				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビタミン学のはじまり</li> <li>2 生命現象解明へのアプローチ</li> <li>3 視床下部ホルモンをめぐる闘争</li> <li>4 ノーベルが欲しかった化合物</li> <li>5 毒トカゲが糖尿病の救世主?!</li> <li>6 生物における右と左の秘密</li> <li>7 漢方薬から覚醒剤</li> <li>8 ヤナギの小枝が痛みを止めた</li> <li>9 結晶化された初めてのホルモン</li> <li>10 毒ガスから生まれた制ガン剤、解明されたフグ毒の不思議</li> <li>11 遺伝子の正体の解明、遺伝子治療へのアプローチ</li> <li>12 最長の歴史を持つ医薬品、脳内にあったモルヒネ様物質</li> <li>13 化学療法のはじまり</li> <li>14 化学者が放った魔法の弾丸</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	原則として、課題レポートに加えて、ミニレポートや出席態度等授業への取り組みを考慮して総合評価する。全講義回数の 2/3 以上の(出席及びミニレポートの提出)が単位認定に必須である。				
【テキスト】	<テキスト> 東京化学同人 化学のとびらシリーズ 27 「歴史の中の化合物 くすりと医療の歩みをたどる 山崎幹夫著				
【参考書】	特になし				
【備考】	<p>基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。</p> <p>実務家としての経歴</p> <p>*賀川義之: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する</p> <p>*伊藤邦彦: 薬剤師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する</p> <p>*尾上誠良: 製薬企業の研究者としての経験を生かして、新薬開発のプロセスとその成果を解説する。</p> <p>*森本達也: 医師としての臨床経験を生かして、基礎研究の成果がどのように社会に貢献しているかを解説する</p> <p>*山田浩 : 医師としての臨床経験を生かして、基礎研究と臨床研究の重要性を解説する</p>				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	物理学入門	Introduction to Physics			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	本同宏成				
【担当教員】	本同宏成、下山田真、村上和弥				
【授業目標】	力学、熱力学、電磁気学の身近な例を通じて、物理学におけるエネルギーの具体的なイメージを構築するとともに、古典物理学から現代物理学までを概説することで、自然科学の基礎としての物理学の重要性を理解する。				
【授業概要】	本講義では高校で物理学を履修していない学生に直感的に理解してもらえよう、図や動画を用いて物理学の理解を目指す。身近な現象やデモンストレーション実験、演習問題などの具体的な例を通して、高校物理学程度の内容からかいつまんで学ぶ。				
【授業方法】	下記の内容に沿って講義を行う。また必要に応じて動画を用いたり簡単な模擬実験を行う。授業は対面で開講する予定であるが新型コロナ対策としてオンライン開講(Zoom)もしくはオンデマンドもありうる。				
【授業展開】	1 ガイダンス(物理学とは何だろうか) 2 ニュートン力学(身の回りの力学) 3 ニュートン力学(様々な力) 4 ニュートン力学(万有引力と宇宙開発) 5 仕事とエネルギー(エネルギー保存則) 6 仕事とエネルギー(エネルギーの様々な姿) 7 熱力学(熱とは何か) 8 熱力学(反応の方向を決める自由エネルギー) 9 電磁気(電場と磁場) 10 電磁気(電場と磁場と力) 11 波(波を構成する要素) 12 光の正体(光の波としての性質と粒子としての性質) 13 波と粒子(波と粒子の二重性) 14 量子力学(量子力学から見た生物物理) 15 まとめ				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	教員ごとに試験、課題もしくはレポート、および授業への取り組みにより評価する。なお特別な理由なく課題、レポートの提出が遅れた場合は受け取らない。100点満点中60点以上を合格とする。				
【テキスト】	視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録、数研出版				
【参考書】					
【備考】	食品栄養科学部および薬学部の授業と一部重複するので、食品栄養科学部および薬学部の学生は受講できない。また出席率が2/3に満たない場合は単位の認定を行わない。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	環境科学入門	Introduction to environmental sciences			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	谷 幸則				
【担当教員】	谷 幸則、*原 清敬、小牧裕佳子、徳村雅弘、梅澤和寛				
【授業目標】	環境問題とは、人間活動に起因する周囲の環境変化により発生した問題と捉えることができる。人類は数百万年前に誕生して以来、自然環境を利用しながら文明を発展させてきた。すなわち、人類は原始的な狩猟採集生活から脱皮して農業生産を開始し、やがて天然資源を利用して工業生産を行うことにより、高い生産性と利便性を手に入れた。しかし、その過程で天然資源の浪費や自然環境の破壊など、自然環境に負担をかけてきたことも事実である。環境科学の役割は、具体的な環境問題の発生原因や発生機構を明らかにして、その解決策をさまざまな観点から				
【授業概要】	まず人間活動と環境との関わりについて概説した後、主として大気・水・土壌の汚染、化学物質や放射能による汚染、水・食品の安全性、ごみ・廃棄物の現状について説明する。また、環境化学物質の生物濃縮とその毒性、各種環境保全活動、エネルギー・資源問題(食料・水資源を含む)について解説する。				
【授業方法】	本授業では、環境問題全般を網羅し、平易に書かれた環境科学の入門書(テキスト)を使用し、食品栄養科学部・環境生命科学科の教員 5 名がそれぞれの専門に応じて分担する。				
【授業展開】	教科書を用いて、各章について下記の通りに講義を展開する。 1. 人間活動と環境とのかかわり(講義ガイダンスも兼ねる)(谷)(4/16) 2. 環境変化にともなう異変(梅澤)(4/23) 3. 大気汚染(梅澤)(4/30) 4. 水質汚染(梅澤)(5/7) 5. 化学物質汚染研究の基礎(谷)(5/14) 6. 土壌汚染(谷)(5/21) 7. 化学物質による汚染(谷)(5/28) 8. 放射能汚染(小牧)(6/4) 9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝(小牧)(6/11) 10. 内分泌攪乱物質(小牧)(6/18) 11. アセスメント手法(原)(6/25) 12. ごみと廃棄物(原)(7/2) 13. エネルギー資源と環境問題(原)(7/9) 14. 飲料水と食品のに関する今後の課題(徳村)(7/23) 15. 環境活動の実践と環境倫理(徳村)(7/30)				
【履修条件】					
【評価方法】	出席2/3 以上を単位認定の条件とする。各教員が提示した課題・レポートで評価する(担当教員 1 名につき各 20 点、合計 100 点満点で 60 点以上を合格とする)。				
【テキスト】	川合真一郎・張野宏也・山本義和著「環境科学入門 地球と人類の未来のために 第 2 版」、化学同人 ISBN 9784759819403( <a href="https://www.kagakudojin.co.jp/book/b345223.html">https://www.kagakudojin.co.jp/book/b345223.html</a> )				
【参考書】					
【備考】	受講人数を 200 名とする。履修登録順に受け入れるため、履修登録を早めに済ませること。 * 発酵企業での勤務経験を活かして企業における環境工学的取り組みについて講義する。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可(ただし、すべて日本語の講義である)

【科目名】	哲学入門		Introduction to philosophy		
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	火曜1限		
【科目責任者】	飯野勝己				
【担当教員】	飯野勝己				
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学とは何か、何を問題にし、どのように考えてきた営みなのかについての理解を得る。</li> <li>・哲学史の大きな流れをつかみ、その長い歴史でどのような思考が筋がれ、どんな世界観や人間観が形成されてきたかを知る。</li> <li>・自分自身が感じる素朴な疑問や謎について、哲学ではどのような問題としてとらえられ、どのように考えられてきたかを知る。</li> <li>・哲学に触れることで、〈あたりまえ〉を疑い、「根本から考える」という姿勢を身に付ける。</li> </ul>				
【授業概要】	<p>「ツツガクって難しそう」。多くの人がそう思っているし、実際、哲学書にはきわめて難解なものが多いのも事実だ。しかし一方で、哲学は非常に「身近」なものでもある。誰もが感じる素朴な疑問や不思議、子供のころからひそかに思ってきたさまざまな「なぜ?」、そういう身近で素朴なところから、哲学は始まる。「現実はもしかしたら夢かもしれない」「どうして他人に心があるといえるのか」といったことをなんとなく考えることがあるとしたら、人はもう哲学を始めている。哲学が難しいのは、いろいろな「あたりまえ」を取り払って、こういう素朴な疑問にできるかぎり「素」の状態を取り組もうとする営みだからだ。</p> <p>この授業は、そんな哲学の世界への入口へ、できるだけわかりやすく案内することを目的とする。哲学への「入り方」には、大きく二つある。一つは、2000年以上にわたる哲学史の中で哲学者たちが何をどう考えてきたのかを、大きな流れをつかみつつ知ること。もう一つは、上で述べたような個々の具体的な疑問やテーマから入ること。どちらも有効なアプローチだし、それぞれに面白さがある。とはいえこの授業では、哲学の入り口として、長い哲学史のなかで個性豊かな哲学者たちが繰り広げてきた思考のドラマをたどるのが、入門編としてまずは最良だと考える。人物像の面白さや、奇妙だけれど魅惑的で、よく考えれば納得感もあったりするさまざまな世界観/世界像が、そこでたっぷりと味わえるからだ。</p> <p>そこでこの授業はまず序盤で「哲学とは何か?」についていくつかの角度から紹介したあと、中盤から終盤にかけての大半を使い、哲学史を紹介・解説していく。さまざまな対立や紆余曲折を経ながらも、哲学的思考の流れは大きくうねりつつ継承され、現代までつながっている。そして最終盤では、現代哲学のさまざまな流派やそこで議論されている問題を紹介し、現在進行形の哲学の姿を素描する。</p> <p>この授業を通して、〈あたりまえ〉をうのみにせず、自分自身の頭でものごとを考える姿勢をつかんでもらいたい。</p>				
【授業方法】	毎回の授業資料は事前にユニバで配布するので、必ず確認して、プリントする・PCやタブレットに入れるなどして授業に持参すること。またユニバではレスポンスペーパーのフォーマットも配布するので、感想・質問がある人はメール提出すること。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総説(1): ガイダンス: 哲学のイメージと、その多様性・意外性</li> <li>2. 総説(2): 哲学のさまざまな顔――多面体としての哲学</li> <li>3. 古代(1): 哲学はいつ、どこで始まったのか?――3つの故郷</li> <li>4. 古代(2): ソクラテスの「愛知(ピロソピア)」活動</li> <li>5. 古代(3): 哲学の基本形と可能性(1)――プラトン哲学</li> <li>6. 古代(4): 哲学の基本形と可能性(1)――アリストテレス哲学</li> <li>7. 古代(5): 後期古代哲学――ヘレニズム哲学と新プラトン主義</li> <li>8. 中世: 中世哲学――神学との一体化と近代への胎動</li> <li>9. 近代(1): 近代哲学の出発点――デカルト哲学</li> <li>10. 近代(2): 大陸合理論の奇妙で魅惑的な世界観――スピノザとライブニッツ</li> <li>11. 近代(3): 実は過激なイギリス経験論――ロックからヒュームへ</li> <li>12. 近代(4): 近代哲学最大の分水嶺――カント哲学</li> <li>13. 近代(5): 近代哲学の終着点――ドイツ観念論とヘーゲル</li> <li>14. 現代(1): 現代哲学への転換点――ニーチェ、フロイトらの「反哲学・反理性」</li> <li>15. 現代(2): 20世紀～21世紀哲学――哲学はいまも、これからも動き続ける</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組みと期末レポート。				
【テキスト】	特に指定しない。				
【参考書】	熊野純彦『西洋哲学史』(岩波新書) 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』(中公新書) 欽茶『史上最強の哲学入門』(河出文庫) その他、適宜授業のなかで紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目履修生履修可	【交換留学生】	交換留学生可

【科目名】	社会思想史入門	Introduction to history of socialthoughts			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	社会とは何か、人間は社会との関係をどう生きるべきか、社会の望ましい姿とはどのようなものか、といった社会に関するさまざまな知の営みとしての思想の流れをたどり、現代社会を生きる者として、社会への認識を深めることができるようになる。				
【授業概要】	主要な社会思想の流れをヨーロッパを中心に古代から現代までたどりつつ、その中心的な論点(たとえば「自由」「平等」「人権」「権力」「個人」「国家」「階級」「市民」「公共性」など)をめぐるさまざまな思想家の言説を取り上げながら考察する。とくに今日の我々の社会の原点となった「近代社会」以降の社会思想の展開に力点を置き、「近代社会」の自己認識の学としての「社会学」の視点から「現代社会」の抱える具体的な社会問題にも触れながら、思想史の流れを、今を生きる我々自身の問題として常に現在と未来に生かす視点を重視して概観する。				
【授業方法】	講義形式を中心とするが、思想史を現代の時事的な社会問題ともリンクさせるテーマを提起して、必要に応じて受講者との対話形式も取り入れる。				
【授業展開】	<p>時代を追いながら、以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。</p> <p>第 1 回：社会思想史とは何か。</p> <p>第 2 回：古代ギリシアの社会思想～プラトン</p> <p>第 3 回：古代ギリシアの社会思想～アリストテレス</p> <p>第 4 回：古代末期の社会思想～ストア学派とヘレニズム、ヘブライズムの流れ</p> <p>第 5 回：古代末期の社会思想～イエスの思想と原始キリスト教の意義</p> <p>第 6 回：中世の社会思想～アウグスティヌスとキリスト教思想の深化</p> <p>第 7 回：中世の社会思想～トマス・アクィナスとキリスト教思想の展開</p> <p>第 8 回：近代の社会思想～ルネサンスと政治・社会思想</p> <p>第 9 回：近代の社会思想～宗教改革と近代社会・ルターとカルヴァン</p> <p>第 10 回：近代の社会思想～近代と自然観の転換</p> <p>第 11 回：近代の社会思想～社会契約思想の形成・ホブズ</p> <p>第 12 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開 I・ロック</p> <p>第 13 回：近代の社会思想～社会契約思想の展開 II・ルソー</p> <p>第 14 回：近代の社会思想～経済と道徳・アダム・スミス</p> <p>第 15 回：近代の社会思想～マルクスと社会主義思想</p>				
【履修条件】	「人間と社会」の抱える問題に関心がある積極的な受講者を望む。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	特定のテキストは使用しない予定。必要な場合はユニバーサル・パスポートを通して資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で適宜指示する。				
【備考】	授業は対面で実施するが、状況に応じてシラバスの内容が変更される場合があるので、ユニバーサル・パスポートを通じたシラバスの修正等の掲示や教員からの連絡に常に注意すること。なお受講人数は、履修登録先着順で 30 名までとする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	歴史学入門	Introduction to History			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	栗田和典				
【担当教員】	栗田和典				
【授業目標】	1980 年代から半世紀あまりの歴史学の歴史(史学史)を概観し、どのような社会的背景やあたらしい考え方のもとに研究がなされ、成果をあげてきたかをさぐる。学生は歴史学の歴史を知ることによって、歴史研究の要点となる問い、史資料、テーマなどを考えるとともに、現在や自己を相対化する知的な営みを体験する。				
【授業概要】	いくつかの歴史学研究の傾向・潮流を具体的な事例にそくして紹介しながらすすめる。それらは「社会史」や「社会文化史」、あるいは、「あたらしい歴史学」などと呼ばれてきた。また、マイクロ・ストーリー(極小史)とグローバル史、歴史人口学、国制史やジェンダ史など、空間的なひろがり、研究の材料となる資料、他の研究・学問分野との関係からも、名称はさまざまである。こうした多様な成果について、おもに近世・近代の日本史やヨーロッパ史、とくにブリテン諸島史から紹介し、静岡県や静岡市、葵区や清水区などのローカルな話題もとりあげながら、いくつかの材料を提供する。受講者は指定した題材について家族、知人、友人にたいする聞き取りをおこない、それらを授業の資料として活用する。				
【授業方法】	基本的に講義形式をとるが、内容にかんするクイズや質問が出されるので、対話・やりとり・雑談のなかで進行する。また、調査結果のプレゼンテーションや本を紹介するビブリオバトル、歴史的なレシピをたためす歴メシランチなどを実施する。 なお、通常の授業形式はいわゆるハイブリッドかつハイフレックス方式であり、教室での対面授業とオンライン会議システムを同時に併用する。対面とオンラインのいずれによって参加するかは、その都度に学生が選択する。また、LMS(学習管理システム Learning Management System)による授業資料の配布と課題の提示と提出をおこなう。ただし、利用する LMS は Universal Passport ではなく、Google Classroom であるから注意されたい。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 時代小説と歴史学</li> <li>2 歴史的な問いと答え</li> <li>3 データ・資料・証拠</li> <li>4 歴史学でつかわれる概念</li> <li>5 時間の感覚</li> <li>6 グローバルな視点</li> <li>7 地域からの視点</li> <li>8 ころとからだ</li> <li>9 地縁と血縁(社会的結合関係 1)</li> <li>10 職能(社会的結合関係 2)</li> <li>11 ビブリオバトル</li> <li>12 比較と関係</li> <li>13 「世の中が変わった」感覚</li> <li>14 「伝統の発明・捏造」論</li> <li>15 調査結果のプレゼンテーション</li> </ol>				
【履修条件】	第 1 回目の講義を欠席した場合には、第 2 回目までにオフィスアワー(木曜 4 限、国際関係学部棟 5 階 3512 室またはオンライン)を利用して教員と面談する。内容の点では、歴史上の具体的な事例に言及するが、それを暗記する授業ではなく、歴史学の基本と現状の理解を目的とすることを了解しておく必要がある。				
【評価方法】	調査結果のプレゼンテーションをおこない、教員をふくむ参加者相互の評価によって 80%を決定する。20%は講義におけるやりとりと、家族・知人・友人にたいする調査の成果を教員が評価する。				
【テキスト】	指定しない。				
【参考書】	近藤和彦(編)『イギリス史研究入門』(2010 年)など、山川出版社の研究入門シリーズは、総説や導入の部分にきわめて重要な指摘がある。また、小田中直樹『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき——』(筑摩書房:ちくまプリマー新書、2022 年)は軽妙な筆さばきで歴史学の現在を書いており、大学初年次の学生に適した参考文献である。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	宗教学入門	Introduction to religion		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	佐藤清子			
【担当教員】	佐藤清子			
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宗教がかかわる諸問題について知識を身に着ける</li> <li>●宗教がかかわる諸問題について多角的な視点から考察できるようになる</li> <li>●宗教がかかわる諸問題について自分の意見を論理的に表明できるようになる</li> </ul>			
【授業概要】	<p>現代日本の多くの大学生にとって、宗教はなじみのないものと感じられるかもしれない。だが、世界的に見れば宗教をもつ人は多数派であり、一見宗教とは何の関係もなさそうなところに宗教的なものが見いだされることもある。また、2022 年には大きな事件が起こり、宗教は日本社会に対しても重要な影響を与えていることが改めて明らかとなった。2011 年の東日本大震災で注目された被災者支援と宗教というテーマも、2024 年の震災を経て新たな重要性を帯びようになっている。</p> <p>授業では宗教学的な思考の基本を、学生にも積極的に参加してもらおうアクティブラーニングの方法で紹介する。教科書として、大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学』（世界思想社、2017 年）を用いる。授業での学習を通じて、宗教についての知識を得るとともに、宗教がかかわる問題を自分事としてとらえる視点を養ってほしい。</p>			
【授業方法】	教科書は事前に一度読んでおき、簡単なワークを終えておくこと。授業では教科書の内容を説明し、その後ワークを踏まえたディスカッションを行う。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 第1章 「宗教」はどのようにイメージされるのか？——「信仰のない宗教」、宗教情報リテラシー、「宗教」概念（大谷栄一）</li> <li>3 第2章 お寺や神社、教会はどういう場所なのか？——過疎、人口減少社会、ソーシャル・キャピタル（板井正斉）</li> <li>4 第4章 なぜ成人式を行うのだろうか？——信仰、アイデンティティ、通過儀礼（相澤秀生）</li> <li>5 第5章 お祭りにはどんな意味がある？——祭祀、祝祭、コミュニティ文化（藤本頼生）</li> <li>6 第6章 巡礼者は何を求めて聖地に向かうのか？——聖地、世界遺産、真正性（碧海寿広）</li> <li>7 第7章 いのちを教えることができるのか？——寛容の態度、宗教文化教育、道徳の教科化（川又俊則）</li> <li>8 第8章 「女人禁制」はつづけるべきか？——霊山、ジェンダー、家父長制（小林奈央子）</li> <li>9 第9章 「カルト問題」にどう向きあうか？——カルト、偽装勧誘、マインド・コントロール（塚田穂高）</li> <li>10 第11章 ヴェールはなぜ問題となるのか？——オリエンタリズム、ポストコロニアル、フェミニズム（猪瀬優理）</li> <li>11 第12章 日本社会は移民とどう向きあうのか？——入国管理法、多文化共生、エスニシティ（白波瀬達也）</li> <li>12 第13章 なぜ墓参りをするのか？——先祖／祖先、葬後儀礼、両墓制（川又俊則）</li> <li>13 第14章 戦没者をどこで追悼する？——靖国問題、「戦争の記憶」、コメモレイション（大谷栄一）</li> <li>14 第15章 被災者への支援で求められるものは何か？——「心のケア」、臨床宗教師、霊性（黒崎浩行）</li> <li>15 全体のまとめ</li> </ol>			
【履修条件】	授業はすべて教室で対面にて実施する			
【評価方法】	平常点(予習状況、ディスカッションへの参加) 60% 最終レポート 40%			
【テキスト】	大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理『基礎ゼミ 宗教学』（世界思想社、2017 年）			
【参考書】	授業中適宜指示する。			
【備考】				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】



【科目名】	社会学入門	Introduction to Sociology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	石井由香				
【担当教員】	石井由香				
【授業目標】	現代社会に関する理解を深めるために、社会学の基本的な理論および分析枠組みを、実際の事象や身近な出来事に引きつけながら身につける。				
【授業概要】	社会とは何だろうか。また、私たちが生きているのはどのような社会なのだろうか。人と人、人と集団、集団と集団の間のさまざまな関係をどう理解して行動していったらよいのか。本講義では社会をとらえる学としての社会学の基礎を学び、階層・階級、教育と学歴、ジェンダー、高齢化、グローバリゼーションといったテーマについて具体的に考えることで、こうした問いへの手がかりを得ることを目指したい。				
【授業方法】	講義形式。視聴覚教材(DVD等)も用いる。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション—社会学の考え方</li> <li>2. 社会学の歴史(1)—社会学のあゆみ</li> <li>3. 社会学の歴史(2)—社会学の基本概念</li> <li>4. 社会階層と格差(1)—階級と階層</li> <li>5. 社会階層と格差(2)—不平等と社会</li> <li>6. 教育と学歴(1)—学歴社会化の進行</li> <li>7. 教育と学歴(2)—学歴社会への関心の変化</li> <li>8. ジェンダーと社会(1)—「女らしさ」と「男らしさ」の問い直し</li> <li>9. ジェンダーと社会(2)—「セクシュアリティ」を考える</li> <li>10. 高齢化と福祉(1)—なぜ高齢化するのか</li> <li>11. 高齢化と福祉(2)—介護と家族</li> <li>12. グローバリゼーションと社会(1)—グローバリゼーションとはなにか</li> <li>13. グローバリゼーションと社会(2)—ナショナリズム・エスニシティへの影響</li> <li>14. グローバリゼーションと社会(3)—多様性を認める社会とは</li> <li>15. おわりに—まとめと今後の展望</li> </ol>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	中間レポート(40%)、期末レポート(60%)				
【テキスト】	なし				
【参考書】	初回講義時に参考文献リストを配布。また講義時に随時紹介する。				
【備考】	特になし				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	国際関係学入門	Introduction to international relations		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	小窪千早			
【担当教員】	飯野光浩、石川義道、小窪千早、坂巻静佳、佐藤真千子、浜由樹子、前山亮吉、宮崎晋生、山下光、山本健介			
【授業目標】	国際社会の動向を総合的に把握するための視野を養うと同時に、複数の学問領域にまたがる国際関係学という学問についての理解を深める。			
【授業概要】	<p>東西冷戦を主軸とした 20 世紀後半の国際秩序が崩壊して以来、新しい世界秩序の模索が続いてきた。経済のグローバル化が進行し、欧州等において国際統合の拡大、深化が追求される一方、テロリズムや大量破壊兵器の拡散が国際安全保障の焦点として浮上り、また環境、貧困、疾病、エネルギー等に関する問題が全地球的な課題として捉えられるようになってきている。</p> <p>こうした国際社会の動向を理解するためには複眼的な視野が必要とされる。本科目では国際政治、国際経済、国際法等の視点から国際関係の実態に接近し、国際関係学への導入とする。</p>			
【授業方法】	国際関係学部国際関係学科の政治学系、経済学系、法学系の教員が各自の専門領域に関わる国際関係の基本的争点について講義する。			
【授業展開】	<p>今年度の授業予定表(各回の担当者と講義題目を記したものを初回に配布する。 過去の講義題目の例を挙げれば以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国際連合における意思決定方式」</li> <li>「国際法から世界をみる」</li> <li>「開発協力白書から見える日本の ODA 政策」</li> <li>「国際経済法入門」</li> <li>「昭和戦前期 日本の政策決定システムについて」</li> <li>「欧州統合の歴史と課題」</li> <li>「国際協力の現場－南スーダンを事例として」</li> <li>「アメリカ政治入門」</li> <li>「国際平和協力と国際政治」</li> <li>「現代中東と国際政治：イスラーム復興のうねり」</li> <li>「比較政治と日本政治」</li> <li>「プラットフォーム多国籍企業と国際関係」</li> <li>「国際政治と『地域』」</li> </ul>			
【履修条件】	特になし。			
【評価方法】	各回の小テスト等による。			
【テキスト】	特になし。			
【参考書】	各回の担当者が適宜紹介する。			
【備考】				
【社会人聴講生】	受入可。	【科目等履修生】	受入可。	【交換留学生】

【科目名】	文化人類学入門	Introduction to cultural anthropology		
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	金明美			
【担当教員】	金明美			
【授業目標】	本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。			
【授業概要】	<p>文化人類学に特徴的なのは、参与観察やエスノグラフィーというフィールドワークの調査や記述の方法です。現在では、様々な分野で応用されていますが、文化人類学においては、自らが慣れ親しむ「日常」を離れ、現場（フィールド）へと向かい、そこでの経験や他者からの学びを通して、様々な社会や文化の内在的な理解を目指すということを最も重視しています。</p> <p>この方法は、グローバル化や情報が進展する一方、コミュニケーション上の諸問題が世界各地で生じている現在、異文化理解の方法として、その重要性が一層増していると考えられます。しかし、文化人類学の歴史は、異文化理解という肯定的な面だけではありませんでした。植民地主義をはじめ支配／被支配の問題と少なからず関係してきた部分があり、そうした面の克服も学問的な課題として取り組んできました。よって文化人類学の学説史を知ること、現在の世界各地で起こっている様々な争いや葛藤等を理解する上での重要なヒントを得られるといえるでしょう。</p> <p>本講義では、近代に「未開」社会の研究として出発し、植民地主義の落とし子と批判を受けつつも、異文化理解の学問として発展してきた文化人類学の学説史を追うことで、安易な異文化理解に陥らないために必要な異文化理解の方法を考えます。</p> <p>ところで、学説史とは、学問としての文化人類学がとる方法論上の理論的根拠についての議論の歴史です。理論的な話ですから難易な部分もありますが、それらの理論は特定の社会や文化についての日常的な参与観察から立ち上がったものでもあります。よって、理論的な話も、そうしたことを踏まえて理解を進めると、必ずしも難しいものではありません。教科書もそのような観点から書かれています。とはいえ、教科書の内容は一読してすぐ分かるようなものではありません。初学者にとり難しい部分がありますので、授業では、毎回取り上げる章の中で重要な部分を中心に、それらなるべく噛み下いた形で解説します。講義を受講し、自ら考え、予習・復習をきちんと行えば、教科書の内容を把握することが可能になるでしょう。</p> <p>ぜひ文化人類学という学問（これも一つのフィールド！）の世界に足を踏み入れてみてください。</p>			
【授業方法】	基本的には教科書の章立て順に授業を進める（但し、受講人数や進み具合によって授業展開の予定を変更することもありうる）。関連映像を利用し、またパワーポイントも使用する。対面授業を予定しているが、対面授業を避けた方がよいと判断される場合は遠隔講義（オンデマンド型と同時双方向型の組み合わせ、授業資料提示や課題提出はユニバを利用）を行う。			
【授業展開】	第1回 ガイドンス、文化人類学を学ぶために 第2回 文化人類学とはどのような学問か？ 第3回 進化主義と伝播主義 第4回 近代人類学の夜明け（1）マリノフスキーをめぐる 第5回 第4回の続き、ビデオ視聴 第6回 近代人類学の夜明け（2）ラドクリフ＝ブラウン 第7回 第6回の続き 第8回 アメリカ文化人類学の出発：ポアズとその弟子たち 第9回 第8回の続き 第10回 構造主義以前の文化人類学 第11回 構造主義の系譜 第12回 第11回の続き 第13回 構造主義と文化相対主義 第14回 第13回の続き 第15回 まとめ、ビデオ視聴など			
【履修条件】	集中講義(後期)の期間中の出席が可能な人			
【評価方法】	毎回の講義内容に関する小レポート			
【テキスト】	原尻英樹『文化人類学の方法と歴史』（新装版）2015年、新幹社、2,200円＋税、（ISBN）978-4-88400-113-1（大学内の書店等で購入してください）			
【参考書】	奥野克巳『はじめての人類学』、2023年、講談社、900円＋税、（ISBN）978-4-06-532857-6			
【備考】				
【社会人聴講生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【科目等履修生】	可（但し、授業実施形態の変更によって不可になる場合がある）	【交換留学生】

【科目名】	公共政策入門	Introduction to public policy			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	藤本健太郎*				
【担当教員】	藤本健太郎*				
【授業目標】	<p>私たちの生活には、病気やケガ、失業、職場での事故、高齢になって要介護状態になることなど多くのリスクがあります。</p> <p>個人ではうまく備えることのできない生活上のリスクに対応するのが社会保障と労働法です。しかし、制度が分かりにくいと考えている人が多く、給付やサポートが受けられるのに申請していないケースも少なくないと思われます。</p> <p>社会に出て働く前に知っておいてほしい社会保障と労働法の基本的な知識について分かりやすく解説することがこの講義の目標です。</p>				
【授業概要】	<p>社会保障とはどのようなリスクに備えているのか、税と社会保険料はどのように違うのかなどを解説します。社会保障には多くの制度がありますが、中でも規模が大きくて重要な年金、医療保険、介護保険、社会福祉について概要と課題を説明します。</p> <p>働く人を守る仕組みである労働法について、労働基準法、労働契約法などの基礎について解説します。</p>				
【授業方法】	<p>対面による講義を基本とします。ズームによる講義を行う場合もあります。</p> <p>教科書に基づいて講義を進めますが、配布資料も用意します。</p>				
【授業展開】	<p>1 オリエンテーション～困ったときにどんな助けが得られるのか</p> <p>2 社会保障と労働法とはどのような仕組みなのか</p> <p>3 年金の仕組み～定年などで働けなくなったとき</p> <p>4 医療保険の仕組み～病気やケガをしてお金がかかるとき</p> <p>5 介護保険の仕組み～年をとって体が不自由になったとき</p> <p>6 社会福祉と生活保護～子どもや障害者、貧しい人などを支える仕組み</p> <p>7 働く人を守る仕組み①</p> <p>8 外部講師</p> <p>9 働く人を守る仕組み②</p> <p>10 育児や介護と仕事の両立支援</p> <p>11 少子化対策～子どもが生まれたとき</p> <p>12 ケーススタディ～困ったとき、どのような給付や支援を申請できるのか</p> <p>13 これからの社会保障</p> <p>14 まとめ</p> <p>15 期末試験</p> <p>※外部講師との日程調整などによって変更になる場合があります</p>				
【履修条件】	特にありません。				
【評価方法】	レポート等 30%、期末試験 70%				
【テキスト】	「働く人のための社会保障入門」(藤本健太郎、藤本真理、玉川淳著)ミネルヴァ書房(2023 年)				
【参考書】	「人口減少を乗り越える」(藤本健太郎著)法律文化社(2018 年)				
【備考】	厚生労働省、内閣官房、在ドイツ日本国大使館に勤務経験のある教員が実務経験も踏まえて講義を行う。				
【社会人聴講生】	聴講可。	【科目等履修生】	履修可。	【交換留学生】	履修可。

【科目名】	心理学入門	Introduction to psychology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	西田公昭				
【担当教員】	西田公昭				
【授業目標】	さまざまな心理学の研究から現代社会における人々の生活を説明する。何気なく過ごす日常生活を心理学的に分析し思考力を養うことを目的とする。				
【授業概要】	現代心理学について、体系的に概観する。その上で、人々が日常的に経験する出来事を心理学的に分析し、理論的に検討する。				
【授業方法】	講義形式で進める				
【授業展開】	1 心理学の体系：現代心理学の世界をひとめぐりし、生活と心理学との関係を概説する 2 知覚1：現実とはなんだろうか・・・誰もが不思議な心理経験 3 知覚2：外界を認知する仕組み 4 発達心理学：心を作るのは遺伝か経験か、認知発達、生涯発達の理論 5 学習心理学1：基礎理論を中心にヒトは経験をどのようにとらえるのか。 6 学習心理学2：是と非が入れ替わる(洗脳)など 7 認知心理学1：意識と記憶 8 認知心理学2：記憶の構造 9 認知心理学3：思考と行動 10 感情心理学1：動機づけ：喜怒哀楽や愛のしくみをさぐる、友人や恋人関係への発展メカニズム 11 感情心理学2：情動(恋愛を中心に) 12 感情心理学3：ストレス 13 心理査定：知能や性格を測るには？ 14 社会心理学1：人を取りまく社会的な現実と状況の力 15 社会心理学2：オウム真理教とマインド・コントロール				
【履修条件】	心理学を積極的に勉強する意欲のある者に限る				
【評価方法】	リアクション課題(毎回)				
【テキスト】					
【参考書】	授業時に指示				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	生涯発達心理入門	Introduction to life development psychology			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	*篁宗一、*近藤美保、*小泉祐貴、*予定教員、非常勤講師				
【授業目標】	<p>【授業目的】人の心のあり方と行動は密接に関係している。ライフステージごとの心理的特徴について理解する。大学生にとっての「生きる」意味を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心とはなにか、また心の動きがどのように行動と結びつくのかについて考える。</li> <li>2.大学生にとって健康的な生活を送る基本的な知識を得る。</li> </ol>				
【授業概要】	「心の各発達段階における特徴や課題」「ストレスが心の健康に及ぼす影響」「ストレスへの対処及びリラクゼーション」等について広く学ぶ。さらに、様々な障害を有する当事者または家族からの体験談を聞いたり、身体的・心理的支援を行うスタッフの講義を通じて、受講生が生きる意味を考えたり、健康的な大学生活を過ごせるための学びの機会を提供する。また、レポートでは「自分史」づくりの機会を提供する。				
【授業方法】	講義・グループディスカッション・課題学習・演習等、学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達心理の概要・自分史づくりのガイド他（篁）</li> <li>2. 発達段階別の特徴と課題Ⅰ（篁）</li> <li>3. 発達段階別の特徴と課題Ⅱ（篁）</li> <li>4. 発達段階別の特徴と課題Ⅲ（篁）</li> <li>5. 発達段階別の特徴と課題Ⅳ（予定教員）</li> <li>6. 高次機能障害者の家族の心理（非常勤講師・近藤）</li> <li>7. 性同一性障害の体験（非常勤講師・小泉）</li> <li>8. 喫煙・飲酒について（非常勤講師・小泉）</li> <li>9. 心理カウンセラーについて（非常勤講師・篁）</li> <li>10. ストレスについて（小泉）</li> <li>11. 感情労働について（予定教員）</li> <li>12. ストレス・コーピングについて（予定教員）</li> <li>13. リラクゼーションについて（近藤）</li> <li>14. リラクゼーション演習（近藤）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>講義予定、担当講師は変更する可能性がある。</p>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 出席状況・課題作成(30%)・レポート等(70%)により、総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし				
【参考書】	適宜、授業の中で紹介する。				
【備考】	<p>*メンタルヘルスにかかわる保健師・看護師・心理職等が、その経験を活かして講義を行う。 看護学生の受講も可能だが、内容の重複が一部ある。 ・原則として対面で実施するが、Covid 感染拡大の影響により遠隔(オンラインまたはオンデマンド)に切り替える可能性がある。</p>				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	知的財産管理入門	Introduction to Intellectual Property Management		
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	全曜1限	
【科目責任者】	*居藤 洋之			
【担当教員】	*居藤 洋之			
【授業目標】	知的財産管理で必要とされる基礎知識および基礎技能を習得することを目標とする。			
【授業概要】	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>・知的財産管理の社会的意義を説明できる。</li> <li>・特許制度の目的、保護対象、特許要件を説明できる。</li> <li>・特許出願から登録までの流れ、特許権発生後の管理、特許権取得の得失について説明できる。</li> <li>・実用新案権制度の目的および特徴を特許制度との相違の観点から説明できる。</li> <li>・意匠制度の目的、保護対象、登録要件を説明できる。</li> <li>・意匠権発生後の管理、および不競法および著作権法に対するデザイン保護の相違点を説明できる。</li> <li>・商標法制度の目的、保護対象、登録要件、商標権発生後の管理、および不競法での保護との相違点を説明できる。</li> <li>・知的財産権に関する条約について説明できる。</li> <li>・パリ条約、特許協力条約（PCT）、マドリッドプロトコル、ヘーグ協定、ベルヌ条約について説明できる。</li> <li>・著作権法の目的、保護対象、著作者について説明できる。</li> <li>・著作者人格権、著作財産権、著作権の保護期間、著作権の移転と利用、効力、著作隣接権について説明できる。</li> <li>・知的財産権に関するその他の法律である不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法の概略を説明できる。</li> </ol>			
【授業方法】	パワーポイントによるスライド形式のレジュメに従って講義形式で行う。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション：知的財産・産業財産権とは、知的財産を保護する必要性と法体系 ・特許法①：目的、保護対象、特許要件</li> <li>・特許法②：特許出願の手続き、特許権の活用と管理、特許権の侵害と救済、特許取得の得失</li> <li>・実用新案法：特許法の相違 ・意匠法①：目的、保護対象、登録要件、意匠登録を受けるための手続き</li> <li>・意匠法②：意匠権の管理と活用、意匠権の侵害と救済 ・商標法：目的、保護対象、登録要件、商標登録を受けるための手続き、商標権の管理と活用、商標権の侵害と救済</li> <li>・知的財産に関する条約：パリ条約、特許協力条約（PCT）、その他の条約 ・著作権法①：目的、著作物とは、著作者とは</li> <li>・著作権法②：著作者人格権、著作財産権、著作権の制限、著作隣接権、著作権の侵害と救済</li> <li>・知的財産に関するその他の法律：不正競争防止法、民法、独占禁止法、種苗法、弁理士法</li> </ol>			
【履修条件】				
【評価方法】	出席状況及び試験（課題レポート）により総合評価。			
【テキスト】	講師自作のパワーポイントによるスライド形式レジュメ			
【参考書】	知的財産管理技能検定3級公式テキスト（知的財産教育協会編）			
【備考】	<p>特許や商標、著作権などの知的財産権に関する知識はビジネス常識です。高度に設計された制度システムを、現役の弁理士が実際の実務や多数の実例を紹介しながら分かり易く講義を進めていきます。本講義により広大な知的財産権の世界を一通り学ぶことができます。国家検定「知的財産管理技能検定」受験希望者には特に受講を推奨します。社会人聴講生の聴講を認めます。</p>			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 受入条件：知的財産権に興味のある方	【科目等履修生】	科目等履修生履修可 受入条件：知的財産権に興味のある方	【交換留学生】

【科目名】	国際安全保障入門 I	Introduction to International Security I			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障の基本的な概念を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	国際政治の手段としての軍事力および軍事力の政治的統制に関する概念が、どのように形成され、使われてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。国際安全保障研究の基礎となっている文献を読みこなす。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(4/16) 授業の説明 第 2 回(4/23) 国際政治の無政府状態(アナーキー) 第 3 回(4/30) 強制 第 4 回(5/7) 抑止 第 5 回(5/14) 安全保障のジレンマ 第 6 回(5/21) 核兵器が国際政治にもたらした革命(1) 第 7 回(5/28) 核兵器が国際政治にもたらした革命(2) 第 8 回(6/4) ナショナリズムと戦争(1) 第 9 回(6/11) ナショナリズムと戦争(2) 第 10 回(6/18) 政軍関係 第 11 回(6/25) 同盟 第 12 回(7/2) 民主的平和論(1) 第 13 回(7/9) 民主的平和論(2) 第 14 回(7/23) 民主主義と戦争における勝利(1) 第 15 回(7/30) 民主主義と戦争における勝利(2)				
【履修条件】	高校世界史、とくに近現代史を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。				
【評価方法】	レポート 60%、文献に関する報告 15%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツ『人間・国家・戦争』勁草書房 シェリング『軍備と影響力』勁草書房 クラウゼヴィッツ『戦争論 縮訳版』日本経済新聞出版 その他配布する。				
【参考書】	授業中紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可



【科目名】	国際安全保障入門Ⅱ	Introduction to International Security II			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	西 恭之				
【担当教員】	西 恭之				
【授業目標】	国際安全保障に関する倫理的主張を理解し議論することによって、批判的思考力と論理的表現力を養い、自由な社会を維持するための教養を身につける。				
【授業概要】	政治的共同体による武力の行使の理由と方法が、どのように正当化され、批判されてきたのかを概観する。				
【授業方法】	対面授業。正戦論とその批判の基礎的文献を読み、議論する。英語文献も、効率的に読む方法を指導したうえで講読する。レポート(英文も可)の書き方を指導する。				
【授業展開】	第 1 回(10/1) 授業の説明 第 2 回(10/8) 平和主義 第 3 回(10/15) リアリズムと倫理 第 4 回(10/22) 正戦論の起源(1) 第 5 回(10/29) 正戦論の起源(2) 第 6 回(11/12) イスラームにおける正戦 第 7 回(11/19) 戦ってよい戦争の条件 第 8 回(11/26) 正しい戦い方の条件 第 9 回(12/3) トロツコ問題 第 10 回(12/10) 緊急事態の論理 第 11 回(12/17) 核抑止 第 12 回(1/7) 先制攻撃と予防戦争 第 13 回(1/14) テロリズム 第 14 回(1/21) 暗殺 第 15 回(1/28) 人道的介入				
【履修条件】	高校世界史または高校倫理を復習しておくこと。英語力を伸ばす意欲があること。国際安全保障入門Ⅱは役立つが、履修条件ではない。				
【評価方法】	レポート 60%、文献に関する報告 15%、議論への参加 25%				
【テキスト】	ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』風行社 松元雅和『平和主義とは何か』中公新書 その他配布する。				
【参考書】	松森奈津子『野蛮から秩序へ』名古屋大学出版会 その他紹介する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	くらしと化学 A	Chemistry in Daily Life A			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	Hiromu Kondo				
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo				
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.				
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.				
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.				
【授業展開】	<p>1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity.</p> <p>2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions</p> <p>3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking</p> <p>4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society</p> <p>5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food,</p> <p>6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc</p> <p>7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,</p>				
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.				
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数数の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。</li> <li>・講義は原則、日本語で行う。</li> <li>・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。</li> <li>・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。</li> <li>・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。</li> </ul>				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	くらしと化学 B	Chemistry in Daily Life B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	Hiromu Kondo				
【担当教員】	Kenji Watanabe, *Hiromu Kondo				
【授業目標】	Learn about chemistry as it relates to everyday life. Hearing, seeing, tasting, and touching all involve intricate series of chemical reactions and interactions in your body. With such an enormous range of topics, it is essential to know about chemistry at some level in order to understand the world around us.				
【授業概要】	Chemistry is a big part of your everyday life. You find chemistry in daily life in the foods you eat, the air you breathe, your soap, your emotions and literally every object you can see or touch. Here's a look at some everyday chemistry.				
【授業方法】	A lesson may range from a lecture to a demonstration.				
【授業展開】	<p>1 What is chemistry? Chemicals are everywhere doing all sorts of useful stuff. From materials to detergents to lubricants to drugs, chemical technology has solved an astounding number of problems for humanity.</p> <p>2 The basis of chemistry A pure substance, elements, compounds, and mixtures, categories of compounds, moles of compounds, the chemical bond, acid, basis and salts, the characteristics of solutions</p> <p>3 Chemistry in your familiar phenomena Water and oil, dye, burning, dissolution, color, ferment and decay, seasoning, cooking</p> <p>4 Green and Sustainable Chemistry, Ozone depletion, ozone hole formation, skin cancer, malignant melanoma, biodiversity and agriculture biology and chemistry are like two sides of the same coin. We can learn from one another while moving toward a sustainable society</p> <p>5 Chemistry, a key player in keeping us healthy Chemotherapy, fertilizers, essential nutrients, genes, photosynthesis, functional food</p> <p>6 Chemistry in our comfort life Enzymes, battery, perfumes, ceramics, magnetorheological damper, gravitomagnetic field, etc</p> <p>7 Chemistry opens a future full of hope Nano and biotechnology, humangenome, functional brain mapping,</p>				
【履修条件】	Mainly, we intend for a student who did not study chemistry in a high school. Chemistry having learned already person does not need to take the class.				
【評価方法】	We evaluate it after considering the result of attendance and the report. 原則としてレポート 100%とし、出席態度を考慮して総合評価する。 全講義回数数の 2/3 以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	なし。必要に応じて講義時に資料を配布する。				
【参考書】	必要に応じて適宜、講義内で紹介する。				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義全体に関して専門性を出来るだけ低減した一般的な科学に関する講義を行う。これにより、多くの学生に対する広範囲な科学知識を教授する教養科目とする。</li> <li>・講義は原則、日本語で行う。</li> <li>・製薬メーカーの研究所で研究者として医薬品研究開発に携わった経験のある教員が、実際の研究業務で利活用している基礎的な化学について事例を交えて解説する。</li> <li>・基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等になることもある。</li> <li>・くらしと化学 A とくらしと化学 B は同一の内容である。したが、受講を希望する学生はくらしと化学 A またはくらしと化学 B のいずれかを受講すればよい。</li> </ul>				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	実用科学英語基礎編	Basic English Usage in Natural Sciences			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	水曜1限		
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	理系・文系の区別なく科学的・専門的な内容の英文を学生の皆さんが自力で正確に読解する力を養成するため、その基礎となる英文法の理解を深めることが主要目標。それが実践的なTOEIC対策にもつながるので、効率的なスコアアップのサポートも副次的目標。				
【授業概要】	中高で習った英文法を真に受けている人も多いと思いますが、それが実は簡略版でしかなく、実用レベルでは通用しなかったり正確な理解の妨げになったりすることは意外と知られていません。そうした点を多くの具体例を挙げて解説し、大学受験の先にある研究・仕事や留学に活かせる実用版英文法への橋渡しをします。一方、共通テストで英文法問題が廃止された影響で文法理解を深めないまま入学してくる学生が増えているようなので、従来の学校英語の復習も以前より強化します。細部で辻褃が合わない学校英語の単なる学び直しではなく、改めてその問題点を認識し、さらには感覚ではなく自分の頭で考えて論理的に英文法を理解できるように解説します。英語と日本語を適切に比較することで難解な専門用語やネイティブ感覚に頼らずに英文法の要点を整理し、さらには日本語の理解も深められるような講義を目指しています。				
【授業方法】	対面が原則。一部の回(半数を超えない範囲)では学生自ら調べ考える遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス：講義予定、効率的なTOEIC対策と推薦図書について</li> <li>桁が大きな数字の聞き取り：簡単な秘訣を知るだけで大きく改善</li> <li>3-4. 学校英文法の復習：TOEICパート5&amp;6対策も兼ねて</li> <li>5-6. 前置詞・副詞：at, in, onの比較(使い分けの基準、特に日本人が間違いやすいonの深掘り)</li> <li>7. 現在時制と現在進行：「do=する、be doing=している」の問題点(日本語とのズレ)</li> <li>8. 過去時制：現在時制との共通点と相違点、仮定とは違う仮定法の本質</li> <li>9. 現在完了：現在・過去との対比でしか見えない本質、日本語に基づく整理法</li> <li>10. 未来時制：「will=つもり・だろう」の問題点、be going toの本質(willとの役割分担)</li> <li>11-12. 可算不可算：「数えられるか否か」の問題点、数え方の和英比較、主語・動詞の単複一致を深掘り</li> <li>13-14. 応用：TOEIC演習(すぐに身につく実用的な解き方も紹介)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>一部の講義内容や順番は変わる場合があります。また、簡便なTOEICp2聞き取り演習をスキマ時間に実施。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)</p>				
【履修条件】	中高とは視点が異なる論理的な文法解説に興味がある人、英文法が好きな人や好きになりたい人を歓迎。理解度には個人差が付きものですが、個々のレベルに合わせて得られるものがあるはず。過去2年間の平均では受講者が約100名、うち文系が約6割で理系が約4割、1年生が約3/4で2-4年生が約1/4。参考までに、課題Aシートでは「中高と違う説明で疑問解決/面白い/新鮮/迷ったが受講して良かった/英語の深いところまで学べた/英語の見方が変わった/留学にも実用的/英文法に悩んでいる人にオススメ/塾講師として指導に活かせる/TOEIC対策もオススメ/非常に学びが多い/毎回充実/行い/感覚の言語化」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「学校英語と違って難しい/時間がかかって大変」というご意見も。				
【評価方法】	成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。				
【テキスト】	小石裕子 著 「TOEIC TEST英文法出るとこだけ！」[アルク] (他に、必要に応じてプリント等を適宜配布)				
【参考書】	授業で推薦図書をいくつか挙げる予定。個人差が大きいため、高校の英文法参考書の再利用でも構いません。				
【備考】	<p>※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>この実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&amp;解説(大学初級~上級、TOEIC初級~中級) TOEIC対策:p5&amp;6のコツを解説&amp;演習、全p即効テク解説&amp;演習、スキマ時間に簡便なp2演習</li> <li>基礎生命科学II:主に1~2年次対象、基本的な大学英語を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) 語彙演習:汎用性が高いDUOで英単語力を維持強化(単語力の低下を実感している上級生も対象、TOEICにも有効) 英文和訳&amp;英作文演習と個別的な文法解説:3~4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 前期の基礎生命科学Iの継続、TOEIC対策は初心者向けp3&amp;4演習&amp;解説</li> </ol> <p>※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中級~上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説、TOEICp1~4熟練スキル演習&amp;解説</li> <li>基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当、初心者向けTOEICp1&amp;2演習&amp;解説</li> </ol>				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	Possible

【科目名】	実用科学英語応用編		Practical English Usage in Natural Sciences		
【開講時期】	2024年度前期		【開講時限】	火曜1限	
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	学生が自力で正確に科学的・専門的な英文を読解したり一般向けの英会話を聞き取ったりするために必要な読解力(多読・速読力)、聞き取り力、文法力を養成することが第一の目標。そのための実践的な演習を通してTOEICのスコア向上につなげることが第二の目標。				
【授業概要】	<p>テクノロジーの急速な進歩により、様々なツールを利用することで英語力の不足を簡単に補うことができるようになってきています。しかし、こうしたツールは便利一方で誤訳のリスクが常につきまとうため、専門的な研究や仕事の上では自分自身の読解力や聞き取り力が最終的な拠り所となる点は従来と何ら変わりはありません。この講義では、以下の点を重視して科学的な内容の英文記事の和訳演習と一般的な会話文やトーク文の聞き取り演習を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読解力(多読・速読力)：Google翻訳やDeepL翻訳などのWebツールを活用する和訳演習&amp;解説を通して誤訳の見つけ方・発生原因・添削方法について学び、教師に頼らずに正確かつ効率的に英文を読解する力を養う（構造がシンプルな単文の読解ではなく、複雑な階層構造をした複文の読解に特に力を置いて演習）</li> <li>2. 聞き取り力：p2の網羅的分析(特にヒネリ応答)とp3&amp;4の高度な先読み分析などのTOEIC演習を通して、簡単に身につくTOEIC即効テクではなく習得に時間がかかる一方で会話力・長文聞き取り力が上がるTOEIC熟練スキルを磨く</li> <li>3. 文法力：読解&amp;聞き取りの例文に出てくる文法項目の個別具体的な解説を通して、学校英語(要は大学入試に特化した受験英語)の制約にしばられない英文を正確に分析するための新しい視点を学ぶ</li> </ol>				
【授業方法】	対面が原則。一部の回(半数を超えない範囲)ではPCを使う遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。 ※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロ：講義全体を通して必要な演習方法を説明（Webサイトの活用法やテキストの使い方など）</li> <li>2-14. 科学的英文の和訳演習&amp;文法解説とTOEICパート1~4に相当する英文の聞き取り演習&amp;解説など</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(一部の講義内容や順番は変わる場合があります) ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で（履修登録期間中に仮登録してご確認ください）</p>				
【履修条件】	TOEIC L&R テスト(IPまたは公開)を1回は受験していること。TOEIC部分は大学で基本的な対策講義を受講した2年生以上が主な対象で、1年生にはTOEIC初心者向けの基礎生命科学I&IIを強く推奨。英語科目の選択肢が少ない3年生以上のTOEIC対策としての受講も想定(市販テキストの自習では得られない学びを提供)。和訳演習や文法解説は実用科学英語基礎編・基礎生命科学I&II・環境科学英語Iの発展的な内容(受講してなくても履修可能)。理系・文系の区別なく本気で多読・速読力と聞き取り力の向上に取り組みたい人を歓迎。参考までに、重要さ/充実度/満足度の比較調査を最終回に実施したところ、和訳演習vsTOEIC対策がほぼ50:50という結果に。課題ワークでは「和訳課題が新鮮で面白い/実践的なTOEIC対策/新たな発見が多かった/成長を感じれた/TOEIC演習で英語力が上がった/自分で英語を勉強する習慣がついた/先読み予想がとて有益/根本的な英語力を養える/低価格の教材がありがたい/解釈の多様性を理解できた/2年生になってTOEIC対策講義がなくなったので助かった」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「和訳演習は時間がかかる/課題が多く管理が大変」という意見も(感想には個人差あり)。				
【評価方法】	成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。 800点以上のTOEICスコアシート写真を提出すればTOEIC演習を免除する予定(以下のテキスト購入も不要)。				
【テキスト】	<p>「TOEIC L&amp;R TEST パート1・2特急 難化対策ドリル」 森田鉄也 著 [朝日新聞出版]  「TOEIC L&amp;R TEST パート3・4特急 実力養成ドリル」 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著 [朝日新聞出版]</p> <p>和訳教材として利用する近年のノーベル生理学・医学賞受賞者4名(山中伸弥博士、大村智博士、大隅良典博士、本庶佑博士)の先生方の業績を紹介するノーベル財団公式プレスリリースは電子ファイル等で配布(文系にも理解できる内容ですが、興味がないと苦勞するかも)</p>				
【参考書】					
【備考】	<p>※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中級~上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説 TOEIC対策:p1~4熟練スキル演習&amp;解説(主にp2の網羅的演習とp3&amp;4の高度な先読み演習)</li> <li>2. 基礎生命科学I:主に1~2年次対象、基本的な大学英語を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) 語彙演習:汎用性が高いDUOで英単語力を維持強化(単語力の低下を実感している上級生も対象、TOEICにも有効) 英文和訳&amp;英作文演習と個別的な文法解説:3~4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEIC対策:初心者向けp1&amp;2演習&amp;解説</li> </ol> <p>※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&amp;解説(大学初級~上級、TOEIC初級~中級) TOEIC対策:p5&amp;6のコツを解説&amp;演習、全p即効テク解説&amp;演習、簡便なp2演習</li> <li>4. 基礎生命科学II:前期の基礎生命科学Iの継続、初心者向けTOEICp3&amp;4演習&amp;解説</li> </ol>				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	Possible

【科目名】	基礎生命科学 I	Introduction to Life Sciences I			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	金曜1限		
【科目責任者】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【授業目標】	<p>The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences.</p> <p>網羅的な生命科学概論が目的ではなく、学生が生命科学関連の基本的な英語表現に慣れ親しみ、科学的内容の英文を読解・作文し聞き取る能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力の強化も重視。主に1~2年生(大学初級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、英語のインプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ。</p>				
【授業概要】	<p>Students will read news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences and listen to native speakers of English read them aloud. They will also translate these articles into Japanese and back into English. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. In addition, important grammatical topics will be covered in detail.</p> <p>1. 世界中で利用されている英語教材Voice of America Learning English(略してVOA)の生命科学に関するエピソードを正確に和訳する演習：英文を素早く正確に理解するため視覚的に構文解析し、個別的な文法項目を高校よりも詳しく解説  2. VOA英文を再現する英作文演習(聞き取り演習は各自で)  3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能)：前半を実施(残りは基礎生命科学IIで)  4. 学生からの要望が多いため、初心者向けの簡単なTOEIC対策：前期はp1&amp;2(後期にp3&amp;4)  5. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、一部の項目に絞って英文法解説(現在時制と可算不可算名詞を予定)  (1~3は大量の英文と単語・フレーズの意味を正確に理解してインプットし忠実にアウトプット、4もインプット演習だが量少なめ)</p>				
【授業方法】	<p>Students will go through multiple assignments and exercises to improve their English skills.</p> <p>対面が原則、一部の回(半数を超えない範囲)では遠隔演習も実施。詳細はUNIPA授業資料でご確認ください。</p>				
【授業展開】	<p>1. Course Introduction  2-5. Eating White Rice Increases Risk of Diabetes  6-8. Vitamins: D and the Diet  9-11. Less Salt Can Mean More Life  12-14. Study Links Midlife Belly Fat to Higher Risk of Dementia  15. Course Summary</p> <p>In addition, vocabulary exercises using DUO and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis.  一部の講義内容や順番は変わる場合があります。  ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)</p>				
【履修条件】	<p>Both natural science students and social science students can participate.</p> <p>学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化や科学英語に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&amp;2年生で科学英語科目を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、後期の実用科学英語基礎編で英文法を包括的に学ぶ前にこの基礎生命科学Iで個別的な文法解説に慣れておくことを強くお勧めします。参考までに、最終回に実施したまとめアンケートでは、DUO演習(学生ペアワーク)・VOA演習(丁寧な和訳解説)・英文法解説(現在時制と可算不可算名詞)・TOEIC対策の4項目が後輩に薦めたいポイントとしてほぼ等しい数の受講生から最も多く挙げられていました。</p>				
【評価方法】	<p>Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes.</p> <p>成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。  500点以上のTOEICスコアシート写真を提出すればTOEIC演習を免除する予定(以下のTOEIC初心者特急テキスト購入も不要)。</p>				
【テキスト】	<p>鈴木陽一 著「DUO 3.0」[アイシービー](全員購入必要)  神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L &amp; R TEST 初心者特急パート1・2」[朝日新聞出版]  VOA episodes and other materials will be handed out whenever necessary.</p>				
【参考書】					
【備考】	<p>※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。</p> <p>1. この基礎生命科学I:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級)  DUO語彙演習で汎用英単語力を維持強化(TOEICにも有効)、英文和訳&amp;英作文演習と個別的な文法解説  TOEIC対策:初心者向けp1&amp;2演習&amp;解説  2. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中級~上級)  和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説  TOEIC対策:p1~4熟練スキル演習&amp;解説(主にp2の網羅的演習とp3&amp;4の高度な先読み演習)  ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。  3. 基礎生命科学II:前期の基礎生命科学Iの継続、初心者向けTOEICp3&amp;4演習&amp;解説  4. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&amp;解説(大学初級~上級、TOEIC初級~中級)  TOEIC対策:p5&amp;6のコツを解説&amp;演習、全p即効テク解説&amp;演習、スキマ時間に簡便なp2演習</p>				
【社会人聴講生】	Not possible	【科目等履修生】	Not possible	【交換留学生】	Possible

【科目名】	基礎生命科学II	Introduction to Life Sciences II			
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	金曜1限		
【科目責任者】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【担当教員】	Toshiro Ohta (太田敏郎)				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論が目的ではなく、学生が生命科学関連の基本的な英語表現に慣れ親しみ、科学的内容の英文を読解・作文し聞き取る能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力の強化も重視。主に1~2年生(大学初級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、英語のインプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ。				
【授業概要】	Students will read news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences and listen to native speakers of English read them aloud. They will also translate these articles into Japanese and back into English. DUO, a general-purpose workbook, will be used for vocabulary building. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. 1. 世界中で利用されている英語教材Voice of America Learning English(略してVOA)の生命科学に関するエピソードを正確に和訳する演習：英文を素早く正確に理解するため視覚的に構文解析し、個別的な文法項目を高校よりも詳しく解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能)：前期の基礎生命科学Iの継続(後半部分) 4. 学生からの要望が多いため、初心者向けの簡単なTOEIC対策：後期はp3&4(前期にp1&2) (1~3は大量の英文と単語・フレーズの意味を正確に理解してインプットし忠実にアウトプット、4もインプット演習だが量少なめ)				
【授業方法】	Students will go through multiple assignments and exercises to improve their English skills. 対面が原則、一部の回(半数を超えない範囲)では遠隔演習も実施。詳細はUNIPA授業資料でご確認ください。				
【授業展開】	1. Course Introduction 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary In addition, vocabulary exercises using DUO and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. 一部の講義内容や順番は変わる場合があります。 ※シラバスに書ききれない詳細はUNIPA授業資料で(履修登録期間中に仮登録してご確認ください)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化や科学英語に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で科学英語科目を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、英文法を包括的に学ぶ実用科学英語基礎編と並行してこの基礎生命科学IIで個別的な文法事項について学ぶことを強くお勧めします。参考までに、最終回に実施したまとめアンケートでは、後輩に受講を薦めたいポイントとしてDUO演習(学生ペアワーク)が圧倒的に多く挙げられていました(受講者の過半数がDUOペアワーク演習を気に入って前期の基礎生命科学Iから継続受講した模様)。				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題(提出状況と内容)で評価。単位認定には3分の2以上の出席が必要(詳細はUNIPA授業資料で)。				
【テキスト】	鈴木陽一 著「DUO 3.0」[アイシービー] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L & R TEST 初心者特急パート3」[朝日新聞出版] 神崎 正哉 / Daniel Warriner 著「TOEIC L & R TEST 初心者特急パート4」[朝日新聞出版] VOA episodes and other materials will be handed out by the instructor whenever necessary.				
【参考書】					
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初級、TOEIC初級) DUO語彙演習で汎用英単語力を維持強化(TOEICにも有効)、英文和訳&英作文演習と個別的な文法解説 TOEIC対策:初心者向けp3&4演習&解説(いずれも基本的に前期の基礎生命科学Iの継続) 2. 実用科学英語基礎編:全年次対象、実用的英文法を包括的に演習&解説(大学初級~上級、TOEIC初級~中級) TOEIC対策:p5&6のコツを解説&演習、全p即効テク解説&演習、スキマ時間に簡便なp2演習 ※前期に担当する全学共通科目も参考までに紹介しておきます。 3. 基礎生命科学II:後期の基礎生命科学IIの前半に相当、初心者向けTOEICp1&2演習&解説 4. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中級~上級) 和訳演習(多読速読)と個別的な文法解説、TOEICp1~4熟練スキル演習&解説				
【社会人聴講生】	Not possible	【科目等履修生】	Not possible	【交換留学生】	Possible

【科目名】	現代日本文化入門 A	Introduction to Japanese Culture A		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	ファイファー マティアス			
【担当教員】	Matthias PFEIFER			
【授業目標】	To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art. 映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する			
【授業概要】	<p>この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。</p> <p>The course is designed for:</p> <p>1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties.</p> <p>2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English.</p> <p>In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.</p>			
【授業方法】	<p>この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。</p> <p>This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.</p>			
【授業展開】	<p>① Course guidance and introduction (講義案内と概念)</p> <p>② The structure of the self: Natsume S?seki and the birth of modern Japanese literature (自己の構造:夏目漱石と現代日本文学の誕生)</p> <p>③ Search for the lost beauty of the past: Nagai Kaf? and the age of militarism (失われた美の探求:軍国主義の時代における永井荷風)</p> <p>④ The Axis of Evil: West and East in "The Daughter of the Samurai" (悪の枢軸:『新しき土』における西洋と東洋)</p> <p>⑤ Post-war decadence: Sakaguchi Ango and the Japanese culture discourse (戦後の墮落:坂口安吾と日本人論)</p> <p>⑥ Generation gaps in films by ?zu Yasujir?' s.(小津の映画:経済成長の裏における庶民の生活)</p> <p>⑦ PowerPoint Presentation(パワーポイントプレゼン)</p>			
【履修条件】	None 特にない			
【評価方法】	Final Exam 100% 期末試験 100%			
【テキスト】				
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)			
【備考】	Contact・相談:pfeifer39@u-shizuoka-ken.ac.jp			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】
				交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.



【科目名】	現代日本文化入門 B	Introduction to Japanese Culture B		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	ファイファー マティアス			
【担当教員】	Matthias PFEIFER			
【授業目標】	映画、文学、漫画を通して近現代日本社会を理解する To understand the characteristics and images of the Japanese society through works of art.			
【授業概要】	この授業は外国人留学生も日本人の学部生も履修できる。 The course is designed for: 1.For short term foreign students, foreign exchange students, foreign research students of all faculties. 2.All other university students (foreign students, Japanese students) who want to talk about Japanese culture in English. In order to promote Japanese culture even among people with insufficient knowledge of the Japanese language, English, the lingua franca of our times, is an effective tool to do so. Therefore, it is important that Japanese people can explain their own culture in English, and this lecture is designed to serve this purpose.			
【授業方法】	この講義は英語と日本語で行うので英語に自信のない人でも歓迎する。 This lecture is given in English with the support of English/Japanese PowerPoint slides. There also will be opportunities for the participants to engage in discussions about Japanese culture. Furthermore, a presentation at the end of the course is another chance to talk about topics of ones choice.			
【授業展開】	1. War and guilt: the comic-author Mizuki Shigeru between war-experience and utopia.(戦争責任:水木しげるの戦記漫画) 2. Revolution now!: Terrorism and students movement seen by the movie director Wakamatsu K?ji. (社会革命の夢:若松孝二のサブカルチャ映画) 3. Images of modern family: Kazoku game (1983)(現代家族の風刺化:『家族ゲーム』) 4. Women in modern society: Autobiographical comics from Uchida Shungicu. (女性差別:漫画家内田春菊の戦い) 5. The rise of cultural nationalism: The Comic-essayist Kobayashi Yoshinori (現代社会の右傾化:小林よしのりと『戦争論』) 6. A symbol of pride or shame?: The controversial Yasukuni Shrine (恥の象徴なのか、それとも誇るべき象徴なのか:靖国神社の論争) 7. Japan seen from the outside: "Lost in Translation" and "The Last Samurai" (外からみた日本:『ロスト・イン・トランスレーション』と『ラストサムライ』) 8. Movie (映画上映)			
【履修条件】	None 特にない			
【評価方法】	Final Exam・期末試験 100%			
【テキスト】				
【参考書】	The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University press 2009)			
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	交換留学が履修できる授業です。 Exchange students are welcomed.	【交換留学生】

【科目名】	経営分析入門 A	Introduction to business analysis A			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠二郎 (TAKESHITA Sejiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	<p>This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions .</p> <p>The course consists of four integrated parts:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Business analysis</li> <li>•Financial statement In</li> </ul>				
【授業概要】	<p>This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.</p>				
【授業方法】	<p>Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.</p>				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Introduction to course:What is business and financial statement analysis? (Pro. Ueno)</li> <li>2.Basic concept of business analysis(Pro. Ueno)</li> <li>3. Efficiently and profitability analysis (Pro. Ueno)</li> <li>4. Basic concept of management and governance(Pro. Takeshita)</li> <li>5. Management and Governance:Comparison among Japan, Europe and US (Pro. Takeshita)</li> <li>6. Strategy(Pro. Takeshita)</li> <li>7. Fundamentals concepts of tourism and tea tourism (Pro. Khaokhrueamuang)</li> <li>8. Review (Pro. Ueno)</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	<p>Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Class participation 10%</li> <li>•Assignments 20%</li> <li>•Final case analy</li> </ul>				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】					
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	経営分析入門 B	Introduction to business analysis B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	UENO Takefumi(上野 雄史)				
【担当教員】	UENO Takefumi(上野 雄史), 竹下 誠二郎 (TAKESHITA Seijiro), カウクルアムアン アムナー (KHAOKHRUEAMUANG Amnaj)				
【授業目標】	<p>This course introduces the fundamental concepts of business and financial analysis and equips students with the ability to make meaningful financial decisions .</p> <p>The course consists of four integrated parts:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Business analysis</li> <li>•Financial statement</li> </ul>				
【授業概要】	<p>This course is designed to prepare students to interpret and analyze business structure effectively. It is designed primarily for students who are interested in how companies operate.</p>				
【授業方法】	<p>Readings, case studies and other materials are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and problems. Attending every class is important and required.</p>				
【授業展開】	<p>Introduction to Business Analysis B</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Segment analysis(Pro. Ueno)</li> <li>2. Stock price Analysis(Pro. Ueno)</li> <li>3. Case study1 (Pro. Ueno)</li> <li>4. Sustainable Tourism (Pro.Khaokhruemuang)</li> <li>5. Case study 2 (Pro.Khaokhruemuang)</li> <li>6. Governance and Internationalization (Pro. Takeshita)</li> <li>7. Case study3(Pro. Takeshita)</li> <li>8. Review (Pro. Ueno)</li> </ol>				
【履修条件】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【評価方法】	<p>Student performance will consist of class participation, assignments, a final case analysis project and presentation, and a final exam. These will be evaluated with the following weights:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Class participation 10%</li> <li>•Assignments 20%</li> <li>•Final case analy</li> </ul>				
【テキスト】	Selected readings and articles distributed in class and/or posted online				
【参考書】					
【備考】	In order to take this course, students must have taken course of Introduction to business analysis A.				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I A	Introduction to Japanese Linguistics I A			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course provides an introduction to the field of Japanese linguistics for students. It focuses on the areas of phonetics, phonology, and morphology. Through systematic analysis of empirical data from Japanese, students will gain a foundational understanding of language structure.				
【授業概要】	The course is organized into two main sections. Initially, students will engage in readings to understand the theoretical and empirical issues related to Japanese phonetics, phonology, and morphology. Subsequently, they will be encouraged to discuss these				
【授業方法】	Students are required to submit a written summary of each reading.				
【授業展開】	1. Introduction 2. Phonetics: Consonants 3. Phonetics: Vowels 4. Phonetics: Suprasegmental features 5. Phonological rules 6. Mora vs. Syllable 7. Prosody (Take-home exam)				
【履修条件】	The course will be conducted in English. For each class session, students must read a journal article in English. It is crucial to attend the first class, where further details will be provided.				
【評価方法】	Class participation (50%), Assignments & Presentation (30%)、Take-Home Exam (20%)				
【テキスト】	Readings are provided in class.				
【参考書】	Tsujimura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】	welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学 I B	Introduction to Japanese Linguistics I B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	*Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	This course provides an introduction to the field of Japanese linguistics for students. It focuses on the areas of phonetics, phonology, and morphology. Through systematic analysis of empirical data from Japanese, students will gain a foundational understanding of language structure.				
【授業概要】	The course is organized into two main sections. Initially, students will engage in readings to understand the theoretical and empirical issues related to Japanese phonetics, phonology, and morphology. Subsequently, they will be encouraged to discuss these				
【授業方法】	Students are required to read an assigned material for each class.				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Morphology – Parts of speech</li> <li>2. Morphology – Word formation</li> <li>3. Issues in Japanese morphology 1: Transitive and intransitive verb pairs</li> <li>4. Issues in Japanese morphology 2: Nominalization</li> <li>5. Issues in Japanese morphology 3: Compounding</li> <li>6. Acquisition issues in morphology</li> <li>7. Acquisition issues in morpho-phonology</li> <li>8. Review</li> </ol> (Take-home exam)				
【履修条件】	The course will be conducted in English. For each class session, students must read a journal article in English. It is crucial to attend the first class, where further details will be provided.				
【評価方法】	Class participation (50%), assignments & short presentations (30%), Take-home exam (20%)				
【テキスト】	A reading list will be provided in class.				
【参考書】	Tsujimura, N., (2014). An Introduction to Japanese Linguistics 3rd Edition. Blackwell.				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】	welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡA	Introduction to Japanese Linguistics ⅡA			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces students to the field of Japanese linguistics. We will focus on the areas of syntax and semantics. Students are encouraged to acquire basic knowledge of Japanese linguistics and understand how to do linguistic research. This course is helpful for students who want to become a teacher of English or Japanese as a foreign/second language.				
【授業概要】	The course schedule is divided into the following two sections: Syntax and Semantics. We will focus on several main issues in Japanese syntax and semantics by investigating some important phenomena from Japanese-English comparative perspectives.				
【授業方法】	集中講義(オンライン・オンデマンド: 12月23日(月)1限目~2限目, 5限目、対面授業: 12月24日(火)1~5限目 (12月23日(月)はオンライン・オンデマンドでの授業となります。) (12月24日は教室での対面授業となります。)				
【授業展開】	1. Syntax (3 weeks) Word Order Japanese Case-Marking System GA-NO Conversion 2. Syntax-Semantics (3 weeks) Argument Structure Scrambling Relative Clauses 3. Review and Summary				
【履修条件】	Students are required to attend every class and participate in class activities.				
【評価方法】	Quiz & Summary report (50%) and Final Exam (50%)				
【テキスト】	Reading materials will be provided in class.				
【参考書】	Introduction to Japanese Linguistics Third Edition (Tsujimura, Blackwell)  Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2018)				
【備考】	毎時間、講義の内容に質疑応答を行い、要点についてまとめます(英語・日本語)。 まとめ試験 1回(Take-Home)(日本語・英語)				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	英語で学ぶ日本語学ⅡB	Introduction to Japanese Linguistics ⅡB			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	Noriko Yoshimura, Ph.D.				
【授業目標】	This course introduces students to the field of Japanese linguistics. We will focus on the areas of discourse-pragmatics, language change, and language variation. Students will learn how to conduct a Japanese-English comparative linguistic analysis and design an experiment on language change, and L2 Japanese acquisition.				
【授業概要】	集中講義(12月26日(木)~12月27日(金)対面授業)				
【授業方法】	Students are required to attend the 1st class online to understand what they are expected to achieve in this course. (毎時間、講義の内容について質疑応答を実施し、要点についてまとめ、内容の理解を確認する。)(英語・日本語) (積極的な参加が期待される。)				
【授業展開】	1. Syntax-Semantics Interface (2 weeks) Passives-2 types Passives in Infinitives 2. Pragmatics (2 weeks) GA vs. WA Pronouns in Discourse 3. Language Change and Dialectal Variations (2 weeks) Historical Changes Synchronic Changes 4. Review and Summar				
【履修条件】	Students are required to submit a summary report in English or Japanese and pass a take-home exam.				
【評価方法】	Quiz & summary report (50%) and a take-home exam (50%)				
【テキスト】	Materials will be provided in class.				
【参考書】	An Introduction to Japanese Linguistics (Tsujiura, N. Blackwell, 2014).  Handbook of Japanese Syntax (De Gruyter Mouton, 2017 年)				
【備考】	授業は原則として対面授業となります。				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	財務会計入門 A	Introduction to Financial Accounting A			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【担当教員】	Takefumi UENO(上野 雄史)				
【授業目標】	This course sets three objectives for students. The first objective is to understand the basic concept of financial accounting. The second is to get used to reading an annual report for a company. The third is to have the ability to analyze basic contents				
【授業概要】	In this course, students learn the basic skills of financial accounting and analyze financial conditions and performance. Accounting is a business language. The first, students learn the bookkeeping and accrual accounting systems in financial accounting. These concepts are key to understanding financial accounting. Second, they learn how to read and analyze financial information for companies. After completing this course, students will be able to read the financial information in English without difficulty.				
【授業方法】	Discussion and case studies based on homework.				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to financial accounting.</li> <li>2. Basic concepts of bookkeeping system.</li> <li>3. Basic concepts of accrual accounting</li> <li>4. Basic concepts of financial Information.</li> <li>5. Let's read annual report!</li> <li>6. What is the point of analyzing financial information?</li> <li>7. Case studies(1)</li> <li>8. Case studies(2)</li> </ol>				
【履修条件】	In this course , students must speak English in every classes and write homework in English.				
【評価方法】	Homework for each class (20%) , contribution to classes(20%), middle and final reports(60%) Students are required to attend at least 80%.				
【テキスト】	I prepare materials before starting classes.				
【参考書】					
【備考】	Students must speak English in every classes and write homework in English.				
【社会人聴講生】	Auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【科目等履修生】	Credited auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【交換留学生】	



【科目名】	財務会計入門 B	Introduction to Financial Accounting B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	Takefumi UENO (上野 雄史)				
【担当教員】	Takefumi UENO (上野 雄史)				
【授業目標】	This course sets three objectives for students. The first objective is to analyze the corporate strategy in the annual report. The second is to get used to technique of the business analysis (EBITDA, ROA, ROE and etc.). The third is to have the ability to				
【授業概要】	In this course, students learn theory of corporate strategy and business analysis in the annual report. Students can read corporate strategy and characteristics from the annual report. In the first, they understand what are key points of annual report. In the next, they learn to how to technique of the business analysis. Finally, students get used to use two techniques through case studies. After completing this course, students will be able to read and analyze annual report without difficulty in English.				
【授業方法】	Discussion and case studies based on homework				
【授業展開】	1.Introduction to financial accounting 2.Basic theory corporate strategy(1) 3.Basic theory corporate strategy(2) 4.Basic technique of business analysis 5.Let's read annual report! 6.What are the key points of annual report? 7.Case studies(1) 8. Case studies(2)				
【履修条件】	Students must speak English in every classes and write homework in English. In order to take this course, students must have taken course of Introduction to financial accounting A.				
【評価方法】	Homework for each class (20%) , contribution to classes(20%), middle and final reports(60%) Students are required to attend at least 80%.				
【テキスト】	I prepare materials before starting classes.				
【参考書】					
【備考】	Students must speak English in every classes and write homework in English.				
【社会人聴講生】	Auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【科目等履修生】	Credited auditors must speak English in every classes and write homework in English.	【交換留学生】	履修可

【科目名】	言語の学習・習得 I A	Introduction to Language Learning and Acquisition I A			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces undergraduate students to the field of foreign/second language learning and acquisition. To help students understand some main issues in second language acquisition (SLA), we will discuss theoretical principles and empirical findings available in the SLA literature. This course aims to offer students a good chance to reflect on their experience in learning English or Japanese from the viewpoint of L1 transfer.				
【授業概要】	<p>We will focus on several main topics exploring the following questions:</p> <p>(1) How second language (L2) is different from first language (L1) ---What is Grammar?</p> <p>(2) what role L1 plays in second language acquisition (SLA) ---Critical Period Hypothesis versus Generative Grammar's Proposal</p> <p>(3) what factors are responsible for Japanese-speaking learners' difficulties in acquiring L2 English</p> <p>(4) what is the nature of L1 transfer.</p> <p>Topics to be discussed: WH-questions, pied-piping versus preposition stranding, reflexive binding, and bound variable binding.</p> <p>Students will be encouraged to apply their knowledge to the practical aspects of the teaching of English or Japanese as a foreign language.</p>				
【授業方法】	<p>集中講義(9月19日(木)~9月20日(金))</p> <p>The schedule is as follows: 1st Lecture ~8th Lectures ---in-face(対面授業)</p> <p>毎時間、講義内容について質疑応答・議論の時間を設けたい(日本語・英語)。</p>				
【授業展開】	<p>1. Introduction</p> <p>2. Modularity of Grammar, interface theory, critical period hypothesis (Chap. 1)</p> <p>3. How L2 acquisition is different from L1 acquisition (Chap. 1)</p> <p>3. Morphological inflections: 3rd person singular -s vs. plural -s vs. past -ed (Chap. 2)</p> <p>4. Wh-movement: Easy or difficult to understand? (Chap.3)</p> <p>5. Pied-piping and Preposition Stranding: Which is more difficult for Japanese learners of English? (Chap.3)</p> <p>6. Reflexives: Himself vs. Zibun (Chap. 4)</p> <p>7. Bound Variable Interpretations: Who is "he"? (Chap. 4)</p> <p>8. Review and Final Exam</p>				
【履修条件】	This course will be conducted in English.				
【評価方法】	Quizzes and presentations (50%) and final exam (50%)				
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ(吉村紀子・中山峰治著、くろしお出版、2018年)				
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2017年)				
【備考】	<p>授業はパワーポイント資料を用いて実施する。</p> <p>(授業の前に教科書の該当章を予習しておくことが重要である。)</p> <p>資料内容やデータを注意深く考察し、論理的に、簡潔にまとめることを学習する。</p>				
【社会人聴講生】	Welcome.	【科目等履修生】	Welcome.	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 I B	Introduction to Language Learning and Acquisition I B			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	吉村紀子				
【担当教員】	吉村紀子				
【授業目標】	This course introduces graduate students to several main issues in the field of second (or foreign) language acquisition (SLA). We will discuss theoretical issues and empirical findings available in recent SLA studies. This course aims to offer students a good chance to reflect on their experience in learning English or Japanese from L1 transfer perspectives.				
【授業概要】	<p>We will focus on several topics exploring the following questions:</p> <p>(1) How L2 is different from L1</p> <p>(2) What role L1 plays in second language acquisition (SLA)</p> <p>(3) what factors are responsible for L1 transfer.</p> <p>Students will be encouraged to apply their knowledge to the practical aspects of foreign language teaching and learning.</p>				
【授業方法】	<p>集中講義 (対面授業: 9月26日(木) ~ 9月27日(金))</p> <p>Lectures will be provided in English.</p> <p>(毎時間、講義内容についての質疑応答・ディスカッションの時間を設けます。)(日本語・英語)</p>				
【授業展開】	<p>We will focus on the following issues in the field of second language acquisition (SLA):</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction—Modularity of Grammar, Historical Background of SLA</li> <li>2. Control and Tough Constructions—PRO subject (Chap. 6)</li> <li>3. NP—Movement and Raising Constructions (Chap. 6)</li> <li>4. Seem Constructions</li> <li>5. Passives</li> <li>6. Relative Clauses 1 (Structures &amp; Issues)</li> <li>7. Relative Clauses 2 (Subject vs. Object Relative Clauses)</li> <li>8. Pronouns in Narratives</li> </ol>				
【履修条件】	This course will be conducted in English. The assigned textbook will be helpful. (授業の前に教科書の該当章を予習してください。)				
【評価方法】	Quizzes & Presentations (50%) and Final Exam (50%)				
【テキスト】	「第二言語習得研究への誘い—理論から実証へ」(吉村・中山著、くろしお出版、2018年)				
【参考書】	Handbook of Japanese Psycholinguistics (De Gruyter Mouton, 2015年)				
【備考】	<p>講義はパワーポイント資料を用いて実施する。</p> <p>講義内容をまとめた発表を随時お願いする(日本語可)。</p> <p>将来、英語あるいは日本語の教師になりたい学生にとって興味深い内容で有益な学習となる。</p>				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II A	Introduction to Language Learning andAcquisition II A		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 2 限	
【科目責任者】	Atsushi Fujimori			
【担当教員】	*Atsushi Fujimori			
【授業目標】	1. Students can explain basic concepts of second language acquisition to others. 2. Students can critically read English journal articles of experimental studies on second language acquisition.			
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods through which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.			
【授業方法】	Each class consists of a lecture on the following topics.			
【授業展開】	1. Introduction: A general view of L2 acquisition (1 week)  2. Aspect (3 weeks) <ul style="list-style-type: none"> <li>▪Form-before-Meaning Hypothesis</li> <li>▪Telicity</li> <li>▪Feature Assembly Hypothesis</li> </ul> 3. Prosody (3 weeks) <ul style="list-style-type: none"> <li>▪Focus marking</li> <li>▪Prosodic Boundaries</li> <li>▪Prepositions and Articles</li> </ul> Topic-based presentation			
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the acquisition process. The course is conducted in English.			
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)			
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ			
【参考書】				
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.			
【社会人聴講生】	welcome	【科目等履修生】	welcome	【交換留学生】 welcome

【科目名】	言語の学習・習得 II B	Introduction to Language Learning and Acquisition II B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 2 限		
【科目責任者】	Atsushi Fujimori				
【担当教員】	*Atsushi Fujimori				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> <li>Students can explain basic concepts of second language acquisition to others.</li> <li>Students can critically read English journal articles of experimental studies on second language acquisition.</li> </ol>				
【授業概要】	This course is designed to introduce the study of second language acquisition. We will explore both the timing and methods through which learners of a second or foreign language acquire the linguistic components of the target grammar.				
【授業方法】	Each class consists of a lecture on the following topics.				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>Pronouns in the discourse (3 weeks) <ul style="list-style-type: none"> <li>Overt and covert pronouns</li> <li>Pronouns in L1</li> <li>Pronouns in L2</li> </ul> </li> <li>Answering strategies (2 weeks) <ul style="list-style-type: none"> <li>Types and characteristics</li> <li>L1 English</li> <li>L2 English</li> </ul> </li> <li>Prepositions (2 weeks) <ul style="list-style-type: none"> <li>Lexical and syntactic properties of prepositions</li> <li>Prepositions in L2</li> </ul> </li> <li>Review &amp; short presentation (1 week) (Takehome exam)</li> </ol>				
【履修条件】	This course is ideal for students interested in language learning and the acquisition process. The course is conducted in English.				
【評価方法】	Class participation (50%), quizzes and short presentations (30%), take-home exam (20%)				
【テキスト】	第二言語習得研究への誘いー理論から実証へ				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【社会人聴講生】	Welcome	【科目等履修生】	Welcome	【交換留学生】	Welcome

【科目名】	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	Health and Longevity Support in Shizuoka: Experts and Efforts in the Prefecture			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限		
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、富安真理、*新井英一、黒川洵子、*東野定律、井上和幸、*伊藤純子、坂本多穂、刀坂泰史、*前野真由美、*木村綾、砂川陽一、浜辺俊秀、三崎健太郎、ヘムストックウエンディリアン、*永谷実穂、川上由香、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	現在日本では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。静岡県は、全国トップクラスの健康長寿県と言われており、そのような地域での実際の行政や様々な専門職の役割や活動について学び、さらには地域で人々が連携していくための考え方を学ぶ。				
【授業概要】	静岡県内の健康長寿を推進する地域包括ケアの概念を学び、それに基づき運営される各種の組織とその活動を理解するとともに、それを担う専門職とその役割、そして各職種の一環としての取り組みを紹介し、自らの健康づくりと、さらには地域の健康づくりになにか貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義や課題学習など学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	1 ガイダンス 2 地域包括ケアシステムと静岡県内の健康づくりの概要 3 健康長寿を支える専門職 1・・・医師 4 健康長寿を支える専門職 2・・・看護師 5 健康長寿を支える専門職 3・・・薬剤師 6 健康長寿を支える専門職 4・・・保健師・助産師 7 健康長寿を支える専門職 5・・・理学療法士 8 健康長寿を支える専門職 6・・・社会福祉士 9 健康長寿を支える専門職 7・・・歯科衛生士 10 健康長寿を支える専門職 8・・・行政の役割 11 健康長寿を支える専門職 9・・・作業療法士 12 健康長寿を支える専門職 10・・・外国人への支援 13 健康長寿を支える専門職 11・・・ボランティアの役割 14 健康長寿を支える専門職 12・・・管理栄養士 15 健康長寿を支える専門職 13・・・介護支援専門員				
【履修条件】					
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度(56%)および筆記試験・レポートなど(44%)により評価します。よって総合的に評価する。 全講義回数数の3分の2以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	必要に応じて資料を配布する。参考書は授業の中で紹介する。				
【参考書】					
【備考】	特別講師の都合で順番を変更することがあります。 実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義する。 基本的には対面講義形式をとるか?、場合によってはオンライン講義形式等もある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	静岡の防災と医療	Disaster Prevention and Medical Care in Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、谷澤康玄、砂川陽一、*賀川義之、黒川洵子、坂本多穂、刀坂泰史、*浜辺俊秀、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	東日本大震災や熊本地震では、津波の影響や土砂崩れ等で人々は甚大な被害を受けた。静岡県においても南海トラフ地震等が予想されており、対策が急務である。 医療体制、及び避難場所の準備、食料支援の確保、PTSD のケア、ボランティアの組織、防災派遣医療チームの連携などのすべてを包括的に学修することで、専門職として、地域に住む個人として、学生として、自ら行動できるよう、知識及び防災活動に関する理解を深める。				
【授業概要】	静岡県内の防災と医療を推進する組織とその活動を理解するとともに、それを支える専門職とその役割、さらには取り組みを紹介し、自らの防災を考え、さらには地域の防災と医療になにが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義に加えて、実演を交えるなど、学生が参加できる方法を併用して行います。 講義室での対面講義を基本としますが、講師陣の勤務先の指針に応じて、双方向を担保したオンラインで講義を行う場合があります。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 静岡の自然と人・・・静岡県立大学 元学長</li> <li>2 地震予知とリスクとしての考え方・・・静岡県立大学 グローバル地域センター 特任准教授</li> <li>3 巨大地震と防災力アップ・・・静岡県地震防災アドバイザー</li> <li>4 災害に備える栄養と食事・・・静岡県立大学 食品栄養科学部 教授</li> <li>5 トリアージ・・・静岡県立総合病院 看護師</li> <li>6 災害時の病院等のロジスティクス・・・静岡県立こども病院 DMAT 隊員(業務調整員)</li> <li>7 災害時の ICT 活用・・・静岡県立大学 経営情報学部 教授</li> <li>8 災害医療の基本原則と多様性・・・浜松医科大学 教授(統括 DMAT)</li> <li>9 静岡県の災害医療体制・・・静岡県職員</li> <li>10 市民活動、応急処置・・・静岡県立大学医務室 看護師</li> <li>11 広域搬送・・・コミュニティホスピタル甲賀病院 看護師(DMAT 隊員)</li> <li>12 地域防災力・・・NPO 法人 Knot 理事長</li> <li>13 害時のこころのケア・・・静岡大学 教育学部 教授</li> <li>14 災害医療総論・・・浜松医科大学 教授(統括 DMAT)</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>講師陣の都合により、順番が変更する場合があります。</p>				
【履修条件】					
【評価方法】	講義毎のミニレポート及び授業への参加度(56%)、筆記試験・レポート(44%)により、総合的に評価します。 出席・ミニレポート提出はユニバーサルパスポートを介して行います。 定期試験受験資格は出席が全授業回数の 2/3 以上とします。 遅刻2回で1回欠席扱いとします。				
【テキスト】	講師陣に応じて、講義資料の電子ファイルを配布します。				
【参考書】					
【備考】	実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義します。 特別講師の都合で順番を変更することがあります。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	静岡地域食材学 A	Local Food Materials A		
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	三好規之			
【担当教員】	三好規之、谷晃、*静岡県庁経済産業部の職員ほか			
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。			
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。A では、おもに静岡県の農業、畜産業および水産業について、それぞれに特色ある食材を取り上げる。			
【授業方法】	本学教員と静岡県職員によるオムニバス形式の講義で、配付プリントとスライドを使って行う。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回ガイダンス(講義の進め方と成績評価法の説明)</li> <li>2. 静岡県の食に関する生態系</li> <li>3. 静岡県の食料生産</li> <li>4. 静岡県の農作物</li> <li>5. 静岡県の畜産物</li> <li>6. 静岡県の水産物</li> <li>7. 静岡県の食文化</li> </ol> <p>※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合もあり。</p>			
【履修条件】				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。			
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。			
【備考】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】



【科目名】	静岡地域食材学 B	Local Food Materials B			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	江口智美				
【担当教員】	市川陽子、江口智美、下山田真、増田修一、*静岡県工業技術研究所の研究員(特別講師)ほか				
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。				
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。B では、おもに静岡県の優れた食品加工技術や機能性食品、未利用資源の活用などについて取り上げる。				
【授業方法】	対面授業。 本学教員と県内の研究所・企業・大学の講師によるオムニバス形式で、配付資料やスライドを使ってレクチャー形式の講義を行う。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、静岡県の米加工品</li> <li>2. 静岡県の発酵食品(大豆を中心に)</li> <li>3. 静岡県の水産加工品(かつお節、はんぺん)</li> <li>4. 静岡県の食品加工技術(缶づめほか)</li> <li>5. 静岡県の機能性食品(わさびほか)</li> <li>6. 静岡県の未利用資源①(鹿肉)</li> <li>7. 静岡県の未利用資源②(魚類)</li> </ol> <p>※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合がある。</p>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。 出席は、原則として、授業回数の 3 分の 2 以上(5 回以上)を必要とする。 レポートは、講義内容に関する 200~300 字程度のミニレポートを毎回課す。				
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【備考】	*特別講師の静岡県工業技術研究所の研究員、県内食品製造業の開発担当経験者、県内大学教員が、静岡県の特色ある加工食品の特徴や製造技術、流通や販売等について解説する。 初回授業日は、後期の 8 回目(2024 年 11 月 21 日)。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	茶学入門	Introduction to Tea Science			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	*中村 順行				
【担当教員】	*中村 順行 他				
【授業目標】	静岡に立地する本学学生の教養として、茶に関する広範な知識を学ぶ				
【授業概要】	静岡県は全国有数の茶葉、飲料、加工食品の生産県であり、本学を含めた複数の大学や国公立の試験研究機関、民間企業において茶関連の食品、医薬品、化成品の研究が活発に行われている。したがって本学の学部生や大学院生はそれらを就職先として考えることも多い。また、静岡県においても「茶の都」づくりの推進や本学内にも茶学総合研究センターの設置など、茶を Keyword とした取組も多い。このような背景のもと、学生には、学部を問わず茶に関する広範な知識と教養を身につけることが望ましい。そこで、当科目は茶についての歴史、文化、経済、生産、加工、味、香り、生理機能、茶の多用途利用・商品化など広範な項目をそれぞれの専門家に解説して頂き、知識を深める				
【授業方法】	プリントやプロジェクターを使った対面式講義				
【授業展開】	1. ガイダンス: 講義の進め方、成績評価方法、茶学に関する概説等 2.3. 茶の歴史、文化: 茶の起源、飲用方法、茶にまつわる因習等の文化的、歴史的な面についての概説 4.5. 茶の種類、生産、加工、飲用方法: 多種多様な茶種が栽培、加工されており、それに関する最先端技術の紹介、各茶種の特性を活かした、茶の淹れ方、飲用方法について科学的な概説 6.7.8.9. 茶の機能: 茶を特徴づける成分について、その特徴、機能、効能等を化学的、生理的に概説 10.11.12. 茶に関わる商品開発、マーケティング: 茶の特性、機能性、生理活性を活かした商品開発への展開、消費者へ届くマーケティング戦略、茶畑の景観を生かしたグリーンティーリズム等 13.14.15. 茶の静岡県、日本、世界へ向けた施策及び、次世代への展望: 静岡県の茶の都づくり、世界へ向けた日本茶の輸出についての取り組み、茶の特性を活かした、次世代への展開について概説、総括				
【履修条件】					
【評価方法】	原則的に、授業への取り組み姿勢及びレポート・小テストなどにより評価する				
【テキスト】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【備考】	講師陣として、茶関連研究の第一人者をゲストスピーカーとして招きつつ、幅広く茶学の初歩部分全般を講義する				
【社会人聴講生】	社会人聴講生は 30 名まで	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	Museum-Museum and Culture A	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	火曜2限
【科目責任者】	立田洋司		
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師（例：ふじのくに地球環境史ミュージアムから）の招聘も考えてはいるが未定。		
【授業目標】	<p>◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、いわゆる地域学や郷土史学などとは全く異なる。『Museumと文化』は、言い換えれば「人類史における文化的足跡」である。</p> <p>◇またこの科目は、諸君が今後、Nippon（日本）と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と国際教養の涵養を目指すものでもある。</p> <p>◇諸君の学びの場の基盤となる静岡県立大学は、優れた文化施設（県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術センター、ふじのくに地球環境史ミュージアムなど）と近接している。本講義は、この恵まれた文化環境を生かすことを視野に入れ、諸君に幅広い教養と生きた知識を身につけてもらうことを主旨としている。</p> <p>◇「世界の5大（10大）Museum」や「日本の3大博物館」、また「非常に特色あるMuseum」などを紹介し、文化的国際教養をはじめ、今後の諸君の教養構築を補佐する。</p> <p>◇とくにヨーロッパの文化や欧米のMUSEUMに興味ある学生や、外国留学を考えている学生、またこれから国際舞台での活動をを目指す学生には、この講義において「Universal education(国際教養)」の本質を考えてもらうことを期待する。世界と日本とを合せて考察（比較文化的に）するので外国人留学生も大歓迎。</p>		
【授業概要】	<p>◇本講義では、世界のMuseumを人類史的な視点から比較文化論的手法を交えて捉える。</p> <p>◇前半Aではとりあえず、人類の文化財の収蔵庫である美術館、博物館、さらには文化財の宝庫としての寺院・聖堂などから、最重要と思われる幾つかを取り上げて解説。</p> <p>◇基本的に受験勉強のような細かな文字面上の暗記的知識は不問で、また覚えることを求める講義ではない。文化の「質」や歴史の差異などに対する感覚的な把握が主眼となる。</p> <p>◇講義内容のベースは、立田の現地調査(field-work)と実体験に基づく研究による。</p> <p>※ちなみにフィールドワークの目指すところのひとつは、その地その時の人間の思索と行動を「場」として捉えること。卑近な言い方をすれば、「私という研究者と当時の彼らとを同時代的に捉え、彼らの喜怒哀楽、世界観・人生観などを、同じ人間としてシンクレタイズさせて感じる」ことである。</p> <p>◇諸君には、想像を逞くして五感を拓いてもらい、作品（文物）がつくられた当時の人心や芸術家の精神などを感じ取ってもらいたい。具体的な作品や文物はここでは逐一挙げられないが、この授業の要点の一つは「文物・作品が語るもの」を自ら感じ取ることである。</p> <p>◇そのためプレゼンテーションには画像を多く取り入れ、視覚を中心に五感を鼓舞することに注力する。場合によっては、音楽的な内容に触れることもある。</p>		
【授業方法】	<p>◇基本的に、独自のプレゼンテーションによる講義。</p> <p>◇ネットなどで調べれば済むようなことは、原則的に講義しない。内容については、高度な大学レベルを保証する。</p> <p>※話すことが多く講義量がかなり多くなるので、時間が足りない場合はユニバの「授業資料」に掲載することもありうる。</p> <p>◇受講生にはユニバの「授業Q&amp;A回答」欄を活用してもらいたい。そのうえで、諸君からの感想や質問を講義にフィードバックすることを考えている。</p> <p>◇状況が許せば、Museumの特別展などを、Museumの学芸員などの解説つきで実施。</p> <p>※課題などに関しても、単なる辞書的知識の羅列は無用で、書物やネットで調べたことも、そのまま書き写すようなことをしても自身のためにはならない。一旦自分の頭脳と心で受け止めることが肝要である。ただし、思い込みや外れの認識については今後の訓練により漸次修正していく必要がある。あくまで現在進行形の自分自身の五感の解放と、それによる洞察力や想像力の発揚を期待する。</p>		
【授業展開】	<p>前半Aは、以下の講義を予定。</p> <p>①&amp;② 世界の5大（10大）Museumや他の世界的に超有名なMuseum（各Museumの看板である所蔵品にも出来るだけ触れたい。）</p> <p>③ 日本の3大博物館と日本を象徴する文化財（世界に類例の無い彫像や絵画など）</p> <p>④ 国際教養の一つ：大英博物館(British Museum)と、いわゆる『エルギン・マーブルズ』</p> <p>⑤ 世界の知識人が選ぶ日本の特色あるMuseumとは？</p> <p>⑥ Museumとしての大聖堂や大寺院（たとえば、「フランスの至宝」とされる『三大ゴシック聖堂』とは？）</p> <p>⑦ その他、知っておくと役に立つ知識</p> <p>※時間的余裕や状況に拠るが、美術館見学なども考えている。</p>		
【履修条件】	なし		
【評価方法】	<p>課題（試験またはレポート）での評価。当然ながら出席状況も勘案される。</p> <p>※課題は、入試問題のような知識（調べれば分かるような事項）を問うものではなく、知識の正誤を問うものでもない。基本的には、この講義を受けて諸君が感じ考えたことを、自分自身の文で書き綴ってもらいたいと思っている。</p>		
【テキスト】	使用しない。必要に応じてプレゼンテーション用の資料をユニバを通して掲載する。		
【参考書】	使用しない。必要に応じて、講義内で紹介する。		
【備考】	<p>◇見学等を実施する場合、静岡県立美術館の特別展（平常展は無料）、ふじのくに地球環境史ミュージアムの入場料（学生料金）は自己負担となる。</p> <p>◇また、この科目の性格上（いわゆる座学だけの講義ではない）、土・日・祝日などへの振り替えや、自己見学（見学レポート提出）になる可能性も高いので、あらかじめ認識しておくこと。</p>		
【社会人聴講生】	原則聴講可だが、有事の場合は大学側の方針に従うことになる。	【科目等履修生】	原則可だが、有事の場合は大学側の方針に従うことになる。
			【交換留学生】

【科目名】	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B	Museum-Museum and Culture B	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	火曜2限
【科目責任者】	立田洋司		
【担当教員】	立田洋司		
【授業目標】	<p>◇この科目は「しずおか学」に分類されているが、地域学や郷土史学とは全く異なる。諸君が今後Nippon（日本）と「University of Shizuoka＝静岡県立大学」を背負って生きていくための自負と国際教養の涵養を目指すものである。</p> <p>◇そのため本授業は、静岡県立大学の立地する稀有な文化環境を生かすことを視野に入れ、生きた教養を身につけてもらうことを主旨としている。</p> <p>◇世界的に重要なMuseumをいくつか紹介し、そのMuseumを代表する収蔵品（文物）を知る（考察する）ことで、その地の歴史的背景や人類史的足跡に迫る。</p> <p>◇世界的に非常に有名な作品にも触れるが、その特質や歴史・文化的背景を諸君に考えてもらうことで、通り一遍のステレオタイプの認識からの脱却をめざす。</p> <p>◇この講義を通じて、受講生諸君が幅広い国際教養を身につけるとともに、深い思考力を身につけることを目指す。</p> <p>◇世界と日本とを俯瞰するために、外国人留学生も大歓迎。</p>		
【授業概要】	<p>◇基本的に、オリジナル・プレゼンテーションによる講義。画像をできるだけ多く取り入れ、視覚を中心に五感を鼓舞することに注力する。場合によっては、音楽的な内容に触れることもある。</p> <p>※講義量がかなり多くなることが予想されるので、時間が足りない場合はユニバの「授業資料」に掲載することもある。</p> <p>◇講義の基本は、立田の現地調査(field-work)とそれに基づく研究による。</p> <p>※自身のフィールドワークでは、その地その時代の人間の思索と行動を「場」として捉え、彼らの喜怒哀楽、世界観・人生観などを、同じ人間として同代的にシンクレタイズさせて感じる」ことが基本的姿勢であった。</p> <p>◇したがって、本講義では受講生に受験勉強のような細かい文字面上の知識は強要せず、文化の「質」や歴史の差異などを感覚的に把握してもらうことが主旨とする。</p> <p>※後半Bの講義では、日本に存在する世界に類例の無い名作についても、そのいくつか取り上げて解説する予定。</p>		
【授業方法】	<p>◇基本的に、独自のプレゼンテーションによる講義。</p> <p>◇ネットなどで調べれば済むようなことは、原則的に講義しない。内容については、高度な大学レベルを保証する。</p> <p>※話すことが多く講義量が多くなるので、時間が足りない場合はユニバの「授業資料」に掲載することもある。</p> <p>◇ユニバの『授業Q&amp;A回答』欄を活用してもらいたい。その上で、諸君からの感想や質問を講義にフィードバックしたいと考えている。</p> <p>◇状況が許せば、Museumの特別展などを、Museumの学芸員などの解説つきで実施。</p> <p>※試験やレポートについては、細かい文字面的知識やその正誤は一切問わない。あくまで諸君自身の五感の解放とそれによる洞察力や想像力の発揚を期待する。</p>		
【授業展開】	<p>Bでは、以下の講義を予定。</p> <p>①イタリア文化・文物を探究(見学)する場合、是非知っておきたいことⅠ（たとえば、「ルネッサンスの都」と呼ばれる都市を諸君は幾つ知っているか？）</p> <p>②イタリア文化・文物を探究(見学)する場合、是非知っておきたいことⅡ（たとえば、聖サンフランシスコとは？ またレオナルド・ダ・ヴィンチ以前の「万能の人」とは？）</p> <p>③今の時代によみがえる！世界で最も有名な「祈りの像」「守護神」とは？</p> <p>④ドイツのMuseumの看板『ベルガモンのゼウス大祭壇』は聖書では「悪魔の座」だった！</p> <p>⑤世界で唯一無二のMuseumとしての大塚国際美術館</p> <p>⑥日本にある世界最高レベルの文物（美術作品等）とは？</p> <p>⑦その他、知っておくと役に立つ知識</p> <p>※時間的余裕や状況に拠るが、美術館見学なども考えている。</p>		
【履修条件】	なし		
【評価方法】	<p>評価は課題（試験またはレポート）と授業への取り組み状況、出席状況による。</p> <p>※課題は、細かな知識は問わないし、その正誤を問うものではない。基本的には、この講義から諸君が感じ学んだことを、自分自身の文でエッセイを書くように記してもらえば、と考えている。</p>		
【テキスト】	とくにテキストは使わない。必要に応じてプレゼンテーション用の資料をユニバで配信する。		
【参考書】			
【備考】	◇もし静岡県立美術館等を見学した場合は、参加費（学生料金）は自己負担となる。 この科目の性格上（いわゆる「座学」ではない）、土・日・祝日などへの振り替えや自己見学（個別見学）も想定されるので、あらかじめ認識しておくこと。		
【社会人聴講生】	聴講可だが、状況によっては、大学の方針に従う場合がある。	【科目等履修生】	可だが、状況によっては、大学の方針に従う場合がある。
			【交換留学生】

【科目名】	ムセイオン静岡ー世界の文化遺産 A	Mouseion-Cultural Heritage in the world A			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限		
【科目責任者】	立田洋司				
【担当教員】	立田洋司				
【授業目標】	<p>◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追究し、ひいては諸君の世界観・人生観が広深化することに寄与することを期待している。</p> <p>◇さらに、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka=静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負や国際教養の涵養を目指すものでもある。</p> <p>諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-</p>				
【授業概要】	<p>◇単なる「ユネスコの世界文化遺産」の解説ではなく、文化や歴史の深奥に触れる。</p> <p>◇巷間の「世界遺産検定」などにも無論役立つが、もっと深い人間学的な問題、たとえば「人間は何故こういうものを創ってきたのか」「そのバックボーンは何だろうか」というようなことを思索する契機になれば、と考えている。</p> <p>◇基本的に辞書的教科書的な知識からは距離をおき、固有名詞や語彙を覚えることも強要しない。</p> <p>◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎なことはよく分からないようなことを重点的に講義。</p> <p>◇何よりも諸君には、五感を拓いて感性を鍛え、柔軟な思考能力を鍛えてもらいたい。</p> <p>◇大学で世界文化遺産を学ぶ意義、および国際教養としての世界文化遺産に対する知識を共に考えてもらいたい。</p>				
【授業方法】	<p>本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける；</p> <p>◇無理に文字面(もじづら)を覚えようとする必要が無い講義</p> <p>◇対象物(文化財)の意味やその捉え方を感覚的に把握できるよう、画像を多用したプレゼンテーション。</p> <p>◇立田が実際に現地調査などで見て研究してきたものを中心に、実体験を交えて講義する。</p> <p>◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史・芸術学・歴史・美術史などを含む総合的見地から講義する。</p> <p>◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。</p> <p>◇教科書的な知識は問わないし、正誤(○×)を問うような課題は出さない。</p>				
【授業展開】	<p>◇予定としては、一応以下のような内容を考えている。</p> <p>①オリエンテーション&amp;日本文化の世界的卓越性(文化遺産保護に関する秘話を含めて)</p> <p>②古代コスモポリタニズム時代の文化遺産(ユネスコの「世界文化遺産」候補など)</p> <p>③捨てられた古代の大都市パエストゥム(世界文化遺産)</p> <p>④シチリア島に残る古代ギリシア時代の遺産とユネスコの世界文化遺産</p> <p>⑤イタリアが最も大事にしている文化遺産とは？</p> <p>⑥「黒い聖母」とは？ 世界に広がるキリスト教文化の根幹に関わる話と文化遺産</p> <p>⑦西ヨーロッパで最も古いキリスト教文化遺産とビザンティン世界(時間が許せば、日本文化との比較も通して)</p> <p>※理解促進や内容改良のために変更もある。ただし、全体として講義する内容は、「世界の重要な文化遺産」であることに変わりはない。</p>				
【履修条件】	とくに無し。敢えて言えば、「国際教養」の構築や「固定概念からの脱却」に関心のある者に聴いてもらいたい。				
【評価方法】	<p>課題と授業への取り組み状況、出席状況による。</p> <p>※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書的知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。</p>				
【テキスト】	テキスト用の書物は使用しない。すべてオリジナルの講義資料による。				
【参考書】	必要に応じて、講義の中で紹介する。				
【備考】	場合により、また時間的に可能であれば、小講堂における視聴覚を交えた講義も考えている(未定)。				
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	ムセイオン静岡ー世界の文化遺産 B	Mouseion-Cultural Heritage in the world B	
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 2 限
【科目責任者】	立田洋司		
【担当教員】	立田洋司		
【授業目標】	<p>◇この科目は、便宜上「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学ではない。「世界の文化遺産」と銘打ってあるとおり、文字通り貴重な地球上の文化遺産から人類の文化的足跡を追究し、ひいては諸君の世界観や人生観の深化を目標としている。</p> <p>◇さらに、諸君が今後、Nippon(日本)と「University of Shizuoka=静岡県立大学」を背負って生きていく上での自負と国際教養の涵養を目指すものでもある。</p> <p>諸君に心がけてもらいたいのは、何よりもまず、暗記的学習「cram-memorization」</p>		
【授業概要】	<p>◇単に「ユネスコの世界文化遺産」を知るためではなく、文化の本質や歴史の深奥に触れる。</p> <p>◇「世界遺産検定」には無論役立つが、検定試験問題の正誤を超えた人類史的・人間学的な問題を考える。たとえば、「文化遺産の歴史的・地誌的背景」、「polyheism(仏教やその他の多神教)と monotheism(キリスト教など)における文化的資質の差異」、「なぜローマとギリシアでは文化の質がこれほど違うのか」というような問題についてである。</p> <p>◇基本的にステレオタイプの学習からは距離をおき、vivid な捉え方を示唆する。</p> <p>◇それに関連して、固有名詞や語彙を受験時代のように覚えることは強要しない。</p> <p>◇ネットでは調べられない、あるいは調べても肝腎な意味の把握には至らないようなことについて重点的に講義。</p> <p>◇何よりもこれからの諸君には、できるだけ五感を拓き同時に感性を鍛え、柔軟な思考能力を磨いてもらいたいと考えている。</p>		
【授業方法】	<p>☆本授業は、独自に作成したプレゼンテーションによる。基本的方針としては、受講生諸君が柔軟に対応・思索できるように、以下のことを心がける；</p> <p>◇無理に文字面(もじづら)を覚えようとする必要が無い講義</p> <p>◇対象物(文化財)の意味やその捉え方を感覚的に把握できるように、画像を多用したプレゼンテーション。</p> <p>◇立田が実際に現地調査などで見て研究してきたものを中心に、実体験を交えて語る。</p> <p>◇出来るだけ学際的な見地、すなわち文化史・芸術学・歴史・美術史などを含む総合的見地から講義する。</p> <p>◇受講生諸君の「五感の開放」や「直感」、「感性的反応」を重視する。</p> <p>◇教科書的な知識は問わないし、正誤(○×)を問うような課題は出さない。</p>		
【授業展開】	<p>①オリエンテーション&amp;立田洋司の実体験から「文化の質」に関する話</p> <p>②古代とキリスト教世界は、なぜ文化的資質がこれほど違うのか？(世界文化遺産から考える)</p> <p>③スペイン文化遺産の際立った多様性(スペインを知るための入り口)</p> <p>④&amp;⑤西ヨーロッパで最重要の文化遺産=サンティアゴ・デ・コンポステーラ(Santiago de Compostela)巡礼路とその関連文化(国際教養)</p> <p>⑥日本の 7~13 世紀(ヨーロッパではルネッサンス以前)の文化の世界的卓越性について(※同時期のヨーロッパの世界文化遺産との比較から考える)</p> <p>⑦時間があれば、カッパドキア(世界複合遺産)の話や、マルタやサルデーニャ、アルメニアやジョージアなどから、実体験を交えて語る。</p>		
【履修条件】	なし。敢えて言えば、「国際教養」や「異文化」に関心のある者に聴いてもらいたい。		
【評価方法】	<p>課題と授業への取り組み状況、出席状況による。</p> <p>※課題は試験またはレポート提出とするが、いずれの場合も教科書的知識や正解を問うものではなく、受講生諸君の感性から捉えた授業の感想を自分の文章で書いてもらう。</p>		
【テキスト】	とくに無し。オリジナル講義資料による講義。		
【参考書】	必要に応じて提示する。		
【備考】			
【社会人聴講生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。	【科目等履修生】	聴講可 ※ただし、有事の場合は大学の方針に拠る。
		【交換留学生】	可

【科目名】	ムセイオン静岡－舞台芸術A		Mouseion-Expression Communication and Cultures A		
【開講時期】	2024年度前期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	立田洋司				
【担当教員】	立田洋司 鈴木さやか				
【授業目標】	<p>◇この科目は「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学とは異なる。  ※日本の大学生の教養度が下がったのは、東京大学の教養部解体が起点となって各大学の「一般教養課程」が廃止された(そのことで受験科目数も減った)ことが要因だと言われている。国としても、有識者の批判を受け、その立て直し対策が急がれている。その旗印が「リベラル・アーツ教育」の再生。  ◇本学のムセイオン関連科目は、その一環を担うものである。  ◇大学教育における「リベラル・アーツ必要論」を主張する有識者は、たとえば、いわゆる「カロリング・ルネッサンス」における『自由七科 Seven liberal arts』がそうであったように、「音楽の絶対的必要性」を説く。ここでは詳しく述べる紙面は無いが、音楽は人文学にも物理学にも自然科学にも通じる。そしてたとえば、この音楽に絡むカルチャーを観る(感じる)ことが、豊かな人間性を育成することに繋がるであろう。  ◇演劇ふうと言えば、この科目は、「阿吽の呼吸や間(ま)、無音(しじま)や気配などを観察する(感じ取る)ことを通して、諸君自身の感性を磨くことを目指す」とも言えようか。</p>				
【授業概要】	<p>◇学内では、主に小講堂の音響設備を利用して、ミュージカルやバレエ、管弦楽の歴史的名演奏などを含む舞台芸術を解説・鑑賞。  ◇学外では、条件がそろえばSPAC(静岡舞台芸術センター：宮城聡芸術総監督)の公演の鑑賞も考えている。</p>				
【授業方法】	<p>◇小講堂の舞台芸術鑑賞がメイン。とくにLD(レーザー・ディスク)による歴史的名演を取り上げる。LDは、20年以上前に生産されなくなった(重くて大きく、価格も非常に高いので普及しなかった)ため諸君には馴染みが無いだろうが、その特徴はCDより音が良い非圧縮音源! スピーカーは、映画時代のアメリカで開発された「Altec The Voice of Theater」。それらの音響設備を利用して、歴史的名演などの舞台芸術を鑑賞。  ◇SPACの公演を観劇(未定)  ◇その他、時間が許せば、舞台芸術や映画に関する逸話など。</p>				
【授業展開】	<p>◇オリエンテーション  ◇歴史的名作・名演の鑑賞  バレエ(例:『ロミオとジュリエット』、『ジゼル』などから選択)  ミュージカル(例:『ウエストサイド物語』)  映画・オペラ(例:シェイクスピア作『マクベス』、『オテロ』などから選択)  管弦楽・オーケストラ(歴史的名演奏から)  (※以上、主に立田洋司のコレクションより、時間等を勘案して選択構成。)  ◇SPAC(宮城聡演出)の公演を観劇(未定)  ◇演劇の歴史・文化などについてのプレゼンテーション</p>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	試験(またはレポート)と授業への取り組み状況、出席状況による。				
【テキスト】	書物などのテキストは使わない。必要に応じて独自に作成した資料を提供する。				
【参考書】	とくに無し。				
【備考】	◇SPAC(静岡舞台芸術センター)公演を観劇する場合は、自己負担(学生特別料金;2000円程度)となる。その場合は、土・日の半日を費やすことが多いので、基本的に講義2回分の振替えとなる。履修に際してあらかじめ念頭に入れておくこと。				
【社会人聴講生】	<p>聴講可。  ◇ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義だけではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じる。</p>	【科目等履修生】	<p>原則聴講可。  ◇ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義だけではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じるので、予め認識しておくこと。</p>	【交換留学生】	<p>原則聴講可。  ◇ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義だけではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じるので、予め認識しておくこと。</p>

【科目名】	ムセイオン静岡－舞台芸術B		Museum-Expression, Communication and Cultures B		
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	水曜1限		
【科目責任者】	立田洋司				
【担当教員】	立田洋司 鈴木さやか ※特別講師；古川はるな＝静岡出身のフルーティスト・音楽学博士、2019年イタリアにおけるイブラ国際コンクール第1位（優勝）				
【授業目標】	<p>◇この科目は「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学とは異なる。  ※日本の大学生の教養度が下がったのは、東京大学の教養部解体が起点となって各大学の「一般教養課程」が廃止された(そのことで受験科目数も減った)ことが要因だと言われている。 国としても、有識者の批判を受け、その立て直し対策が急がれている。その旗印が「リベラル・アーツ教育」の再生。  ◇本学のムセイオン関連科目は、その一環を担うものである。</p> <p>◇大学教育における「リベラル・アーツ必要論」を主張する有識者は、たとえば、いわゆる「カロリング・ルネッサンス」における『自由七科 Seven liberal arts』がそうであったように、「音楽の絶対的必要性」を説く。ここでは詳しく述べる紙面は無いが、音楽は人文学にも物理学にも自然科学にも通じる。そしてたとえば、この音楽に絡むカルチャーを観じる(感じる)ことが、豊かな人間性を育成することに繋がるであろう。</p> <p>◇演劇ふうによれば、この科目は、「阿吽の呼吸や間(ま)、無音(しじま)や気配などを観察する(感じ取る)ことを通して、諸君自身の感性を磨くことを目指す」とでも言えようか。</p>				
【授業概要】	<p>◇学内では、主に小講堂の音響設備を利用して、ミュージカルやバレエ、管弦楽の歴史的名演奏などを含む舞台芸術を鑑賞・解説。  ◇イタリアでの国際音楽コンクールで優勝し、副賞として世界演奏旅行とカーネギー・ホールでの演奏を果たしたフルーティストの古川はるな氏による友情講演と生演奏を予定。  ※本年はとくに、古川はるな氏が昨年自ら体験されたシルク・ロード事情を含めての講演・生演奏をお願いしてある。  ◇学外では、条件がそろえばSPACの公演の鑑賞も考えている。</p>				
【授業方法】	<p>◇小講堂の舞台芸術鑑賞がメイン。とくにLD(レーザー・ディスク)による歴史的名演を取り上げる。LDは、20年以上前に生産されなくなった(重くて大きく、価格も非常に高いので普及しなかった)ため、諸君には馴染みが薄いだろうが、その特徴はCDより音が良い非圧縮音源！ スピーカーは、映画時代のアメリカで開発されたAltec社の『The Voice of Theater』。これらの音響設備により、歴史に残る名作・名演などを鑑賞。  ◇世界的フルーティストで音楽学博士の古川はるな氏(前項で紹介)による友情講演・生演奏。</p> <p>◇その他、時間が許せば、舞台芸術や映画に関する逸話など。</p>				
【授業展開】	<p>◇オリエンテーション  ◇歴史的名作・名演の鑑賞  バレエ(例：『眠りの森の美女』『白鳥の湖』などから選択)  映画・オペラ(例：『タンホイザー』『マクベス』などから選択)  管弦楽(歴史的名演奏：ベートーヴェンやマーラーのシンフォニーなどから)  (※以上、主に立田洋司のコレクションより)  ◇時間が許せば、演劇の歴史・文化などについてのプレゼンテーションも。</p>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	試験(またはレポート)と授業への取り組み状況、出席状況による。				
【テキスト】	とくに無し。必要に応じてオリジナル資料を配布する。				
【参考書】	必要があれば講義中に示唆。				
【備考】	◇SPAC(静岡舞台芸術センター)公演を観劇する場合は、自己負担(学生特別料金：2000円程度)となる。その場合は、土・日の半日を費やすことが多いので、基本的に講義2回分の振替えとなる。履修に際してあらかじめ念頭に入れておくこと。				
【社会人聴講生】	聴講可。 ※ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義ではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定される。 また状況により、大学の方針(コロナ対応など)に従うこともある。	【科目等履修生】	聴講可。 ※ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義ではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定される。 また状況により、大学の方針(コロナ対応など)に従うこともある。	【交換留学生】	聴講可。 ※ただし、この科目の性格上(いわゆる教室での講義ではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、予め認識しておくこと。



【科目名】	静岡の市民活動	Civic Activities in Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	*木村綾				
【担当教員】	*東野定律、木村 綾、谷 晃、高畑 幸				
【授業目標】	静岡県内の NPO 等の市民社会組織の活動を理解し、それらへの参画の動機付けとする。				
【授業概要】	各回扱う対象は「授業展開」の通りとする。				
【授業方法】	各回、前半は講義形式で進め、後半は受講生による質疑・討論を重視する。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに、市民社会組織の役割と位置づけ(東野、木村)</li> <li>2. 福祉問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。</li> <li>3. 環境問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。</li> <li>4. 多文化共生を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。</li> <li>5. 男女共同参画を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。</li> <li>6. 市民社会組織を支援する民間の組織について、その現状と課題を学習する。</li> <li>7. 就労支援を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	出席状況とレポートによって評価する。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	別途、適宜各講師が配布する。				
【備考】	<p>授業計画の詳細は最初の授業の際に知らせる。</p> <p>受講者数は 50 名まで、先着順とする。</p> <p>*行政経験、市民活動組織で活動する幹部クラスのスタッフがその実務経験を活かし、学生により現実に即し、理解しやすい講義を行う。</p>				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目等履修生履修可	【交換留学生】	

【科目名】	歴史からみるしずおか学	歴史からみるしずおか学
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	上野雄史	
【担当教員】	上野雄史・村橋 勲	
【授業目標】	本授業は、歴史的観点から「静岡」について学びます。歴史的な事実は客観的に分かるものあれば、主観的に推察されているところもあります。この授業は2つの目標があります。1つ目は歴史的な考え方、捉え方を各講義を通じて身に着けることを目標とします。2 つ目は、静岡の歴史を学ぶことを通じて、地域の課題解決能力に繋がる基礎的な力(知識・論理的思考能力)を身に着けることを目標とします。	
【授業概要】	この授業では、静岡の歴史を中心に学びます。歴史を知るということは、過去を知ることであり、それが現在の我々の立場や将来への道筋を理解し、人生を豊かにする手助けとなります。歴史を学ぶ際には、教室内だけの講義を超えて、実際の場所に出向き、体験し、探究することが必要です。授業は、本学の教員、静岡市、静岡県、地域の企業、民俗学、郷土史の研究者などのオムニバス講義と、実際のフィールドワークを組み合わせで行います。講義を通じて、受講生は地域の課題解決能力を向上させる基本的なスキル(知識・論理的思考能力)を養います。	
【授業方法】	各講師による講義(必要に応じてディスカッション形式)により行います。以下、補足です。 ①各担当者によって、パワーポイント、配布資料を使用します。必要に応じてビデオを使用します。 ②オムニバス講義なので、毎回の講義のポイントを十分におさえる必要があります。 ③講義内容に関する質問、コメント、ディスカッション内容を発表、提出してもらいます。	
【授業展開】	4 月 10 日 ① ガイダンス／宇宙からみたしずおか(尾池和夫) 4 月 17 日 ② ジオパークガイドからみた伊豆の魅力(佐野勇人:伊豆ジオパークガイド、有限会社長香・御宿しんしま) 4 月 24 日 ③ 富士山信仰と静岡(講師:井上卓哉:静岡県富士山世界遺産センター ) 5 月 8 日 ④ 南アルプスの麓の集落、井川で民具の調査(講師:外立先生) 5 月 15 日 ⑤ 北遠の災害伝承—語り継がれたハザードマップ—(講師:二本松 康宏(静岡文化芸術大学)) 5 月 22 日 ⑥ 韭山反射炉と江川英龍公 橋本 敬之(NPO 法人伊豆学研究会) 5 月 29 日 ⑦ 小泉八雲と焼津(講師:那須野 絢子(常葉大学)) 6 月 5 日 ⑧ 水産業と静岡(講師:川口円子(静岡産業大学総合研究所)) 6 月 12 日 ⑨ 戦時中の静岡～「ミッション・ゲルニカ静岡大空襲脚本集より」(静岡平和資料センター) 6 月 19 日 ⑩ 草薙大龍勢(講師:草薙龍勢保存会) 6 月 26 日 ⑪ 白隠禅師と静岡(講師:勝野秀敏(龍津寺住職)) 7 月 3 日 ⑫ 静岡市街の歴史散策の見所(静岡市歴史博物館 学芸課学芸員 増田亜矢乃さんに協力依頼) 7 月 6 日 ⑬ 静岡市街のフィールドワーク(13～14の授業を充当)2～3時限分を充当する。*静岡市歴史博物館 学芸課学芸員 増田亜矢乃さんに協力依頼 7 月 10 日 ⑮ フィールドワークのまとめ作業(予備日) 7 月 17 日 ⑯ プレゼンテーション	
【履修条件】	特になし。	
【評価方法】	授業で課すレポート(40 点)、最終レポート 60 点	
【テキスト】	授業前後に配布する。	
【参考書】	授業中に提示する。	
【備考】	フィールドワークは、7 月 6 日(土)もしくは 7 日(日)のいずれかで行います(初回授業時に日程を提示します)。受講生は基本的にこのフィールドワークへの参加を前提として科目を取得してください。3 回分のフィールドワークへの参加が困難な学生は、事情を考慮して対応を検討いたしますので、ueno@u-shizuoka-ken.ac.jp までご連絡ください。	
【社会人聴講生】	受入れ可	【科目等履修生】 受入れ可
		【交換留学生】 受入れ可

【科目名】	新聞でもっと静岡を知ろう	Let's learn more about Shizuoka through newspapers !			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡新聞記者				
【授業目標】	今日、新聞を読む学生は少ない。そのような学生に、情報ツールの1つとして新聞を読む習慣を身につけ、現代社会に対する関心を深めてもらう。あわせて、静岡新聞の記者による講義を通じ、県内のみならず県外出身の学生にも静岡について興味関心を持ってもらい、地域社会に対する理解や問題意識を養うことを目的とする。				
【授業概要】	気軽に新聞に触れてもらいながら、SNS とは一味違う情報ツールとしての新聞の活用法を学んでもらう。				
【授業方法】	上記の目的を達成するため、毎回、講義の前半(30 分)は、当日の静岡新聞朝刊の記事をもとに、学部を超えた学生間の交流も兼ねて学生同士で自由にグループディスカッションをしてもらい、そこで出た意見を全員の前で発表してもらう。 後半(60 分)は、静岡新聞の記者が日頃追っている静岡や今日のホットな話題、社会的課題について多角的観点から考察し、質疑応答を通じ理解を深める。講義での学生からの積極的な質問を期待する。				
【授業展開】	1(4/11) ガイダンス・10 分間で新聞を読んでみよう(上原・読者プロモーション局) 2(4/25) しずおか発～デジタルメディア最新事情 :新聞はデジタル化で何を指すのか(デジタル編集部) 3(5/02) 静岡3都物語～新聞記事で読み解く県民性 :東部・中部・西部の県民性の違いは?(読者プロモーション局) 4(5/09) 検証・川勝県政(政治部) 5(5/16) 届かぬ声・静岡の保育は今(社会部) 6(5/23) 静岡のアニメ文化を探る :静岡県内のアニメの聖地をめぐる(文化生活部) 7(5/30) 最後の砦・袴田事件報告(社会部) 8(6/06) 過疎地に生きる :県内中山間地の今を追う(天竜支局) 9(6/13) 静岡のジェンダーギャップ:静岡の男女格差は?(生活報道部) 10(6/20) The・中小企業～静岡経済を支える :中小企業の魅力を探る(経済部) 11(6/27) 報道カメラマンが見た静岡 :ファインダーが見た現場(社会部) 12(7/04) 「社説」～地方紙はこう考える :地方の課題と向き合う(論説委員) 13(7/11) 静岡サッカーの未来 :Jリーグ各チームの課題(運動部) 14(7/18) 茶況記者の 24 時間 :静岡の特産、お茶を追う(経済部) 15(7/25) ワークショップ拡大版(読者プロモーション局)  * 講義内容および講義回の入替えの可能性がある。				
【履修条件】	特になし。講義への積極的な参加を通じ、静岡を知り、興味関心を高めようとする意欲があること。				
【評価方法】	毎回、講義やグループディスカッションの内容、さらには、読んだ記事に関してコメントを書いて提出してもらう。これをもとに総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし。				
【参考書】	特になし。				
【備考】	* 現職の静岡新聞の記者によるオムニバス形式の講義である。 毎回の講義で使用する当日付の静岡新聞朝刊代金合計 300 円(教材価格・1 部 20 円×15 回分)を教材費として、講義の際に徴収する。				
【社会人聴講生】	可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	可。

【科目名】	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	Forefront of business in Shizuoka learning from corporate managers			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡県内の企業経営者				
【授業目標】	静岡の経済や産業を支える企業とその魅力を知る。				
【授業概要】	<p>皆さんは静岡県内の企業をどれだけ知っているだろうか。県内にはおよそ 20 万の事業所を抱え、全国4位の製造品出荷額を有する国内有数の工業地域で、産業のデパートとも称される。オートバイ、ピアノなどの輸出量では日本一を誇り、お茶や水産業など第一次産業も盛んである。東西の交通網や港湾を利用した6次産業化も進んでいる。本講義では、静岡の経済や産業を支え、経営革新や新製品・新技術開発、販路開拓等新たな成長分野に積極的に挑戦し、成功を収めている県内企業の経営者や現役社員に登壇頂き、経験に基づく講義を通じ、静岡県ならびに静岡の企業とその魅力を理解することを目指す。加えて、皆さんの就職やキャリアを考えるうえでの一助にしてみたい。多くの学生の受講を期待する。</p>				
【授業方法】	企業の経営者や現役社員による講義および学生とのディスカッション。				
【授業展開】	<p>以下は 2023 年度の内容である。2024 年度の内容については決まり次第、掲載する。</p> <p>1(10/01) ガイダンス 本講義の概要説明</p> <p>2(10/08) ソフトプレ工業株式会社 (前嶋宏明 社長)</p> <p>3(10/15) 株式会社松下工業 (松下晴彦 専務)</p> <p>4(10/22) さわか株式会社 (富田 玲 社長)</p> <p>5(10/29) 遠州鉄道株式会社 (丸山晃司 社長)</p> <p>6(11/12) 株式会社榛葉鉄工所 (榛葉貴博 社長)</p> <p>7(11/19) 株式会社テクノサイト (中川泰典 専務)</p> <p>8(11/26) カナエ工業株式会社 (清 行雄 社長)</p> <p>9(12/03) 株式会社橋本組 (橋本真典 社長)</p> <p>10(12/10) 株式会社薩川組 (薩川悠輔 社長)</p> <p>11(12/17) 株式会社田子の月 (牧田桂輔 社長)</p> <p>12(01/07) 鈴与株式会社 (佐藤義寛 人財採用部長)</p> <p>13(01/14) 株式会社山口製作所 (山口聖三 社長)</p> <p>14(01/21) 三島信用金庫 (堀部かずみ 支店長)</p> <p>15(01/28) 株式会社ペッツ (前川 敦 会長)</p>				
【履修条件】	特になし。毎回の講義への積極的な参加(講師への質問など)が求められる。				
【評価方法】	各回のコメントシート(もしくは小レポート)と講義への参加状況。但し、受講者数等に応じ、変更する可能性がある。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	なし。				
【備考】	* 毎回異なる静岡県内の企業経営者もしくは現役の管理職社員が、これまでの経験をもとに自社のビジネスとその魅力、展望について語るオムニバス形式の講義である。				
【社会人聴講生】	可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	可。

【科目名】	SDGs概論	Introduction to Sustainable Development Goals	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時期】	金曜1限
【科目責任者】	谷 晃		
【担当教員】	谷 晃、宮崎 晋生、孫 暁剛*、その他		
【授業目標】	持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）は、2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。“誰ひとり取り残さない No one will be left behind”をスローガンに、2030年のあるべき社会の姿を求めて、個人、地域、国、国際レベルで対策を促すものである。SDGsの概念は社会に浸透しつつあり、高校では総合学習等で取り組み、企業は理念にSDGsの目標を掲げている。その中継点であり、最高学府の大学において、学生がSDGsに関する深い知識を身につけることは重要である。本講義では、SDGsの全体目標および17目標を理解し説明できる知識を身につけるとともに、広い視野から問題点を分析し、俯瞰的に解決策を立案できる思考法の習得を目標とする。		
【授業概要】	SDGsの目標ごと、それに関連する事象や研究内容を、その専門家である5学部の教員が解説する。		
【授業方法】	本講義はオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。教員によっては、オンデマンド講義とする場合がある。		
【授業展開】	<p>第1回（4/12、対面） 担当：食品栄養科学部 谷 晃。ガイダンスで講義全体の流れや成績評価法について説明する。続いてSDGs目標の11、住み続けられるまちづくりを、15、陸の豊かさも守ろう、に関して、静岡の世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」および「静岡の茶草場(ちゃくさば)農法」の事例を用いて、説明する。</p> <p>第2回（4/19、対面） 担当：国際関係学部 湖中 真哉。17、パートナーシップで目標を達成しよう、に関して、地球全体を俯瞰しながら、SDGsとそれが形成されてきた過程やその考え方の基盤を学ぶ。</p> <p>第3回（4/26、対面） 担当：国際関係学部 飯野 光浩。1、貧困をなくそう、2、飢餓をゼロに、に関して、貧困削減と経済成長（Goal 8）との関係、食糧供給と食糧需要と飢餓の関係を経済学、特に開発経済学の観点から講義する。</p> <p>第4回（5/10、対面） 担当：看護学部 前野 真由美*。3、すべての人に健康と福祉を、に関して、静岡県に暮らす外国人の健康に関わる中で得られた知見を用いて、説明する。</p> <p>第5回（5/17、対面） 担当：食品栄養科学部 原 清敬*。7、エネルギーをみんなにそしてクリーンに、に関して、「エネルギーとは何か」および「クリーンなエネルギーとは何か」という視点で説明する。また、静岡県のエネルギー事情について説明する。</p> <p>第6回（5/24、対面） 担当：看護学部 福島 恭子*。5、ジェンダー平等を実現しよう、に関して、女性や女子に対する身近な差別・暴力の実例を示し、これらの撤廃と女性の生涯にわたる健康支援のための静岡県内の取り組みについて説明する。</p> <p>第7回（5/31、対面） 担当：食品栄養科学部 増田 修一*。6、安全な水とトイレを世界中に、に関して、生体内での水の役割、世界の水資源の現状、世界と静岡の環境水の汚染状況、浄水・下水処理法等の解説を通して、水と衛生環境と健康との関わりについて説明する。</p> <p>第8回（6/7、対面） 担当：食品栄養科学部 角替 弘規*。4、質の高い教育をみんなに、に関して、教育を巡る世界と日本の状況を概観したうえで、日本における移民の子どもに対する教育について事例を交えながら説明する。</p> <p>第9回（6/14、対面） 担当：経営情報学部 国保 祥子*。8、働きがいも経済成長も、に関して、企業の現状とワークライフバランスへの配慮やジェンダー平等の実現について静岡県を全国と比較したデータを紹介しながら説明する。</p> <p>第10回（6/21、対面） 担当：国際関係学部 宮崎 晋生。9、産業と技術革新の基盤をつくろう、に関して、企業や組織の枠を超えて社会でイノベーションを促す仕組みについて説明する。県内に拠点をおく企業のケースも取り上げる。</p> <p>第11回（6/28、対面） 担当：国際関係学部 佐藤 真千子。10、人や国の不平等をなくそう、に関して、世界の政治的・宗教的迫害の状況と諸外国の取組の他、静岡の企業にも求められる人権とビジネスの問題に対する国内外の取組事例も紹介しながら考察する。</p> <p>第12回（7/5、対面） 担当：薬学部 近藤 啓*。12、つくる責任つかう責任、に関して、静岡県内にも幾つか存在する製薬メーカーでの医薬品の研究・開発過程を俯瞰し、有効性、安全性、利便性の観点から幾つかの事例を交えて、考察を加える。</p> <p>第13回（7/12、対面） 担当：食品栄養科学部 谷 幸剛。14、海の豊かさを守ろう、に関して、海洋生態系と多様性、海洋資源利用の現状を説明する。また、静岡県の食に係わる海洋生態系についても触れる。</p> <p>第14回（7/19、対面） 担当：国際関係学部 孫 暁剛*。13、気候変動に具体的な対策を、に関して、気候変動にともなう異常気象や自然災害の影響をもっとも強く受けるアフリカの事例を通して、地域社会の対応とグローバル社会の責任と役割について説明する。</p> <p>第15回（7/26、対面）（7/26 対面） 担当：国際関係学部 石川義道。16、平和と公正をすべての人に。ターゲットに登場する「法の支配（the rule of law）」の概念について説明する。</p>		
【履修条件】	なし		
【評価方法】	出席状況とレポート、講義への参加度を総合して評価する。		
【テキスト】	プリント配布		
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する		
【備考】	<p>定員150名。受講人数過多の場合、履修制限を設ける場合があるので、第1回目の講義には必ず出席のこと。</p> <p>ボランティア団体、外国人のための無料健康相談と検診会の事務局長の経験を持つ教員（前野）が、すべての人に健康と福祉を、の講義を行う。</p> <p>外国ルーツの児童生徒への教育支援事業を行うNPOにおいて理事及びスタッフとして学習指導を行っている教員（角替）が、移民の子どもへの教育の実際について経験を交えながら講義に当たる。</p> <p>助産師として、妊娠・出産・子育て期を中心に、思春期から更年期まで幅広い世代にある女性の健康支援経験のある教員（福島）が、ジェンダー平等の実現に関する講義を行う。</p> <p>環境アセスメント会社及び国の研究機関（国立公衆衛生院）での勤務経験のある教員（増田）が、水資源、浄水・下水処理、環境水の汚染状況等について解説する。</p> <p>食品・発酵企業での勤務経験を持つ教員（原）が、当該分野の実用例を含めた講義を行う。</p> <p>企業での業務改革や人材育成のコンサルティングやプログラム開発経験のある教員（国保）が、企業の実情を踏まえた講義を行う。</p> <p>製薬メーカーで医薬品の研究開発に携わった経験のある教員（近藤）が、ものづくりを通じたSDGsへの関りについての講義を行う。</p> <p>JICAの東アフリカ早稲支援プロジェクトで専門家として携わった経験のある教員（孫）が、気候変動に伴う自然災害の現状と、地域社会のニーズに対応した具体的な対策について、実例を示して講義を進めていく。</p> <p>外務省経済局WTO紛争処理室で国際裁判の実務に携わった経験のある教員（石川）が、貿易の紛争処理メカニズムが直面する課題について講義を行う。</p>		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
			【交換留学生】

【科目名】	ふじのくにガストロミーツーリズム: 観る、食べる、学ぶ	Gastronomy Tourism development in Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大久保あかね 内海佐和子 アムナー・カウクルアムアン 上野雄史 岩崎邦彦 細川光洋 他				
【授業目標】	ガストロミーツーリズムの世界的潮流とわが国における実践例を学ぶことを通じて、持続可能な開発目標(SDGs)にも貢献できる静岡型のガストロミーツーリズムの構築と推進に寄与できる人材の育成に寄与する。				
【授業概要】	<p>ガストロミーツーリズム(gastronomy tourism)は、長い伝統と食の歴史を持つ欧州を中心に世界各国で取り組まれている。ガストロミーツーリズムは、「地域の食」の背景に、それを生んだ地域を理解し、楽しむことを目的としたツーリズムであり、その土地と生産者の価値向上や、女性と若者の活躍促進、地域のブランディングと発見に貢献するものである。</p> <p>静岡県は全国トップクラスの 439 品目の農林水産物が生産され、富士山や伊豆半島、南アルプス、浜名湖など多彩な地域資源を持ち、各地に多種多様な歴史資源を持つ。ガストロミーツーリズムは、地域への所得移転、地域振興という経済振興の側面、地域の歴史・文化、多様性の発信といったサステナビリティな側面といった、複数の側面を併せて持っている。この取組みは始まったばかりであり、「完成」されたものでない。そこで、本講義では、ガストロミーツーリズムの概念、実践への理解を深め、講義者・参加者との対話を通じて、静岡型のガストロミーツーリズムの構築とその推進に寄与していく。</p>				
【授業方法】	<p>本学教員及び、ゲストスピーカーによるオムニバス講義である。必要に応じて、グループによるディスカッションやフィールドワーク等を実施するなど、できるだけ実践に即した知識習得を目指す。</p>				
【授業展開】	<p>① 4/13 オリエンテーション(経営情報・大久保)</p> <p>② 4/25 南アルプスの水と恵みを意識する(尾池和夫先生)</p> <p>③ 5/2 静岡県におけるガストロミーツーリズム政策(静岡県担当者)</p> <p>④ 5/9 ガストロミーツーリズムの意義とその魅力 ー静岡型ガストロミーツーリズムとはー(地球環境史ミュージアム館長・佐藤洋一郎先生)</p> <p>⑤ 5/16 イタリアにおけるガストロミーツーリズム (パルマ大・マリオ先生/経営情報・上野先生)</p> <p>⑥ 5/23 中間まとめ(経営情報・大久保)</p> <p>⑦ 5/30 食と観光のマーケティング(経営情報・岩崎先生)</p> <p>⑧ 6/6 茶を活かしたガストロミーツーリズム (経営情報・アムナー先生)</p> <p>⑨ 6/13 文学と食(国際・細川先生)</p> <p>⑩ 6/20 伊豆における食と観光(静岡大学・飯倉先生)</p> <p>⑪ 6/27 サンセバスチャンにおけるガストロミーツーリズム (ディスカバリーバス・沼山先生)</p> <p>⑫ 7/4 東南アジアにおけるガストロミーツーリズム ーベトナムの食文化を中心に(経営情報・内海先生)</p> <p>⑬ ⑭ 7/7 フィールドワーク: 静岡市内でティーシリーズ体験(2コマ分) (農林環境専門職大・丹羽先生)</p> <p>⑮ 7/11 フィールドワークのまとめ(グループによる討議と発表)</p> <p>※講師の予定でスケジュールが変更になることがあります。</p>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	授業への取り組み 30%、レポート・プレゼンテーション・小テストなど 70%				
【テキスト】	講義中に適宜提示する。				
【参考書】	講義中に適宜提示する。				
【備考】	7/7については学外でのフィールドワークを予定している(詳細は別途提示する)。				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	Scientific and practical knowledge of Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	伊藤創平				
【担当教員】	伊藤創平、中野祥吾、伊藤圭祐、鮎信学、田村謙太郎、大原裕也、寺田祐子、本田千尋、岡本衆資、島村裕子、村上和弥				
【授業目標】	持続可能かつ健康長寿社会の実現には、研究開発活動により創造された「知」の活用が必要である。本科目により、静岡県立大学もしくは地域企業発の「知」に対する受講生の価値観を醸成する。				
【授業概要】	日本一高い富士山と日本一深い駿河湾を有する静岡は、多様な農産物のみならず、多様な動植物と遺伝子資源に産んでいる。富士山麓広がる東部地域に医療健康産業、中部地域には食品・化成品産業が集結、大学などの研究機関と協働で研究開発を進めている。ライフサイエンス分野に強みを持つ静岡県立大学では、「地域をつくる、未来をつくる」をキャッチフレーズに、地域の特性を生かした「知」の創造に挑戦している。本科目では、静岡県立大学発もしくは地域企業発の「知」の理解と活用について、紹介する。				
【授業方法】	プリント、パワーポイントを利用しながら、対面で講義。 オンライン講義(Zoom)の場合は事前に案内を行う。				
【授業展開】	1 食と健康 (伊藤創平) 4/16 2 香りの科学 (伊藤圭祐) 4/23 3 昆虫を活用した食料生産 (大原裕也) 4/30 4 植物の環境応答 (田村謙太郎) 5/7 5 澱粉の科学 (本田千尋) 5/11 6 静岡のお酒 (鮎信学) 5/18 7 生体触媒の世界 (中野祥吾) 5/25 8 食品の機能性と商品化につながった本学の研究 (寺田祐子) 6/4 9 食品の安全性と食中毒予防 (島村裕子) 6/11 10 環境調和型プラスチックの開発 (岡本衆資) 6/18 11 製品開発と品質保証 (講師選定中※:(株)はごろもフーズ) 6/25 12 天然調味料・機能性食品の開発(仮) (宮下知也※:(株)焼津水産化学工業) 7/2 13 化学企業と植物バイオ技術 (清水力※:(株)クミアイ化学工業) 7/9 14 未定 (村上和弥) 7/23 15 蛋白質や酵素を創る (伊藤創平) 7/30				
【履修条件】	勉学意欲が旺盛な者。				
【評価方法】	3 回のレポートで評価します。 ・出席回数が 10 回未満の者は単位認定の対象となりません。 ・1～5 回目、6～10 回目、11～15 回目の講義の中から、それぞれ課題を一つ選択して下さい。 ・レポートは、ユニバより提出。提出期限は、5 回目、10 回目、15 回目の講義の終了後 1 週間。提出期限厳守。 ・ファイル名は、教師名+学籍番号(半角)+氏名とし、word 形式。レポート 1 ページ目にも、タイトル、講師名、学籍番号、氏名を記入して下さい。 ファイル名の例 田村先生 202116 静岡太郎.docx ・レポート				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が紹介します。				
【備考】	講師の都合で予定が変更になる場合があります。 ※企業等における、研究開発実務経験者				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	Global perspectives on Shizuoka			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	横井 香織				
【担当教員】	グローバル地域センター 小川 和久(特任教授)、酒井 敏(特任教授)、鴨川 仁(特任教授)、楠城 一嘉(特任教授)、横井 香織(特任准教授)、粟倉 大輔(特任助教)、岩田 孝仁(客員教授)、長尾 年恭(客員教授)、堀高峰(客員教授)				
【授業目標】	<p>・雄大な富士山や駿河湾があり、豊かな自然と暮らしやすい気候に恵まれているといわれる「しずおか」の自然や歴史・文化を学び、「しずおか」への理解を深める。</p> <p>・「しずおかとは何なのか」という問いに対し、自然科学、人文・社会科学の各分野から多角的にとらえ、何が「しずおか」の課題かを理解したうえで主体的に地域にかかわる力を養う。</p>				
【授業概要】	<p>【前半(1～8回)自然災害、危機管理部門】</p> <p>・南海トラフ、富士火山、津波など、「しずおか」が直面する自然災害の発生のメカニズムや災害に至るプロセスなどを理解する。また、自然災害に対する防災や減災について過去の事例から学び、「しずおか」で起こりうる災害を自分ごととしてとらえ、より望ましい対策を考察する。</p> <p>【後半(9～15回)アジア・太平洋部門】</p> <p>・「しずおか」が歴史的に外的世界とどうつながってきたのかを、特産品であるお茶や缶詰、人々の交流などをテーマに理解を深め、「しずおか」に存在する多様性や多文化を</p>				
【授業方法】	グローバル地域センターの教員が、オムニバス形式で講義を行う。 パワーポイントと配布資料にそって、講義形式で授業を進める。講義は対面授業で実施する。				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. しずおかと地震(楠城 一嘉)【4月10日】</li> <li>2. しずおかと津波(鴨川 仁)【4月17日】</li> <li>3. しずおかと火山(鴨川 仁)【4月24日】</li> <li>4. しずおかと防災(岩田 孝仁)【5月8日】</li> <li>5. 駿河湾から防災・地震予知を考える(長尾 年恭)【5月15日】</li> <li>6. しずおかと南海トラフ(地震・ゆっくりすべり)(堀 高峰)【5月22日】</li> <li>7. 宇宙船地球号とその乗組員たち(酒井 敏)【5月29日】</li> <li>8. 静岡県に伝えたい阪神・淡路大震災の教訓(小川 和久)【6月5日】</li> <li>9. しずおか清水港と青島港:友好港湾40周年(横井 香織)【6月12日】</li> <li>10.しずおか清水港の開港(粟倉 大輔)【6月19日】</li> <li>11.しずおか茶と日本の近代(粟倉 大輔)【6月26日】</li> <li>12.缶詰王国しずおか(椿原 靖弘:フェルケール博物館学芸部長 ※外部講師)【7月3日】</li> <li>13.しずおかと朝鮮通信使(椿原 靖弘:フェルケール博物館学芸部長 ※外部講師)【7月10日】</li> <li>14.しずおかと寧波①(横井 香織)【7月17日】</li> <li>15.しずおかと寧波②(横井 香織)【7月24日】</li> </ol> <p>※講義の順番・テーマは変更する場合があります。</p>				
【履修条件】	授業の3分の2以上出席				
【評価方法】	履修条件を満たすこと、及びレポートによる。 レポートは前半(1～8回)から1題、後半(9～15回)から1題。 レポートのテーマは授業の中で提示する。なお、後半「アジア・太平洋部門」では、博物館・資料館で資料収集、取材をしてその成果をまとめる、というレポートを課す予定である。				
【テキスト】	講義ごとに随時プリントを配布する。講義に必要な場合は講義前にユニバーサルパスポートで資料を提示する。				
【参考書】	グローバル地域センターホームページ掲載の論文・コラム、各講師の著作とホームページ				
【備考】	—				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可



【科目名】	ふじのくに学(お茶)	Fujinokuni Studies (O-CHA)			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	* 中村順行				
【担当教員】	* 中村順行 * ステファン・ダントン 他				
【授業目標】	集中講義と野外実習により、多様な視点からお茶を総合的に学習し、お茶を通じて地域に愛着や誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
【授業概要】	農学、作物学、生産から加工・流通までの多様な視点からお茶を総合的に学習する。				
【授業方法】	集中講義・フィールドワーク				
【授業展開】	<p>9月2、3、4、5日の4日間を予定(内容については、今後、変更する場合があります)</p> <p>第1日 ふじのくに茶の都ミュージアム</p> <p>1 講義「茶学概論、平地のお茶の生産・加工」</p> <p>2 講義「ふじのくに茶の都ミュージアムの役割とお茶の振興」</p> <p>ふじのくに茶の都ミュージアム館内見学・茶道体験</p> <p>3 講義「川根の茶業と生活、文化について」</p> <p>第2日 静岡市内</p> <p>4、5 実習:お茶摘み、お茶づくり体験、茶工場見学</p> <p>6 実習:お茶の淹れ方講座</p> <p>第3日 静岡県立大学</p> <p>7 講義「静岡茶の流通～過去から現在、そして未来へ～」</p> <p>8 講義「お茶の歴史と文化」</p> <p>9 講義「お茶の価値を高めるマーケティング」</p> <p>10 グループワーク「静岡の茶業が活性化するための展開の仕方」</p> <p>第4日 静岡県立大学</p> <p>11 講義「茶の機能と多用途利用」</p> <p>12 講義「外国人から見た日本茶」</p> <p>13.14 グループワーク「静岡の茶業が活性化するための展開の仕方」</p> <p>15 全体総括</p>				
【履修条件】	全日程出席を必要とする。 全学共通科目の「茶学入門」と一部重複するため、「茶学入門」履修者の単位認定はしない。受講は可能。				
【評価方法】	課題レポート(各日のふりかえり、最終レポート)及び出席(1日でも欠席した場合は不可)				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	<p>定員 40 名。</p> <p>ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び南大阪地域大学コンソーシアム広域単位互換協定校の学生を対象とする。</p> <p>「茶学入門」未履修者を優先する。</p> <p>学生負担金として、借上バス代等を徴収する。</p> <p>また、集合場所までの交通費及び昼食代については、参加者負担とする。</p>				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(観光学)	Fujinokuni Studies (Tourism Studies)			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	大久保 あかね				
【担当教員】	*2 飯倉清太(他大学) 他				
【授業目標】	野外実習と講義を通じて、本県の多彩な観光資源～自然、文化・歴史から生活体験まで～を活かした「世界クラスの観光地域づくり」を学ぶことで、地域への理解を深めるとともに愛着や誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
【授業概要】	伊豆半島を舞台に、幅広い視点に立った観光の取組について、実践的に学習する。				
【授業方法】	2 日間(1 泊 2 日)での野外実習(フィールドワーク)と集中講義(座学)				
【授業展開】	<p>以下の内容を予定している。変更の可能性あり</p> <p>伊豆地区</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報発信の拠点からの観光学(講義と実習)</li> <li>2・3 官民連携で賑わいのあるまちへ(講義と実習)</li> <li>4 伊豆半島ユネスコ世界ジオパークから学ぶジオサイト(講義と実習)</li> <li>5 観光に関するワークショップ</li> <li>6 観光産業論、観光実務、および観光(講義)</li> <li>7 古民家再生事業を通じた観光事業の戦略構築の一例を学ぶ(講義と実習)</li> <li>8 全体総括</li> </ol> <p>(令和6年1月18日、19日の予定)</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。 経営情報学部観光マネジメントメジャーの学生は内容が重複するため受講不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	<p>定員 20 名程度。</p> <p>ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。</p> <p>学生負担金(宿泊費・バス代・食費等の一部)を徴収する。</p> <p>*1 旅行会社での勤務経験のある北上講師が、観光に関する基本的な知識を講義する。</p> <p>*2 NPO 法人での活動経験のある飯倉講師が、その経験を活かして、観光産業を中心に実践的な講義を行う。</p>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	可

【科目名】	ふじのくに学(演劇論)	Fujinokuni Studies (Theater theory)			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	* 宮城 聡				
【担当教員】	* 宮城 聡				
【授業目標】	演劇への理解を深めることができる。また、言語生活に必要な言葉の表現を身につけることができる。				
【授業概要】	演劇とは何か、また、現代の社会における演劇を取り巻く状況について理解を深める。				
【授業方法】	集中講義とオンラインによる実技・演劇鑑賞 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	第 1 回 鑑賞と批評 スパカンファン PLUS 鑑賞 第 2 回 実習:劇場の機構を知る? 第 3 回 実習:劇場の機構を知る? 第 4 回 講義:演劇とは何か(概論) 第 5 回 講義:世界の演劇史(概論) 第 6 回 実習:表現を学ぶ? 第 7 回 実習:表現を学ぶ? 第 8 回 実習:名作戯曲に親しむ? 第 9 回 実習:名作戯曲に親しむ? 第 10 回 講義:演劇と教育? 第 11 回 講義:演劇と教育? 第 12 回 講義:演劇でせかいと静岡をつなぐ? 第 13 回 講義:演劇でせかいと静岡をつなぐ? 第 14 回 鑑賞と批評 シアタースクール鑑賞 第 15 回 レポート提出 (令和5年度の内容です。今後、講師との打ち合わせにより、変更する場合があります)				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	観劇した作品のレポート提出、および、授業の理解度を確認するための小テスト (授業への取組み 50 %、レポート 35 %、小テスト 15 %)				
【テキスト】	なし。				
【参考書】					
【備考】	・定員 50 名程度。 ・観劇チケット代 2,000 円、劇場までの交通費 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。 * 実際の演劇活動に携わる講師が、演劇について具体的な講義や実習を行う。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(南アルプスの自然)	Fujinokuni Studies (Minami-AlpsBiosphere Reserve)			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	徳岡 徹(静岡大学)				
【担当教員】	増澤 武弘(静岡大学)ほか				
【授業目標】	南アルプスを題材として、生態系の保全と持続可能な利活用の調和について講義と野外実習を通じて考える。南アルプスは国立公園として認定されているが、2014 年に登録されたユネスコエコパークを通じて自然と人間社会の共生を理解する。				
【授業概要】	静岡市葵区井川地区(大井川上流地域)における2日間の集中講義により、南アルプスに関する講義や野外実習を行う。 南アルプス国立公園であり、ユネスコエコパークとして認定を受けた地域で、自然と人間社会の共生をいかに調和していくかを考える。				
【授業方法】	2 日間(1 泊 2 日)での野外実習(フィールドワーク)と集中講義(座学)				
【授業展開】	10 月 12・13 日の1泊2日を予定 (内容については、今後、変更する場合があります) (荒天の場合の予備日 10 月 19・20 日)  第1日 1・2 ユネスコエコパーク、南アルプス概論、オクシズ(講義) 3・4 南アルプスの動植物(講義・野外実習) 5 井川地区の自然と調和した生活(野外実習) 6・7 大井川上流の自然(講義)  第2日 8・9・10 大井川の水と自然エネルギー(講義・野外実習) 11・12 大井川上流の河岸林(講義・野外実習) 13・14 南アルプスの自然と歴史(講義・野外実習) 15 まとめ				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポートにより評価します。				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。				
【参考書】	なし				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員 20 名程度</li> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡産業大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、静岡理工科大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校、浜松学院大学)の学生が参加する。</li> <li>・実習費用(宿泊費、バス代、食費等の一部)を徴収する。</li> </ul>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	Fujinokuni Studies(Industrial innovation in Shizuoka)			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	*1 小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)他				
【授業目標】	4日間のワークショップと集中講義を通して、AI や自動運転を始めとする技術革新や深刻な人手不足など産業を取り巻く環境が大変革を迎える中で、本県産業の現状と課題への理解を深め、ベンチャー、先端的分野等の新たな動きも踏まえて、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	<p>以下の内容を予定している。変更の可能性あり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・概論</li> <li>2 これからの静岡県の産業(講義)</li> <li>3 しずおか県の産業の発展(講義)</li> <li>4 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから(講義と実習)</li> <li>5～12 県内の事例調査(企業訪問)</li> <li>13～15 新たな産業分野の動き～2050年の未来を目指して～(講義と実習)</li> </ol> <p>(8月22日～25日の予定)</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	<p>定員 20 名。</p> <p>ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。</p> <p>*1 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。</p>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県産業イノベーションⅡ)	Fujinokuni Studies (Industrial innovation in ShizuokaⅡ)			
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)、他				
【授業目標】	本県の産業・企業を知る企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、本県産業の現状と課題への理解を深め、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり  1 ガイダンス・概論 2 これからの静岡県の産業(講義) 3 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから(講義) 4 しずおか県の産業の発展(講義) 5～12 県内の事例調査(企業訪問)※静岡県中部地域を予定 13～15 ワークショップ・実習の振り返り等				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学のうち8校(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県産業イノベーションⅢ)	Fujinokuni Studies (Industrial innovation in ShizuokaⅢ)			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	* 1 小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)、他				
【授業目標】	本県の産業・企業を知る企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、本県産業の現状と課題への理解を深め、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり  1 ガイダンス・概論 2 これからの静岡県の産業(講義) 3 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから(講義) 4 しずおか県の産業の発展(講義) 5～12 県内の事例調査(企業訪問)※静岡県東部地域を予定 13～15 ワークショップ・実習の振り返り等				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学のうち8校(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(農林業)	Fujinokuni Studies (Agriculture and forestry)			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	稲垣栄洋(静岡大学)				
【担当教員】	八幡昌紀・富永晃好 他(静岡大学)				
【授業目標】	本講義では、静岡大学藤枝フィールドと天竜フィールドでの実習を通じて、静岡県の農業と林業の秋冬の作業の特徴について、基本的な事柄を総合的に学ぶことを目的とする。				
【授業概要】	森林観察や農林業体験を通して、静岡の気候や風土の中で培われた農林業を総合的に学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド資料によるオンライン講義(4回)及び、静岡大学附属農場(農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド)又は附属演習林(同研究センター天竜フィールド)での日帰り実習(1日)。				
【授業展開】	<p>以下の内容を予定しています。ただし、日程等は変更の可能性があります。</p> <p>【オンライン講義】 静岡大学農学部附属藤枝フィールド(農場)と静岡大学農学部附属天竜フィールド(演習林)で管理されている農作物や樹種を中心に、オムニバスで静岡の農業や林業を紹介します。</p> <p>第1回 静岡県の農業について 第2回 静岡県の柑橘 第3回 静岡県の園芸作物 第4回 静岡県の森の生態・林業</p> <p>授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアムより配信します。</p> <p>【日帰り実習(1日)】 静岡大学農学部附属藤枝フィールド(農場)(藤枝市仮宿 63)又は静岡大学農学部附属天竜フィールド(演習林)(浜松市天竜区西藤平 1623-1)で、静岡の農業や林業に開催する4つの実習メニューのうち、1つを選んで参加します。 現地までは大学のバスで移動します。</p> <p>具体的な実習の日時や内容については、別途、お知らせします。 持ち物については、受講者募集時及びガイダンスで説明します。</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。 静岡大学農学部生の履修はできません。				
【評価方法】	レポートにより評価します。				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。				
【参考書】	なし				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員 100 名以内。</li> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び、南大阪地域大学コンソーシアム広域単位互換協定校の学生を対象とする。</li> <li>・学生負担金として、参加費(実費)を徴収する場合がある。</li> </ul> <p>また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。</p>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可



【科目名】	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	Ecosystem services from various forests in Fuji-no-kuni			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	花岡 創 (静岡大学)				
【担当教員】	檜本 正明、飯尾敦弘 (静岡大学)				
【授業目標】	<p>本講義では、静岡県の様々な森に親しみ、日本の自然に関心を持つようになることを目的とし、森林の生態系サービスについて理解を深めます。</p> <p>To be more familiar with various forests and natures in Shizuoka, and to learn the ecological process in the forest ecosystems. To understand the importance of ecosystem services.</p>				
【授業概要】	<p>様々な出身国の学生とともに、静岡の様々な森林を体験します。川根本町の冷温帯落葉樹林、富士山の樹木限界と亜高山帯針葉樹林の各植生帯の成立要因や生態的トピックについて学びます。</p> <p>Experience to be in various forests with students from diverse countries. Study in sub-alpine forests and timber-line in Mt. Fuji and cool temperate deciduous forests in Oku-Ooi,</p>				
【授業方法】	リモート講義 及び 実習2日間(2日間日帰り)のうち1回を選ぶ				
【授業展開】	<p>I 内容 Contents</p> <p>A:オンデマンド講義 On-demand lecture Introduction of University forests in Shizuoka University</p> <p>B: 実習 Field trip; B-1 富士山 Mt. Fuji</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 森林限界の植物. Plants in timber-line.</li> <li>2. カアマツの形態的適応. Morphological adaptations of Japanese larch</li> <li>3. カアマツパッチの小さな生態系. Micro ecosystems in a patch of Japanese larch.</li> <li>4. 森林限界の上昇中. Timber-line is climbing up.</li> <li>5. 林床に生きるモミ属種の枝ぶり. The branching pattern of Fir species to survive in forest floor.</li> <li>6. 亜高山帯の植生. Plants in sub-alpine zone.</li> <li>7. 亜高山帯の森林における攪乱と更新. Disturbance and regeneration in sub-alpine forests.</li> <li>8. エコトーンの林分構造. The stand structure in ecotone.</li> </ol> <p>II 注意事項 Notice</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 使用言語 英語と日本語) Language English and Japanese</li> <li>2) この講義の受講は次のような学生に適しています。日本の自然をより理解したい留学生。留学生と交流しながら野外活動をしたい日本人学生</li> </ol> <p>The following students are encouraged to take this course. International students who wish better understanding of Japanese nature, and Japanese students who want to communicate with international students through field activities.</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポートにより評価します。 Based on the student's papers				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。 Will be provided during practice				
【参考書】	なし				
【備考】	<p>・定員 30 名程度。</p> <p>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡産業大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、静岡理工科大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校、浜松学院大学)の学生も参加する。</p> <p>・学生負担金として、参加費(実費)を徴収する場合がある。また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。</p>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)	Utilizing hot springs and creating new industries in Izu			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	楠城一嘉				
【担当教員】	鴨川仁、細川光洋 他				
【授業目標】	温泉を中心とした伊豆の地域資源について、学際的に学び、産業おこしについて考えることで、伊豆地域の産業を担う人材に必要な知識を身につける。				
【授業概要】	温泉を中心とした伊豆の地域資源について、地球科学、観光学、経営学などの視点から、座学、フィールドワーク及びワークショップを通じて学習する。				
【授業方法】	2日間(1泊2日)の野外実習(フィールドワーク)と2日間の集中講義(座学)				
【授業展開】	<p>【1日目】1 ガイダンス等、新産業づくりとICOIプロジェクト 2 伊豆の温泉とジオパーク(講義) 3 日本と世界の温泉の歴史(講義)</p> <p>【2日目】4 温泉概論(講義) 5 伊豆の食(講義・実習) 6 伊豆と文学(講義) 7 観光産業論(講義)</p> <p>【3日目】8~10 フィールドワーク:温泉地・ジオサイト等見学(野外実習) 11 入浴指導・温泉体験(講義・実習) 12 伊豆の温泉の魅力と新産業の可能性(講義)</p> <p>【4日目】13 伊豆の温泉を舞台にした産業おこし1(講義) 14 伊豆の温泉を舞台にした産業おこし2(講義) 15,16 グループワーク、まとめ</p> <p>日程は、11月9日・10日(日帰り)で座学2日間)、11月16日・17日(宿泊を伴うフィールドワーク) (内容については、今後、変更する場合があります)</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	出席状況及びレポート等を総合的に判断して評価する。				
【テキスト】	適宜配布する。				
【参考書】	・楠城 一嘉 編著、尾池 和夫、鴨川 仁 他 執筆(2022)地震と火山と防災のはなし ISBN978-4-425-51491-5				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員 30 名程度。</li> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生が参加する。</li> <li>・実習費用(宿泊費、バス代、食費等の一部)を徴収する。</li> </ul>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)	Attractive Food and Regional Development			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大原志麻(静岡大学)、前田節子(静岡県立農林環境専門職大学)他				
【授業目標】	静岡の気候風土から生まれた食材や、伝統、歴史によって育まれてきた食文化等を学び、地域資源を活用したガストロミーツーリズムについて考えることで、食と観光の地域づくり活動を担う人材に必要な知識を身につける。				
【授業概要】	静岡の魅力ある食と地域づくりについて、地域の食材、歴史・文化、観光などの視点から、座学、フィールドワーク及びワークショップを通じて学習する。				
【授業方法】	2日間の座学(集中講義)と2日間(1泊2日)の野外実習(フィールドワーク)				
【授業展開】	<p>【1日目】[総論]</p> <p>1 ガイダンス等、講座の狙いについて</p> <p>2 ガストロミーツーリズム概論(講義)</p> <p>3 ガストロミーツーリズムの経済効果(講義)</p> <p>4 ガストロミーツーリズムに関して(世界の先進事例比較等)(講義)</p> <p>【2日目】[静岡の食文化／食と観光]</p> <p>5,6 静岡の食文化(講義・実習)</p> <p>7 食と観光を結びつける取組1(講義)</p> <p>8 食と観光を結びつける取組2(講義)</p> <p>【3日目】[事例研究(生産部門／飲食部門)]</p> <p>9～11 フィールドワーク:生産者3カ所見学、食事体験(野外実習)</p> <p>12 料理人が見た浜松の食の魅力と可能性(講義)</p> <p>【4日目】[食による地域活性化／まとめ]</p> <p>13 西部地域の食による地域活性化の取組1(講義)</p> <p>14 西部地域の食による地域活性化の取組2(講義)</p> <p>15,16 グループワーク、まとめ</p> <p>日程は、8月27日・28日(日帰りで座学2日間)、 8月29日・30日(宿泊を伴うフィールドワーク) ※予備日 8月31日・9月1日(日帰りで座学2日間) 9月7日・8日(宿泊を伴うフィールドワーク) (内容については、今後、変更する場合があります)</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	ワークショップ及びプレゼンテーションに基づき総合的に判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員30名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)	ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	* 小杉大輔				
【担当教員】	* 藤井尚子、奥中康人、他				
【授業目標】	浜松市を中心とした静岡県西部地域の特性と産業、企業・団体の現場の動き、地域で展開される活動を知り、その課題や解決方法について体験的に学ぶ。				
【授業概要】	まず、浜松市を中心とした静岡県西部地域の特性と産業の課題について講義し、この地域の現状について理解し、考える機会を提供する。それを踏まえ、企業や団体の生産・活動の現場で事例調査を行い、地域の抱える課題やその解決方法、未来の展望について学ぶ。				
【授業方法】	集中講義、事例調査、ワークショップ				
【授業展開】	<p>9月17日(火)</p> <p>第1日 静岡文化芸術大学、静岡県西部で事例調査</p> <p>① ガイダンス(大学内)</p> <p>② 静岡県西部地域の特性と産業について概論(しんきん経済研究所)</p> <p>③ 静岡県西部地域の特性と産業に関する企業見学(うなぎパイファクトリー)</p> <p>9月18日(水)</p> <p>第2日 静岡文化芸術大学、工場見学</p> <p>④ 遠州地域の繊維産業について(大学内)</p> <p>⑤⑥ 工場見学等(はままつ BABYBOX )</p> <p>⑦ 繊維業に関するワークショップ</p> <p>9月24日(火)</p> <p>第3日 楽器博物館</p> <p>⑧⑨ ピアノの歴史(浜松楽器博物館)</p> <p>⑩⑪ 遠州地域の楽器産業の現在と未来(浜松楽器博物館)</p> <p>9月25日(水)</p> <p>第4日 工場見学、静岡文化芸術大学</p> <p>⑫~⑭ 工場見学(河合楽器製作所、ヤマハ、鈴木楽器製作所)</p> <p>⑮ まとめ(大学内)</p>				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート課題およびコメントシートにより理解度と意欲・態度を評価する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】	指定しないが、授業内で紹介することがある。				
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び、南大阪地域大学コンソーシアム広域単位互換協定校の学生を対象とする。定員 15 名程度。</li> <li>・また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。</li> <li>・見学先等は予定であり、一部変更になることがあります。</li> </ul>				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	聴講不可	【交換留学生】	聴講不可

【科目名】	健康イノベーション教育プログラム	Health Innovation Education Program			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	新井英一				
【担当教員】	合田敏尚、森本達也*、新井英一*、賀川義之、市川陽子、西野勝明、岩崎邦彦*、大久保あかね*、上野雄史、東野定律、落合康裕、国保祥子、宮崎晋生、武藤伸明、渡邊貴之				
【授業目標】	現代における健康課題と健康寿命の延伸に向けた「健康食」のニーズを理解し、健康長寿社会の形成に向けた新たな産業をどのような視点で創出し、展開するかを構想を促すとともに、新たなビジネスモデルを考案するために必要な、多角的・俯瞰的に考える能力や、IT 技術の活用に必要な基本的知識や考え方を身につけることを目標とする。				
【授業概要】	<p>地域の食関連産業（食品製造業、飲食、ヘルスケアなどのサービス業など）の発展を推進する人材の育成を図る静岡県の「健康イノベーション教育プログラム」に位置付けられた科目である。イノベーションやマネジメントなどの中核を担うために必要となる、文理融合による俯瞰的な能力を培うことをめざし、1)健康と食、2)地域産業とマーケティング、3)地域創生とビジネス、4) IT とデータサイエンス、の4つの視点から、健康長寿の地域社会の創生にむけた健康福祉および経済産業における課題と、その課題解決のための取り組みの視点を学ぶ。</p> <p>視点1(健康と食)では、現代社会における栄養の過剰(生活習慣病)と不足(やせ、虚弱)という栄養障害の二重負荷と、それに関連した疾患の発症・進展抑制の課題を取り上げ、その解決に向けた食品成分の活用法や「健康食」普及のアプローチが紹介される。視点2(地域産業とマーケティング)では、食関連の産業集積とイノベーション、食関連産業のマーケティング、ガストロノミー・ツーリズム(美食観光)の世界的潮流と日本での可能性、企業に求められている社会的責任についての講義を通じて同産業の現状・課題・対応策を検討し今後の発展を展望する。視点3(地域産業とマーケティング)では、食関連産業において今後、求められる新たなビジネスモデルについて、ヘルスケア産業が抱える問題点、ファミリービジネス、ソーシャルビジネスを生み出すプロセス、新たな産業のエコシステムの観点から事例に基づいて論じる。視点4( IT とデータサイエンス概論)では、インターネットが出現し現在広く活用されるに至るまでに出現した重要な基本的事項について学び、IT 技術の活用についてシミュレーションなどの応用例を通じてわかりやすく説明する。</p>				
【授業方法】	講義をオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。				
【授業展開】	<p>&lt;ガイダンスと概論&gt;</p> <p>1 健康イノベーション概論:健康長寿の社会と産業(合田敏尚)</p> <p>&lt;視点1:健康と食&gt;</p> <p>2 医療からみた食品成分の機能(森本達也)</p> <p>3 生命を律する健康食を考える(新井英一)</p> <p>4 薬食同源からみたサプリメント利用の考え方(賀川義之)</p> <p>5 「健康な食事・食環境」(スマートミール) 認証制度(市川陽子)</p> <p>&lt;視点2:地域産業とマーケティング&gt;</p> <p>6 食関連の産業集積とイノベーション(西野勝明)</p> <p>7 世界で勝つブランドをつくる(岩崎邦彦)</p> <p>8 ガストロノミー・ツーリズムの世界的潮流(大久保あかね)</p> <p>9 企業の社会的責任(上野雄史)</p> <p>&lt;視点3:地域創生とビジネス&gt;</p> <p>10 健康経営とヘルスケア(東野定律)</p> <p>11 ファミリービジネスの事業承継とビジネスモデル(落合康裕)</p> <p>12 アントレプレナーシップ(国保祥子)</p> <p>13 産業における連携の意義とオープンイノベーションの視点(宮崎晋生)</p> <p>&lt;視点4:IT とデータサイエンス概論&gt;</p> <p>14 インターネットを中心にみた IT 技術 (武藤伸明)</p> <p>15 IT の応用例: 将来予測とシミュレーション (渡邊貴之)</p>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	出席状況とレポートによって評価する。				
【テキスト】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【備考】	・ 静岡県のプロジェクトの一環として実施される「健康イノベーション教育プログラム」の一部として開講する。				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	キャリアデザイン概論	Career Design		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	水曜 5 限	
【科目責任者】	東野定律			
【担当教員】	* 東野定律 ほか			
【授業目標】	自分の将来をどのように生きていくのか、人生 100 時台において社会人として活躍するためには、自分を知ること はもとより、自分の将来を思い描いていくことが必要だと考えられます。どのように学生生活を歩み、どのよう に就職をはじめとした人生の岐路を迎えるのか、基本的な考え方から様々な客観的視点を踏まえて考えることを目 的とします。			
【授業概要】	働き方や生き方を主体的に設計するための基本的な内容はもとより、就職活動を迎えるために必要な内容(就 職活動スケジュール、自己分析、企業研究、エントリーシートの書き方、グループディスカッションや面接(グルー プ・個別等)の概要と対応など)も指導する授業です。また、企業への就職に必要な知識を学習することやコミュニ ケーションの基本である「読み」「書き」「話す」「聞く」に関するスキルについても学習します。			
【授業方法】	学外・学内からさまざまな講師においていただきお話を伺うほか、ディスカッションなどを予定しています。			
【授業展開】	1 オリエンテーション 2 自分らしい人生の描き方(学外講師を予定) 3 自分に合ったキャリア選択(学外講師を予定) 4 企業に求められる人材とは(学外講師を予定) 5 仕事と社会について①:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 6 仕事と社会について②:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 7 仕事と社会について③:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 8 ライティング基礎(文章とは、文章表現)(学外講師を予定) 9 ライティング基礎(自分の言いたいことをまとめる)(学外講師を予定) 10 ライティング基礎(自己 PR・エントリーシートを書く)(学外講師を予定) 11 メタバースを用いた企業探求(学外講師を予定) 12 グループワーク①(自分にとっての働く意味) 13 グループワーク②(企業に求める働き方) 14 グループワーク③(大学生の職業選択:卒業生との交流会) 15 まとめ最終レポート作成			
【履修条件】	これからの学生生活を充実しようという1年生から、就職活動に入りつつある3年生、そして社会に出ようとする4 年生まで、将来への意欲を高めたい人の受講を期待する。			
【評価方法】	小レポート(講義要旨及び感想)、最終レポート			
【テキスト】	必要であれば随時印刷し、配布します。			
【参考書】				
【備考】	授業終了後をはじめ講師の方と懇談の機会等もあるので、積極的に参加してください。			
【社会人聴講生】	社会人聴講生不可	【科目等履修生】	科目等履修生聴講 可。なお、学生と同じ 課題をこなすこと	【交換留学生】

【科目名】	男女共同参画社会とジェンダー	Gender Equal Society and Gender			
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	木曜 5 限		
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	男女ひとり一人が対等な立場で、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」(Gender Equal Society、ジェンダー平等社会)の実現は、今日のグローバル社会における普遍的な理念であり、21 世紀日本社会の最重要課題であることを深く認識し、男女共同参画社会およびその中心的概念であるジェンダーについての理解を深め、男女共同参画社会の実現に向けて取り組む問題意識と意欲を身につけることができるようになる。				
【授業概要】	まずはじめに、男女共同参画社会の意義と必要性、ジェンダーの視点の重要性などを概観し、男女共同参画社会の基礎について学ぶ。それをふまえて、以降は、より視野を広げ、男女共同参画社会の実現に向かおうとする今日の社会の現状と課題について、さまざまな領域にわたるテーマを設定し、それらの諸問題をジェンダーの視点から批判的に分析、考察する。				
【授業方法】	講義形式でさまざまな分野にわたる男女共同参画社会とジェンダーについての諸問題を幅広く論じる。				
【授業展開】	<p>以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。</p> <p>第 1 回：イントロダクション</p> <p>第 2 回：性別をめぐる諸問題</p> <p>第 3 回：ジェンダー・セックス・規範、社会化・教育とジェンダー</p> <p>第 4 回：労働とジェンダー(1)労働とジェンダーの歴史的変容と性別役割分業</p> <p>第 5 回：労働とジェンダー(2)労働とジェンダーの格差、不平等構造</p> <p>第 6 回：労働とジェンダー(3)女性労働の課題とワークライフバランス社会</p> <p>第 7 回：家族とジェンダー(1)近代家族の形成、特徴とジェンダー</p> <p>第 8 回：家族とジェンダー(2)家族制度における性差別とドメスティック・バイオレンス</p> <p>第 9 回：リプロダクティブ・ヘルス&amp;ライツとジェンダー(1)母性という幻想とリプロダクティブ・ヘルス&amp;ライツ</p> <p>第 10 回：リプロダクティブ・ヘルス&amp;ライツとジェンダー(2)性と身体、生殖テクノロジー</p> <p>第 11 回：暴力とジェンダー</p> <p>第 12 回：性の商品化とジェンダー</p> <p>第 13 回：性的マイノリティとジェンダー(1)トランスジェンダー</p> <p>第 14 回：性的マイノリティとジェンダー(2)異性愛主義と同性愛差別、性自認と性的指向</p> <p>第 15 回：まとめ—男女共同参画社会の見取り図</p> <p>(取り上げるテーマの順序・内容は変更されることがある)</p>				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	特定のテキストは用いないが、必要な資料がもしあれば、ユニバーサルパスポートを通じてその都度教員が配布、提示する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で提示する。				
【備考】	授業は対面で実施するが、状況によってはシラバス内容が変更される場合があるので、ユニバーサル・パスポートを通じたシラバスの修正等の掲示や教員からの連絡に常に注意すること。なお受講人数は、履修登録先着順で 50 名までとする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人権が支える社会	The society which human rights support		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	火曜 5 限	
【科目責任者】	坪田光平			
【担当教員】	坪田光平			
【授業目標】	本授業では、人権にまつわる基礎概念について理解を深めるだけでなく、様々な人権問題を通じて、人権と社会の相互関係について主体的に考察できるようになることを目的とします。			
【授業概要】	人権って、どこか古臭くて堅苦しそう——そう考えていませんか。体外受精、監視カメラ、AI に至るまで、人権は、科学技術の進展とともに絶えず問い直されていく極めて重要かつ論争的なテーマであり続けています。本授業では、人権問題を捉える基本的な視座を概説していきますが、論争的な事例を取り上げたディスカッションを通して、自分事として人権問題を捉え、その解決を検討できるようになる場を提供します。			
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、前半を講義形式で進め、後半はグループディスカッション形式で進めます。</li> <li>・グループでディスカッションした結果について、簡単に発表してもらうことがあります。</li> <li>・授業後半／終了時に、毎回コメントペーパーの提出を求めます。</li> </ul>			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: 人権を考える</li> <li>2. 人権共有主体: パパは「日本人」なのに、僕は「日本人」ではないの？</li> <li>3. 幸福追求権: 自分の髪型を自分で決めてはいけないの？</li> <li>4. 法の下での平等: 相続分が子どもによって異なっていたのはなぜ？</li> <li>5. 思想・良心の自由: 国歌は起立して歌わなくてはだめですか？</li> <li>6. 信教の自由・政教分離: 教えに反する授業を休んでもいいですか？</li> <li>7. 表現の自由: 「お前ら日本から出ていけ」と叫んでもいいですか？</li> <li>8. 職業の自由: 菓がネットで注文できなかったのはなぜ？</li> <li>9. 学問の自由・大学の自治: 遺伝子研究で人の運命を変えていくことができますか？</li> <li>10. 生存権: 人間らしく生きるってどういうことですか？</li> <li>11. 教育を受ける権利: 私たちが教わったことは、誰かにとって都合のいい事実だったの？</li> <li>12. 労働権: バイトを辞めると言われたら、退職しないとイケないのですか？</li> <li>13. 財産権: 自分の家なのに出でいかないといけないのですか？</li> <li>14. 奴隷的拘束からの自由・裁判を受ける権利: ビラを投函すると捕まるのですか？</li> <li>15. 選挙権: 選挙に行く意味はどこにあるのですか？</li> </ol>			
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とくにグループディスカッションに対して、意欲的に参加することを求めます。</li> <li>・単位取得を目的とした安易な履修はお断りします。</li> </ul>			
【評価方法】	毎回のコメントペーパー(web 上での入力による提出)とレポート課題をもとに評価します。			
【テキスト】	宍戸常寿編著(2020)『18 歳から考える人権』法律文化社			
【参考書】	<p>関連する文献は授業中に適宜紹介します。</p> <p>教員がレジュメを配布するため、テキストは購入しなくても構いません。</p>			
【備考】	毎回授業のはじめに、提出されたコメントペーパー(一部)について簡単にコメントを行うことがあります。			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】



【科目名】	ジャーナリズム論	Journalism studies			
【開講時期】	2024 年度後期	【開講時限】	金曜 5 限		
【科目責任者】	西恭之				
【担当教員】	* 小川和久、* 西恭之				
【授業目標】	民主主義におけるジャーナリズムの役割と、健康と安全へのリスクの報道の実態を理解し、メディアを通じた情報の受け手と発信者としての能力を高める。				
【授業概要】	災害・医薬・食品など様々なリスクの報道を検証し、報道と誤報の構造をメディア組織と心理の両面から分析する。				
【授業方法】	対面授業。グローバル地域センター教員 2 名とゲスト講師がオムニバス方式で講義する。グループワークもおこなう。				
【授業展開】	<p>第 1 回(10/4) なぜ、ジャーナリズム論か</p> <p>第 2 回(10/11) メディアが見逃す危機管理の死角</p> <p>第 3 回(10/18) 軍事と危機管理の報道が平和と安全を左右する</p> <p>第 4 回(10/25) 誤報が平和を妨げる</p> <p>第 5 回(11/1) ネットメディアの特徴と使い方</p> <p>第 6 回(11/8) ファクトチェック・ジャーナリズム(1)</p> <p>第 7 回(11/15) ファクトチェック・ジャーナリズム(2)</p> <p>第 8 回(11/22) アカデミ・ジャーナリズム</p> <p>第 9 回(11/27(水)) ノンフィクションをどう書くか</p> <p>第 10 回(12/6) 中国報道の取り組みと課題</p> <p>第 11 回(12/13) 危険地報道の取り組みと課題</p> <p>第 12 回(12/20) 調査報道とそのツール</p> <p>第 13 回(1/10) 実名報道</p> <p>第 14 回(1/24) 食品・医療・環境のリスク認知</p> <p>第 15 回(1/31) 安全・安心をどのように報道するか</p> <p>* 講義内容および講義回の入替えの可能性がある。</p>				
【履修条件】	無し				
【評価方法】	レポート 50%、その他の課題 30%、議論への参加 20%				
【テキスト】	<p>小川和久『メディアが報じない戦争のリアル』SB 新書</p> <p>猪谷千香『その情報はどこから?』ちくまプリマー新書</p> <p>澤康臣『事実はどこにあるのか』幻冬舎新書</p> <p>その他配布する。</p>				
【参考書】	<p>小川和久『フテンマ戦記』文藝春秋</p> <p>小川和久『危機管理の死角 狙われる企業、安全な企業』</p> <p>小川和久『日本人が知らない集団的自衛権』文春新書</p> <p>その他紹介する。</p>				
【備考】	* 国や自治体の防災・危機管理・安全保障政策の立案と検証に関わっている教員(小川はジャーナリストとしての経験も有する)が、これらの分野におけるジャーナリズムの役割と課題について講義する。また、現役ジャーナリストが、専門分野において担当した報道について講義する。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	キャリアと社会	Career and Society		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	森本和義・現代社会学部現代社会学科教授(羽衣国際大学(大阪府堺市))			
【担当教員】	日向浩幸・現代社会学部准教授(羽衣国際大学)他(南大阪地域大学コンソーシアム参加大学教員)			
【授業目標】	社会人として求められているのは、論理力、プレゼンテーション能力、主体性、課題発見・解決能力であるが、通常の平凡な大学生活ではなかなか身に付くものではない。 2泊3日の密度の濃い合宿での集中講座と関西空港でのフィールドワーク、その後の他大学学生とのグループディスカッション、そして、発表(プレゼン)を通じて、このような力を身に付けることを目指す。			
【授業概要】	関西空港をフィールドにして、論理力、プレゼンテーション能力、主体性、課題発見・解決能力を身につける。			
【授業方法】	3日間の集中講座として合宿方式(ホテル日航関西空港)			
【授業展開】	<p>* 下記の内容を予定している。変更の可能性有り。</p> <p>&lt;第1日目&gt;</p> <p>① オリエンテーション 自己紹介 グループ決め</p> <p>② 関空&amp;泉州からのミッション提示</p> <p>② 講義①「チームでワークする」</p> <p>③ テーマを決めよう ワーク「関空・泉州地域の魅力発見！」</p> <p>④ テーマ発表 質疑応答</p> <p>⑤ 講義②「フィールドワークに出よう」講義③「企画書を作ろう」</p> <p>&lt;第2日目&gt;</p> <p>① 企画づくり 講義④「論拠を示す・思い付きを形にするために」</p> <p>② 情報収集</p> <p>③ 企画を深掘りしよう</p> <p>④ 講義⑤「効果的なプレゼンテーションをしよう！」プレゼン資料作成</p> <p>⑤ 中間発表(プレゼンテーション)と講師からの批評</p> <p>⑥ プレゼンテーション資料の見直し</p> <p>&lt;第3日目&gt;</p> <p>① グループ毎にプレゼンテーション資料の作成</p> <p>② リハーサル</p> <p>③ 最終発表(プレゼンテーション)と講師からの批評</p> <p>④ 全体講評とまとめ</p> <p>⑤ 修了式</p>			
【履修条件】	2年次以上			
【評価方法】	1)事前課題(宿題)の提出:10% 2)出席状況や受講態度(協調性):40% 3)調査活動力、情報リテラシーおよびプレゼン能力:50%			
【テキスト】	なし			
【参考書】	なし			
【備考】	<p>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業となるため、単位互換協定を締結している大学(南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度参加大学、県内からは静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学他)の学生も参加する。</p> <p>・学生負担金として、29,500円(宿泊2泊、朝・夕各2回)(予定)を徴収する。</p>			
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】

【科目名】	高野山で学ぶキャリアとわたし	Field Work and Self-Discovery in Koyasan		
【開講時期】	2024 年度前期	【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	森本一彦・文学部教授(高野山大学(和歌山県))			
【担当教員】	北山真寛(高野山大学)他(南大阪地域大学コンソーシアム参加大学教員)			
【授業目標】	本講座を通して、「高野山」を発見すること、他者とのつながりのなかで輪郭を失わない、深みのある「自分」を発見することで、自分の適性や将来のキャリアデザインを考えるきっかけとなることを目指す。			
【授業概要】	“高野山を発見すること”と“わたしを発見すること”の2本の柱で構成されている。 高野山という特別な空間で2泊3日を過ごし、勤行や写経他の宗教体験を含む密度の濃い集中講義と、グループでの山内のフィールドワークを行う。 最終日には、フィールドワークで発見した高野山をプレゼンし、多彩なゲストティーチャーから審査を受ける。			
【授業方法】	3日間の集中講座として合宿方式(高野山)			
【授業展開】	<p>* 下記の内容を予定している。変更の可能性有り。</p> <p>&lt;第1日目&gt;</p> <p>① オリエンテーション リーダー決め グループ決め</p> <p>② 講義①「フィールドワークの説明～高野山で1つ発見しよう！」</p> <p>③ 高野山をフィールドワーク</p> <p>④ テーマ決め</p> <p>&lt;第2日目&gt;</p> <p>① 朝の勤行、写経、礼拝行</p> <p>② 計画書にそって情報収集(フィールドワーク)、企画づくり</p> <p>③ 講義②「プレゼンテーション講座」</p> <p>④ 中間プレゼンテーション</p> <p>⑤ 自己啓発①「自分を知る」</p> <p>⑥ プレゼンテーション準備(プレゼン資料作成)</p> <p>&lt;第3日目&gt;</p> <p>① 朝の勤行、瞑想</p> <p>② リハーサル</p> <p>③ 最終発表(プレゼンテーション)と講師からの批評</p> <p>④ 自己啓発②「自分にとって大切なことを考える」</p> <p>⑤ 全体講評とまとめ</p> <p>⑥ 修了式</p>			
【履修条件】	宿坊はお寺であることから、参加するにあたりふさわしい着衣や行動などの心構えがあること			
【評価方法】	1)事前課題(宿題)の提出:10% 2)出席状況や受講態度(協調性):40% 3)調査活動力、情報リテラシーおよびプレゼン能力:50%			
【テキスト】	なし			
【参考書】	なし			
【備考】	<p>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業となるため、単位互換協定を締結している大学(南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度参加大学、県内からは静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学他)の学生も参加する。</p> <p>・学生負担金として、21,500円(宿泊2泊、朝・夕各2回、写経用具一式)(予定)を徴収する。</p>			
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】

【科目名】	基礎経営学	Basic Business Administration		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	竹下 誠二郎			
【担当教員】	*竹下 誠二郎			
【授業目標】				
●授業目的	1) 経営学の基本的概念を理る。 2) 組織経営の観点から日々の企業・組織に関する事例を理解できるようになる。			
●到達目標	主に企業や組織の運営における基本的概念を培う。 今後、深査したい経営分野が明確化できるようになる。			
【授業概要】	経営学を初めて学ぶ学生を対象に、企業や組織を運営・管理するための体系・理論の習得を目指す。企業や組織は戦略と方向感を定め、限られた資源を分配し、事業を展開する。これらを実行に移すための様々な経営戦略やマネジメント、そして企業活動において不可欠なマーケティングや資金調達などの財務管理についても習得する。最終的には日々起きている企業・組織の事例を経営学の観点から考えることができるようにする。			
【授業方法】	レクチャーが中心だが、理論をよりよく解釈するために、過去・現在進行中の企業事例を頻繁に使い、実践的な考え方を身につけることも目指す。ゲスト・スピーカーも招くことがある。質問、発言など、生徒の積極的な参加を大いに重視する。			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 インTRODクシヨン 第2回 経営学とは何か 第3回 組織行動論 第4回 組織理論 第5回 コーポレート・ガバナンス 第6回 社会科学における調査と分析 第7回 経営戦略論(1): 戦略論の基礎 第8回 経営戦略論(2): 競争戦略論 第9回 成長戦略と組織 第10回 国際化の戦略と組織 第11回 イノベーションの戦略と組織 第12回 コーポレート・コミュニケーション / CSR 第13回 マーケティング 第14回 ファイナンス・財務管理 第15回 日本の経営課題・まとめ 第16回 レポート			
【履修条件】	(既習指定科目など) 特になし			
【評価方法】	授業への取り組み: 50%、期末レポート: 50%			
【テキスト】	榊原清則著『経営学入門』(上巻、下巻) 日本経済新聞出版社			
【参考書】	参考文献は適宜紹介・配布する。			
【備考】	国内・海外の金融機関において長期かつ多彩な海外勤務経験を有する教員が、そこでの実務経験も踏まえ、基礎経営論について講義する。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	会計学総論	Introduction to Accounting			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	上野雄史				
【担当教員】	上野雄史				
【授業目標】					
●授業目的	<p>この授業では、会計学の諸理論を学び、会計が社会において果たしている役割(機能)の基本的な理解を深めます。こうした学びを通じて、社会の諸問題を会計を通じて考察できる能力(思考能力)を身に付けることを目指します。具体的には以下の4つの点を重視します。</p> <p>①前期で学んだ簿記論の知識を活用しながら、財務諸表の構造を仕訳で説明できるようになること  ②企業の財務諸表の基本的な要素を読み取ることができるようになること  ③会計学の基本的な理論を理解し、その機能と課題を説明できるようになること  ④会計が社会において果たしている機能を理解し、自分なりの考え方を示せるようになること</p> <p>これらの目的を満たすために、企業が発行している有価証券報告書の読み取りをこの講義では重視します。</p>				
●到達目標	有価証券報告書から基本的な会計・企業情報を読み取れるようになることを目標としています。				
【授業概要】	<p>会計は社会システムのインフラです。東芝の不適切(不正)会計では、公認会計士の監査判断や選択適用が認められた会計処理方法に注目が集まりました。東芝の不祥事をきっかけに監査報告書の透明化が検討されています。社会と会計の関係は連動し、二つの結びつきを同時に理解する必要があります。マーケティング、経営、非営利、税金、監査などの様々な視点から会計の機能についてみていきます。</p>				
【授業方法】	講義と演習や事例検討を通じて会計と社会との関係について理解を深めます。グループ内でのディスカッションも必要に応じて行います。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>① 社会のインフラとしての会計とそれを学び意義  ② 意思決定と情報(第1章)  ③ 信頼性があり、役立つ情報が大事(第2章)  ④ ディスクロージャー制度を学ぶ(第3章・第4章)  ⑤ 税務署長講演  ⑥ 小テスト①/中間レポート準備  中間レポート:提出  ⑦ 中間レポート振り返り・貸借対照表の仕組みを改めて学ぼう(第5章)  ⑧ 損益計算書の仕組みを改めて学ぼう(第6章)  ⑨ 特別講義:監査不正の事例から会計の重要性を学ぼう  ⑩ 小テスト②/キャッシュ・フロー計算書の仕組みを学ぼう(第7章)  ⑪ 株主資本の構成を学ぼう(第8章)  ⑫ 有価証券報告書を解説しよう①  ⑬ 有価証券報告書を解説しよう②  ⑭ 有価証券報告書を解説しよう③  ⑮ 会計と社会システム  最終レポート:締め切り:  ⑯ テスト /レポート提出評価フィードバック</p>				
【履修条件】					
【評価方法】	<p>授業中に出してもらっているレポート 30点(15回×2点)  テスト 30点  レポート 30点  簿記・関係に関連する課題 10点  *点数配分は若干調整する可能性がありますが、その際には事前に連絡します。</p>				
【テキスト】	授業前に連絡します。				
【参考書】	授業時に連絡します。				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受入れ不可	【科目等履修生】	受入れ不可	【交換留学生】	受入れ可

【科目名】	簿記論	Basic Accounting (Bookkeeping)			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	森 勇治				
【担当教員】	森 勇治				
【授業目標】					
●授業目的	<p>会計は幅広い組織、市場、社会を成立させるには不可欠な仕組みである。簿記イコール会計とも理解されることもあるが、それは誤りに過ぎない。会計はより広範な社会制度である。</p> <p>しかしながら会計において、財務情報は重要なデータであり、その財務情報の作成技法である簿記は会計の基礎である。この授業では簿記の基本的な知識と技術を習得する。</p>				
●到達目標	日商簿記検定3級の合格				
【授業概要】	多くの組織では複式簿記によって財務取引の記録・報告を行う。この授業では複式簿記の基本的な知識と技術を講義と計算演習を通じて獲得する。そして最終的には日商簿記検定3級の合格を目指す。				
【授業方法】	<p>講義と計算演習による。</p> <p>計算演習では、お互いに学び合う、教え合う、人間関係の構築を目指す。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス: 授業概要と簿記の意義と仕組み</li> <li>2 仕訳と転記</li> <li>3 仕訳帳と元帳</li> <li>4 決算</li> <li>5 現金と預金</li> <li>6 繰越商品・仕入・売上</li> <li>7 売掛金と買掛金</li> <li>8 その他の債権と債務</li> <li>9 受取手形と支払手形</li> <li>10 有価証券</li> <li>11 貸倒損失と貸倒引当金</li> <li>12 資本</li> <li>12 収益と費用</li> <li>13 税金</li> <li>14 財務諸表</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	毎週実施する小テスト・最終テストの合計点で評価する予定である。具体的な評価方法は授業の初回時に説明する。				
【テキスト】	<p>下記の2冊は初回の授業から使うので、「必ず」購入して、受講すること。</p> <p>①『検定簿記講義 3級商業簿記』(中央経済社)最新版</p> <p>②『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』(中央経済社)最新版</p>				
【参考書】					
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期に開講されるであろう会計学総論の受講の前提科目ではない。つまりそこには連続性はない。</li> <li>・履修者には日商簿記3級の受験(統一試験もしくはネット試験)を強く推奨している。</li> <li>・注意: 再履修者は今年度の履修登録が必要である。履修登録を行わない場合は、今年度の単位は付与できない。</li> <li>・日商簿記3級以上または全商簿記2級以上に合格した学生には、申請により簿記論の単位(優)を与えている(ただし簿記論の履修登録は必要)。</li> <li>・コロナ感染リスクを考慮しながらも、対面で講義を行う予定である。授業計画を変更する可能性があることに留意して欲しい。</li> </ul>				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	事前に相談の上、許可します。	【科目等履修生】	事前に相談の上、許可します。	【交換留学生】	事前に相談の上、許可します。

【科目名】	基礎統計学 I	Introduction to Statistics I		
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期	
【科目責任者】	*東野定律			
【担当教員】	*東野定律			
【授業目標】				
●授業目的	経営と情報処理に利用される基本的な統計知識を習得する。			
●到達目標	統計と確率の基本を把握し、基本的な統計知識の習得をする。			
【授業概要】	経営と情報処理に利用される基本的な統計知識の習得を目的として、統計学の基本概念を学習する。分類表の作り方からはじめて、度数分布と平均、確率と確率分布を学び、統計と確率の基本を把握する。次いで、統計で重要な役割を果たす正規分布を学習し、検定と推定の考え方を学ぶ。			
【授業方法】	なお、本年度は基本的に対面授業とし、感染状況によってはオンデマンド講義に切り替える。なるべく多くの問題をとりあげて解説する。理解が困難と思われる内容は数式の誘導とともに、背後にある基本概念の説明に努める。高校で確率・統計を履修していない学生にも理解できるように授業をすすめる。			
【準備学習】				
【授業展開】	1 はじめに 2 分類表 3 度数分布表 4 代表値、散布度 5 確率(和と積、排反事象と独立事象) 6 順列と組合せ 7 ベイズの定理 8 幾何分布と二項分布 9 確率変数と確率分布 10 正規分布 11 変数の正規化と正規分布表 12 極限定理 13 標本と母集団 14 推定の考え方 15 期末まとめ 以上を対面形式の講義で展開する。			
【履修条件】	(既習指定科目など)			
【評価方法】	毎週の課題状況、中間試験、最終試験により総合的に評価する。			
【テキスト】	テキスト:適宜指示します。			
【参考書】				
【備考】	担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	統計概論			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	経営工学	Industrial Engineering					
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期				
【科目責任者】	井本 智明						
【担当教員】	井本 智明						
【授業目標】							
●授業目的	オペレーションズ・リサーチや確率・問系の基本的な手法と考え方を習得する。						
●到達目標	現実に起こり得る問題を、数学的な問題として定式化し、解決・解釈ができるようにする。						
【授業概要】	第二次世界大戦中に生まれ、戦後に急速な進歩をみせたオペレーションズ・リサーチ(OR)の基本的な手法を主な対象として、その使い方と理論的な背景を平易に解説する。ORの手法は決定的模型と確率的模型に大別されるが、この授業ではこのうち確率的模型を主にとりあげる。						
【授業方法】	例題を中心に解説をおこない、数式の誘導とともに、背後にある基本概念の説明に努める。						
【準備学習】							
【授業展開】	1 数理モデル 2 線形計画法 3 シンプレックス法 4 双対問題 5 動的計画法 6 最短経路探索問題の解法例 7 条件付きの最適化の総評 8 確定的な在庫管理 9 統計を用いた在庫管理 10 新聞売り子問題 11 確率の概要 12 マルコフ連鎖 13 ポアソン過程 14 待ち行列過程 15 まとめ						
【履修条件】	基礎統計学Ⅰ, 基礎数学Ⅱを履修していることが望ましい。						
【評価方法】	確認テスト含む授業への取り組み(70%), レポート(30%)によって評価する。						
【テキスト】	講義1週間前にプリントやファイルを配布						
【参考書】	加藤豊ら「OR入門 意思決定の基礎」実教出版 田畑吉雄「経営科学入門」牧野書店 松井泰子ら「入門オペレーションズ・リサーチ」東海大学出版 木村俊一「待ち行列の数理モデル」朝倉書店 など						
【備考】	なし						
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営工学概論						
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可(日本語での聞き取りが可能であることを前提とする)



【科目名】	基礎経済学	Basic Economics			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	岸 昭雄				
【担当教員】	岸 昭雄				
【授業目標】					
●授業目的	経済学の基礎理論について理解を深めることを目標とします。				
●到達目標	経済学の基礎理論を習得することにより、より発展的な経済系の科目を理解するための基礎を作る。				
【授業概要】	経済学への入門コースであり、これまで経済学を学んだことのない人を対象としています。 経済学という学問の全体像を理解するために、前半はミクロ経済学、後半はマクロ経済学を中心とした内容について説明します。				
【授業方法】	講義形式による。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 はじめに 経済学とは 2 ミクロ経済学 1 ミクロからの視点 3 ミクロ経済学 2 需要曲線と消費者行動 4 ミクロ経済学 3 供給曲線と生産者行動 5 ミクロ経済学 4 市場取引と資源配分 6 ミクロ経済学 5 ゲーム理論 7 ミクロ経済学 6 市場の失敗 8 ミクロ経済学 7 不確実性と不完全情報 9 マクロ経済学 1 マクロからの視点 10 マクロ経済学 2 有効需要と乗数メカニズム 11 マクロ経済学 3 貨幣の機能 12 マクロ経済学 4 マクロ経済政策 1 財政政策と金融政策 13 マクロ経済学 5 マクロ経済政策 2 IS-LM 分析 14 マクロ経済学 6 マクロ経済政策 3 インフレと失業 15 まとめと展望				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	出席状況と試験結果から総合的に評価				
【テキスト】	授業開始時に説明します。				
【参考書】	新聞を毎日読み、日本や世界でどのような経済問題が起こっているかを理解するようにしましょう。				
【備考】	特になし				
【旧カリキュラム 読み替え科目】	特になし				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可。条件なし。	【科目等履修生】	科目等履修生履修可。条件なし。	【交換留学生】	不可

【科目名】	行財政学概論	Introduction to Public Administration and Finance	
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期
【科目責任者】	* 松岡 清志		
【担当教員】	* 松岡 清志		
【授業目標】			
● 授業目的	本学部で学ぶ4分野のうち総合政策はもちろんのこと、それ以外の経営、データサイエンス、観光の分野においても何らかの形で政府や地方自治体との関わりを持っており、私たちが日々の生活を営む中でも様々な接点を有しています。本講義ではこのような政府や自治体に関する基本的な仕組みを習得することを目的とします。		
● 到達目標	政府や地方自治体の仕組みについて幅広い観点から知識を深め、社会課題の解決や望ましい社会像の実現における政府や地方自治体の役割について考察できるようになることが目標です。		
【授業概要】	冒頭に行政および財政とはいかなるものかを簡潔に紹介したうえで、行財政に関する諸要素を解説いたします。加えて、講義内では国および地方自治体が行う政策や、その他時事ニュースについての解説も適宜行います。		
【授業方法】	事前に提供した事前に提供した資料をもとに、板書を中心とした補足説明を交えて講義を行います。講義内では受講者のみなさんに意見をうかがう機会や、ミニワークもありますので、講義への積極的な関心を持って受講してください。 講義内容について質問がありましたら、どうぞ遠慮なくお尋ねください。		
【準備学習】			
【授業展開】	第1回 イン트로ダクション 第2回 行政および財政とは何か 第3回 行政の役割、行政と政治の関係 第4回 国と地方自治体の関係 第5回 行政と民間の関係 第6回 内閣と中央省庁 第7回 公務員制度 第8回 政策の構造と類型、政策循環 第9回 行財政に関する最新のトピック 第10回 予算・決算制度 第11回 財政民主主義 第12回 租税体系 第13回 社会保険制度 第14回 財政の持続可能性 第15回 まとめ		
【履修条件】	特に前提となる条件はありません。		
【評価方法】	学期中に数回実施する出席ミニレポート(20%)と学期末に実施する試験(80%)を合算して評価を行います。		
【テキスト】	特に指定しません。講義資料については事前にオンライン上で提示致しますので、各自ダウンロードまたは印刷のうえ、ご参加ください(教室での資料配布は原則として行いませんのでお気をつけてください)。		
【参考書】	縣公一郎・藤井浩司(編)『コレク政策研究』成文堂、2007。 縣公一郎・藤井浩司(編)『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版部、2016。 秋吉貴雄『入門公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論新社、2017。 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎(第3版)』有斐閣、2020。 伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学[新版]』有斐閣、2022。 宇野二郎・長野基・山崎幹根(編)『テキストブック地方自治の論点』ミネルヴァ書房、2022。 北山俊哉・稲継裕昭(編)『テキストブック地方自治(第3版)』東洋経済新報社、2021。 曾我謙悟『日本の地方政府 1700 自治体の実態と課題』中央公論新社、2019。 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020。 西尾隆『現代の行政と公共政策』放送大学教育振興会、2016。 西岡晋・廣川嘉裕(編)『行政学』文眞堂、2021。 藤井浩司・縣公一郎(編)『コレク行政学』成文堂、2007。 藤巻秀夫(編著)『地方自治の法と行財政』八千代出版、2012。 森田朗『現代の行政 新版[第2版]』第一法規、2022。 その他、適宜紹介いたします。		
【備考】	担当者は、2020 年度まで行政のデジタル・トランスフォーメーションに関する研究機関に在籍し、国および地方自		

	<p>治体におけるデジタル技術の活用、公共サービス提供における行政と民間および個人の協働などについて研究を行うとともに、行政機関の先行事例に関する調査やガイドライン作成の支援を行った経験を有しております。本講義では、これらの経験を踏まえた近年の動向についても解説する予定です。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし。				
【社会人聴講生】	<p>受入可能です。但し、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>	【科目等履修生】	<p>受入可能です。但し、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>	【交換留学生】	<p>受入可能です。但し、講義は原則として日本語で行います。また、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>

【科目名】	情報処理概論	Introduction to Information Processing			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭				
【授業目標】					
●授業目的	コンピュータのハードウェアの動作原理、ソフトウェアの構成や互いの関連など、コンピュータの基礎的原理を修得する。また、コンピュータを使った情報処理についての理解を深めるため、社会での IT 活用事例などについて学ぶ。				
●到達目標	コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎および社会での ICT 利活用などについて理解できるようになる。				
【授業概要】	この授業ではパソコンなど操作した際にコンピュータ内部で起こっていることを解説し、コンピュータに対する理解を深めてもらう。特にコンピュータ本体や周辺装置などのハードウェアの動作原理およびソフトウェアの原理を理解することに重点を置く。また、社会での様々な IT 活用事例を取り上げ、コンピュータによる情報処理についての理解を深める。				
【授業方法】	座学形式の講義であり、理解を容易にするため適宜、スライドや映像を交えながら説明を行う。感染症拡大の状況によっては、Zoom を使ってオンラインで授業を実施する。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報処理とは</li> <li>2. 数の表現、2進法、2進法による加減乗除算</li> <li>3. 数値データの表現法、文字データの表現法、コード</li> <li>4. コンピュータ本体の構成</li> <li>5. 主な入出力装置の仕組み</li> <li>6. 補助記憶装置の仕組み</li> <li>7. コンピュータの歴史</li> <li>8. ソフトウェア(オペレーティングシステム)</li> <li>9. ソフトウェア(ミドルウェア、応用ソフトウェア)</li> <li>10. ネットワーク</li> <li>11. 情報処理システムの経営での利用</li> <li>12. IT の活用事例</li> <li>13. 電子商取引</li> <li>14. 情報処理システムの社会での利用</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>期末試験</p>				
【履修条件】	(既習指定科目など)				
【評価方法】	授業への取り組み(30%)、レポート・小テスト、期末試験など(70%)				
【テキスト】	「教養情報科学概論」共立出版				
【参考書】					
【備考】	感染症拡大状況などにより授業方法に変更の可能性がある。 授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報処理概論				
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	経営情報システム概論	Intro to Information System for Management				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	相良 陸成					
【担当教員】	相良 陸成					
【授業目標】						
●授業目的	企業活動を支えている経営情報システムについて、その概念および設計・構築方法を理解することを目的とする。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営情報システムの様々な形態を理解する。</li> <li>・経営情報システムの設計・構築方法の概要を理解する。</li> <li>・経営情報システムの共通的なトピック(ISMS, IT サービスマネージメント等)を理解する。</li> </ul>					
【授業概要】	<p>企業において経営情報システムは、業務効率化や経営戦略の支援等によりその活動を支えている。近年情報技術が急速に成長する中で、このような情報システムの重要性はますます高まっている。</p> <p>そこで本科目では、まず経営情報システムの基本的な概念やその役割を解説する。その後、経営情報システムをどのように設計・構築・管理するのかについて解説する。さらに、セキュリティとの関連や、実際に世の中で活躍している情報システムについても解説する。</p>					
【授業方法】	講義形式で授業を行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 経営情報システムの基礎(情報、システム、情報システム)</li> <li>3. 経営情報システムの歴史と進化(EDPS, MIS, DSS など)</li> <li>4. 経営情報システムの歴史と進化(SIS など)</li> <li>5. システム思考(個人の情報システム、社会システム論と情報)</li> <li>6. 組織と情報システム</li> <li>7. 個人と組織の意思決定</li> <li>8. 職場の情報化</li> <li>9. 経営情報システムの構築(基本的な設計・構築方法)</li> <li>10. 経営情報システムの構築(SaaSの利用 など)</li> <li>11. 経営情報システムの管理(IT サービスマネージメント)</li> <li>12. 経営情報システムの管理(セキュリティ)</li> <li>13. 情報システム監査の基礎</li> <li>14. 情報システム監査とセキュリティ</li> <li>15. 世の中で活躍する情報システム</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>					
【履修条件】						
【評価方法】	小テスト(30%)および期末試験(70%)により評価する。 ただし、出席数が不足する場合は不可とする。					
【テキスト】	特になし					
【参考書】	遠山暁他『現代経営情報論』有斐閣、2021 宮川公男『経営情報システム』中央経済社、2014					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営情報システム概論					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報処理演習	Information Processing Practices		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	武藤伸明			
【担当教員】	武藤伸明 湯瀬裕昭 大久保誠也			
【授業目標】				
●授業目的	UNIX オペレーティングシステムと、プログラミング言語 C の使用法について、実習形式で学ぶ。			
●到達目標	UNIX とプログラミング言語 C の基本を身につける。			
【授業概要】	インターネット上でのサーバのオペレーティングシステムとして UNIX は広く使用され、また、PC 上で手軽に使える UNIX である Linux も普及してきていることなどから、UNIX の基本的な使用法について解説し、演習を行う。また、現在でもよく使用されるプログラミング言語である C 言語を取り上げ、プログラミングの基礎について学び、演習を行う。			
【授業方法】	コンピュータを用いた実習形式で授業を進める。			
【準備学習】				
【授業展開】	1. UNIX システムへのログイン 2. UNIX の簡単なコマンド (1) 3. UNIX の簡単なコマンド (2) 4. ファイルの操作 5. ディレクトリの操作 6. Emacs 入門 (1) 7. Emacs 入門 (2) 8. UNIX の環境設定 9. C 言語入門 (はじめに) 10. C 言語入門 (入力と出力) 11. C 言語入門 (簡単な計算) 12. C 言語入門 (練習問題) 13. C 言語入門 (条件分岐) 14. C 言語入門 (繰り返し) 15. C 言語入門 (練習問題) 期末試験			
【履修条件】				
【評価方法】	授業への取り組み (50%)、レポート・小テスト・期末試験など (50%) によって評価する。			
【テキスト】	湯瀬裕昭、渡部和雄編著. 大学必修情報リテラシ ―Windows Vista, Office 2007, Active! mail 対応―. 共立出版, 2009.			
【参考書】				
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報処理演習IV			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	情報処理演習	Information Processing Practices				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度後期			
【科目責任者】	武藤伸明、湯瀬裕昭					
【担当教員】	武藤伸明、湯瀬裕昭、大久保誠也					
【授業目標】						
●授業目的	UNIX オペレーティングシステムと、プログラミング言語 C について、実習形式で学ぶ。					
●到達目標	UNIX とプログラミング言語 C の基本を身につける。					
【授業概要】	インターネット上でのサーバのオペレーティングシステムとして UNIX は広く使用され、また、PC 上で手軽に使える UNIX である Linux も普及してきていることなどから、UNIX の基本的な使用方法について解説し、演習を行う。また、現在でもよく使用されるプログラミング言語である C 言語を取り上げ、プログラミングの基礎について学び、演習を行う。					
【授業方法】	コンピュータを用いた実習形式で授業を進める。具体的にはネットワークを通じて大学のサーバに接続し実習を行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. UNIX システムへのログイン</li> <li>2. UNIX の簡単なコマンド (1)</li> <li>3. UNIX の簡単なコマンド (2)</li> <li>4. ファイルの操作</li> <li>5. ディレクトリの操作</li> <li>6. Emacs 入門 (1)</li> <li>7. Emacs 入門 (2)</li> <li>8. UNIX の環境設定</li> <li>9. C 言語入門 (はじめに)</li> <li>10. C 言語入門 (入力と出力)</li> <li>11. C 言語入門 (簡単な計算)</li> <li>12. C 言語入門 (条件分岐)</li> <li>13. C 言語入門 (繰り返し for)</li> <li>14. C 言語入門 (繰り返し while)</li> <li>15. C 言語入門 (練習問題)</li> </ol>					
【履修条件】						
【評価方法】	授業への取り組み (50%), レポートまたは試験 (50%) によって評価する。					
【テキスト】	講義資料は担当教員の Web サイトから配布する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報リテラシ I	Information Literacy I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之 大久保誠也 天野政紀 小田紘久					
【授業目標】						
●授業目的	情報活用の基本技術を習得する。また、パソコンなどの情報機器の操作方法も身につける。 Excel 等を活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基本的な使い方を習得する。</li> <li>・タッチタイピングの基礎を身につける。</li> <li>・効果的なインターネット検索や情報モラルを守ったネットワークコミュニケーションの能力を身につける。</li> <li>・パソコンを活用した電子文書作成や表計算処理ができるようになる。</li> <li>・データの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。</li> </ul>					
【授業概要】	情報リテラシの基本を身につけるため、パソコンなどの情報機器を利用した、データや文書の処理、情報共有などの実習を行う。また、インターネット上などにある大量の情報を取捨選択するなど情報の取り扱い方法についての実習も行う。データを適切に読み、説明し、扱うための実習も行う。					
【授業方法】	一人一台のパソコンを使用した実習形式で授業を行う。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせる実施する場合がある。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめにー学内情報システム導入</li> <li>2. パソコンと Windows の基本操作</li> <li>3. ネットワークを使うための準備</li> <li>4. 電子メールを使った情報共有とビジネスチャット</li> <li>5. 情報検索(検索エンジン)</li> <li>6. 情報検索(ソフトウェアのダウンロード)</li> <li>7. タッチタイピング</li> <li>8. 文書処理(文書作成入門)</li> <li>9. 文書処理(文書作成応用)</li> <li>10. データ処理(データを読み解く: データ解析のツール・スプレッドシート)</li> <li>11. データ処理(データを集計する: 単純集計、クロス集計)</li> <li>12. データ処理(データを説明し可視化する: 棒グラフ、折線グラフ、円グラフ、散布図等)</li> <li>13. データ処理(データを説明し可視化する: 相関、回帰分析)</li> <li>14. Web ページ作成1</li> <li>15. Web ページ作成2</li> </ol>					
【履修条件】	情報リテラシⅡと併せて履修すること。					
【評価方法】	課題やレポート、グループチャットや授業への参加の積極性、タイピング試験、期末試験などを総合的に評価する。					
【テキスト】	初回授業時に指示する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可



【科目名】	情報リテラシⅡ	Information Literacy Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之 大久保誠也 小田紘久 相良陸成					
【授業目標】						
●授業目的	マルチメディアを中心とした情報活用の応用技術を習得する。					
●到達目標	マルチメディアコンテンツ作成とそれらを活用したマルチメディア表現のスキルを身につける。					
【授業概要】	より一歩進んだ情報リテラシを身につけるため、音声、静止画、動画、CG(コンピュータグラフィック)などのマルチメディアコンテンツ作成とそれらを活用したマルチメディア表現の実習を行う。また、CGなどに関連するシミュレーションについての実習も行う。更にマルチメディアを活用したプレゼンテーションを体験し、マルチメディア表現についての能力育成も行う。					
【授業方法】	一人一台のパソコンを使用した実習形式で授業を行う。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせる場合がある。					
【準備学習】						
【授業展開】	1. はじめにーマルチメディア表現 2. 音声編集の基礎 3. 画像編集の基礎 4. 画像編集の応用 5. 図形描画の基礎 6. 図形描画の応用 7. CG作成の基礎 8. CG作成の応用 9. モデル化とシミュレーション 10. 動画編集の基礎 11. 動画編集の応用 12. プレゼンテーションの基礎 13. プレゼンテーションの応用 14. プレゼンテーションの実技 15. 総括・授業評価					
【履修条件】	情報リテラシⅠと併せて履修すること。					
【評価方法】	課題やレポート、プレゼンテーション、グループチャットや授業への参加の積極性、上級タイピング試験、期末試験などを総合的に評価する。					
【テキスト】	授業開始時に指示する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	プログラミング	Computer Programming			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭, 武藤伸明				
【担当教員】	湯瀬裕昭, 武藤伸明, 大久保誠也				
【授業目標】					
●授業目的	プログラミングの基礎的技術を習得する。				
●到達目標	配列や関数を使ったC言語のプログラミングができるようになる。				
【授業概要】	情報処理演習で学んだプログラミング言語の1つであるC言語を取り上げ、プログラミングの基礎概念、C言語の基礎的文法、Linuxサーバ環境を用いたプログラムの作成法を学ぶ。また簡単なアルゴリズムの具体的な実装法を学ぶ。				
【授業方法】	教員が説明した後、教科書と自習可能な演習専用Webページに従って演習を進める。 感染症拡大などの状況によりオンライン授業に変更になった場合は、Zoomを使って教員が説明を行い、各自のパソコンを使って演習を進める。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 統合開発環境</li> <li>3 情報処理演習の復習</li> <li>4 配列 解説</li> <li>5 配列 演習</li> <li>6 標準ライブラリ 解説</li> <li>7 標準ライブラリ 演習</li> <li>8 疑似乱数の利用 解説</li> <li>9 疑似乱数の利用 演習</li> <li>10 関数の作り方 解説</li> <li>11 関数の作り方 演習</li> <li>12 配列と関数 解説</li> <li>13 配列と関数 演習</li> <li>14 わかりやすいプログラムの書き方</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	情報処理演習を履修していることが望ましい。				
【評価方法】	授業への取り組み(30%)、レポート・小テスト・期末試験など(70%)				
【テキスト】	湯瀬裕昭, 渡部和雄編著「大学必修情報リテラシ」共立出版				
【参考書】	B.W.カーニハン他「プログラミング言語C」共立出版				
【備考】	Linuxサーバにアクセスできるパソコンが必要。  感染症拡大状況などにより授業方法に変更の可能性がある。 授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	プログラミング演習 I				
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	観光学概論(経営情報特別講義 N)	Introduction to Tourism		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	大久保あかね			
【担当教員】	大久保あかね、内海佐和子、アムナーカウクルアムナン、寺崎竜雄 他			
【授業目標】				
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光マネジメントメジャー取得を目指す学生を主たる対象に、観光学の基礎を多面的に学び、観光マネジメントメジャーでの専門的な学びの土台を構築する。</li> <li>○ 観光の各分野(観光政策、観光経営、観光調査、観光まちづくり、観光実務)の基礎を学ぶことで、観光マネジメントにおける体系・理論の習得を目的とする。2年次以降に行われる各分野の詳細解説に先立つイントロダクション(導入部分)として位置づけている(2年次以降の各観光分野の履修に当たっては、本授業&lt;観光学概論&gt;が履修済であることが望ましいとしている)。</li> <li>○ 授業では前半はテキスト学習により観光学を体系的に学び、後半は各教員による基礎的な観光研究の考え方を学ぶ。</li> <li>○ ゲストスピーカーによる講話を予定している。</li> </ul>			
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光学に関する基本的知識を体系的に学び、間口の広い学問であることを理解する。</li> <li>○ あわせて、観光各分野(観光政策、観光経営、観光調査、観光まちづくり、観光実務)に関する基本的な事項に関する理解が進み、2年次以降の各分野の詳細解説を正確に理解できるレベルに達する。</li> <li>○ 現代の観光理論は、経営、総合政策、データサイエンスの知識をベースとして成り立っていることを理解する。</li> </ul>			
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光学を初めて学ぶ学生を対象に、まず最初に観光学のテキストを用いて観光に関する基礎知識を体系的に学び、理解を促す。</li> <li>○ 次に観光教員4名がそれぞれの分野の基本的事項を解説するオムニバス授業を展開する。具体的には以下の通り。</li> <li>○ 観光経営のパートではインバウンド戦略や観光マーケティング等を中心に学ぶ。</li> <li>○ 観光政策のパートでは国や地方自治体による観光政策について学ぶ。</li> <li>○ 観光まちづくりのパートでは観光を通じた「地域活性化、地方創生」等について学ぶ。</li> <li>○ ゲストスピーカーによる講話を予定している</li> </ul>			
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 15コマの授業の前半部分は、テキストを用いた観光の基礎知識に関する講義。</li> <li>○ 後半部分は観光教員によるオムニバス授業。</li> <li>○ ゲストスピーカーによる講話を予定している。</li> <li>○ 必要に応じ、リアクションペーパーの提出を求める。</li> </ul>			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 オリエンテーション、観光の概念 第2回 観光の歴史、観光の諸制度 第3回 観光の効果と影響、観光と経済 第4回 観光と情報、観光と地域社会、観光と環境 第5回 観光行動、観光と教育・福祉 第6回 観光と交通、観光と宿泊、観光事業 第7回 観光と旅行業、観光事業の労働と人材 第8回 観光と情報 第9回 観光と政策 第10回 観光まちづくり(1) 第11回 観光まちづくり(2) 第12回 観光と経営(1) 第13回 観光と経営(2) 第14回 ゲストスピーカー講話 第15回 まとめ			
【履修条件】	なし			
【評価方法】	○ 授業への取組姿勢、リアクションペーパー・課題レポートの提出状況等から総合的に判断する。期末筆記試験は実施しない。			
【テキスト】	「新現代観光総論 第三版」前田 勇 編著 学文社			
【参考書】	必要に応じ講義中に提示する			
【備考】	特になし			
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営情報特別講義 N			
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可
			【交換留学生】	不可

【科目名】	総合政策概論 I	Policy Studies I			
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	岸 昭雄				
【担当教員】	小西、岸ほか (担当教員は第 1 回の講義の際に示します)				
【授業目標】					
●授業目的	具体的事例に基づいて、政策の基礎について理解できるようにする。				
●到達目標	政策の基礎について理解することで、今後の科目履修の方向性について考える機会を提供する。				
【授業概要】	グローバル化、少子高齢化が進展する中で、政策の意義はますます重要になりつつある。特に地方分権の流れが加速し、地方レベルにおける政策形成の能力が問われている。そこで、政策の持つ意味、分野、手法などの総合的な政策に関する基礎知識に関し、具体例に即して学ぶことを目的とする。				
【授業方法】	主に講義形式で行う。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 はじめに 2 総合政策学とは 3 国の政策について～公平性とバランスの重要性 4 政策課題と社会的価値 5 財政金融政策の現状と課題1 6 財政金融政策の現状と課題2 7 地域マネジメントと地域産業政策 8 職業としての公務員と政策形成能力 9 社会基盤整備を事例とした公共政策の策定1 10 社会基盤整備を事例とした公共政策の策定2 11 社会基盤整備を事例とした公共政策の策定3 12 政策の実例について① 13 政策の実例について② 14 政策の実例について③ 15 まとめ (* 講義の内容, 順番については, 担当教員の都合により入れ替わることがあります) (* 第 1 回の講義の際に, 改めてシラバスを示します)				
【履修条件】	特に無し				
【評価方法】	授業への取り組み、試験、レポート等から各教員が総合的に評価				
【テキスト】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【備考】	各教員が、資料配付、参考書の提示を行う。 初回に改めて講義内容、日程についてガイダンスを行うので、受講希望者は必ず出席すること。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	特に無し				
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】 不可

【科目名】	総合政策概論Ⅱ	Policy Studies Ⅱ		
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	藤本健太郎			
【担当教員】	藤本、東野、内海、木村ほか			
【授業目標】				
●授業目的	政策とは何か、具体的事例に基づき、理論面も交えながら学ぶ。			
●到達目標	市場では対応できないような社会問題に政策がどのように対応しようとしているのか理解すること。			
【授業概要】	グローバル化、少子高齢化などの社会的な課題に対して、政策的にどのような対策が講じられていくかは市民生活にも企業の活動にも大きな影響を及ぼす。 この講義では、政策の持つ意味、分野、手法などの総合的な政策に関する基礎知識に関し、具体例に即して学ぶことを目的とする。			
【授業方法】	対面による講義形式を基本とする。			
【準備学習】				
【授業展開】	オリエンテーションの際に提示する			
【履修条件】	総合政策概論Ⅰを履修していることが望ましい。			
【評価方法】	授業への取り組み、試験、レポート等に基づき、各教員が評価する。			
【テキスト】	特に指定しない			
【参考書】				
【備考】	H24(2012)年度以降入学者のみ受講可。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	可
			【交換留学生】	可

【科目名】	基礎英語 I	Freshman English I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	TOEIC(Test of English for International Communication)の総合スコアの向上を目標とする。グローバルコミュニケーションのための英語テスト・TOEIC とは、リスニングとリーディングで構成されている。2年生では、1年生で培ってきた英語能力に基づき、さらなるスコアアップを目指す。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて内容を理解し、要約できる。 英語の文法を正しく理解できる。 英語パッセージの構成を理解し、限られた時間内で正確に英文読解できる。					
【授業概要】	1年生の英語授業で培った英語能力を土台にし、①～④を促進することで TOEIC テストのスコアアップを図る。 ①基礎力の定着: 英語の文、句、語がそれぞれ特徴的なパターンを持つことを(日本語と比較しながら)確認する。 ②ナチュラルスピードの英語リスニングの強化: 教科書リスニングセクションの問題に繰り返し取り組みながら、英語のナチュラルスピードに慣れるとともに、ディクテーションなどを取り入れながら、音声の特徴も確認していく。 ③パラグラフリーディングの訓練: 教科書リーディングセクションの問題に繰り返し取り組					
【授業方法】	教科書にそって、模擬試験方式を中心にした演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	Using the textbook units as a guide, students will actively participate in self, pair, and group study through discussions, practice tests, and test prep activities. They will also be required to complete homework assignments to prepare for these activities. Other forms of self-study outside the class are encouraged and may be assigned at the discretion of the instructor.  Week 1 Introduction Week 2 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1) Week 3 Listening Parts 3 & 4 Week 4 Reading Parts 5 & 6 Week 5 Reading Parts 7 Week 6 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2) Week 7 Listening Parts 3 & 4 Week 8 Midterm Review Week 9 Reading Parts 5 & 6 Week 10 Reading Parts 7 Week 11 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3) Week 12 Listening Parts 3 & 4 Week 13 Reading Parts 5 & 6 Week 14 Reading Parts 7 Week 15 Final Review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価: 授業での評価60% (予習・復習・小テスト・課題・クイズ)および定期試験 40% (初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+(アルク)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。 プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語 I	Freshman English I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*相羽 千州子					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC(Test of English for International Communication)教材を用いて、リスニング力、語彙力、文法力、読解力の基礎固めに努めるとともに、TOEIC L&R TEST の形式に慣れることを目指す。					
●到達目標	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞きできる。 英語の基礎的音声を聞き分け、会話やトークを聞いて理解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。					
【授業概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習形式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、教員が適宜提供するリーディング教材を用いて英語スキルをブラッシュアップしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Pre-Test</li> <li>2. Part 5 Incomplete Sentences – Grammar (Units 1-6)</li> <li>3. Part 5 Incomplete Sentences – Vocabulary (Units 7-12)</li> <li>4. Part 6 Text Completion (Units 1-12)</li> <li>5. Part 7 Reading Comprehension – Single Passages (Units 1-6)</li> <li>6. Part 7 Reading Comprehension – Double/Triple Passages (Units 7-12)</li> <li>7. Reading Review</li> <li>8. Part 2 Question-Response – Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)</li> <li>9. Part 2 Question-Response – Statements (Units 7-12)</li> <li>10. Part 3 Short Conversations – Situations (Units 1-6)</li> <li>11. Part 3 Short Conversations – Question Types (Units 7-12)</li> <li>12. Part 4 Short Talks – Organization (Units 1-6)</li> <li>13. Part 4 Short Talks – Implication (Units 7-12)</li> <li>14. Listening Review</li> <li>15. Practice session</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語 I	Freshman English I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*小田 透、*相羽 千州子、*田中 裕実、*堀内 裕晃					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC(Test of English for International Communication)教材を用いて、リスニング力、語彙力、文法力、読解力の基礎固めに努めるとともに、TOEIC L&R TEST の形式に慣れることを目指す。					
●到達目標	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞きできる。 英語の基礎的音声を聞き分け、会話やトークを聞いて理解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。					
【授業概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習形式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、教員が適宜提供するリーディング教材を用いて英語スキルをブラッシュアップしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Pre-Test</li> <li>2. Part 5 Incomplete Sentences – Grammar (Units 1-6)</li> <li>3. Part 5 Incomplete Sentences – Vocabulary (Units 7-12)</li> <li>4. Part 6 Text Completion (Units 1-12)</li> <li>5. Part 7 Reading Comprehension – Single Passages (Units 1-6)</li> <li>6. Part 7 Reading Comprehension – Double/Triple Passages (Units 7-12)</li> <li>7. Reading Review</li> <li>8. Part 2 Question-Response – Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)</li> <li>9. Part 2 Question-Response – Statements (Units 7-12)</li> <li>10. Part 3 Short Conversations – Situations (Units 1-6)</li> <li>11. Part 3 Short Conversations – Question Types (Units 7-12)</li> <li>12. Part 4 Short Talks – Organization (Units 1-6)</li> <li>13. Part 4 Short Talks – Implication (Units 7-12)</li> <li>14. Listening Review</li> <li>15. Practice session</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可



【科目名】	基礎英語 I	Freshman English I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*相羽 千州子					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC(Test of English for International Communication)教材を用いて、リスニング力、語彙力、文法力、読解力の基礎固めに努めるとともに、TOEIC L&R TEST の形式に慣れることを目指す。					
●到達目標	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞きできる。 英語の基礎的音声を聞き分け、会話やトークを聞いて理解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。					
【授業概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習形式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、教員が適宜提供するリーディング教材を用いて英語スキルをブラッシュアップしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Pre-Test</li> <li>2. Part 5 Incomplete Sentences – Grammar (Units 1-6)</li> <li>3. Part 5 Incomplete Sentences – Vocabulary (Units 7-12)</li> <li>4. Part 6 Text Completion (Units 1-12)</li> <li>5. Part 7 Reading Comprehension – Single Passages (Units 1-6)</li> <li>6. Part 7 Reading Comprehension – Double/Triple Passages (Units 7-12)</li> <li>7. Reading Review</li> <li>8. Part 2 Question-Response – Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)</li> <li>9. Part 2 Question-Response – Statements (Units 7-12)</li> <li>10. Part 3 Short Conversations – Situations (Units 1-6)</li> <li>11. Part 3 Short Conversations – Question Types (Units 7-12)</li> <li>12. Part 4 Short Talks – Organization (Units 1-6)</li> <li>13. Part 4 Short Talks – Implication (Units 7-12)</li> <li>14. Listening Review</li> <li>15. Practice session</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語 I	Freshman English I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*小田透					
【担当教員】	*堀内裕晃					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC(Test of English for International Communication)教材を用いて、リスニング力、語彙力、文法力、読解力の基礎固めに努めるとともに、TOEIC L&R TEST の形式に慣れることを目指す。					
●到達目標	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞きできる。 英語の基礎的音声を聞き分け、会話やトークを聞いて理解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。					
【授業概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習形式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、教員が適宜提供するリーディング教材を用いて英語スキルをブラッシュアップしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Pre-Test</li> <li>2. Part 5 Incomplete Sentences – Grammar (Units 1-6)</li> <li>3. Part 5 Incomplete Sentences – Vocabulary (Units 7-12)</li> <li>4. Part 6 Text Completion (Units 1-12)</li> <li>5. Part 7 Reading Comprehension – Single Passages (Units 1-6)</li> <li>6. Part 7 Reading Comprehension – Double/Triple Passages (Units 7-12)</li> <li>7. Reading Review</li> <li>8. Part 2 Question-Response – Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)</li> <li>9. Part 2 Question-Response – Statements (Units 7-12)</li> <li>10. Part 3 Short Conversations – Situations (Units 1-6)</li> <li>11. Part 3 Short Conversations – Question Types (Units 7-12)</li> <li>12. Part 4 Short Talks – Organization (Units 1-6)</li> <li>13. Part 4 Short Talks – Implication (Units 7-12)</li> <li>14. Listening Review</li> <li>15. Practice session</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語Ⅱ	Freshman English Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC (test of English for International Communication)を通し、英語コミュニケーションで重要な<リーディング>と<リスニング>能力の向上を図る。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて理解できる。 英語の文法を正しく理解できる。 限られた時間内で正確に英文読解できる。 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。					
【授業概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、を平行して行う。さらに、(iii)リーディング力の強化を行う。					
【授業方法】	教科書に沿って、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. (T) Unit 1 提案・時制 1</li> <li>3. (T) Unit 2 確認時制 2 (進行形・完了形)</li> <li>4. (T) Unit 3 会話を始める助動詞</li> <li>5. (T) Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング</li> <li>6. (T) Unit 5 義務代名詞</li> <li>7. (T) Unit 6 理由前置詞</li> <li>8. Midterm Review</li> <li>9. (T) Unit 7 苦情接続詞</li> <li>10. (T) Unit 8 交通情報スキミング</li> <li>11. (T) Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞</li> <li>12. (T) Unit 10 意見分詞構文</li> <li>13. (T) Unit 11 意見の一致・不一致仮定法</li> <li>14. (T) Unit 12 会議ースキミング</li> <li>15. Final Review</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	積極的な授業参加・予習・復習・小テストなど 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(D)とする。					
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Gengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語Ⅱ	Freshman English Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*相羽 千州子(2A)					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC (test of English for International Communication)を通し、英語コミュニケーションで重要な<リーディング>と<リスニング>能力の向上を図る。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて理解できる。 英語の文法を正しく理解できる。 限られた時間内で正確に英文読解できる。 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。					
【授業概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、を平行して行う。さらに、(iii)リーディング力の強化を行う。					
【授業方法】	教科書に沿って、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。  事前学習: 必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。  事後学習: 間違えた問題を確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. (T) Unit 1 提案・時制 1</li> <li>3. (T) Unit 2 確認時制 2 (進行形・完了形)</li> <li>4. (T) Unit 3 会話を始める助動詞</li> <li>5. (T) Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング</li> <li>6. (T) Unit 5 義務代名詞</li> <li>7. (T) Unit 6 理由前置詞</li> <li>8. Midterm Review</li> <li>9. (T) Unit 7 苦情接続詞</li> <li>10. (T) Unit 8 交通情報スキミング</li> <li>11. (T) Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞</li> <li>12. (T) Unit 10 意見分詞構文</li> <li>13. (T) Unit 11 意見の一致・不一致仮定法</li> <li>14. (T) Unit 12 会議ースキミング</li> <li>15. Final Review</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・提出物・クイズ 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Gengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語Ⅱ	Freshman English Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*小田 透(クラス1)、*相羽 千州子(クラス2A, 3)、*田中 裕実(クラス2B)					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC (test of English for International Communication)を通し、英語コミュニケーションで重要な<リーディング>と<リスニング>能力の向上を図る。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて理解できる。 英語の文法を正しく理解できる。 限られた時間内で正確に英文読解できる。 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。					
【授業概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、を平行して行う。さらに、(iii)リーディング力の強化を行う。					
【授業方法】	教科書に沿って、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. (T) Unit 1 提案・時制 1</li> <li>3. (T) Unit 2 確認時制 2 (進行形・完了形)</li> <li>4. (T) Unit 3 会話を始める助動詞</li> <li>5. (T) Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング</li> <li>6. (T) Unit 5 義務代名詞</li> <li>7. (T) Unit 6 理由前置詞</li> <li>8. Midterm Review</li> <li>9. (T) Unit 7 苦情接続詞</li> <li>10. (T) Unit 8 交通情報スキヤニング</li> <li>11. (T) Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞</li> <li>12. (T) Unit 10 意見分詞構文</li> <li>13. (T) Unit 11 意見の一致・不一致仮定法</li> <li>14. (T) Unit 12 会議ースキミング</li> <li>15. Final Review</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・提出物・クイズ 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語Ⅱ	Freshman English Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*小田 透					
【担当教員】	*相羽 千州子(クラス3)					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC (test of English for International Communication)を通し、英語コミュニケーションで重要なくリーディング>と<リスニング>能力の向上を図る。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて理解できる。 英語の文法を正しく理解できる。 限られた時間内で正確に英文読解できる。 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。					
【授業概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、を平行して行う。さらに、(iii)リーディング力の強化を行う。					
【授業方法】	教科書に沿って、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。  事前学習: 必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。  事後学習: 間違えた問題を確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. (T)Unit 1 提案・時制 1</li> <li>3. (T)Unit 2 確認時制 2 (進行形・完了形)</li> <li>4. (T)Unit 3 会話を始める助動詞</li> <li>5. (T)Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング</li> <li>6. (T)Unit 5 義務代名詞</li> <li>7. (T)Unit 6 理由前置詞</li> <li>8. Midterm Review</li> <li>9. (T)Unit 7 苦情接続詞</li> <li>10. (T)Unit 8 交通情報スキミング</li> <li>11. (T)Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞</li> <li>12. (T)Unit 10 意見分詞構文</li> <li>13. (T)Unit 11 意見の一致・不一致仮定法</li> <li>14. (T)Unit 12 会議スキミング</li> <li>15. Final Review</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・提出物・クイズ 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎英語Ⅱ	Freshman English Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*堀内裕晃					
【担当教員】	*堀内裕晃(クラス 4)					
【授業目標】						
●授業目的	この授業では、TOEIC (test of English for International Communication)を通し、英語コミュニケーションで重要な<リーディング>と<リスニング>能力の向上を図る。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて理解できる。 英語の文法を正しく理解できる。 限られた時間内で正確に英文読解できる。 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。					
【授業概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、を平行して行う。さらに、(iii)リーディング力の強化を行う。					
【授業方法】	教科書に沿って、演習方式で進める					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. (T) Unit 1 予定_動詞・5文型</li> <li>3. (T) Unit 2 数量を尋ねる_名詞</li> <li>4. (T) Unit 3 命令・依頼?形容詞・副詞</li> <li>5. (T) Unit 4 広告・宣伝_フレーズリーディング</li> <li>6. (T) Unit 5 時間を尋ねる_動名詞</li> <li>7. (T) Unit 6 場所を尋ねる_to 不定詞</li> <li>8. Midterm Review</li> <li>9. (T) Unit 7 確認?分詞</li> <li>10. (T) Unit 8 留守電?スキミング</li> <li>11. (T) Unit 9 アドバイス_受動態</li> <li>12. (T) Unit 10 誘い?比較</li> <li>13. (T) Unit 11 申し出?関係詞</li> <li>14. (T) Unit 12 講演者紹介?スキミング</li> <li>15. Final Review</li> </ol>					
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・クイズ 60%、定期試験 40% 6回以上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 470 Revised Edition Student Book (Gengage Learning)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語 LL					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	英語会話 I	English Conversation I			
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	*H. Hernandez				
【担当教員】	*H. Hernandez、*小田 透、*L. Knowles、*J. Lawrence、*P. Kreiner				
【授業目標】					
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings				
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.				
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.				
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise				
【準備学習】					
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.



【科目名】	英語会話 I	English Conversation I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*H. Hernandez					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.					
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.					
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.					
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revi					
【準備学習】						
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)					
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.					
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Wring 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)					
【参考書】						
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話					
【社会人聴講生】	Not	allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語会話 I	English Conversation I			
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	L. Knowles				
【担当教員】	L. Knowles				
【授業目標】					
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.				
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.				
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.				
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise.				
【準備学習】					
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40%  Note that more than five absences will result in failure (i.e., a grade of "D").				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語会話 I	English Conversation I				
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*H. Hernandez					
【担当教員】	*H. Hernandez、*小田 透、*L. Knowles、*J. Lawrence、*P. Kreiner					
【授業目標】						
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.					
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.					
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.					
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise					
【準備学習】						
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)					
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.					
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)					
【参考書】						
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話					
【社会人聴講生】	Not	allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語会話 I	English Conversation I			
【配当年次】	1 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	*H. Hernandez				
【担当教員】	*P. Kreiner				
【授業目標】					
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.				
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.				
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.				
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise				
【準備学習】					
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*H. Hernandez					
【担当教員】	*H. Hernandez(クラス1)、*小田 透(クラス2A)、*L. Knowles(クラス2B) *J. Lawrence(クラス3)、*P. Kreiner(クラス4)					
【授業目標】						
●授業目的	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic settings.					
●到達目標	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs. Students can correct and edit their own writings.					
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.					
【授業方法】	The textbook, along with an online workbook, serves as a guide for students to navigate the process of writing various types of paragraphs, utilizing writing models for reference. Throughout the course, students cultivate confidence in brainstorming, plan					
【準備学習】						
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Reviewing the 1st semester 2 U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages) 3 R2 Classrooms without walls 4 Writing a summary and personal response 1: brainstorming & planning 5 Writing a summary and personal response 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions) 9 R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram) 10 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming & planning 11 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching 12 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting 13 Revising & Editing 1 14 Revising & editing 2 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)					
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.					
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)					
【参考書】						
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話					
【社会人聴講生】	Not	allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*H. Hernandez					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.					
●到達目標	Students can identify necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent, well-organized paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.					
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.					
【授業方法】	The textbook including online exercises guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise					
【準備学習】						
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Introduction 2 U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain) 3 R2 Interview 21st century job interview 4 Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning 5 Writing "how to" paragraph 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences) 9 R2 Eating with our eyes 10 Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives 11 Writing a descriptive paragraph 2: drafting 12 Revising & editing 13 Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing 14 Organizing your draft 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)					
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.					
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)					
【参考書】						
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話					
【社会人聴講生】	Not	allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	*L. Knowles				
【担当教員】	*L. Knowles				
【授業目標】					
●授業目的	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic situations.				
●到達目標	<p>Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading.</p> <p>Students can write a coherent paragraph in English.</p> <p>Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs.</p> <p>Students can correct and edit their own writings.</p>				
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.				
【授業方法】	The textbook including an online workbook guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to ex				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>(U: Unit, R: Reading)</p> <p>1 Reviewing the 1st semester</p> <p>2 U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages)</p> <p>3 R2 Classrooms without walls</p> <p>4 Writing a summary and personal response 1: brainstorming &amp; planning</p> <p>5 Writing a summary and personal response 2: drafting</p> <p>6 Revising &amp; editing</p> <p>7 Midterm review</p> <p>8 U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions)</p> <p>9 R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram)</p> <p>10 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming &amp; planning</p> <p>11 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching</p> <p>12 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting</p> <p>13 Revising &amp; Editing 1</p> <p>14 Revising &amp; editing 2</p> <p>15 Term review</p> <p>16 Final examination (in-class or take-home)</p>				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ				
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*H. Hernandez					
【担当教員】	*H. Hernandez(クラス1)、*小田 透(クラス2A)、*L. Knowles(クラス2B) *J. Lawrence(クラス3)、*P. Kreiner(クラス4)					
【授業目標】						
●授業目的	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic settings.					
●到達目標	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs. Students can correct and edit their own writings.					
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.					
【授業方法】	The textbook, along with an online workbook, serves as a guide for students to navigate the process of writing various types of paragraphs, utilizing writing models for reference. Throughout the course, students cultivate confidence in brainstorming, plan					
【準備学習】						
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Reviewing the 1st semester 2 U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages) 3 R2 Classrooms without walls 4 Writing a summary and personal response 1: brainstorming & planning 5 Writing a summary and personal response 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions) 9 R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram) 10 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming & planning 11 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching 12 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting 13 Revising & Editing 1 14 Revising & editing 2 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)					
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.					
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)					
【参考書】						
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.					
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話					
【社会人聴講生】	Not	allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.



【科目名】	英語会話Ⅱ	English Conversation Ⅱ			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	*H. Hernandez				
【担当教員】	* P. Kreiner				
【授業目標】					
●授業目的	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic settings.				
●到達目標	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs. Students can correct and edit their own writings.				
【授業概要】	Students can understand and demonstrate in writing i) how to describe objects and events, and ii) how to state opinions in a logical (e.g., from general to specific, from main ideas to supporting details) and consistent (e.g., tense and agreement) manner.				
【授業方法】	The textbook, along with an online workbook, serves as a guide for students to navigate the process of writing various types of paragraphs, utilizing writing models for reference. Throughout the course, students cultivate confidence in brainstorming, plan				
【準備学習】					
【授業展開】	(U: Unit, R: Reading) 1 Reviewing the 1st semester 2 U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages) 3 R2 Classrooms without walls 4 Writing a summary and personal response 1: brainstorming & planning 5 Writing a summary and personal response 2: drafting 6 Revising & editing 7 Midterm review 8 U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions) 9 R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram) 10 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming & planning 11 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching 12 Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting 13 Revising & Editing 1 14 Revising & editing 2 15 Term review 16 Final examination (in-class or take-home)				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【評価方法】	Preparations, in-class activities, assignments, and quizzes 60% Exams 40% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E")				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考書】					
【備考】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【旧カリキュラム読み替え科目】	英語会話				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語講読 I	English Reading I		
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期	
【科目責任者】	*J. Lawrence			
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中 裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)			
【授業目標】				
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.			
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。			
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.			
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.			
【準備学習】				
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Listening & Note-taking 3. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Discussion & Presentation 4. Chapter 2 – The Place of a Place: Listening & Note-taking 5. Chapter 2 – The Place of a Place: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 3 – Business Innovation: Listening & Note-taking 8. Chapter 3 – Business Innovation: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 4 – Global Business: Listening & Note-taking 11. Chapter 4 – Global Business: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Listening & Note-taking 14. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation			
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢			
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).			
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)			
【参考書】				
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】 Not allowed.

【科目名】	英語講読 I	English Reading I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	L. Knowles					
【担当教員】	L. Knowles					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	N/A					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Listening & Note-taking 3. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Discussion & Presentation 4. Chapter 2 – The Place of a Place: Listening & Note-taking 5. Chapter 2 – The Place of a Place: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 3 – Business Innovation: Listening & Note-taking 8. Chapter 3 – Business Innovation: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 4 – Global Business: Listening & Note-taking 11. Chapter 4 – Global Business: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Listening & Note-taking 14. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	Not	allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語講読 I	English Reading I			
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	*J. Lawrence				
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中 裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)				
【授業目標】					
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.				
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。				
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.				
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.				
【準備学習】					
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Listening & Note-taking 3. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Discussion & Presentation 4. Chapter 2 – The Place of a Place: Listening & Note-taking 5. Chapter 2 – The Place of a Place: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 3 – Business Innovation: Listening & Note-taking 8. Chapter 3 – Business Innovation: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 4 – Global Business: Listening & Note-taking 11. Chapter 4 – Global Business: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Listening & Note-taking 14. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation				
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢				
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).				
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)				
【参考書】					
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が <sup>g</sup> 、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	Not allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語講読 I	English Reading I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*J. Lawrence					
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中 裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Listening & Note-taking 3. Chapter 1– The First Day in Social Psychology Class: Discussion & Presentation 4. Chapter 2 – The Place of a Place: Listening & Note-taking 5. Chapter 2 – The Place of a Place: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 3 – Business Innovation: Listening & Note-taking 8. Chapter 3 – Business Innovation: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 4 – Global Business: Listening & Note-taking 11. Chapter 4 – Global Business: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Listening & Note-taking 14. Chapter 5 – Celebrities in the Media: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	Not	allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語講読 I	English Reading I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*J. Lawrence					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	ビジネスの場面でのリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングに焦点を当てる。 コミュニケーション活動の前に、トピックに関連した語彙、文法、表現などを確認し、実践を通してそれらを身に付ける。					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 1- The First Day in Social Psychology Class: Listening & Note-taking 3. Chapter 1- The First Day in Social Psychology Class: Discussion & Presentation 4. Chapter 2 - The Place of a Place: Listening & Note-taking 5. Chapter 2 - The Place of a Place: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 3 - Business Innovation: Listening & Note-taking 8. Chapter 3 - Business Innovation: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 4 - Global Business: Listening & Note-taking 11. Chapter 4 - Global Business: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 5 - Celebrities in the Media: Listening & Note-taking 14. Chapter 5 - Celebrities in the Media: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E").					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	Not	allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語講読Ⅱ	English Reading Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*Jacob Lawrence					
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 6 – Communication Revolutions: Listening & Note-taking 3. Chapter 6 – Communication Revolutions: Discussion & Presentation 4. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Listening & Note-taking 5. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Listening & Note-taking 8. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Listening & Note-taking 11. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 10 – Architecture: Listening & Note-taking 14. Chapter 10 – Architecture: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% Note that six absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	英語講読Ⅱ	English Reading Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*L. Knowles					
【担当教員】	*L. Knowles					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 6 – Communication Revolutions: Listening & Note-taking 3. Chapter 6 – Communication Revolutions: Discussion & Presentation 4. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Listening & Note-taking 5. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Listening & Note-taking 8. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Listening & Note-taking 11. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 10 – Architecture: Listening & Note-taking 14. Chapter 10 – Architecture: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% Note that six absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	Not	allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.



【科目名】	英語講読Ⅱ	English Reading Ⅱ			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	*J. Lawrence				
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)				
【授業目標】					
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.				
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。				
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.				
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.				
【準備学習】					
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 6 – Communication Revolutions: Listening & Note-taking 3. Chapter 6 – Communication Revolutions: Discussion & Presentation 4. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Listening & Note-taking 5. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Listening & Note-taking 8. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Listening & Note-taking 11. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 10 – Architecture: Listening & Note-taking 14. Chapter 10 – Architecture: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation				
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢				
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% Note that six absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).				
【テキスト】	Lecture Ready Student Book 1 (OUP)				
【参考書】					
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	Not allowed.	【科目等履修生】	Not allowed.	【交換留学生】	Not allowed.

【科目名】	英語講読Ⅱ	English Reading Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*J. Lawrence					
【担当教員】	*J. Lawrence(Class 1)、*L. Knowles(Class 2A)、*H. Hernandez(Class 2B) *田中裕実(Class 3)、*小田 透(Class 4)					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	ビジネスコミュニケーションにおいて積極的に言語活動できるような英語力と姿勢を習得する。					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 6 – Communication Revolutions: Listening & Note-taking 3. Chapter 6 – Communication Revolutions: Discussion & Presentation 4. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Listening & Note-taking 5. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Listening & Note-taking 8. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Listening & Note-taking 11. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 10 – Architecture: Listening & Note-taking 14. Chapter 10 – Architecture: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% Note that six absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	英語講読Ⅱ	English Reading Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*J. Lawrence					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	The goal of this class is to equip students with practical and effective skills for delivering presentations in English. Through this course, students will learn essential presentation techniques, formats, and strategies to enhance their oral communication abilities. By the end of the course, students will be able to deliver presentations confidently and professionally in English, across diverse settings and scenarios.					
●到達目標	ビジネスの場面でのリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングに焦点を当てる。 コミュニケーション活動の前に、トピックに関連した語彙、文法、表現などを確認し、実践を通してそれらを身に付ける。					
【授業概要】	By the end of the year, students will not only be able to make presentations in English confidently and professionally in a variety of situations but also improve their understanding of important social, political and economic issues.					
【授業方法】	Each unit follows a structured learning process comprising five steps: (1) listening and applying new strategies, (2) taking notes, (3) engaging in discussions about the lecture, (4) presenting acquired knowledge, and (5) assessing understanding.					
【準備学習】						
【授業展開】	1. Introduction 2. Chapter 6 – Communication Revolutions: Listening & Note-taking 3. Chapter 6 – Communication Revolutions: Discussion & Presentation 4. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Listening & Note-taking 5. Chapter 7 – How Sleep Affects Thinking: Discussion & Presentation 6. Student presentation 1 7. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Listening & Note-taking 8. Chapter 8 – The Influence of Geography on Culture: Discussion & Presentation 9. Student presentation 2 10. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Listening & Note-taking 11. Chapter 9 – The Story of Fairy Tales: Discussion & Presentation 12. Student presentation 3 13. Chapter 10 – Architecture: Listening & Note-taking 14. Chapter 10 – Architecture: Discussion & Presentation 15. Summary & Final presentation					
【履修条件】	「積極的に読む・聞く・発表する」姿勢					
【評価方法】	Activity (Participation and warm-up presentations) 40% Homework (preparations and scripts) 40% Review (Exam and final presentation) 20% Note that six absences will result in failure (i.e., a grade of “E”).					
【テキスト】	Lecture Ready 1 Student Book (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム 読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語 I	TOEIC English I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	TOEIC(Test of English for International Communication)の総合スコアの向上を目標とする。グローバルコミュニケーションのための英語テスト・TOEIC とは、リスニングとリーディングで構成されている。2年生では、1年生で培ってきた英語能力に基づき、さらなるスコアアップを目指す。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて内容を理解し、要約できる。 英語の文法を正しく理解できる。 英語パッセージの構成を理解し、限られた時間内で正確に英文読解できる。					
【授業概要】	1年生の英語授業で培った英語能力を土台にし、①～④を促進することで TOEIC テストのスコアアップを図る。 ①基礎力の定着: 英語の文、句、語がそれぞれ特徴的なパターンを持つことを(日本語と比較しながら)確認する。 ②ナチュラルスピードの英語リスニングの強化: 教科書リスニングセクションの問題に繰り返し取り組みながら、英語のナチュラルスピードに慣れるとともに、ディクテーションなどを取り入れながら、音声の特徴も確認していく。 ③パラグラフリーディングの訓練: 教科書リーディングセクションの問題に繰り返し取り組					
【授業方法】	教科書にそって、模擬試験方式を中心にした演習方式を進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	Using the textbook units as a guide, students will actively participate in self, pair, and group study through discussions, practice tests, and test prep activities. They will also be required to complete homework assignments to prepare for these activities. Other forms of self-study outside the class are encouraged and may be assigned at the discretion of the instructor.  Week 1 Introduction Week 2 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1) Week 3 Listening Parts 3 & 4 Week 4 Reading Parts 5 & 6 Week 5 Reading Parts 7 Week 6 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2) Week 7 Listening Parts 3 & 4 Week 8 Midterm Review Week 9 Reading Parts 5 & 6 Week 10 Reading Parts 7 Week 11 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3) Week 12 Listening Parts 3 & 4 Week 13 Reading Parts 5 & 6 Week 14 Reading Parts 7 Week 15 Final Review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価: 授業での評価60% (予習・復習・小テスト・課題・クイズ)および定期試験 40% (初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+(アルク)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。 プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語 I	TOEIC English I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*青島真澄					
【授業目標】						
●授業目的	TOEIC(Test of English for International Communication)の総合スコアの向上を目標とする。グローバルコミュニケーションのための英語テスト・TOEIC とは、リスニングとリーディングで構成されている。2年生では、1年生で培ってきた英語能力に基づき、さらなるスコアアップを目指す。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて内容を理解し、要約できる。 英語の文法を正しく理解できる。 英語パッセージの構成を理解し、限られた時間内で正確に英文読解できる。					
【授業概要】	1年生の英語授業で培った英語能力を土台にし、①～④を促進することで TOEIC テストのスコアアップを図る。 ①基礎力の定着:英語の文、句、語がそれぞれ特徴的なパターンを持つことを(日本語と比較しながら)確認する。 ②ナチュラルスピードの英語リスニングの強化:教科書リスニングセクションの問題に繰り返し取り組みながら、英語のナチュラルスピードに慣れるとともに、ディクテーションなどを取り入れながら、音声の特徴も確認していく。 ③パラグラフリーディングの訓練:教科書リーディングセクションの問題に繰り返し取り組					
【授業方法】	教科書にそって、模擬試験方式を中心にした演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	Using the textbook units as a guide, students will actively participate in self, pair, and group study through discussions, practice tests, and test prep activities. They will also be required to complete homework assignments to prepare for these activities. Other forms of self-study outside the class are encouraged and may be assigned at the discretion of the instructor.  Week 1 Introduction Week 2 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1) Week 3 Listening Parts 3 & 4 Week 4 Reading Parts 5 & 6 Week 5 Reading Parts 7 Week 6 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2) Week 7 Listening Parts 3 & 4 Week 8 Midterm Review Week 9 Reading Parts 5 & 6 Week 10 Reading Parts 7 Week 11 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3) Week 12 Listening Parts 3 & 4 Week 13 Reading Parts 5 & 6 Week 14 Reading Parts 7 Week 15 Final Review					
【履修条件】	1年生担当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価:授業での評価60% (小テスト、課題、クイズ)および定期試験 40% (初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+(アルク)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。  プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語 I	TOEIC English I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*相羽千州子(クラス 3)					
【授業目標】						
● 授業目的	TOEIC(Test of English for International Communication)の総合スコアの向上を目標とする。グローバルコミュニケーションのための英語テスト・TOEIC とは、リスニングとリーディングで構成されている。2年生では、1年生で培ってきた英語能力に基づき、さらなるスコアアップを目指す。					
● 到達目標	英語の会話やトークを聞いて内容を理解し、要約できる。 英語の文法を正しく理解できる。 英語パッセージの構成を理解し、限られた時間内で正確に英文読解できる。					
【授業概要】	1年生の英語授業で培った英語能力を土台にし、①～④を促進することで TOEIC テストのスコアアップを図る。 ①基礎力の定着: 英語の文、句、語がそれぞれ特徴的なパターンを持つことを(日本語と比較しながら)確認する。 ②ナチュラルスピードの英語リスニングの強化: 教科書リスニングセクションの問題に繰り返し取り組みながら、英語のナチュラルスピードに慣れるとともに、ディクテーションなどを取り入れながら、音声の特徴も確認していく。 ③パラグラフリーディングの訓練: 教科書リーディングセクションの問題に繰り返し取り組					
【授業方法】	教科書にそって、模擬試験方式を中心にした演習方式を進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	Using the textbook units as a guide, students will actively participate in self, pair, and group study through discussions, practice tests, and test prep activities. They will also be required to complete homework assignments to prepare for these activities. Other forms of self-study outside the class are encouraged and may be assigned at the discretion of the instructor.  Week 1 Introduction Week 2 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1) Week 3 Listening Parts 3 & 4 Week 4 Reading Parts 5 & 6 Week 5 Reading Parts 7 Week 6 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2) Week 7 Listening Parts 3 & 4 Week 8 Midterm Review Week 9 Reading Parts 5 & 6 Week 10 Reading Parts 7 Week 11 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3) Week 12 Listening Parts 3 & 4 Week 13 Reading Parts 5 & 6 Week 14 Reading Parts 7 Week 15 Final Review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価: 授業での評価60% (予習・復習・小テスト・課題・クイズ)および定期試験 40%(初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+(アルク)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。 プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語 I	TOEIC English I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*小田 透(クラス 1)、*青島 真澄(クラス 2A)、*E. Arshavskaia(クラス 2B) *相羽 千州子(クラス 3)、*田中 裕実(クラス 4)					
【授業目標】						
●授業目的	TOEIC(Test of English for International Communication)の総合スコアの向上を目標とする。グローバルコミュニケーションのための英語テスト・TOEIC とは、リスニングとリーディングで構成されている。2年生では、1年生で培ってきた英語能力に基づき、さらなるスコアアップを目指す。					
●到達目標	英語の会話やトークを聞いて内容を理解し、要約できる。 英語の文法を正しく理解できる。 英語/パッセージの構成を理解し、限られた時間内で正確に英文読解できる。					
【授業概要】	これまで1年生の英語授業で培った英語能力を土台にし、①～④を促進することで TOEIC テストのスコアアップを図る。 ①基礎力の定着:英語の文、句、語がそれぞれ特徴的なパターンを持つことを(日本語と比較しながら)確認する。 ②ナチュラルスピードの英語リスニングの強化:教科書リスニングセクションの問題に繰り返し取り組みながら、英語のナチュラルスピードに慣れるとともに、ディクテーションなどを取り入れながら、その際の音声の特徴も確認していく。 ③パラグラフリーディングの訓練:教科書リーディングセクションの					
【授業方法】	教科書にそって、模擬試験方式を中心にした演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	Using the textbook units as a guide, students will actively participate in self, pair, and group study through discussions, practice tests, and test prep activities. They will also be required to complete homework assignments to prepare for these activities. Other forms of self-study outside the class are encouraged and may be assigned at the discretion of the instructor.  Week 1 Introduction Week 2 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1) Week 3 Listening Parts 3 & 4 Week 4 Reading Parts 5 & 6 Week 5 Reading Parts 7 Week 6 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2) Week 7 Listening Parts 3 & 4 Week 8 Midterm Review Week 9 Reading Parts 5 & 6 Week 10 Reading Parts 7 Week 11 Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3) Week 12 Listening Parts 3 & 4 Week 13 Reading Parts 5 & 6 Week 14 Reading Parts 7 Week 15 Final Review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価:授業での評価60% (予習・復習・小テスト・課題・クイズ)および定期試験 40%(初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+(アルク)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。 プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語Ⅱ	TOEIC English Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*E. Arshavskaia					
【担当教員】	*E. Arshavskaia(クラス1)、*小田 透(クラス2A)、*青島 真澄(クラス2B) *相羽 千州子(クラス3)、*田中 裕実(クラス4)					
【授業目標】						
●授業目的	このコースの主な目的は、これまで学んできたことを基盤とし、学生が日常英会話、アカデミック英語やビジネス英語に必要なリスニング及びスピーキングスキルの向上を目指す。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンテーションに必要な語彙力・表現力の強化</li> <li>・ナチュラルスピードの英語が理解できるリスニング力の強化</li> <li>・論理的なプレゼンテーション原稿作成に必要なライティング力の強化</li> <li>・英語のプレゼンテーションの内容を効果的に伝える方法やスキルの強化</li> </ul>					
【授業概要】	発音練習およびディクテーション練習を繰り返し行うことで、ナチュラルスピードの英語に見られる音声的特徴や有益な表現の理解を深めていく。また、テスト形式の問題にも取り組むことで、TOEIC など英語テストのリスニング練習も行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 Introduction 2 U1 Reduction of h, U2 Intonation of tag questions 3 U3 Word stress in complaints, U4 Intonation of yes/no and Wh-questions 4 U5 Linking vowel sounds, U6 Reduction of to 5 U7 Reduction of is and are, U8 Intonation of complex sentences 6 U9 Word stress for emphasis, U10 Rising and falling intonation for positive and negative stress 7 U11&12 Reduction of have to, got to, and had to, used to, and use to 8 Midterm review 9 U13&14 Reduction of t in numbers and of of 10 U15 Intonation of questions of choice, U16 Reduction of going to and want to 11 U17 Emphasis on time phrases, U18 Linking vowel sounds 12 U19 Saying large numbers, U20 Intonation of words or phrases in a series 13 U21 Reduction of could you, would you, and did you, U22 Plural -s endings 14 U23 Word stress in compound nouns, U24 Syllable stress in two-syllable nouns and verbs 15 Final review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Tactics for Listening Expanding, 3rd Edition (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可



【科目名】	検定英語Ⅱ	TOEIC English Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*E.Arshavskaia					
【担当教員】	*小田 透					
【授業目標】						
●授業目的	このコースの主な目的は、これまで学んできたことを基盤とし、学生が日常英会話、アカデミック英語やビジネス英語に必要なリスニング及びスピーキングスキルの向上を目指す。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンテーションに必要な語彙力・表現力の強化</li> <li>・ナチュラルスピードの英語が理解できるリスニング力の強化</li> <li>・論理的なプレゼンテーション原稿作成に必要なライティング力の強化</li> <li>・英語のプレゼンテーションの内容を効果的に伝える方法やスキルの強化</li> </ul>					
【授業概要】	発音練習およびディクテーション練習を繰り返すこと、ナチュラルスピードの英語に見られる音声的特徴や有益な表現の理解を深めていく。また、テスト形式の問題にも取り組むことで、TOEIC など英語テストのリスニング練習も行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 Introduction 2 U1 Reduction of h, U2 Intonation of tag questions 3 U3 Word stress in complaints, U4 Intonation of yes/no and Wh-questions 4 U5 Linking vowel sounds, U6 Reduction of to 5 U7 Reduction of is and are, U8 Intonation of complex sentences 6 U9 Word stress for emphasis, U10 Rising and falling intonation for positive and negative stress 7 U11&12 Reduction of have to, got to, and had to, used to, and use to 8 Midterm review 9 U13&14 Reduction of t in numbers and of of 10 U15 Intonation of questions of choice, U16 Reduction of going to and want to 11 U17 Emphasis on time phrases, U18 Linking vowel sounds 12 U19 Saying large numbers, U20 Intonation of words or phrases in a series 13 U21 Reduction of could you, would you, and did you, U22 Plural -s endings 14 U23 Word stress in compound nouns, U24 Syllable stress in two-syllable nouns and verbs 15 Final review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内評価:授業での評価60% (予習・復習・小テスト・課題・クイズ)および定期試験 40% (初回に詳しく説明する) 6回以上欠席した場合は不可(E)とする					
【テキスト】	Tactics for Listening Expanding, 3rd Edition (OUP)					
【参考書】						
【備考】	TOEIC テストを全く受験しない学生には単位を与えない。 プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語Ⅱ	TOEIC English Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*E. Arshavskaia					
【担当教員】	*青島真澄					
【授業目標】						
●授業目的	このコースの主な目的は、これまで学んできたことを基盤とし、学生が日常英会話、アカデミック英語やビジネス英語に必要なリスニング及びスピーキングスキルの向上を目指す。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンテーションに必要な語彙力・表現力の強化</li> <li>・ナチュラルスピードの英語が理解できるリスニング力の強化</li> <li>・論理的なプレゼンテーション原稿作成に必要なライティング力の強化</li> <li>・英語のプレゼンテーションの内容を効果的に伝える方法やスキルの強化</li> </ul>					
【授業概要】	発音練習およびディクテーション練習を繰り返し行うことで、ナチュラルスピードの英語に見られる音声的特徴や有益な表現の理解を深めていく。また、テスト形式の問題にも取り組むことで、TOEIC など英語テストのリスニング練習も行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 Introduction 2 U1 Reduction of h, U2 Intonation of tag questions 3 U3 Word stress in complaints, U4 Intonation of yes/no and Wh-questions 4 U5 Linking vowel sounds, U6 Reduction of to 5 U7 Reduction of is and are, U8 Intonation of complex sentences 6 U9 Word stress for emphasis, U10 Rising and falling intonation for positive and negative stress 7 U11&12 Reduction of have to, got to, and had to, used to, and use to 8 Midterm review 9 U13&14 Reduction of t in numbers and of of 10 U15 Intonation of questions of choice, U16 Reduction of going to and want to 11 U17 Emphasis on time phrases, U18 Linking vowel sounds 12 U19 Saying large numbers, U20 Intonation of words or phrases in a series 13 U21 Reduction of could you, would you, and did you, U22 Plural -s endings 14 U23 Word stress in compound nouns, U24 Syllable stress in two-syllable nouns and verbs 15 Final review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Tactics for Listening Expanding, 3rd Edition (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語Ⅱ	TOEIC English Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*E. Arshavskaia					
【担当教員】	*相羽千州子（クラス3）					
【授業目標】						
●授業目的	このコースの主な目的は、これまで学んできたことを基盤とし、学生が日常英会話、アカデミック英語やビジネス英語に必要なリスニング及びスピーキングスキルの向上を目指す。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンテーションに必要な語彙力・表現力の強化</li> <li>・ナチュラルスピードの英語が理解できるリスニング力の強化</li> <li>・論理的なプレゼンテーション原稿作成に必要なライティング力の強化</li> <li>・英語のプレゼンテーションの内容を効果的に伝える方法やスキルの強化</li> </ul>					
【授業概要】	発音練習およびディクテーション練習を繰り返し行うことで、ナチュラルスピードの英語に見られる音声的特徴や有益な表現の理解を深めていく。また、テスト形式の問題にも取り組むことで、TOEIC など英語テストのリスニング練習も行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 Introduction 2 U1 Reduction of h, U2 Intonation of tag questions 3 U3 Word stress in complaints, U4 Intonation of yes/no and Wh-questions 4 U5 Linking vowel sounds, U6 Reduction of to 5 U7 Reduction of is and are, U8 Intonation of complex sentences 6 U9 Word stress for emphasis, U10 Rising and falling intonation for positive and negative stress 7 U11&12 Reduction of have to, got to, and had to, used to, and use to 8 Midterm review 9 U13&14 Reduction of t in numbers and of of 10 U15 Intonation of questions of choice, U16 Reduction of going to and want to 11 U17 Emphasis on time phrases, U18 Linking vowel sounds 12 U19 Saying large numbers, U20 Intonation of words or phrases in a series 13 U21 Reduction of could you, would you, and did you, U22 Plural -s endings 14 U23 Word stress in compound nouns, U24 Syllable stress in two-syllable nouns and verbs 15 Final review					
【履修条件】	1年生担当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Tactics for Listening Expanding, 3rd Edition (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	検定英語Ⅱ	TOEIC English Ⅱ				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*E. Arshavskaia					
【担当教員】	*E. Arshavskaia(クラス1)、*小田 透(クラス2A)、*青島 真澄(クラス2B) *相羽 千州子(クラス3)、*田中 裕実(クラス4)					
【授業目標】						
●授業目的	このコースの主な目的は、これまで学んできたことを基盤とし、学生が日常英会話、アカデミック英語やビジネス英語に必要なリスニング及びスピーキングスキルの向上を目指す。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンテーションに必要な語彙力・表現力の強化</li> <li>・ナチュラルスピードの英語が理解できるリスニング力の強化</li> <li>・論理的なプレゼンテーション原稿作成に必要なライティング力の強化</li> <li>・英語のプレゼンテーションの内容を効果的に伝える方法やスキルの強化</li> </ul>					
【授業概要】	発音練習およびディクテーション練習を繰り返し行うことで、ナチュラルスピードの英語に見られる音声的特徴や有益な表現の理解を深めていく。また、テスト形式の問題にも取り組むことで、TOEIC など英語テストのリスニング練習も行う。					
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 Introduction 2 U1 Reduction of h, U2 Intonation of tag questions 3 U3 Word stress in complaints, U4 Intonation of yes/no and Wh-questions 4 U5 Linking vowel sounds, U6 Reduction of to 5 U7 Reduction of is and are, U8 Intonation of complex sentences 6 U9 Word stress for emphasis, U10 Rising and falling intonation for positive and negative stress 7 U11&12 Reduction of have to, got to, and had to, used to, and use to 8 Midterm review 9 U13&14 Reduction of t in numbers and of of 10 U15 Intonation of questions of choice, U16 Reduction of going to and want to 11 U17 Emphasis on time phrases, U18 Linking vowel sounds 12 U19 Saying large numbers, U20 Intonation of words or phrases in a series 13 U21 Reduction of could you, would you, and did you, U22 Plural -s endings 14 U23 Word stress in compound nouns, U24 Syllable stress in two-syllable nouns and verbs 15 Final review					
【履修条件】	1年生配当の英語4科目を全て修得した学生に限る。					
【評価方法】	授業内課題・予習・復習・小テスト 60%、定期試験 40% 6回上欠席した場合は不可(E)とする。					
【テキスト】	Tactics for Listening Expanding, 3rd Edition (OUP)					
【参考書】						
【備考】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	検定英語					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	組織行動論	Organizational Behavior		
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	国保 祥子			
【担当教員】	国保 祥子			
【授業目標】				
●授業目的	経営組織論の基礎的な知識を習得し、その理論を用いて自ら考えられるようになること			
●到達目標	経営組織論の基礎的な知識を習得し、その理論を用いて自ら考えられるようになる			
【授業概要】	<p>大学、部活、企業など、私たちの生活にとって組織はなくてはならない存在です。本授業では、第一に、組織に対する理論的な考察を通じて、組織が私たちの生活をいかに形成しているかを考えます。第二に、組織に対する考察を敷衍して、組織の維持に関わる経営管理について考えます。</p> <p>本授業では、経営組織論の考え方を習得し、それらの知識を使って自身や周りの人の活動、さらには社会のあり方について考える力を養うことを目標にしています。</p>			
【授業方法】	本授業は、理論的な知識を身につけるだけでなく、理論的な知識を自ら使えるようになることを目指しています。そのため、授業中に適宜、少人数でのディスカッションの機会を多く設けるとともに、発言を求めます。			
【準備学習】				
【授業展開】	<p>イントロダクション</p> <p>Session-1: 組織行動論を「学ぶ」ということ／ケースメソッド教授法について</p> <p>第1部 組織の中の個人</p> <p>Session-2: 行動を駆動する力: ワーク・モチベーション</p> <p>Session-3: やりがいの設計: 職務設計と内発的動機づけ</p> <p>Session-4: やる気を引き出す評価: 公平理論と組織的公正</p> <p>Session-5: 組織とのよき出会い: 採用の意思決定</p> <p>Session-6: 組織に馴染むプロセス: 組織社会化</p> <p>Session-7: 組織と個人の約束: 心理的契約と離職モデル</p> <p>第2部 集団と組織のマネジメント</p> <p>Session-8: マネジャーの仕事: モチベーション論とリーダーの行動</p> <p>Session-9: 組織を動かすリーダー: 変革型・カリスマ型リーダーシップ</p> <p>Session-10: 集団の持つ力: グループ・ダイナミクス</p> <p>Session-11: もめごとを乗り越える: コンフリクトと交渉</p> <p>Session-12: 貢献を引き出す関わり合い: 文化とコミットメント</p> <p>Session-13: 「私らしさ」と「我々らしさ」: 組織アイデンティティ</p> <p>Session-14: 組織行動論を「使う」ということ(ケース・コンペティション)</p> <p>* 授業の理解度によって内容を変更する可能性があります。</p>			
【履修条件】	基礎経営学を履修していること。			
【評価方法】	<p>以下4点を総合的に評価する。</p> <p>①事前課題の提出率</p> <p>②授業への出席率</p> <p>③授業貢献度(グループへの貢献をピア評価します)</p> <p>④期末レポート</p>			
【テキスト】	「組織行動 -- 組織の中の人間行動を探る」有斐閣ストウディア 鈴木 竜太(神戸大学教授), 服部 泰宏(神戸大学准教授)／著			
【参考書】	授業の中で紹介・配布します			
【備考】	企業で働いた経験のある教員が、企業で働く人を前提として組織論を解説します			
【旧カリキュラム読み替え科目】	組織理論			
【社会人聴講生】	受け入れない	【科目等履修生】	受け入れない	【交換留学生】

【科目名】	企業論	Theory of Enterprise					
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期				
【科目責任者】	落合 康裕						
【担当教員】	* 落合 康裕						
【授業目標】							
●授業目的	会社制度、所有と経営の関係、企業と利害関係者との関係などを学ぶ。また、現代企業の重要な経営課題であるSDGsや事業承継のようなテーマも取り扱う。						
●到達目標	経営学の主要な研究対象である企業の活動や制度について、多角的、多元的に考察しうる能力の獲得を目指す。						
【授業概要】	<p>企業は、我々の日常生活や社会において大きな役割を果たしています。例えば、自動車などの製品やホテルのようなサービスの提供があげられます。それだけではありません。企業は、従業員に対して雇用を提供しています。地域の伝統企業などは、地域ブランドの創造や地域創成を担う場合もあります。</p> <p>本講義では、企業の存在意義にはじまり、企業を成立させる会社制度、顧客やサプライヤーといった利害関係者との関係、企業の社会的責任のテーマを学びます。本講義を通じて、受講生の方々は「企業とは何か」「経営とは何か」について深く考えて</p>						
【授業方法】	主に講義形式で進めます。ただし、講義の理解を促すため、講師から問いかけを行います。新型コロナウイルス感染症防止などに備え、遠隔授業(Zoomによる同時双方向型)を適宜取り入れて講義を行う。						
【準備学習】							
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業とは何か</li> <li>2 企業制度の歴史</li> <li>3 様々な会社制度</li> <li>4 株式会社制度</li> <li>5 所有と経営の分離</li> <li>6 経営者革命と機関所有</li> <li>7 大企業の役割</li> <li>8 コンプライアンスと企業経営</li> <li>9 独占禁止法</li> <li>10 CSR、SDGsと企業経営</li> <li>11 M&amp;A、アライアンス</li> <li>12 産業集積と企業の国際化</li> <li>13 事業承継とファミリービジネス</li> <li>14 事業承継と経営革新、後継者教育</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>※具体的な授業計画は上記の通りですが、受講者の理解度をふまえて変更することがあります。</p>						
【履修条件】	特になし						
【評価方法】	レポート(50%)、出席状況(50%)など総合的に評価。						
【テキスト】	各回の講義において、講義資料を配布します。						
【参考書】	落合康裕(2019)『事業承継の経営学:いかに企業は後継者を育成するか』白桃書房。						
【備考】	日系投資銀行において資本市場や組織運営の実務経験を有する教員が、企業の生成の背景、社会に及ぼす効果等について理論的かつ実践的な内容を提供します。						
【旧カリキュラム読み替え科目】							
【社会人聴講生】	聴	講	可	【科目等履修生】	聴講可	【交換留学生】	聴講可

【科目名】	国際比較経営論	International Comparative Management		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期	
【科目責任者】	竹下 誠二郎			
【担当教員】	*竹下 誠二郎			
【授業目標】				
●授業目的	1) 国際比較分析を通じて、日本企業の経営の特徴を把握する。 2) 国・地域別の経営モデルにおいて違いが生じる構造的要因を考究し、日本企業における経営モデルの将来像を深求する。			
●到達目標	日本企業の経営の特徴を把握し、日本と他国の経営モデルとの構造的な違い、またその慣行の違いを理解する。			
【授業概要】	日本の経営モデルについて検討したのち、主に米国の経営モデルとの比較分析を通じて日本企業経営の特徴を把握する。経営モデルの違いの基となる資本主義の形態、ガバナンス、文化などの考察を深める。さらに、日本企業のグローバル戦略や多国籍企業の形態も習得し、日本企業の経営モデルとその課題について論じる力を養うことを目指す。			
【授業方法】	レクチャーが中心だが、理論をよりよく解釈し、実践的な考え方も身につけるために過去・現在進行中の企業事例を頻繁に使う。ケース・スタディは、生徒全員参加のロール・プレイングを行う。ゲスト・スピーカーも招くことがある。質問、発言など、生徒の積極的な参加を大いに重視する。			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 イントロダクション:国際比較経営論 第2回 比較ガバナンス論:グローバル・スタンダード・モデルへの収斂と抵抗 第3回 日本のコーポレート・ガバナンス(1) 第4回 日本のコーポレート・ガバナンス(2) 第5回 日本のリーダーシップ:「名ばかりの危機管理」 第6回 米国の分裂とグローバル・サプライチェーン 第7回 米国企業の経営モデル 第8回 欧州の経営:その背景と現状 第9回 多国籍企業の経営モデル 第10回 経営と文化:異文化経営・日本文化と経営 第11回 ケース・スタディ:「オリンパスと告発者になった社長」 第12回 CSR の比較研究 第13回 ファイナンスの比較研究 第14回 マーケティングの比較研究 第15回 イノベーションの比較研究 レポート 期末レポート			
【履修条件】	(既習指定科目など) 特になし			
【評価方法】	授業への取り組み:50%、期末レポート:50%			
【テキスト】	文明の衝突と21世紀の日本(サミュエル・ハンチントン、集英社新書) タテ社会の人間関係(中根千枝、講談社現代新書)			
【参考書】	参考文献・資料を随時紹介・配布する。			
【備考】	国内・海外の金融機関において長期かつ多彩な海外勤務経験を有する教員が、そこでの実務経験も踏まえ、国際比較経営論について講義する。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	起業家論	Entrepreneur and Venture			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	落合 康裕				
【担当教員】	* 落合 康裕				
【授業目標】					
●授業目的	新たなビジネスを創造する起業家の活動、また起業のプロセス等の理論を学ぶとともに、代表的な日本の企業家の実践からも学ぶ。				
●到達目標	将来、自ら起業を行う、もしくは起業家を支援するための業務を行ううえで、必要な知識の習得を目指す。				
【授業概要】	<p>起業家は、アントレプレナーもしくはベンチャー経営者と呼ばれます。具体的には、複雑な環境の中でビジネス機会を掴み、新たな事業を立ち上げ軌道に乗せる創業経営者のことです。例えば、京セラの稲盛和夫氏や楽天の三木谷浩史氏のような経営者です。また、広義の起業家の意味には、社会的な問題解決を担うソーシャル・アントレプレナーやファミリービジネス(同族企業)の後継経営者であるファミリー・アントレプレナーも含まれます。</p> <p>本講義では、毎回、実践的な事例を交えて、起業家の思考や行動、起業のプロセス、様々な起業家の類型等につ</p>				
【授業方法】	主に講義形式で進めます。ただし、講義の理解を促すため、講師から問いかけを行います。新型コロナウイルス感染症防止などに備え、遠隔授業(Zoom による同時双方向型)を適宜取り入れて講義を行う。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 起業家の基礎理論、起業家精神の社会的意義、倫理教育</li> <li>3 起業家による事業創造、ファミリー企業家、社内企業家</li> <li>4 アカデミック・アントレプレナー、社会企業家</li> <li>5 起業家とライフサイクル(誕生期、成長期、成熟期など)</li> <li>6 渋沢栄一(近代資本主義の父)―前編</li> <li>7 渋沢栄一(近代資本主義の父)―後編</li> <li>8 松下幸之助(松下電器産業)</li> <li>9 中内功(ダイエー)</li> <li>10 小林一三(阪急電鉄)</li> <li>11 本田宗一郎(本田技研工業)</li> <li>12 井深大(ソニー)</li> <li>13 丸田芳郎(花王)</li> <li>14 小倉昌男(ヤマト運輸)</li> <li>15 ザッカーバーグ(Facebook)と張瑞敏(ハイアール)</li> </ol> <p>※具体的な授業計画は上記の通りですが、受講者の理解度をふまえて変更することがあります。</p>				
【履修条件】	(既習指定科目など) 特になし				
【評価方法】	レポート(50%)、出席状況(50%)など総合的に評価。				
【テキスト】	各回の講義において、講義資料を配布します。				
【参考書】	山田幸三・江島由裕編(2017)『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎。				
【備考】	日系投資銀行において資本市場や組織運営の実務経験を有する教員が、企業家としての精神や行動、様々な企業家のタイプと特徴等について理論的かつ実践的な内容を提供します。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴	講	可	【科目等履修生】	聴講可
				【交換留学生】	聴講可



【科目名】	ベンチャービジネス論	Theory of New Venture		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期	
【科目責任者】	国保 祥子			
【担当教員】	国保祥子			
【授業目標】				
●授業目的	経済発展をもたらすベンチャービジネスの実態を具体的な事例とともに学び、グループワークでの実践を通じて、創業経営者の視点でビジネスを考えられるようになることを目指します。			
●到達目標	経済発展をもたらすベンチャービジネスの実態を具体的な事例とともに学び、グループワークでの実践を通じて、創業経営者の視点でビジネスを考えられるようになる			
【授業概要】	本授業は、ベンチャーに特有の経営課題を創業経営者の視点から考えることを通じて、起業を志す学生には実践する際のイメージと具体的に役立つ経営知識を、また起業を志望していない学生には経営学を組織の中でどのように使うのかの知識として、習得してもらうことをゴールとしています。大企業に比べ、ベンチャー企業の経営は経営資源が乏しく、かつ新しく組織を立ち上げたばかりの状況で事業を行うことが普通であることから、非常に高い経営能力が問われます。授業の前半では、経営学の理論と具体的な事例を通じてベンチャービジネスに関する知識を			
【授業方法】	本授業は、ディスカッションという双方向・参加型の知的コラボレーションを通じて、クラス全体で学んでゆくことを目指しています。授業の前半は、レクチャーとディスカッションを通じて進めます。プロジェクトを進めるうえで必須となるディスカッションの基本的なお作法を学ぶためにも、「出席している」だけでなく、ディスカッションという知的作業に積極的に貢献することを期待します。また授業の後半は、ベンチャーを立ち上げる際に重要となるチームビルディングを経験するために、チームを創って具体的なビジネスプランを作成し、発表してもらい			
【準備学習】				
【授業展開】	<p>(授業の最初に最新のシラバスを配布します)</p> <p>イントロダクション</p> <p>1.2 ベンチャーとは何か、事業機会の発見と顧客創造</p> <p>ベンチャーの経営</p> <p>3.4 ベンチャーの戦略とビジネスモデル</p> <p>5.6 ベンチャーのマーケティング</p> <p>7.8 ベンチャーの組織マネジメント</p> <p>起業体験グループワーク</p> <p>9 個人プレゼンとチーム形成</p> <p>10,11 グループワークと経営相談会</p> <p>12,13 グループワークと経営相談会</p> <p>14,15 ビジネスプランの発表</p>			
【履修条件】	履修条件は特にありませんが、経営学の基礎知識があることを前提に授業は進めます。			
【評価方法】	<p>以下4点を総合的に評価する。</p> <p>①授業内課題の提出率</p> <p>②授業貢献度(グループメンバーからの評価も含まれます)</p> <p>③ビジネスプランの完成度(成果と見なします)</p> <p>④期末レポート</p>			
【テキスト】	「ベンチャー経営論 はじめての経営学」 長谷川 博和 (著) 東洋経済新報社			
【参考書】				
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営管理応用			
【社会人聴講生】	受け入れない	【科目等履修生】	受け入れない	【交換留学生】

【科目名】	経営戦略論	Corporate Strategy			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	落合 康裕				
【担当教員】	* 落合 康裕				
【授業目標】					
●授業目的	企業の経営戦略について、理論や概念に加えて実践に耐えうる基礎知識を習得する。				
●到達目標	将来、経営者として、もしくは企業の経営参謀として、企業の長期利益を図る戦略策定のための実践的知識の獲得を目指す。				
【授業概要】	<p>経営戦略は、現代経営学における中心的テーマの一つです。企業の目的は、長期利益の最大化であるといわれます。企業が長期利益を最大化していくためには、刻々と変化する経営環境のなかで事業を存続し成長させていかねばなりません。経営戦略は、そのための長期的な指針、環境との関わり方、資源(ヒト、モノ、カネ)の配分の決定ということができます。</p> <p>本講義では、経営戦略の意味や歴史、競争戦略や事業システム、事業ドメインなど基本的な概念を習得します。また、理論の習得だけではなく、実際の企業事例を交えて経営戦略を解説します。</p>				
【授業方法】	主に対面による講義形式で進めます。ただし、講義の理解を促すため、講師から問いかけを行い受講生の発言をもとめます。なお、状況によって同時双方向などの方法をとることがある。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 経営戦略論の歴史(1):古典的管理論と新古典的管理論</li> <li>3 経営戦略論の歴史(2):バーナード革命と近代管理論</li> <li>4 競争戦略、業界構造</li> <li>5 差別化戦略</li> <li>6 コストリーダーシップ戦略と集中化戦略</li> <li>7 事業システム戦略(組み合わせ、スピード、外部化・集中特化)、バリューチェーン</li> <li>8 事業ドメイン</li> <li>9 経営資源、経営資源、VRIO分析</li> <li>10 経営資源、コア・コンピタンス、見えざる資産</li> <li>11 全社戦略、経営資源の配分と展開、PPM、事業ポートフォリオ</li> <li>12 多角化戦略、製品市場マトリックス、シナジー効果</li> <li>13 企業革新、イノベーション、戦略実行組織、プロジェクトチーム</li> <li>14 組織文化、学習棄却、経営戦略のパラダイム</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>※具体的な授業計画は上記の通りですが、受講者の理解度をふまえて変更することがあります。</p>				
【履修条件】	(既習指定科目など) 1年次において経営学関連科目(基礎経営学や企業論など)を履修していることが望ましい。				
【評価方法】	レポート(50%)、出席状況(50%)など総合的に評価。				
【テキスト】	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編(2016)『1からの戦略論<第2版>』碩学社。				
【参考書】					
【備考】	日系投資銀行において資本市場や組織運営の実務経験を有する教員が、企業の競争戦略や全社戦略について理論的かつ実践的な内容を提供します。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営戦略				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 <受入条件> ・とくになし	【科目等履修生】	聴講可 <受入条件> ・とくになし	【交換留学生】	聴講可 <受入条件> ・とくになし

【科目名】	商業論	Commercial Science			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	岩崎邦彦				
【担当教員】	岩崎邦彦				
【授業目標】					
●授業目的	本講義は、現代の流通や商業（小売業、商店街、街づくりなど）の潮流と課題、その方向性と将来像を探求することを目的とする。				
●到達目標	理論と実践を融合する講義を通じて、流通や商業を理解するための理論的基盤を得ること、および、現代の商業（とくに小売商業）を取り巻く課題を解決するための実践的応用力を身に着けることを目標とする。				
【授業概要】	<p>今日、小売業や地域商業を取り巻く環境は、経済の成熟化、消費者行動の変化、情報技術革新、グローバル化、業態間競争の激化などによってダイナミックに変動している。</p> <p>本講義では、変貌する現代の流通・商業環境を、①小売流通の現状と課題、②小売業のマーケティング、③地域・街づくりと商業の三軸との関わりの中で理論的・実証的に検討していく。</p>				
【授業方法】	主に講義形式、受講生との双方向的なディスカッションによる。商業事象に関する課題レポート作成のため、データ収集やフィールド・リサーチなど受講者による実践活動も行う。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション：流通の機能と社会的役割</li> <li>2 小売流通（1）：消費構造の変化と小売経営への影響</li> <li>3       （2）：小売業態の発展の歴史と代表的な小売業態の現状と課題</li> <li>4       （3）：小売業態の理論</li> <li>5 小売業のマーケティング <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）：小売流通を取り巻く社会環境</li> <li>（2）：大規模小売業 対 中小小売業</li> <li>（3）：中小小売業の現状、中小小売業のマーケティング①</li> <li>（4）：中小小売業のマーケティング②</li> <li>（5）：中小小売業のマーケティング③</li> <li>（6）：商店街のマーケティング</li> </ol> </li> <li>12 地域商業と消費者買物行動 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）：都市と小売業</li> <li>（2）：地域商業を取り巻く現状、地域商業集積の活性化</li> <li>（3）：消費者空間行動分析と店舗選択モデル</li> </ol> </li> <li>15 総括</li> </ol>				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み状況状況、課題レポートを評価。</li> <li>・定期試験で理解度、応用力を評価。</li> <li>・上記の総合評価を本学部・採点評価基準に沿って成績評価。</li> </ul>				
【テキスト】	岩崎邦彦『スモールビジネス・マーケティング』中央経済社				
【参考書】	岩崎邦彦「引き算する勇氣：会社を強くする逆転発想」日本経済新聞出版社 「小が大を超えるマーケティングの法則」日本経済新聞出版社				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】	商業論Ⅰ				
【社会人聴講生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり ・マーケティングⅠを履修した方が望ましい	【科目等履修生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり ・マーケティングⅠを履修した方が望ましい	【交換留学生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり ・マーケティングⅠを履修した方が望ましい

【科目名】	マーケティング I	Marketing I		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期	
【科目責任者】	岩崎邦彦			
【担当教員】	岩崎邦彦			
【授業目標】				
●授業目的	本講義は、マーケティングの概念や社会的な意義、マーケティング的な発想、マーケティングの基礎的な理論を理解することを目的とする。			
●到達目標	理論と実践を融合した講義やディスカッションを通じて、現実生じているマーケティング事象を解明・理解するための思考のフレームワークを身につけ、マーケティング的な発想で行動できる力を身につけることを到達目標とする。			
【授業概要】	本講義では、マーケティングの概念、歴史、マーケティング活動の理論と実践に関して、体系的な解説や議論を行う。			
【授業方法】	①マーケティングに関する基礎理論のみならず、応用事例を現実市場で生じているケースもとりあげ、理論と実践のバランスに配慮した講義を行う。 ②マーケティング理論を単に覚えるだけでなく、理論を使って自ら考え、課題を掘り下げる姿勢が、レポートやディスカッションなどを通じて要求される。			
【準備学習】				
【授業展開】	1 イントロダクション: マーケティング・コンセプト 2 マーケティングの基本: マーケティングの活動領域、マーケティングの歴史 3 マーケティング戦略 (1): 経営戦略とマーケティング戦略 4 (2): マーケティング戦略の構築 5 (3): 標的市場の選択、市場セグメンテーション 6 (4): ポジショニング戦略 7 (5): マーケティング・ミックス 8 需要創造と製品戦略 (1): 製品の概念 9 (2): 製品開発 10 (3): プロダクトライフサイクル、新製品の普及過程 11 (4): ブランドとは何か、ブランドづくり 12 価格戦略 (1): 価格とは何か 13 (2): 価格決定の方法、消費者心理と価格 14 (3): 新製品の価格対応 15 総括			
【履修条件】	マーケティングへの関心、マーケティングを学ぶ意欲			
【評価方法】	・授業への取り組み状況や、提出されたレポートを評価。 ・定期試験で到達度を評価。 ・上記の評価を本学部・採点評価基準に沿って成績評価。			
【テキスト】	テキストは使用しない			
【参考書】	岩崎邦彦「小さな会社を強くするブランドづくりの教科書」日本経済新聞出版社 「地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書」日本経済新聞出版社 「世界で勝つブランドをつくる」日本経済新聞出版			
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】	マーケティング管理 I			
【社会人聴講生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり	【科目等履修生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり	【交換留学生】 「条件付きで受入」 ・事前に教員にメールなどで相談すること ・レポート提出あり

【科目名】	マーケティングⅡ	MarketingⅡ	
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024年度前期
【科目責任者】	岩崎邦彦		
【担当教員】	岩崎邦彦		
【授業目標】			
●授業目的	本講義は、多様化する現代のマーケティングを体系的に理解し、実践的な応用力を身につけることを目的とする。		
●到達目標	理論と実践を融合して進める講義を通じて、マーケティング分野で生じる問題の発見、市場の分析、マーケティング戦略策定のために必要なスキルを身につけることを、本講義の到達目標とする。		
【授業概要】	<p>右肩上がりの経済成長の終焉、成熟消費時代の到来、経済のサービス化など、企業や組織をとりまく経営環境は構造的に大きく変容している。このような環境下、企業の対市場政策であるマーケティングにおいても、発想や行動原理の転換が求められている。</p> <p>本講義では、企業と顧客や社会との「コミュニケーション活動」、「サービス・マーケティング」、および「顧客との絆の構築」といった現代的なテーマを軸に、理論・技法・ケースをまじえた講義を行う。</p>		
【授業方法】	<p>①マーケティング理論のみならず、応用事例や現実に市場で生じているケースもとりあげ、理論と実践のバランスに配慮した講義を行う。</p> <p>②マーケティング理論を単に覚えるだけでなく、理論を使って自ら考え、課題を掘り下げる姿勢が、講義中のディスカッション、質疑応答、実践的な課題レポートなどを通じて求められる。</p> <p>「新型コロナウイルス感染症への対応」 新型コロナウイルス感染症の拡大がみられた場合、遠隔授業（Zoomによる同時双方向型）に切り</p>		
【準備学習】			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 現代の市場環境とマーケティング</li> <li>3 マーケティング・コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> <li>(1): コミュニケーション・ミックス</li> <li>(2): メディア選択</li> <li>(3): 広告の現状</li> <li>(4): 広告対応</li> <li>(5): セールス・プロモーション</li> </ol> </li> <li>8 市場の把握 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1): マーケティング・リサーチの目的・役割</li> <li>(2): マーケティング・リサーチの手順</li> <li>(3): 調査票の作成とデータ分析</li> </ol> </li> <li>11 現代マーケティングの焦点 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1): 関係性のマーケティング①</li> <li>(2): 関係性のマーケティング②</li> <li>(3): サービス経済化とマーケティング①</li> <li>(4): サービス経済化とマーケティング②</li> </ol> </li> <li>15 総括</li> </ol>		
【履修条件】	マーケティングⅠを履修していることが望ましい。		
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み状況や、提出されたレポートを評価。</li> <li>・定期試験で到達度を評価。</li> <li>・上記の評価をスコア化し、本学部・採点評価基準に沿って成績評価。</li> </ul>		
【テキスト】	テキストは使用しない		
【参考書】	<p>岩崎邦彦『小が大を超えるマーケティングの法則』日本経済新聞出版</p> <p>『地域引力を生み出す観光ブランドの教科書』日本経済新聞出版</p> <p>『引き算する勇気: 会社を強くする逆転発想』日本経済新聞出版</p>		
【備考】			
【旧カリキュラム読み替え科目】	マーケティング管理Ⅱ		
【社会人聴講生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメー	【科目等履修生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメー
		【交換留学生】	「条件付きで受入」 ・事前に教員にメー

	ルなどで相談すること ・レポート提出あり ・マーケティング I を履修した方が望ま し い		ルなどで相談すること と ・レポート提出あり ・マーケティング I を履修した方が望ま しい		ルなどで相談すること ・レポート提出あり ・マーケティング I を 履修した方が望ましい
--	-----------------------------------------------------------	--	---------------------------------------------------------------	--	-------------------------------------------------------

【科目名】	コーポレート・コミュニケーション	Corporate Communication		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	竹下 誠二郎			
【担当教員】	*竹下 誠二郎			
【授業目標】				
●授業目的	1)コーポレート・コミュニケーションを通じて企業の評判・企業の価値とは何かを理解する。 2)コーポレート・コミュニケーションが戦略・競争優位の獲得に占める役割を理解する。			
●到達目標	上記授業目標にある(1)企業の評判・企業の価値とは何かを理解し、(2)コーポレート・コミュニケーションが戦略・競争優位の獲得に占める役割を理解することにより、 企業があらゆるステークホルダーに対して:(1)どのような対応・働きかけを行わなければならないか、(2)また行ってはいけぬか、を理解する。			
【授業概要】	企業理念や方向性はもちろんのこと、その商品・サービスのコンセプトを伝達し、消費者に正しい認識と理解を持ってもらうのがコーポレート・コミュニケーションである。ステークホルダーたちは組織が発するコミュニケーションにより、その組織を評価する。また、外的環境の変化に対応するためにも、組織が強いコミュニケーション力を持つことは不可欠である。コーポレート・コミュニケーションの多面性を学ぶとともに、それらを戦略・競争優位の獲得にどう適応できるかを学んでいく。			
【授業方法】	レクチャーが中心だが、理論をよりよく解釈し、実践的な考え方も身につけるために過去・現在進行中の企業事例を頻繁に使う。ゲスト・スピーカーも招くことがある。質問、発言など、生徒の積極的な参加を大いに重視する。			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 インTRODクシヨン:CCとは 第2回 企業の評判・企業の価値 第3回 ステークホルダーとのコミュニケーション(1):CSR 第4回 ステークホルダーとのコミュニケーション(2):内部・従業員 第5回 ステークホルダーとのコミュニケーション(3):IRと投資家 第6回 コミュニケーション戦略 第7回 コーポレート・アイデンティティとブランディング 第8回 メディア(1):ジャーナリズムとの関係 第9回 メディア(2):ソーシャル・メディアとの関係 第10回 国際化とCC 第11回 競争優位獲得・戦略的ツールとしてのCC 第12回 企業犯罪 第13回 CCのリーダーシップ 第14回 危機管理とCC 第15回 まとめ			
【履修条件】	(既習指定科目など) 特になし			
【評価方法】	授業への取り組み:50%、期末レポート:50%			
【テキスト】	テキストは指定しない。参考文献・資料を随時紹介・配布する。			
【参考書】	Cornelissen, Joep (2014), Corporate Communication, 4th Edition, SAGE Publications			
【備考】	国内・海外の金融機関において長期かつ多彩な海外勤務経験を有する教員が、実務経験も踏まえ、コーポレート・コミュニケーションについて講義する。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	コーポレート・コミュニケーションⅡ(～H14入学者)			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	広告論	Advertising Theory									
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期								
【科目責任者】											
【担当教員】	玉利祐樹										
【授業目標】											
●授業目的	我々は、日々至る所で、広告とそのメッセージに接している。広告によるメッセージの伝達あるいはコミュニケーションにおいて、人が広告をどのように受け取り、反応をするのかを理解することことを主な目的とする。										
●到達目標	本授業では、以下の3点を目標とする。 1. 広告の基礎知識を習得する。 2. 実社会でみられる広告に対して、心理学・実務の観点から考え、説明できるようになる。 3. 広告に関わる課題を主体的に探求する能力を養う。										
【授業概要】	本授業では、広告における、主に人の主観的体験や行動に関する、代表的な知見を紹介する。また、広告の効果を推定する方法についてもいくつか紹介する。 講義に登場する現象・理論や、実際の広告などを題材に、受講生と一緒にディスカッションを行う。また、受講生に発表を求めることがある。										
【授業方法】	主に、講義形式で授業を進める。授業では、まず、広告に関わる現象・理論を紹介する。その後、ディスカッションや、ショートレポートを通じて、講義中に紹介される現象・理論にあてはまる事例の検討を行う。										
【準備学習】											
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告とは何か</li> <li>2. 広告とは何か：種類</li> <li>3. 広告とは何か：機能</li> <li>3. 広告とマーケティング</li> <li>4. 広告とブランド</li> <li>5. 広告の心理学：記憶</li> <li>6. 広告の心理学：学習</li> <li>7. 広告の心理学：(説得的)コミュニケーション</li> <li>8. 広告の心理学：態度形成と態度変容</li> <li>9. 広告の心理学：関与</li> <li>10. 広告の効果と測定</li> <li>11. 広告の効果と測定：ブランド連想</li> <li>12. 広告の効果と測定：微分方程式 1</li> <li>13. 広告の効果と測定：微分方程式 2</li> <li>14. 広告の効果と測定：広告媒体の到達率</li> <li>15. 総括</li> </ol>										
【履修条件】											
【評価方法】	<p>試験：50% (授業時に行う予告なし小試験と最終試験の結果で知識を評価する)</p> <p>レポート：20% (授業時に課すいくつかのレポートの内容を評価する)</p> <p>平常点評価：30% (授業態度をもとに評価する)</p> <p>講義の実施状況によって、変更の可能性がある。</p>										
【テキスト】											
【参考書】	<p>石崎徹 (2012) わかりやすい広告論 八千代出版</p> <p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵 (2017) 現代広告論 第3版 有斐閣アルマ</p> <p>小嶋外弘・小林貞夫・林英夫 (1993) 広告の心理学 日経広告研究所</p> <p>杉本徹雄 (2012) 新・消費者理解のための心理学 福村出版</p> <p>杉本徹雄 (2013) マーケティングと広告の心理学 朝倉書店</p>										
【備考】											
【旧カリキュラム読み替え科目】											
【社会人聴講生】	受	入	可	【科目等履修生】	受	入	可	【交換留学生】	受	入	可



【科目名】	財務会計論	Financial Accounting			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	上野 雄史				
【担当教員】	上野 雄史				
【授業目標】					
●授業目的	この授業では、1年後期の会計学総論で学んだことを活かして、より深く社会、企業のことを理解するために財務会計の理論を学んでいきます。				
●到達目標	①会計の諸理論を理解し、その機能と課題を説明できるようになること ②会計が社会において果たしている機能を理解し、自分なりの考え方を示せるようになること ③会計処理方法の考え方も踏まえて、有価証券報告書から企業分析を行えるようになること				
【授業概要】	財務会計論では、「会計の理論的な背景」について触れ、会計を通じて社会、企業の見方について学んでいきます。				
【授業方法】	講義、事例検討を通じて理解を深めます。				
【準備学習】					
【授業展開】	① ガイダンス(アンケートにより実施) ② 決算発表、株主総会がどうなる？ ③ 除外付適正意見に関する話(経営者と会計士の妥協を探る)見積りの問題(貸倒引当金)(政府が保証すれば引当金の見積り額は甘くてよい?)決算簡易分析(JAL、ANA、トヨタ) 新型コロナウイルス対応に関する情報開示(クライシス・コミュニケーション) ④ 減損会計～処理解説編、事例編、現在価値と金利の決まり方 ⑤ 減損に関する補足、クライシスコミュニケーション、決算発表の見方:決算発表の見方(任天堂、ホンダ、スズキ、ソフトバンク)、オリエンタルランドの決算分析 ⑥ のれんと減損に関する話、アカウントビリティと持続化給付金の再委託問題、民間の力をどう考えるか:会計の視点からPFI、指定管理者制度を考える、決算簡易分析:電通グループ ⑦ 株主総会とプロキシファイト、減価償却のなぞ(なぜ減価償却の会計処理は誕生したのか?)、不正の動機付け、フォレンジック会計、決算簡易分析:ヤマト VS 日本郵便 決算簡易分析(宅配便編) ⑧ 概念フレームワーク、企業会計原則の基本を理解しよう、資産除去債務を通じて企業の環境債務を知る、決算簡易分析:サンリオの決算分析 ⑨ 資産除去債務(後半:事例編)IFRS 適用企業と日本基準適用企業の比較、金融商品会計基準:なぜ時価評価が必要か、星野リゾートの分析(16分) ⑩ 金融商品会計基準(中編)3つの論点から考えてみよう、リース業界×会計 ⑪ リース会計基準(後半)金融商品会計(後半)、キャッシュフロー会計 ⑫ 連結(前半)、収益認識 ⑬ 税効果会計、連結(後半) ⑭ 退職給付 ⑮ 総括 *ケースは時事的なものを入れて適宜入れ替える予定				
【履修条件】	会計学総論の単位取得				
【評価方法】	授業中に出してもらっているレポート 30点(15回×2点) 授業時におこなう小テスト 30点 レポート 30点 簿記・会計に関する練習課題 10点				
【テキスト】	初回時にお知らせします。				
【参考書】	初回時にお知らせします。				
【備考】	会計学総論の単位取得が履修にあたっては必要です。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	会計学各論(～H14 入学生)				
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	受講可
				【交換留学生】	受講可

【科目名】	会社会計	Corporate Accounting			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】					
【担当教員】	太田 裕貴				
【授業目標】					
●授業目的	個人商店を対象としていた日商簿記 3 級とは異なり、日商簿記 2 級(商業簿記)で対象となるのは、日本経済を支えているといっても過言ではない株式会社です。本講義では、日商簿記 2 級(商業簿記)の内容を踏まえながら、株式会社における会計がどのような仕組みになっているのかを理解してもらうことを目指します。				
●到達目標	本講義を通じて、資格試験としての簿記の重要性はもちろんですが、簿記で学習する内容から現実社会で起きている諸問題を考察することができることを味わってほしいと思います。さらには、「簿記(会計)が面白い」と思えるようになってもらえたらと思います。資格試験としての簿記に加えて現実社会を考察する道具としての簿記の役割を理解してもらうことを講義の到達目標と設定します。				
【授業概要】	日商簿記 2 級の商業簿記に関する内容を取り扱います。ただし、講義時間が限られていることから、全範囲を網羅することはできません。また、本講義の初回の講義の際には、日商簿記 3 級の範囲を苦手とする学生も多くいると思います。そこで、講義は次の二部制をとります。前半(第 1 週～第 6 週)は日商 3 級の範囲を復習しつつ 2 級の範囲へと拡張を図ります。具体的には減価償却、売上原価の算定、有価証券です。後半(第 7 週～第 14 週)は 2 級の範囲を学習しながら企業経営の実態に迫る内容です。満期保有目的債券や株式発行に関する仕訳を通じて企業				
【授業方法】	テキストの重要なポイントの解説をするために資料を配布します。配布資料にはテキストの問題に加えて演習問題があります。演習問題を解くことで理解が深まるようになります。また、必要に応じて関連する時事問題にも触れようと思います。				
【準備学習】					
【授業展開】	第 1 週～第 6 週: 日商 3 級の復習と 2 級への拡張を図る 第 1 週: 貸借対照表と損益計算書の関係: クリーンサープラス関係 第 2 週: 減価償却の本質: 計算方法、丸暗記してませんか? 第 3 週: 減価償却の計算方法は複数存在します: 定額法と定率法(200%定率法を含む) 第 4 週: 売上原価の算定: そもそも売上原価とは? 第 5 週: 期末商品の評価: 棚卸減耗損と商品評価損 第 6 週: 有価証券の購入と売却(売買目的有価証券を中心に) 第 7 週～第 14 週: 日商 2 級の世界から企業経営を知る 第 7 週: 満期保有目的債券とは?: 債券から見る企業の資金調達 第 8 週: 株式発行における仕訳: 資本金と資本準備金 第 9 週: 繰越利益剰余金の配当と処分: 貸借対照表と損益計算書をつなぐ重要な論点です 第 10 週: 子会社株式と合併に関する仕訳: 企業間のつながりを理解することは重要です 第 11 週: 外貨換算会計とは?: グローバル企業が増えてきましたね 第 12 週: リース取引とは?: 「購入しない」という選択 第 13 週: サービス業の仕訳: 発生主義会計を理解する 第 14 週: 財務諸表分析の基本: ROA と ROE 第 15 週: 期末試験				
【履修条件】	会計学関連の講義(簿記論や会計学総論など)を既に履修しているか、あるいは同時に履修していることが望ましいです。				
【評価方法】	毎回の講義後のアクションペーパー(15 点)、中間課題(35 点)、ならびに期末試験(50 点)で総合的に評価します。				
【テキスト】	テキスト『合格テキスト 日商簿記 2 級商業簿記』(TAC 出版)				
【参考書】	とくになし。				
【備考】	「日商簿記 2 級」の検定対策講座ではありません。ご注意ください。むしろ基礎から丁寧に取り組みたいと思いますので、「簿記が苦手」「簿記が嫌い」な人にも臆することなく受講してほしいと思います。もちろん「簿記が得意」「簿記が好き」な人に対しても、新たな知の提供ができるように努めます。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	可(ただし、上記の履修条件を致していること)	【科目等履修生】	可(ただし、上記の履修条件を致していること)	【交換留学生】	可(ただし、上記の履修条件を致していること)

【科目名】	経営分析	Financial Statement Analysis			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	上野雄史				
【担当教員】	上野雄史				
【授業目標】					
●授業目的	有価証券報告書の読み取りを通じて総合的な経営分析の能力を身に着けることを目的とします。				
●到達目標	一通りの経営分析の手法を学び、有価証券報告書(一次)データからそれを分析し、自分なりの分析観と企業観を身に着けることを目標とします。				
【授業概要】	この授業は、経営(企業)分析に興味がある学生、もしくは経営分析を活かした職業を目指す学生を対象にしています。具体的な職業としては、コンサルティング会社、会計士、税理士、中小企業診断士、投資機関、金融機関、フリーランスのエコノミストなどがこれに該当します。この授業では、会計学総論で行った有価証券報告書の分析を「より詳細」に行っていきます。上場企業が毎年発行しているこの報告書には、会計情報だけでなく、企業内部の情報が大量に書かれています。読み取りにはコツが必要ですが、有価証券報告書は企業の一次情報です。法律上で				
【授業方法】	講義と実習形式:分析手法を学んだ後に、実際のケースを通じて分析を行います。				
【準備学習】					
【授業展開】	①ガイダンス:なぜ経営分析の能力が今必要とされているのか? ②有価証券報告書を分解する(深く読むために何が必要か?) ③収益性と安全性、成長性の尺度の基本 ④収益性の分析基本とROAの限界 ⑤ROEと株価、配当(太田先生) ⑥資金調達戦略とキャッシュフロー分析~営業、投資、財務~ ⑦前半パートのまとめ 中間レポート ⑧みんなのレポートを見てみよう(振り返り・中間小テストも行う予定) ⑨PERとPBRの分析 ⑩非財務情報の分析:リスク・ガバナンス関連情報の分析 ⑪貸借対照表の組み替えとROIC(太田先生) ⑫DDMの分析(基礎編) ⑬DDMの分析(応用編) ⑭後半パートの総括 最終レポート ⑮最終レポートに基づいたプレゼン(2)				
【履修条件】	財務会計論の習得				
【評価方法】	授業中に出してもらっているレポート30点(15回×2点) 授業時におこなう小テスト(オンライン)20点 レポート50点				
【テキスト】	授業前に連絡します。				
【参考書】					
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営分析、情報会計Ⅱ				
【社会人聴講生】	受入可。*基礎的な会計学の知識を有すること。課題、グループワークについても参加を前提とし、知識が足りない人は事前の課題も行うことを受け入れ条件とさせていただきます。	【科目等履修生】	受入可。*基礎的な会計学の知識を有すること。課題、グループワークについても参加を前提とし、知識が足りない人は事前の課題も行うことを受け入れ条件とさせていただきます。	【交換留学生】	受入れ可

【科目名】	経営組織論	Organization Studies	
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期
【科目責任者】	国保 祥子		
【担当教員】	国保 祥子		
【授業目標】			
●授業目的	経営組織論の基礎的な知識を習得し、その理論を用いて自ら考えられるようになること		
●到達目標	経営組織論の基礎的な知識を習得し、その理論を用いて自ら考えられるようになる		
【授業概要】	<p>大学、部活、企業など、私たちの生活にとって組織はなくてはならない存在です。本授業では、第一に、組織に対する理論的な考察を通じて、組織が私たちの生活をいかに形成しているかを考えます。第二に、組織に対する考察を敷衍して、組織の維持に関わる経営管理について考えます。</p> <p>本授業では、経営組織論の考え方を習得し、それらの知識を使って自身や周りの人の活動、さらには社会のあり方について考える力を養うことを目標にしています。</p>		
【授業方法】	基本的に講義形式をとります。ただし、本授業は、理論的な知識を身につけるだけでなく、理論的な知識を自ら使えるようになることを目指しています。そのため、授業中に適宜、少人数でのディスカッションの機会を設けるとともに、発言を求めます。		
【準備学習】			
【授業展開】	<p>Session-1: キャリアを考える:個人の欲求と会社の目的</p> <p>Session-2: 入社する:社会化と組織文化</p> <p>Session-3: 会社と仕事に慣れる:モチベーションと規則の関係</p> <p>Session-4: 人事異動:会社のなかでのキャリア開発</p> <p>Session-5: ミニケースディスカッション</p> <p>Session-6: 部下を持つ:リーダーシップ</p> <p>Session-7: 部内をまとめる:集団のダイナミズム</p> <p>Session-8: トラブル発生:コンフリクト・マネジメント</p> <p>Session-9: あこがれの経営企画室へ:組織のデザイン</p> <p>Session-10: 部長たちの奮闘:環境のマネジメント</p> <p>Session-11: ゲストスピーカーセッション</p> <p>Session-12: 事業を背負う:組織変革とトップの役割</p> <p>Session-13: ついに社長就任:経営理念とビジネスシステム</p> <p>Session-14: ビジネスのさらに先:経営にできること</p> <p>Session-15: まとめ</p> <p>* 授業の理解度によって内容を変更する可能性があります。</p>		
【履修条件】	基礎経営学を履修していること		
【評価方法】	<p>以下 3 点を総合的に評価する。</p> <p>①授業内課題の提出率</p> <p>②授業への出席率</p> <p>③期末試験</p>		
【テキスト】	『キャリアで語る経営組織 ―個人の論理と組織の論理』（有斐閣アルマ）、稲葉祐之、井上達彦、鈴木竜太、山下勝		
【参考書】	授業の中で紹介・配布します		
【備考】	企業で働いた経験のある教員が、企業で働く人を前提として組織論を解説します		
【旧カリキュラム読み替え科目】	組織理論		
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	【交換留学生】

【科目名】	管理会計論	Managerial Accounting			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	森 勇治				
【担当教員】	森 勇治				
【授業目標】					
●授業目的	この授業では組織経営とともに発展を続けた管理会計の技法そのものだけでなく、その社会経済文化的背景についても理解を深めることを目的とする。				
●到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理会計の基礎知識(原価計算の目的・意義、原価概念、歴史的背景)を理解する。</li> <li>2. 各種の管理会計技法の基本構造を理解し、計算できる。</li> <li>3. 原価計算論と関連する管理会計論・財務会計論・経営学・商学等との関連性に気づく。</li> </ol>				
【授業概要】	<p>管理会計は 20 世紀初頭に米国巨大企業が成立するとともに急速に成長を続け、その後数十年間停滞を続け、再び 1980 年代から新たな展開を見せてきたというのが定説であるが、その後の方向性も明らかではない。この授業ではそれぞれの技法の説明に留まらず、その技法がどのような社会経済環境の下で生まれたのかについても説明を加えたい。それぞれの技法は何らかの必要性に基づいて生み出されたのであるが、その前提条件が変化すれば、その技法への必要性も変化することになるだろう。この点については既に標準原価管理と大量生産の関係等の例で</p>				
【授業方法】	この授業は主に学生がそれぞれのテーマについて報告し、教員と学生で議論を行うセミナー形式で行う。報告とレポートの結果から成績評価を行う。詳しくは初回の授業で説明する。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>授業展開は以下の通りである。初回の授業で授業展開については追加説明を行うので必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス/授業概要、具体的な授業の進め方、成績評価</li> <li>2. 管理会計の歴史(1):『レレバンスロスト』以前</li> <li>3. 管理会計の歴史(2):『レレバンスロスト』以後</li> <li>4. 管理会計の2つのアプローチ:業績管理アプローチと意思決定アプローチ</li> <li>5. 原価管理</li> <li>6. 長期経営計画</li> <li>7. 設備投資と資本コスト</li> <li>8. 利益計画</li> <li>9. 予算管理</li> <li>10. 事業部の業績管理</li> <li>11. ABC/ABM</li> <li>12. 原価企画</li> <li>13. BSC</li> <li>14. アメーバ経営</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	(既習指定科目など) 「原価計算論」で取り扱った内容を発展させていきたいと思う。原価計算論でも原価管理や事業部の業績管理、原価企画、アメーバ経営(ミニプロフィットセンターのマネジメント)などは概説的に取り上げたが、この授業ではより詳細に議論していきたいと思う。公的組織における応用についても議論したい。				
【評価方法】	報告とレポートに基づいて評価を行う。少人数での授業となるので、議論への参加は必須となる。初回に詳しく説明する。				
【テキスト】	相談の上で決めたいが、現時点では、伊藤・日時:『異論・正論 管理会計』中央経済社、2021年 を考えている。				
【参考書】	授業において指示する。				
【備考】	「管理会計論」履修には「原価計算論」の単位認定を前提とする。 講義概要、運営、成績評価などを初回の授業で説明するので、履修希望者は「必ず」出席すること。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	原価計算				
【社会人聴講生】	事前に相談の上、認めます。	【科目等履修生】	事前に相談の上、認めます。	【交換留学生】	事前に相談の上、認めます。

【科目名】	原価計算論	Cost Accounting			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	森 勇治				
【担当教員】	森 勇治				
【授業目標】					
●授業目的	この授業では産業革命・経営革命とともに発展した原価計算理論と計算技法の基礎について学ぶ。なおこの授業は簿記検定試験 2 級の工業簿記との関連性はあるが、帳簿組織との関係については取り扱わないこと、また原価計算が経営管理の一部として発展してきた歴史的発展過程を理解することを目的としていることから計算演習については、ごく基礎的なものだけを取り扱うことに注意して欲しい。				
●到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原価計算の基礎知識(原価計算の目的・意義、原価概念、歴史的背景)を理解する。</li> <li>2. 各種の原価計算(個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算)の基本構造を理解し、簡単な計算ができる。</li> <li>3. 原価計算論と関連する管理会計論・財務会計論・経営学・商学等との関連性に気づく。</li> <li>4. 原価を越えた原価計算(品質原価計算、環境管理会計(MFCA)等)について触れる。</li> </ol>				
【授業概要】	この授業では「原価」を「計算」する過程がどのように行われるのかを説明するだけでなく、なぜそのような計算行為が行われるのかということを考える「原価会計」もしくは「管理会計」の視点を重視したい。そのため会計学、経営学などのその他の授業科目との関連性にも配慮する。日商簿記2級の「工業簿記」の範囲と重複することもあるが、この授業では勘定記入は取り扱わず、検定試験対策は行わない。簿記論では日商簿記検定3級の合格を目指していたので、計算演習に特化していたが、この授業では経営管理との関係や歴史的展開についても触れること				
【授業方法】	この授業は計算構造の説明に止まらずに、計算演習を行う。この点は簿記論の授業に近い。しかしながら計算構造に加えて、理論や実務やそれらの歴史についても説明する。そのために小テストの実施に加えて、レポート提出を求める予定である。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>授業展開は以下の通りである。初回の授業で授業展開については追加説明を行うので必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス/授業概要、具体的な授業の進め方、成績評価</li> <li>2. 原価計算とは：歴史的発展の概要</li> <li>3. 原価概念と原価計算の基礎(1)：基礎的な原価概念と基本的な計算過程など</li> <li>4. 原価概念と原価計算の基礎(2)：意思決定と原価計算</li> <li>5. 個別原価計算(1)：3段階の集計(全体像の把握)、間接費の取り扱い</li> <li>6. 個別原価計算(2)：3段階の集計(再)</li> <li>7. 総合原価計算(1)：月末仕掛品の評価</li> <li>8. 総合原価計算(2)：いくつかの発展形態</li> <li>9. 標準原価計算(1)：科学的管理法と原価管理、製造直接費差異分析</li> <li>10. 標準原価計算(2)製造間接費差異分析</li> <li>11. 直接原価計算(1)業績評価(マネジメントコントロール、経営管理)への役立ち</li> <li>12. 直接原価計算(2)意思決定への役立ち</li> <li>13. 原価計算の発展(1)：ABC、原価企画</li> <li>14. 原価計算の発展(2)：品質原価計算、MFCA、設備投資計算など</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	(既習指定科目など) なし。				
【評価方法】	課題提出と最終テストにより評価を行う。				
【テキスト】	初回到指示をする。				
【参考書】					
【備考】	「管理会計論」履修には「原価計算論」の合格を前提とする。 講義概要、運営、成績評価などを初回の授業で説明するので、履修希望者は「必ず」出席すること。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	原価計算				
【社会人聴講生】	可(初回到面談を行います)	【科目等履修生】	可(初回到面談を行います)	【交換留学生】	可(初回到面談を行います)

【科目名】	監査論	Auditing			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】					
【担当教員】	*越智信仁				
【授業目標】					
●授業目的	企業活動を記録した決算書類の信頼性をどのように確保するかとの視点から、財務諸表監査を中心に学習し、情報監査の構造と機能など基本的特徴を識別できるようになる。				
●到達目標	基礎的な学習を積み上げて財務諸表監査の全体像を把握することをミニマムの到達目標とするが、近年における監査を巡る課題についても、基本的な視座が獲得できることを究極的な到達目標とする。				
【授業概要】	授業では、日々の金融経済活動で監査が果たしている役割、監査の仕組みを支える基本的な制度や理論を理解し、財務諸表監査の実施プロセスや監査報告といった具体的な実務を把握する。				
【授業方法】	対面授業では、基本的に教科書の各章(第1~第16章)に沿って進める。毎回の授業において、教科書該当章の内容を要約した PPT スライドや関連補足資料を用いて説明した後、毎回の授業内容の確認として課題問題に取り組んでもらう。このほか、学習過程で疑問・質問等があれば、質疑応答の時間も設ける。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 会計監査とその基本的役割</li> <li>② 会計監査の現代的機能</li> <li>③ 金融商品取引法に基づく現代的機能</li> <li>④ 会社法に基づく会計監査制度</li> <li>⑤ 職業監査と監査基準ならびに職業倫理</li> <li>⑥ 会計監査の進め方(1)ーリスク・アプローチ</li> <li>⑦ 会計監査の進め方(2)ー監査計画</li> <li>⑧ 会計監査の進め方(3)ーリスク評価と監査手続</li> <li>⑨ 会計監査の進め方(4)ー監査の完了まで</li> <li>⑩ 会計監査と不正への対応</li> <li>⑪ 監査意見と監査報告書</li> <li>⑫ 監査意見の種類と諸問題</li> <li>⑬ 四半期レビュー</li> <li>⑭ 内部統制監査</li> <li>⑮ 特別目的の財務諸表の監査、監査の品質管理</li> <li>⑯ 期末試験(実施できない場合には特別レポートの提出期限)</li> </ul>				
【履修条件】	(既習指定科目など)特になし				
【評価方法】	毎回の授業での課題への取り組み状況(レポート機能を通じて提出、講師からコメントをフィードバック)等と期末試験(実施できない場合には特別レポート)を基に総合的に評価する。 なお、事情があって出席できない場合も、ユニバのレポート提出(ユニバに資料・課題を掲示)を当該週末までに行えば欠席扱いにはしない(但し出席者に比して点数はディスカウントされる)。逆に、出席してもレポート提出がないと、平常点には加算されない。				
【テキスト】	山浦久司『監査論テキスト(第8版)』(中央経済社、2022年2月発行)				
【参考書】	越智信仁編著『中小企業決算の透明性と信頼性:改善に向けた実証・理論・実務研究』(同文館出版、2024年3月発行)				
【備考】	日本銀行にて銀行考査の実務経験あり。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報会計、情報会計Ⅰ				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	税務会計論	Accounting Intermediate			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	*小川 晃司				
【担当教員】	* 小川 晃司				
【授業目標】					
●授業目的	この授業では(税法と会計学という異なる学問分野が関わることを理解したうえで)、法人税法の基礎理論および体系を学習し、企業実務に役立つ実践力を身につけることを目的とします。また、実務では大きく関連する消費税法についても基本的な考え方を理解することも目的とします。				
●到達目標	基本的な別表4(法人税申告書)の作成が出来るようになることを目標とします。 また、消費税法のインボイス制度を含む基本的な考え方を理解出来るようになることを目標とします。				
【授業概要】	税務会計は、確定決算主義に基づき税引前当期純利益から計算される課税所得計算に関する処理方法や考え方を扱う領域です。課税は全ての企業に対して行われているものの、企業規模によって適用される税率が異なり、項目ごとの税制の考え方に違いがあり、複雑です。本講義では、法人税法だけではなく消費税法における基礎理論の大枠を講義し、課税所得の計算方法も含めて練習していきます。講義では、現役の税理士・公認会計士として実務に携わるなかで、理論と実務のギャップを意識しながら、現実的な対応をどのようにおこなっているのか、その				
【授業方法】	講義と演習、および判決等を通じて、税務会計に関連する実践的な理解力を養います。また、ディスカッションも必要に応じて行います。				
【準備学習】					
【授業展開】	①ガイダンス:税務会計を学ぶにあたって(序章) ②課税所得の計算構造を学ぼう1・確定決算主義(第1章) ③課税所得の計算構造を学ぼう2・益金の範囲・損金の範囲(第1章) ④益金の会計を学ぼう1・収益の認識基準(第2章) ⑤益金の会計を学ぼう2・受取配当等(第2章) ⑥確認テスト(1回目)・損金の会計を学ぼう1・減価償却(第3章) ⑦損金の会計を学ぼう2・資本的支出、修繕費、給与(第3章) ⑧損金の会計を学ぼう3・寄付金、交際費等、貸倒損失(第3章) ⑨確認テスト(2回目)・消費税法を学ぼう ⑩課税所得を学ぼう(第4章) ⑪税額の計算を学ぼう(第4章) ⑫同族会社課税を学ぼう ⑬別表4(法人税申告書)の作成1 ⑭別表4(法人税申告書)の作成2 ⑮まとめ				
【履修条件】	簿記および財務会計の基本的な知識を修得していること。目安として日商簿記3級以上を取得しており、財務会計論を修得済み、もしくはそれに相当する基礎的な知識があること。講義は簿記、会計に関する基本知識があることを前提に行います。				
【評価方法】	確認テスト1,2(40%)と定期試験(60%)				
【テキスト】	成道秀雄監修・坂本雅士編著「現代税務会計論」中央経済社。				
【参考書】					
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生不可	【科目等履修生】	科目等履修生不可	【交換留学生】	交換留学生不可



【科目名】	経営財務論	Corporate Finance
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】 2024 年度前期
【科目責任者】		
【担当教員】	太田裕貴	
【授業目標】		
●授業目的	コーポレートファイナンス(経営財務)の世界へようこそ！ この講義ではコーポレートファイナンスにおける基本的な理論を学習することを目的とします。理論を学ぶことで、現実に行き起きている複雑怪奇なビジネスの世界をクリアに見ることができます。これまでとは違うビジネスの世界が見えてくると思います。	
●到達目標	コーポレートファイナンス(経営財務)の基本的な理論を受講者が理解できるようになることが最大の到達目標です。コーポレートファイナンスの理論は将来の実際のビジネスの現場で活用できるモノばかりです。自ら起業する際にも役立つでしょう。ビジネスの世界を生きていくために、本講義で必要な理論を習得しましょう。	
【授業概要】	コーポレートファイナンス(経営財務)は経営資源の 1 つである「カネ」に注目して企業の諸活動を考察する学問です。上場企業であれば「カネ」が集まる大きな舞台は証券市場になります。投資家は企業に関する様々な情報を読み取り、企業に価値をつけています。これを「企業価値」と呼びます。この企業価値の算定がコーポレートファイナンスの最も重要な課題となります。本講義は、企業価値の算定方法を学ぶことはもちろんですが、企業価値にどのような要素が影響を与えるのかについて理論を丁寧に積み重ねて理解していくことを目指します。企業価値を	
【授業方法】	毎回の講義で資料を配布します。資料を用いてレクチャーを行います。また、コーポレートファイナンスの理論の説明には数式を多く用います。数式の理解を深めるために演習問題を用意します。	
【準備学習】		
【授業展開】	<p>導入(第 1 週～第 5 週):コーポレートファイナンスの基本</p> <p>第 1 週:コーポレートファイナンスはどのような学問でしょうか？ 企業に「価値」を付けるのはなぜ？</p> <p>第 2 週:企業価値の要素:将来キャッシュフローとは？ 利益とは何が違うのか？</p> <p>第 3 週:企業価値の要素:資本コストとは？ 割引現在価値とは？</p> <p>第 4 週:資本コストの算定:CAPM 理論について理解しよう</p> <p>第 5 週:経営戦略論と企業価値:将来キャッシュフローと資本コストの観点から企業価値を高める戦略を考えましょう！</p> <p>本題(第 6 週～第 10 週):投資判断と資金調達</p> <p>第 6 週:投資計画の是非はどのように判断する？ 正味現在価値法(NPV 法)の登場</p> <p>第 7 週:企業価値の算定:DCF 法とは？</p> <p>第 8 週:資金調達における負債の役割:トレードオフ理論とは？</p> <p>第 9 週:資金調達における負債の役割:エージェンシー問題とは？</p> <p>第 10 週:資金調達の選択:ペッキングオーダー理論とは？</p> <p>進展(第 11 週～第 15 週):株式価値評価モデルやコーポレートガバナンスへの応用</p> <p>第 11 週:企業価値の算定:株式価値評価モデル(配当割引モデルと残余利益モデル)</p> <p>第 12 週:経営戦略と ROE:残余利益モデルをベースに ROE の持続性と企業戦略を考察しよう</p> <p>第 13 週:ROIC とは？:組替貸借対照表を用いた事業活動と金融活動</p> <p>第 14 週:コーポレートガバナンス:株主構成</p> <p>第 15 週:コーポレートガバナンス:企業買収と買収防衛策</p>	
【履修条件】	とくになし。	
【評価方法】	<p>2 回のレポート課題を提示します。そのレポート課題の評価に加えて、毎回の講義後のリアクションペーパーの提出で総合的に評価します。</p> <p>①講義後のリアクションペーパー:30 点(毎回の講義後に提出)</p> <p>②レポート課題:70 点(中間レポート 30 点 期末レポート 40 点)</p> <p>レポート課題の内容は講義に参加している人であれば書けるように設定します。</p>	
【テキスト】	なし(毎回資料配布)。	
【参考書】	<p>砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門』(第 2 版)日経文庫</p> <p>宮川壽夫『企業価値の神秘』中央経済社</p> <p>手嶋宣之『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社</p>	

【備考】	感染症の拡大により、遠隔講義へと移行する可能性があります。				
【旧カリキュラム 読み替え科目】	財務管理 I				
【社会人聴講生】	可(ただし、会計学関連の内容についてある程度の理解力があることが望ましい)	【科目等履修生】	可(ただし、会計学関連の内容についてある程度の理解力があることが望ましい)	【交換留学生】	可(ただし、会計学関連の内容についてある程度の理解力があることが望ましい)

【科目名】	職業指導論	Guidance Theory			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	吉澤 勝治				
【担当教員】	吉澤 勝治				
【授業目標】					
●授業目的	高校生を対象とした進路指導の一環として捉えつつ、「職業指導」が学校教育の全活動を通して展開されるべきものであるとの認識を踏まえ、幅広く論じながら、生徒に職業観の向上・確立を促す方法を研修しながら、教員採用試験に向けた関係分野対応力の習得を図る。				
●到達目標	講義の全過程を通じて、高校教育の実情を認識し、関係資料等に関する読解力をつけ、発表力を高めつつ、高校生に主体的な職業選択能力を養わせる要諦を習得しながら、教員採用試験の関係分野対応力を具える。				
【授業概要】	高校生に職業意識を高める大切さを説いて職業観を定着させ、その深化・確立に向けて努力を払う意義を理解させる手立てを研修しながら、国際化・少子化・高齢化などの変化が産業構造や就労構造を始めとするさまざまな分野に大きな影響を与えている現状及びその深化が予想される未来に対応する道筋等の理解を図る。				
【授業方法】	高校教育における授業の具体的展開を念頭にし、講師の発する課題やコメントを基に、職業指導上の具体的諸問題説明を進める一方、指定したテキストの内容把握を発表形式により併修しながら、対面授業形式により授業運営の基本習得を図る。なお、今後の諸状況により、レポート回答を主とする方式に変更する可能性がある。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論(職業指導の概念)</li> <li>2. 社会の変化と職業指導</li> <li>3. 職業観概説</li> <li>4. 職業指導の歴史的概観</li> <li>5. 職業指導に関する学校教育上の位置づけ</li> <li>6. 職業指導の実際Ⅰ(海外特に米国における実態・歴史理解)</li> <li>7. 職業指導の実際Ⅱ(日本における実態・歴史理解)</li> <li>8. 個性・適性概論</li> <li>9. 選職のケーススタディー</li> <li>10. 進学指導上の留意点</li> <li>11. 就職指導上の留意点</li> <li>12. 職業指導に関わる教員の心得</li> <li>13. 職業指導の課題と展望</li> <li>14. 職業指導特殊問題(時事職業指導諸問題演習等)</li> <li>15. 総括(講義まとめ・資料まとめ)</li> </ol>				
【履修条件】	教職課程履修者を対象とする。				
【評価方法】	定期試験の結果及び毎時における受講・発表状況を勘案して評価する。 なお、「授業方法」に変更のある場合は、(レポート提出等)別途指定・案内する。				
【テキスト】	高校用参考図書「産業社会と人間」学事出版発行(発表資料用)				
【参考書】	村上龍「13歳のハローワーク」幻冬舎 Keys to Vocational Decisions				
【備考】	高校生の職業選択能力養成に携わった教職経験を基として、客観的・合理的な授業運用力を具えた指導者としての資質を高めつつ、教員として求められる基本的力量を育成する。 教員の変更により、内容が変更となる場合がある。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	教職課程履修希望者に限り、履修の可否につき面談対応する。	【科目等履修生】	教職課程に深い関心を示す学生に限り、履修の可否につき面談対応する。	【交換留学生】	

【科目名】	消費者行動論	Consumer Behavior					
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期				
【科目責任者】							
【担当教員】	玉利祐樹						
【授業目標】							
●授業目的	本授業では、消費者の判断と意思決定に与える要因の影響を理解する為に、人の主観的な体験や行動に関する、代表的な知見を学習し理解を深めることを目的とする。						
●到達目標	本授業では、以下の3点を目標とする。 1. 消費者行動の基礎知識を習得する。 2. 実社会での消費者行動に対して、心理学・実務の観点から考え、説明できるようになる。 3. 主体的に課題を探究する能力を養う。						
【授業概要】	人は、製品やサービスを購買したり、それらを消費し、その中でさまざまなことを経験しながら、生活を営んでいる。本授業では、消費者行動における、人の主観的な体験や行動に関する、代表的な知見を紹介する。また、講義に登場する現象・理論をもとに、日常生活や実社会での問題を題材に、受講者と一緒にディスカッションを行う。						
【授業方法】	主に、講義形式で授業を進める。授業では、まず、消費者行動に関わる現象・理論の紹介を行う。その後、ディスカッションやショートレポートを通じて、講義中に紹介される現象・理論にあてはまる事例を検討する。						
【準備学習】							
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動とはなにか</li> <li>2. 消費者行動研究の目標とアプローチ</li> <li>3. 消費者行動研究の方法</li> <li>4. 消費者の知覚</li> <li>5. 消費者の記憶</li> <li>6. 消費者の学習</li> <li>7. 消費者の態度形成と態度変容</li> <li>8. 消費者の関与</li> <li>9. 消費者の意思決定</li> <li>10. 消費者の非合理性</li> <li>11. プロスペクト理論</li> <li>12. 消費者の価格判断</li> <li>13. 心的会計・参照価格・心理的財布</li> <li>14. 意思決定の過程追跡</li> <li>15. 総括</li> </ol>						
【履修条件】							
【評価方法】	<p>試験：50%（授業時に行う予告なし小試験と最終試験の結果で知識を評価する。）</p> <p>レポート：20%（授業時に課すいくつかのレポートの内容を評価する。）</p> <p>平常点評価：30%（授業態度をもとに評価する。）</p> <p>講義の実施状況によって、変更の可能性がある。</p>						
【テキスト】							
【参考書】	<p>杉本徹雄（2012）新・消費者理解のための心理学 福村出版</p> <p>竹村和久（2000）消費行動の社会心理学 北大路書房</p> <p>竹村和久（2015）経済心理学—行動経済学の心理的基礎 培風館</p> <p>山田一成・池内裕美（2018）消費者心理学 勁草書房</p> <p>ダン・アリエリー（2008）予想どおりに不合理 早川書房</p> <p>ダン・アリエリー（2010）不合理だからすべてがうまくいく 早川書房</p> <p>リチャード・セイラー、キャス・サスティーン（2009）実践行動経済学 日経 BP</p> <p>リチャード・セイラー（2016）行動経済学の逆襲 早川書房</p> <p>ウィリアム・パウンドストーン（2010）プライスレス 青土社</p>						
【備考】							
【旧カリキュラム読み替え科目】							
【社会人聴講生】	受	入	可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

【科目名】	経営統計調査法 I	Statistical Research Method for Business I	
【配当年次】	3 年	【開講時期】	2024 年度前期
【科目責任者】			
【担当教員】	玉利祐樹・上原克仁		
【授業目標】			
●授業目的	経営などにおいて必要となる研究の実施、および種々の定量・定性的なデータを解析できるようになることを目指す。		
●到達目標	<p>本授業では、以下の 4 点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画の立案と設計ができるようになる。</li> <li>2. 解析方法の考え方と特徴を理解する。</li> <li>3. 統計ソフトによる解析ができるようになる。</li> <li>4. 結果の読み取りとまとめができるようになる。</li> </ol>		
【授業概要】	本授業では、研究法、記述統計、推測統計、回帰分析・主成分分析・因子分析を扱う予定である。		
【授業方法】	研究法(主に調査法)および、それらの研究法で得られたデータの分析について説明し、その後演習を行う。毎回、授業のはじめに、理解度を確認する小テストを実施する。また、演習が主となる授業であるため、ほぼ毎回課題を課す。第 4 回以降では、グループ単位での演習を行う。紹介した分析方法および各自の興味・関心に基づき、受講者自身に研究計画の立案、実施、解析、発表を行ってもらう。なお、第 4 回から第 9 回を玉利が、第 10 回から第 15 回を上原が担当する。		
【準備学習】			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、研究法について(実験、調査、観察、シミュレーション、オープンデータの活用など)、ソフトウェア導入(R、Posit cloud)</li> <li>2. 記述統計: 代表値、散布度、相関係数</li> <li>3. 推測統計: 統計的仮説検定の考え方(<math>\chi^2</math> 検定、または、t 検定の実習)</li> <li>4. 主成分分析・因子分析 1: 分析法/研究テーマの立案</li> <li>5. 主成分分析・因子分析 2: KJ 法/質問項目の作成</li> <li>6. 主成分分析・因子分析 3: 調査設計/調査計画の立案</li> <li>7. 主成分分析・因子分析 4: 分析</li> <li>8. 主成分分析・因子分析 5: 分析、発表資料の作成</li> <li>9. 主成分分析・因子分析 6: 発表</li> <li>10. 回帰分析 1: 記述統計の復習、データと付き合う、回帰分析とは</li> <li>11. 回帰分析 2: 基礎(単回帰分析、重回帰分析)</li> <li>12. 回帰分析 3: 応用1(ダミー変数、交差項、いろいろな関数)</li> <li>13. 回帰分析 4: 応用2(パネルデータや個票データを用いた分析)</li> <li>14. 回帰分析 5: 解析、発表資料の作成</li> <li>15. 回帰分析 6: 発表</li> </ol>		
【履修条件】	基礎統計学 I・II の受講を前提とする。また、本授業は、経営統計調査法 II と連続して実施する。そのため、本授業を履修する場合は、経営統計調査法 II も履修すること。どちらか片方だけの履修は認められない。		
【評価方法】	平常点評価: 20%(小テスト、授業への取り組み態度をもとに評価する) 課題・発表: 80%(授業時に課す課題の内容と、発表を評価する。課題は各自提出とし、個別に評価する。課題提出の代わりに実技試験を課すこともある。発表は、グループ毎に評価する。)		
【テキスト】			
【参考書】	<p>Chapman, C., &amp; Feit, E. M. (2019). R for marketing research and analytics (2nd ed.). New York, NY: Springer. (チャップマン, C., &amp; フェイト, E. M. 鳥居弘志(訳) (2020). R による実践的マーケティングリサーチと分析 第 2 版 共立出版)</p> <p>豊田秀樹 (2012) 回帰分析入門—R で学ぶ最新データ解析 東京図書</p> <p>豊田秀樹 (2017) もうひとつの重回帰分析—予測変数を直交化する方法—</p> <p>南風原朝和(2002)心理統計学の基礎—統合的理解のために 有斐閣アルマ</p> <p>南風原朝和(2014)続・心理統計学の基礎—統合的理解を広げ深める 有斐閣アルマ</p> <p>緒賀郷志 (2010) R による心理・調査データ解析 東京図書</p> <p>畑農・水落(2017)『データ分析をマスターする 12 のレッスン』有斐閣アルマ</p> <p>豊澤栄治(2017)『R ビジネス統計分析』翔泳社</p>		

	その他、授業中に適宜紹介する。				
【備考】	統計ソフトを使用するため、PC 台数による人数制限がある。 受講者数が多い場合、発表時間を十分に設けることが困難なため、評価基準を変更する可能性がある。 予習・復習を前提として授業を進める。 復習により生じた疑問点や理解不足な点は、次回の講義までに解消しておくこと。				
【旧カリキュラム 読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受入可。ただし、PC 台数の関係上、受講 者 数 次 第 。	【科目等履修生】	受入可。ただし、PC 台数の関係上、受講 者数次第。	【交換留学生】	受入可。ただし、PC 台 数の関係上、受講者 数次第。

【科目名】	経営統計調査法Ⅱ	Statistical Research Method for BusinessⅡ	
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期
【科目責任者】	上原 克仁		
【担当教員】	玉利 祐樹・上原 克仁		
【授業目標】			
●授業目的	経営などにおいて必要となる研究の実施、および種々の定量・定性的なデータを解析できるようになることを目指す。		
●到達目標	<p>本授業では、以下の4点を目標とする。</p> <p>1) 研究計画の立案と設計ができるようになる。</p> <p>2) 解析方法の考え方と特徴を理解する。</p> <p>3) 統計ソフトによる解析ができるようになる。</p> <p>4) 結果の読み取りとまとめができるようになる。</p>		
【授業概要】	本授業では、研究法、記述統計、推測統計、コンジョイント分析、回帰分析を扱う予定である。		
【授業方法】	研究法(主に調査法と、オープンデータの活用)および、それらの研究法で得られたデータの分析について説明し、その後演習を行う。毎回、授業のはじめに、理解度を確認する小テストを実施する。また、演習が主となる授業であるため、ほぼ毎回課題を課す。第4回以降では、個人もしくはグループ単位での演習を行う。紹介した分析方法および各自の興味・関心に基づき、受講者自身に研究計画の立案、実施、解析、発表を行ってもらおう。なお、第4回から第9回を玉利が、第10回から第15回を上原が担当する。本講義は原則、対面で行う。ただし、大学周		
【準備学習】			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、研究法について(実験、調査、観察、シミュレーション、オープンデータの活用など)、ソフトウェア導入(R、RStudio)</li> <li>2. 記述統計: 代表値、散布度、相関係数</li> <li>3. 推測統計: 統計的仮説検定の考え方(<math>\chi^2</math>検定、または、t検定の実習)</li> <li>4. コンジョイント法 1: コンジョイント法とは/研究テーマの立案</li> <li>5. コンジョイント法 2: 質問紙の設計(直交表)</li> <li>6. コンジョイント法 3: 調査設計/調査計画の立案</li> <li>7. コンジョイント法 4: コンジョイント分析</li> <li>8. コンジョイント法 5: 解析、発表資料の作成</li> <li>9. コンジョイント法 6: 発表</li> <li>10. 回帰分析 1: 記述統計の復習、データと付き合う、回帰分析とは</li> <li>11. 回帰分析 2: 基礎(単回帰分析、重回帰分析)</li> <li>12. 回帰分析 3: 応用1(ダミー変数、交差項、いろいろな関数)</li> <li>13. 回帰分析 4: 応用2(パネルデータや個票データを用いた分析)</li> <li>14. 回帰分析 5: 解析、発表資料の作成</li> <li>15. 回帰分析 6: 発表</li> </ol>		
【履修条件】	基礎統計学Ⅰ・Ⅱの受講を前提とする。また、本授業は、経営統計調査法Ⅰと連続して実施する。そのため、本授業を履修する場合は、経営統計調査法Ⅰも履修すること。どちらか片方だけの履修は認められない。		
【評価方法】	<p>平常点評価: 20%(小テスト、授業態度をもとに評価する。)</p> <p>課題・発表: 80%(授業時に課す課題の内容と発表を評価する。課題は各自提出とし個別に評価する。課題提出の代わりに実技試験を課すこともある。発表はグループ毎に評価する。)</p>		
【テキスト】			
【参考書】	<p>Chapman, C., &amp; Feit, E. M. (2019). R for marketing research and analytics (2nd ed.). New York, NY: Springer. (チャップマン, C., &amp; フェイト, E. M. 鳥居弘志(訳) (2020).『Rによる実践的マーケティングリサーチと分析 第2版』共立出版)</p> <p>豊田秀樹 (2012)『因子分析入門—Rで学ぶ最新データ解析』東京図書</p> <p>豊田秀樹 (2012)『回帰分析入門—Rで学ぶ最新データ解析』東京図書</p> <p>南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎—統合的理解のために』有斐閣アルマ</p> <p>南風原朝和(2014)『統・心理統計学の基礎—統合的理解を広げ深める』有斐閣アルマ</p> <p>緒賀郷志 (2010)『Rによる心理・調査データ解析』東京図書</p> <p>畑農・水落(2017)『データ分析をマスターする12のレッスン』有斐閣アルマ</p> <p>豊澤栄治(2017)『R ビジネス統計分析』翔泳社</p> <p>久保克行(2021)『経営学のための統計学・データ分析 (はじめての経営学)』東洋経済新報社</p>		

	その他、授業中に適宜紹介する。				
【備考】	統計ソフトを使用するため、PC 台数による人数制限がある。 受講者数が多い場合、発表時間を十分に設けることが困難なため、評価基準を変更する可能性がある。 予習・復習を前提として授業を進める。復習により生じた疑問点や理解不足な点は、次回の講義までに解消しておくこと。				
【旧カリキュラム 読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可。PC 台数の 関係上、学部学生の 受講者数による。	【科目等履修生】	聴講可。PC 台数の 関係上、学部学生の 受講者数による。	【交換留学生】	聴講可。PC 台数の関 係上、学部学生の受 講者数による。



【科目名】	ビジネス・コミュニケーション	Business Communication			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡県内の大手企業の経営者もしくは現役社員。				
【授業目標】					
●授業目的	各企業の事業(ビジネス)や取り組み、経営課題を知る。あわせて、他の講義で修得した知見をふまえ、経営課題解決に取り組む。企業経営者もしくは現役社員との議論を通じて学びを深める。				
●到達目標	本学部の講義で得られた知見が、ビジネスや経営でいかに活用されているのか知る。				
【授業概要】	本講義のおおよその構成は次の通りである。各企業が担当する講義の初回は企業およびビジネスの概要と魅力を講義してもらう。2回目は、各社の経営課題や経営戦略等、大学の講義で学んだことがビジネスの世界でどのように実践、展開されているのか講義してもらう。加えて、学生が取り組む課題を提示してもらい、他の講義で学んだ知識等を活かし、グループワークやグループディスカッションを通じ解決策を考える。3・4回目は、グループディスカッションの内容をふまえプレゼンテーションを行い、現役社員からのフィードバックや議論を通じて学びを				
【授業方法】	静岡県内の大手企業の経営者もしくは現役社員による講義。グループワークやグループディスカッションを含め、企業4社に4回ずつ講義をして頂く。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>下記は 2023 年度の内容である。2024 年度については、決まり次第掲載する。</p> <p>1(10/10・3限) ガイダンス、セブンセンスグループ(1)</p> <p>2(10/10・4限) セブンセンスグループ(2)</p> <p>3(10/17・3限) セブンセンスグループ(3)</p> <p>4(10/17・4限) セブンセンスグループ(4)</p> <p>5(10/24・3限) 鈴与商事株式会社(1)</p> <p>6(10/24・4限) 鈴与商事株式会社(2)</p> <p>7(10/31・3限) 鈴与商事株式会社(3)</p> <p>8(10/31・4限) 鈴与商事株式会社(4)</p> <p>9(11/12・3限) 静岡鉄道株式会社(1)</p> <p>10(11/12・4限) 静岡鉄道株式会社(2)</p> <p>11(11/19・3限) 静岡鉄道株式会社(3)</p> <p>12(11/19・4限) 静岡鉄道株式会社(4)</p> <p>13(12/12・3限) 株式会社 New デイシス(1)</p> <p>14(12/12・4限) 株式会社 New デイシス(2)</p> <p>15(12/19・3限) 株式会社 New デイシス(3)</p> <p>16(12/19・4限) 株式会社 New デイシス(4)</p>				
【履修条件】	毎回出席を前提とし、講義への積極的な参加(講師への質問、グループワークやディスカッションでの発言、活動)を求める。				
【評価方法】	企業ごとのプレゼンテーションの内容。講義への貢献。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	他の講義で使用したテキスト、講義資料等。				
【備考】	* 県内企業等でビジネスに携わる現役社員が経験とそこから得られた知識をもとに講義する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	人的資源管理論	Human Resource Management			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	*上原 克仁				
【授業目標】					
●授業目的	日本企業の人的資源管理の基礎的な概念やしくみを理解し、説明できるようになる。 今日の日本企業の人的資源管理上の課題を理解し、新たな施策を提案できるようになる。				
●到達目標	講義で学んだキーワードやトピックを理解する。 労働政策や企業の人的資源管理に関する新聞やテレビのニュース番組の報道を講義内容をふまえて理解する。				
【授業概要】	企業はヒト・モノ・カネ・情報の4つの経営資源から成り立つとされます。人的資源管理とは、このうちのヒトに関する企業の管理(マネジメント)の総称です。この講義では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、具体的なトピックスにも触れながら、日本の人的資源管理の現状と課題について体系的に学び理解します。 大学を卒業後、多くの学生が企業に就職します。平易な解説に努め、就職先の決定や就職後、皆さんが働くことを通じて直面するさまざまな問題を考える際の一助となるような講義にしたいと考えます。近い将来、自分がど				
【授業方法】	PowerPointと板書を用いた講義形式で行います。しかし、意見を求めたり質問を投げかけたりするなど、学生の皆さんと対話しながら、学生参加型の講義となるよう努めます。そのため、事前に参考書等の該当箇所を読んで講義に参加し、終了後は必ず講義内容を復習することを前提とします。復習を兼ねて、毎回、講義内容の理解度を確認するための簡単な Quiz を課し、UNIVERSAL PASSPORT で提出してもらいます。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 本講義で学ぶこと、人の管理とはどのようなことか</li> <li>2 マネジメントの誕生・1 科学的管理法と人間関係論</li> <li>3 マネジメントの誕生・2 ファヨールの管理過程論</li> <li>4 モチベーションとリーダーシップ</li> <li>5 日本の労働市場の概観と人的資源管理の特徴</li> <li>6 人をどのように雇い、育てるのか 採用と配属と異動の管理、教育訓練</li> <li>7 仕事の結果をどのように評価するのか 人事評価</li> <li>8 人をどのように処遇するのか 昇進管理</li> <li>9 人にどのような報酬を与えるのか 賃金と福利厚生</li> <li>10 なぜ男性と女性で処遇格差が存在するのか</li> <li>11 労働時間と場所をどう管理するのか 労働時間</li> <li>12 多様化する働く人たち・1 女性労働</li> <li>13 多様化する働く意味づけ ワークライフバランス</li> <li>14 多様化する働く人たち・2 高齢者雇用</li> <li>15 労働組合とどのように関わるのか 労働組合と労使関係</li> </ol> <p>* 講義内容および講義回の入れ替えの可能性がある。</p>				
【履修条件】					
【評価方法】	毎回の講義への出席を前提とし、期末試験(80%)と毎回の Quiz 等(20%)で評価する。 Quiz での講義の感想やコメントなどの記述に対して加点することもある。				
【テキスト】	指定しない。				
【参考書】	<p>今野・佐藤『人事管理入門 第3版』日本経済新聞出版社、2020年  上林・厨子・森田『経験から学ぶ人的資源管理 新版』有斐閣ブックス、2018年  松繁・阿部編『キャリアのみかた』有斐閣、2010年  清家・風神『労働経済』東洋経済新報社、2020年</p>				
【備考】	講義中の私語、飲食、内職、スマートフォンの操作、いねむり等は禁止する。 民間企業等での就業経験や転職経験をふまえ、日本企業の雇用システムと企業における人的資源管理の実態を講義する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可。	【科目等履修生】	聴講可。	【交換留学生】	聴講可。

【科目名】	公共政策論	Public Policy			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	岸昭雄				
【担当教員】	岸昭雄				
【授業目標】					
●授業目的	市場経済における公共部門の役割を理解し、公共部門の政策、経営管理の目的、仕組み、課題を知る。				
●到達目標	公共部門の存在意義を理解し、公共部門が主体となる各種政策の意義、必要性を理解できるようになる。				
【授業概要】	公共部門における行政経営管理の理論と実態を概説する。公共部門の役割と責任、行政組織の経営、政策形成、政策評価の理論と制度、実態について学ぶ。				
【授業方法】	主に講義形式で授業を進める。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 はじめに 2 公共政策の目的 3 公共政策の効率性 4 公共政策の公平性 5 市場の失敗 6 市場と公共政策の関係 7 政策形成と公共選択(1) 8 政策形成と公共選択(2) 9 政策執行の主体と効率性(1) 10 政策執行の主体と効率性(2) 11 政策分析の理論(1) 12 政策分析の理論(2) 13 政策分析の理論(3) 14 政府の役割の変遷とNPM 15 まとめ				
【履修条件】	特に無し				
【評価方法】	講義への出席を単位認定の前提とする。 課題の提出状況、試験により総合的に評価する。				
【テキスト】	パブリック・セクターの経済・経営学 山内弘隆, 上山信一 NTT 出版				
【参考書】	特に無し				
【備考】	特に無し				
【旧カリキュラム 読み替え科目】	特に無し				
【社会人聴講生】	可。条件なし。	【科目等履修生】	可。条件なし。	【交換留学生】	不可

【科目名】	ミクロ経済学	Microeconomics
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】 2024 年度後期
【科目責任者】		
【担当教員】	菅 隆彦	
【授業目標】		
●授業目的	ミクロ経済学の基礎的な知識を習得することです。	
●到達目標	公務員試験等におけるミクロ経済学の基本問題を解けるようになることです。	
【授業概要】	ミクロ経済学は経済を構成するそれぞれの主体(経済主体)に焦点を当てて分析します。個人や企業などの経済主体の行動を理解することが重要です。 さらに市場機構の機能を理解することも重要です。市場機構は、個々の経済主体の自由な経済活動を保障したうえで、効率的な資源配分を実現します。 多くの分野に応用されている、ゲームの理論についても解説します。	
【授業方法】	講義形式(プロジェクター・板書)で行う。 感染症の感染拡大がみられた場合、変則日程の場合など、遠隔授業(動画配信)に切り替えることがある。	
【準備学習】		
【授業展開】	1. オリエンテーション:ミクロ経済学とは?ミクロ経済学を学ぶメリットとは? 2. 消費者の行動:効用最大化 3. 消費者の行動:無差別曲線と予算制約 4. 消費者の行動:予算制約と効用最大化 5. 消費者の行動:需要曲線と消費者余剰 6. 企業の行動:利潤最大化行動 7. 企業の行動:財の生産 8. 企業の行動:限界費用と限界収入 9. 市場の均衡:供給曲線と生産者余剰 10. 市場の均衡:社会的余剰 11. 市場の均衡:完全競争市場 12. 市場の均衡:交換経済① 13. 市場の均衡:交換経済② 14. ゲームの理論① 15. ゲームの理論②	
【履修条件】	基礎経済学を履修済であることが望ましい。	
【評価方法】	レポートと期末試験によって評価します。	
【テキスト】	特に無し	
【参考書】	『ミクロ経済学(増補版)』武隈慎一, 新世社, 978-4883840045 『演習ミクロ経済学(第2版)』武隈慎一, 新世社, 978-4883842490	
【備考】	学生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。	
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	聴 講 可	【科目等履修生】 聴講可
	【交換留学生】	可。条件は、日本語を理解できること。

【科目名】	応用経済学	Applied Economics			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】					
【担当教員】	菅 隆彦				
【授業目標】					
●授業目的	多様な経済的諸問題のメカニズムを理解するために、ミクロ経済学の論理に基づく、体系的な思考方法を身に着ける。				
●到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独占市場・寡占市場で生じる厚生損失について理解する</li> <li>2. 外部性・公共財の存在が経済にもたらす影響について理解する</li> <li>3. ゲーム理論的な思考方法を身に着ける 等</li> </ol>				
【授業概要】	ミクロ経済学をベースとした経済分析を習得することを目的とする。具体的には、独占・寡占の問題、市場の失敗を解決する経済政策、情報の非対称性、ゲーム理論、ミクロ貿易論、一般均衡理論などについて概説する。				
【授業方法】	講義形式(プロジェクター・板書)で行う。感染症の感染拡大がみられた場合、変則日程の場合など、遠隔授業(動画配信)に切り替えることがある。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学の基礎的内容1</li> <li>2. ミクロ経済学の基礎的内容2</li> <li>3. 不完全競争(独占市場)</li> <li>4. 不完全競争(クールノー均衡とシュタッケルベルク均衡)</li> <li>5. 公共経済(外部性)</li> <li>6. 公共経済(公共財)</li> <li>7. 不確実性(期待効用とリスク)</li> <li>8. 不確実性(情報とシグナリング)</li> <li>9. ゲーム理論(標準形ゲーム)</li> <li>10. ゲーム理論(展開系ゲーム)</li> <li>11. ミクロ貿易論(基本的な貿易理論)</li> <li>12. ミクロ貿易論(リカードの比較生産費説・H-O 定理)</li> <li>13. 一般均衡分析(純粋交換モデル・競争均衡の最適性)</li> <li>14. 一般均衡分析(生産を含んだ経済の競争均衡)</li> <li>15. 不完全競争(製品差別化・独占的競争・差別価格)</li> </ol> <p>※学生の理解度に応じて、基礎的内容の学習時間を増やすなど、授業計画を変更する場合があります。</p>				
【履修条件】	基礎経済学を履修しているか、初級レベルのミクロ経済学の知識を持っていること。ただし、ミクロ経済学を履修しているか、中級レベルのミクロ経済学の知識があれば、講義内容をより深く理解できます。				
【評価方法】	レポート、試験から総合的に評価する。				
【テキスト】	武隈慎一『新版 ミクロ経済学』新世社 (ISBN:978-4-88384-239-1) (武隈慎一「ミクロ経済学 増補版」新世社でも可。ただし内容に微妙な違いがある。)				
【参考書】	武隈慎一『演習ミクロ経済学 第2版』新世社 (ISBN:978-4-88384-249-0) 多和田真 『コア・テキストミクロ経済学』新世社 (ISBN:978-4883840953)				
【備考】	平成 23(2011)年度以前の入学者は「応用ミクロ経済学」として履修する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	ミクロ経済学Ⅱ				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】	可。条件は、日本語を理解できること。

【科目名】	マクロ経済学	Macroeconomics			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	野口理子				
【担当教員】	野口理子				
【授業目標】					
●授業目的	現実の経済問題を考える際に必要なマクロ経済学の基礎を理解する。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP や物価水準がどのように決定されるのかを理解する。</li> <li>・経済政策の効果について理解を深める。</li> </ul>				
【授業概要】	日々複雑化していく日本経済や世界経済の動きに対して、そこで起こる経済現象を理解することを目的として講義を行なう。経済社会の仕組みを学び、実際に行なわれている経済政策が社会にどのような影響を与えているのかについて考えるための知識の習得を目指す。				
【授業方法】	講義によって進める。新型コロナウイルス感染症の拡大がみられた場合、遠隔授業に切り替えることがある。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. マクロ経済学の基礎</li> <li>3. 国民所得(1)</li> <li>4. 国民所得(2)</li> <li>5. 国民所得(3)</li> <li>6. 国民所得(4)</li> <li>7. 貨幣システム</li> <li>8. インフレーション(1)</li> <li>9. インフレーション(2)</li> <li>10. 開放経済(1)</li> <li>11. 開放経済(2)</li> <li>12. 失業と労働市場</li> <li>13. 景気変動</li> <li>14. 経済成長</li> <li>15. 総括</li> </ol>				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況、確認課題、最終試験により評価				
【テキスト】					
【参考書】	<p>N・グレゴリー・マンキュー(訳:足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆)「マンキューマクロ経済学Ⅰ入門篇(第4版)」、東洋経済新報社</p> <p>N・グレゴリー・マンキュー(訳:足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆)「マンキューマクロ経済学Ⅱ応用篇(第4版)」、東洋経済新報社</p> <p>その他、講義にて適宜指示する。</p>				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	計量経済学	Econometrics				
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期			
【科目責任者】	野口理子					
【担当教員】	野口理子					
【授業目標】						
●授業目的	経済データを用いた分析を行なう際に必要となる計量経済学の基礎的知識の習得を目的とする。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計量経済学の分析手法への理解を深める。</li> <li>・それぞれの分析手法を実際のデータに適用することができる。</li> </ul>					
【授業概要】	計量経済学の基礎を理解し、実際のデータを用いた計量分析への活用を目指す。講義中、データを用いて解説を行ない、毎回のテーマをより深く理解することを目指す。					
【授業方法】	講義及び演習によって進める。新型コロナウイルス感染症の拡大がみられた場合、遠隔授業に切り替えることがある。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 計量経済学の基礎</li> <li>3. 回帰直線と 最小 2 乗法(1)</li> <li>4. 回帰直線と 最小 2 乗法(2)</li> <li>5. 単回帰分析(1)</li> <li>6. 単回帰分析(2)</li> <li>7. 単回帰分析(3)</li> <li>8. 重回帰分析(1)</li> <li>9. 重回帰分析(2)</li> <li>10. 重回帰分析(3)</li> <li>11. モデルの関数形と特殊な変数(1)</li> <li>12. モデルの関数形と特殊な変数(2)</li> <li>13. モデルの関数形と特殊な変数(3)</li> <li>14. 攪乱項の系列相関と不均一分散</li> <li>15. 総括</li> </ol>					
【履修条件】	統計学を履修していることが望ましい					
【評価方法】	出席状況、確認課題、最終課題により総合的に評価する。					
【テキスト】						
【参考書】	<p>山本拓「計量経済学」、新世社</p> <p>山本拓、竹内 明香「入門計量経済学—Excel による実証分析へのガイド」、新世社</p> <p>その他、講義内で適宜指示する。</p>					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	

【科目名】	地域経済学	Regional Economics				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	岸昭雄					
【担当教員】	岸昭雄					
【授業目標】						
●授業目的	実際の経済活動を分析するにあたっては、その経済活動が実際に行われる「地域」という視点が重要な要素となる。本講義では、都市・地域経済学の基礎理論の習得および地域経済政策に関する一定の理解度を得ることを目的とする。					
●到達目標	都市・地域経済学の基礎理論を習得したうえで、地域経済政策の意義、必要性を理解できるようになる。					
【授業概要】	技術革新の進行によって地域間の物理的なアクセス費用が逡減していくなかで、20世紀末から激しく進行しつつあるグローバリゼーションに対して、ローカライゼーション、またその両方の長所を生かすグローカリゼーションなどといった方向性が議論されるようになった。本講義では、都市・地域経済学の基礎理論を習得することにより、現在の地域経済が直面する諸問題についてより直感的な理解と主体的な考察を深めることが可能になるよう講義を進める。					
【授業方法】	主に講義形式+グループワークによって授業を進める。					
【準備学習】						
【授業展開】	<p>地域・都市経済学に関する基礎理論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 日本の地域構造</li> <li>3 都市・地域の形成過程(1)</li> <li>4 都市・地域の形成過程(2)</li> <li>5 産業の立地</li> <li>6 土地市場</li> <li>7 都市の土地利用(1)</li> <li>8 都市の土地利用(2)</li> <li>9 土地政策</li> <li>10 都市交通</li> <li>11 都市規模と都市システム</li> <li>12 地域政策</li> </ol> <p>地域政策に関するグループワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の抱える課題の抽出</li> <li>2 グループワーク</li> <li>3 発表・討論会</li> </ol>					
【履修条件】	ミクロ経済学についての基礎的な知識は前提とする。					
【評価方法】	講義への出席を単位認定の前提とする。 課題の提出状況、グループワークの内容、試験により総合的に評価する。					
【テキスト】	都市経済学の基礎 佐々木公明・文世一 有斐閣アルマ 地域経済学入門 山田浩之・徳岡一幸 有斐閣コンパクト					
【参考書】	特に無し					
【備考】	特に無し					
【旧カリキュラム読み替え科目】	特に無し					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	可 条件なし	【交換留学生】	不可



【科目名】	地域産業論	Theory of Regional Manufacturing					
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期				
【科目責任者】	*芦川 敏洋						
【担当教員】	*芦川 敏洋						
【授業目標】							
●授業目的	地域産業の動向と課題について理解するために、国内及び本県内での特徴的な産業活動の事例を取り上げ、地域産業としての創出、発展過程、現状について考察する。本講義を通じて「地域の産業活動が活性化していくには何が必要か」について考え、産業という視点から地域経済社会の発展に向けた方策を提案できるようにする。						
●到達目標	地域経済を支えてきた地域産業の歴史、現状、課題等を把握し、これからの地域産業の発展のための方策を考え提案できるための知見と能力を身に着ける。学生には、地域経済や地域企業の担い手として活躍するための動機付けとなることを期待する。						
【授業概要】	地域産業構造の成長や衰退の過程について事例を分析する形で把握する。「地域産業論」として、「我が国の地域産業の現状」と「地域経済と産業」「静岡県の産業力」「地域産業の成長要因と成功事例」の視点から、具体的な事例や経験談を盛り込みながら解説する。特に、本県内の事例として、工業製品出荷額が国内第2位への成長に貢献してきた静岡県の産業政策とその産業構造の動きを説明する。また、農業分野では、6次産業生産額が国内第2位に導いた静岡県の農業政策やマーケティング戦略と生産者の動きなどについても具体的に触れる。						
【授業方法】	【授業展開】に示す各テーマに沿ってパワーポイントで講義用資料を作成し受講生に提供する。 授業は講義形式で、スライドを用いてビジュアル的に理解できるよう解説、企業紹介等については動画を活用 感染症拡大時への対応として遠隔授業（Zoom 使用）に切り替えることがある。						
【準備学習】							
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（地域産業論としての論点と講義の進め方）</li> <li>2. 我が国の地域産業の現状①「地域産業を取り巻く情勢と国内各地の状況」</li> <li>3. 我が国の地域産業の現状②「地域産業の発展に向けた取組例と地方創生の動き」</li> <li>4. 地域経済と産業①「地域経済における産業力の分析（各県比較）、静岡県の産業力を知る」</li> <li>5. 地域経済と産業②「産業クラスターの視点、例えば浜松地域の産業力について考える」</li> <li>6. 地域経済と産業③「中小企業論の視点、地域産業における中小企業の現状と課題」</li> <li>7. 静岡県の産業力①「地場産業＝県内各地の現状と歴史、課題」</li> <li>8. 静岡県の産業力②「製造業＝国内屈指の工業県に成長してきた経緯と現状、課題」</li> <li>9. 静岡県の産業力③「農業と水産業＝第一次産業の現状と6次産業化への動き」</li> <li>10. 静岡県の産業力④「商業・サービス業＝静岡県ならではの強みと弱み」</li> <li>11. 地域産業の成長要因と成功事例①「イノベーション（技術革新）と生産性」</li> <li>12. 地域産業の成長要因と成功事例②「金融の機能と民間投資」</li> <li>13. 地域産業の成長要因と成功事例③「交通・物流・情報インフラの利便性と企業立地」</li> <li>14. 地域産業の成長要因と成功事例④「地方自治体の役割と地域産業政策としての取組」</li> <li>15. 総括（例えば）静岡県の産業全体が元気になる方策を考えよう</li> </ol>						
【履修条件】	特になし						
【評価方法】	授業への取組状況（4割）と中間・期末レポートの提出（3割×2回）によって評価						
【テキスト】	各回、講義用の資料を提供						
【参考書】							
【備考】	静岡県庁（経済産業部、企画部）と投資銀行系シンクタンクにおいて産業政策や企業支援等に従事した実務の経験が有る。こうした経験を踏まえて、地域産業（企業）の動きや政策形成過程の仕組みなどを具体的に解説するので、（就職先として）行政や産業団体、金融機関等に関心のある学生に役立つ。						
【旧カリキュラム読み替え科目】	地場産業論（旧カリキュラム、新カリキュラム（～H21））						
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	財政学	Public Finance			
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】					
【担当教員】	*小西 敦				
【授業目標】					
●授業目的	財政学の基本的な概念について理解し、日本の財政の現状と課題を把握した上で、この理解と把握に基づいて、日本の財政について、議論できるようになること。				
●到達目標	財政学に関する基本的な概念、日本の財政に関する制度、現状のデータ及び課題を理解、把握し、知識として身につけ、それに基づいて、日本の財政について、自分の意見を提示し、議論できるようになること。				
【授業概要】	本授業では、日本の国と地方の財政を主なテーマとします。前半では、「財政」、「政府」、「予算」、「税」、「公共財」などの基本的な概念を理解します。次に、社会保障等の歳出や財政投融资などについて理解しつつ、年金の持続可能性等を検討します。後半では、財政赤字の現状や政府間関係等を理解した上で、財政健全化の方策等を検討します。				
【授業方法】	本授業は、原則として教室における対面で行います。 ただし、COVID-19 の感染状況等によって、Zoom による同時並行方式等に変更する回がありますので、ユニパの掲示、登録アドレスへの連絡や授業中の連絡に注意してください。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>【 】はテキスト指定箇所。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 履修ガイダンス</li> <li>2 経済・社会と財政の関係【序章】</li> <li>3 予算と財政民主主義【第1章1・2】</li> <li>4 予算制度の課題【第1章3・4】</li> <li>5 税制【第2章】</li> <li>6 社会保険と生活保障【第3章】</li> <li>7 財政赤字【第4章】</li> <li>8 地方自治制度の基本【第5章3】</li> <li>9 地方財政【第5章1・2・4】</li> <li>10 経済成長と所得再分配【第6章】</li> <li>11 格差・貧困の拡大と所得保障【第7章】</li> <li>12 世代間対立と社会保障【第8章】</li> <li>13 地域の変容と地方財政【第9章】</li> <li>14 グローバル化の進展と財政の変容【第10章】</li> <li>15 まとめ【終章】</li> </ol> <p>参加者の理解度等に応じ適宜、講義の進度・順番等を変更することがあります。</p>				
【履修条件】	テキストとして高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年が必携です。 本授業では、主体的な学びの姿勢を重視します。				
【評価方法】	授業への取り組み(5 割程度)と A4 で 3 枚以上(参考文献リストを除く)の分量の最終レポート(5 割程度)によって評価します。				
【テキスト】	高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年: 本授業の受講には必携です。 このほかに、課題文献を指定することがあります。				
【参考書】	神野直彦(2021)『財政学 第3版』有斐閣 小西砂千夫(2022)『地方財政学』有斐閣				
【備考】	国や自治体で予算編成等に携わった担当教員の行政実務経験を授業内容に反映するように努めます。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【科目等履修生】	履修可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【交換留学生】	履修可(テキスト必読のため、テキストの内容を理解できる日本語読解力を有すること)

【科目名】	医療介護マネジメント論	Management of Health Care				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	*天野ゆかり					
【担当教員】	*天野ゆかり*東野定律					
【授業目標】						
●授業目的	高齢化の進展は、日本だけでなく国際的な社会事象であり、それに伴う問題は多岐にわたり、変革が迫られている。多様な健康レベルにある人々が社会で生きていけるよう医療・看護サービスを提供する上で必要な保健・医療・福祉をマネジメントの観点から基礎的知識を習得することを目的とする。具体的には①診療報酬・介護報酬の構造②国民医療費・介護費用の国際比較③地域医療介護④病院・施設経営⑤地域包括ケアシステムをテーマにして、わが国の医療・介護システムの現状と課題を学ぶ。					
●到達目標	保健・医療・福祉の分野におけるマネジメントに必要な基礎知識を習得する。					
【授業概要】	高齢化社会のなかで、変革を迫られている保健・医療・看護・福祉をマネジメントの視点から学び、医療・介護サービスの提供に関する諸問題を検討する。わが国の医療・介護システムがいかなる問題を抱えているかをなるべくデータを交えて解説するつもりである。医療・介護分野のマネジメント学はわが国では未発達な学問だが、今後その重要性が増すものとする。					
【授業方法】	講義は受講者の理解を促すためにPP資料の配付、関連資料を準備し、説明を行う。保健・医療・福祉および医療介護保険サービス等の分野の行政担当者、従事者、およびサービス事業者に関わる基礎的知識を習得するプログラムとなっている。主体的な授業参加を促し、自ら考えられるよう講義により授業を展開する。なお、本年度は基本的に対面授業とし、感染状況をによってはオンデマンド講義に切り替える。					
【準備学習】						
【授業展開】	1)オリエンテーション 2)医療・介護福祉制度の基礎知識の確認 3)医療介護施策の変化と課題 4)診療報酬・介護報酬の仕組み 5)医療介護サービスのマネジメント 6)医療介護サービスの評価 7)医療介護サービスにおけるイノベーションの実際 8)医療介護人材におけるマネジメント 9)医療介護人材養成の現状と課題 10)人材確保に向けた具体的取り組み(介護人材の機能とキャリアパス) 10)医療介護サービスの実際(1) 11)医療介護サービスの実際(2) 12)医療介護サービスの実際(3) 13)医療介護サービスのイノベーション:グループワーク(1) 14)医療介護サービスのイノベーション:発表(2) 15)全体まとめ					
【履修条件】	特になし					
【評価方法】	ミニレポート 40%、GW・最終発表と最終レポート 60%					
【テキスト】	授業に必要な資料は適宜用意する					
【参考書】	講義の中で、紹介する。					
【備考】	東野においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。天野は、看護師として高齢者および障害児の臨床経験があり、医療介護従事者の立場をふまえて政策課題について検討していく					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	保健医療システム論	Health Care System			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	* 木村 綾				
【担当教員】	木村綾、藤本健太郎、東野定律、森野智子、天野ゆかり、堀 芽久美				
【授業目標】					
●授業目的	保健・医療・福祉など健康にかかわる様々な課題を、社会や地域との関係から理解し、それらにかかわる制度的、政策的な論点を理解する。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療・福祉など健康に関わる多様な現状と課題を理解する</li> <li>・保健医療福祉の制度および行政の仕組みを学ぶ</li> <li>・各種専門職の役割、取組内容等を学ぶ</li> </ul>				
【授業概要】	<p>少子高齢化が急速に進展する現代社会においては「健康」への関心が急速に高まっている。本講義においては地域保健、健康づくりと地域活動に主眼を置き、保健医療福祉行政・制度の仕組みを踏まえつつ、組織的な取り組みや政策立案のためのマネジメント能力の向上、および地域社会における「健康」にかかわる様々な活動について検討する。</p>				
【授業方法】	<p>基本的に講義は、対面形式で行う。  受講者の理解を促すためにPP資料、関連資料について説明し、毎回課題を設定することによって学力の理解を図る。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>以下の項目に関しての基本的な理解を促す講義を行うこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉行財政の仕組みと変遷(東野)</li> <li>2. 公共健康の概念と医療保険(東野)</li> <li>3. 高齢者福祉と介護保険制度(東野)</li> <li>4. 生活保護法、生活困窮者自立支援法(木村)</li> <li>5. 児童家庭福祉と子供の健康(木村)</li> <li>6. 雇用保険、労働者災害補償保険(木村)</li> <li>7. 社会保障と少子高齢化対策(藤本)</li> <li>8. 年金保険制度の持続と支援(藤本)</li> <li>9. 公私の連携で社会的孤立解消へ(藤本)</li> <li>10.障害者福祉制度と地域活動(外部)</li> <li>11.日本におけるたばこ対策の動向について(堀)</li> <li>12.保健医療福祉政策の実際①(外部)</li> <li>13.保健医療福祉政策の実際②(歯科衛生)(森野)</li> <li>14.保健医療福祉政策の実際③(介護人材)(天野)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み・ミニレポート 50%、最終レポート 50%で評価する。				
【テキスト】	教科書は用いませんが、参考文献などに関して適宜授業で紹介し、また資料および授業のレジュメを配布します。				
【参考書】					
【備考】	社会福祉協議会での勤務経験を有し、社会福祉士として権利擁護に従事している教員が、地域の実状を踏まえ、制度・政策、取組について講義する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)	【科目等履修生】	聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)	【交換留学生】	聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)

【科目名】	社会保障政策論	Social Security Policy			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	* 藤本健太郎				
【担当教員】	* 藤本健太郎				
【授業目標】					
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障とはどのような仕組みなのか、その歴史を含めて学ぶ。</li> <li>・生活に直結する重要な制度である年金、医療保険、介護保険について、どのようなリスクに備えたものか、どのような課題があるのかを学ぶ。</li> <li>・社会保障と関連の深い労働法について、労働基準法の概要など基礎的な事項を学ぶ。</li> <li>・長期化した少子化、その結果としての人口減少、非正規雇用の増加と経済格差の拡大、長時間労働、ワークライフバランス、周囲に頼れない社会的孤立の拡がりなど、社会保障と労働法に関する政策課題について学び、対策について考察する。</li> </ul>				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金、医療保険、介護保険、労働基準法などの基本的な仕組みを理解すること。</li> <li>・社会保障と労働法策に関する政策課題について、どのように対応すべきか自分の考えを持ち、説明できること。</li> </ul>				
【授業概要】	社会保障と労働法の仕組みとその政策課題について、教科書に沿って説明する。 現役の公務員をゲストに迎える回も設定する予定。				
【授業方法】	対面による講義を基本とする。ズームによる講義を行う場合もある。 テキストに沿って講義を進めるが、講義資料も用意する。				
【準備学習】					
【授業展開】	1オリエンテーション～時代や国によって異なる社会保障 2社会保障の財源～社会保険料と税の違い 3年金制度の概要と課題～老齢年金、障害年金、遺族年金 4医療保険制度の概要と課題～病気やケガをしたときの保障 5介護保険制度の概要と課題～年をとって身体が不自由になったときの保障 6社会福祉制度の概要と課題 7労働法①労働基準法～働く人を守る仕組み 8外部講師 9労働法②労働契約法～会社との雇用契約など 10 育児や介護と仕事の両立支援 11 少子化対策～少子化はなぜ止まらないのか 12 ケーススタディ～困ったとき、どのような給付や支援を申請できるのか 13 これからの社会保障 14 まとめ 15 期末試験 ※外部講師との日程調整などによって変更になる場合があります				
【履修条件】	特に無し。				
【評価方法】	レポート等 30%、期末試験 70%				
【テキスト】	「働く人のための社会保障入門」(藤本健太郎・藤本真理・玉川淳著 ミネルヴァ書房)				
【参考書】	「人口減少を乗り越える」(藤本健太郎著、法律文化社)				
【備考】	・厚生労働省、内閣官房、在ドイツ日本国大使館等における勤務経験を有する教員が、実務経験も踏まえて講義する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	特に無し。				
【社会人聴講生】	聴講可。	【科目等履修生】	履修可。	【交換留学生】	履修可。

【科目名】	地域福祉マネジメント論		Management of Community Welfare		
【配当年次】	3年		【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	* 木村 綾				
【担当教員】	* 木村 綾				
【授業目標】					
●授業目的	地域福祉分野における政策の現状を分析するとともに、医療や介護、福祉政策全般の評価や課題・問題点を明らかにし、地域サービスのマネジメントについて理解することを目的とする。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉に関わる政策及びサービスの現状と課題を理解する</li> <li>・施策及びサービスにおける問題解決プロセスを学ぶ</li> <li>・地域福祉活動のマネジメントを学ぶ</li> </ul>				
【授業概要】	<p>地域福祉に関わる政策の内容について紹介し、その政策手法や制度の特色も含めて考察を行う。更に、近年の地域包括ケアシステムをはじめとする地域福祉に関連する制度改革の流れを概観するとともに、既存の政策評価・実証的なデータに基づく地域ケアサービスのマネジメント方法について紹介する。</p> <p>特に、地域福祉計画、地域福祉サービスの組織の仕組み、および福祉サービスの評価、地域ケア分野における新たなサービス事業の展開について学習する。</p>				
【授業方法】	<p>基本的に講義は対面形式で行う。</p> <p>受講者の理解を促すためにPP資料の配付、関連資料を準備し、説明を行い、毎回課題を設定することによって学力の理解を図る。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられれば場合、オンライン形式に切り替えることがある。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>講義は以下の内容で進めるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション</li> <li>2) 福祉制度の基礎知識の確認</li> <li>3) わが国の地域福祉施策の歴史と特徴</li> <li>4) 社会福祉制度の仕組み</li> <li>5) 社会福祉制度の現状と課題</li> <li>6) 地域における社会福祉協議会の役割</li> <li>7) 地域ケアサービスの評価</li> <li>8) 地域組織のマネジメント</li> <li>9) 地域包括ケアシステム</li> <li>10) 福祉・介護人材育成のマネジメント</li> <li>11) 福祉コミュニティづくり(地域包括ケアと地域福祉サービス)</li> <li>12) 地域ケアサービスの実態(1)</li> <li>13) 地域ケアサービスの実態(2)</li> <li>14) 地域ケアサービスの実態(3)</li> <li>15) 全体討議</li> </ol>				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み・ミニレポート 50%、グループ発表および最終レポート 50%で評価する。				
【テキスト】	教科書は用いませんが、必要な講義資料等を提供します。 また、参考文献などは必要に応じて、適宜紹介します。				
【参考書】					
【備考】	<p>社会福祉協議会での勤務経験を有し、社会福祉士として権利擁護に従事している教員が、地域の現状や福祉的課題、取組について講義する。</p> <p>平成23年(2011)年度以前の入学者は「介護福祉政策」として履修する。</p> <p>講義及び教材の形式等について、必要に応じて調整します。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)	【科目等履修生】	聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)	【交換留学生】	聴講可 (通常の履修学生と同様の試験・レポートなどによる評価を受けること)

【科目名】	医療介護政策論	Health Care Policy				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	*天野ゆかり					
【担当教員】	*東野定律, *天野ゆかり					
【授業目標】						
●授業目的	医療介護分野における日本や海外の現状を分析するとともに、医療や介護政策全般の評価や課題・問題点を明らかにし、国や自治体が進める制度の内容と具体的な施策について検討することを目的とする。					
●到達目標	医療や介護に関して、国や自治体が進める制度の内容と具体的な施策について説明できる 医療・介護に関する知識を基礎にして、関連する政策の諸課題について討議できる 医療や介護に関する倫理に関する諸課題をふまえ、自分の関心のあるテーマに沿って求められる方向性について提言できる					
【授業概要】	高齢化社会のなかで、変革を迫られている保険・医療・看護・福祉に関連する政策の概要と諸課題について学ぶ。医療・介護の政策については、国政的な課題でもあるため、諸外国の医療やケアの制度、専門人材に関しても取り上げる。 国内の取り組みとして、保健・医療・福祉および介護保険サービス等の分野の行政担当者、従事者、およびサービス事業の経営・管理者をゲストスピーカーに招いた講義や意見交換も予定している。					
【授業方法】	講義は受講者の理解を促すためにPP資料の配布、関連資料を準備し、説明を行う。保健・医療・福祉および医療介護保険サービス等の分野の行政担当者、従事者、およびサービス事業者に関わる基礎的知識を習得するプログラムとなっている。主体的な授業参加を促し、自ら考えられるよう、現場の具体的な取り組みや課題の紹介や、利用者体験などと合わせて授業を展開する。					
【準備学習】						
【授業展開】	講義は以下の内容で進めるものとする。 1)オリエンテーション 2)医療介護制度における基礎知識の確認 3)国際比較でみる我が国の医療介護の現状 4)医療介護施策の歴史的変遷 5)医療保険制度の仕組み 6)介護保険制度の仕組み 7)地域医療構想と医療介護サービス提供体制 8)地域包括ケアシステムと地域共生社会 9)地域包括ケアシステムの実態と先進事例① 10)地域包括ケアシステムの実態と先進事例② 11)地域包括ケアシステムの実態と先進事例③ 12)医療介護人材確保に係る取り組みと政策課題 13)海外における医療介護人材養成の現状 14)今後求められる医療介護の具体的な施策の検討:グループワーク 15)全体討議:発表					
【履修条件】	特にないが、医療介護マネジメント論とあわせて履修することが望ましい。					
【評価方法】	講義中のミニレポート 40%、GWと発表、最終レポート 60%で評価する。					
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。					
【参考書】	講義の中で紹介する。					
【備考】	東野においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。天野においては、看護師としての臨床経験があり、医療福祉従事者の立場をふまえて政策や医療介護サービスの課題を検討していく。					
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	日本国憲法	The Constitution of Japan			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	*大森貴弘				
【担当教員】	*大森貴弘				
【授業目標】					
●授業目的	日本国憲法の解釈論について、体系的に理解し論述できるようになる。				
●到達目標	①基礎的な法解釈の方法を理解できるようになる。②憲法学の基礎的な概念を習得できる。③憲法の条文に関連するトピックについて論述できるようになる。				
【授業概要】	日本国憲法は日本の法体系における最高法規であり、基本的人権を保障するとともに国家の基礎的な統治構造を規定している極めて重要な法典である。本講義では、憲法の主要な条文とその解釈を分かりやすく概説し、そして個々の条文の解釈に必要な判例を適宜紹介しつつ、解説する。				
【授業方法】	毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。適宜、質問に答えてもらい、感想や意見を書いてもらう等、双方向性にも配慮したい。憲法成立過程や裁判員制度を開講する際には、映像を使用する予定である。その際、リアクション・ペーパーによって感想を書いてもらう。 「新型コロナウイルス感染症への対応」 新型コロナウイルス感染症の拡大がみられた場合、遠隔授業に切り替えることがある。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回 授業のガイダンス／憲法とは何か 第2回 国民主権／象徴天皇制 第3回 日本国憲法の成立過程 第4回 平和主義 第5回 基本的人権の成立史／人権とは何か／基本的人権の限界 第6回 自由権(1)内心の自由 第7回 自由権(2)表現の自由 第8回 自由権(3)経済的自由／人身の自由 第9回 参政権／社会権 第10回 幸福追求権／平等権 第11回 統治機構(1)国会 第12回 統治機構(2)内閣 第13回 統治機構(3)裁判所／違憲審査制 第14回 統治機構(4)権力分立 第15回 地方自治／憲法改正／試験に関する留意事項 その後、期末試験を行う。				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	授業中の課題:約 5%、試験:約 80%、授業への取り組み:約 15%				
【テキスト】	特になし。代わりに、レジュメを配布する。				
【参考書】	芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法 第七版』岩波書店。(購入を推奨するが必須ではない。)				
【備考】	H24(2012)以降入学生のみ受講可 定期試験の成績を重視して評価するが、授業態度の悪い学生については減点する。特に居眠り、スマホ使用は厳禁する。シラバスの内容については、受講者の関心、授業の進度、試験の出来具合等を考慮し、適宜変更することがある。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生:条件付き受入れ。受け入れ条件:事前(授業の前)に担当教員の許可を得ること。受講人数その他の状況によっては、聴講をお断りする場合もあるので留意のこと。	【科目等履修生】	科目等履修生:条件付き受入れ。受け入れ条件:事前(授業の前)に担当教員の許可を得ること。受講人数その他の状況によっては、聴講をお断りする場合もあるので留意のこと。	【交換留学生】	



【科目名】	民法各論	Civil Law	
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期
【科目責任者】	朱曄		
【担当教員】	朱曄		
【授業目標】			
●授業目的	本授業の目的は、みなさまの日々の生活に密接に関わる民法の基本知識をしっかりと身につけさせることである。		
●到達目標	① 民法総則・契約法などの分野における基本的な事項を正しく説明できる。 ② 売買・賃貸借・金銭消費貸借を中心に、具体的な契約に関する基礎的な事項を説明できる。 ③ 民法にかかわる典型的な紛争事案について、条文を適用し、説得的な結論を導くことができる。		
【授業概要】	この科目では、初めて民法を学ぶ学生を対象に、具体的なケースを例にしながら、「民法の基本」を理解してもらうことを目的とします。 民法は、物の売り買い・貸し借りや、家庭内の問題といった、わたしたちの日常生活の中で生じるさまざまな出来事を対象とする法分野です。 言い換えれば、法を学ぶことが初めての人であっても、すでにこれまでの生活の中で経験してきた出来事を法の視点から考えてみるのが求められます。 「法を学ぶ」というと、身構えてしまいがちですが、気楽にかつ意欲的に法を学ぶための基礎体力を身につけていきまし		
【授業方法】	民法の知識は体系的となっており、複雑に絡むものが多いため、授業では事例などを踏まえながら、理解度を確認しつつ進めて参りたいと思います。  令和 5 年度の授業の実施形態は、対面授業を前提とするが、コロナウイルスの状況や大学の方針に従って変更など対応します。		
【準備学習】			
【授業展開】	1、民法と民法典／民法の基本原理 2、権利と義務 3、売買契約① 4、売買契約② 5、売買契約③ 6、売買契約④ 7、契約・法律行為の総括 8、能力 9、代理 10、時効 11、債務の弁済 12、不法行為概説 13、権利の実現① 14、権利の実現② 15、講義のまとめ		
【履修条件】			
【評価方法】	期末試験またはレポート(100%)		
【テキスト】	道垣内弘人著 リーガルベイス民法入門 第 5 版(日本経済新聞出版社)2024 年 法学六法 (信山社)2024 年		
【参考書】			
【備考】			
【旧カリキュラム読み替え科目】			
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	【交換留学生】

【科目名】	法律学概論	Introduction to Japanese Law			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】					
【担当教員】	国京 則幸				
【授業目標】					
●授業目的	法学全体を概観しながら、法とは何か、を学び、あわせて法的なものの見方や考え方の基礎を習得する。				
●到達目標	日常生活の中にある出来事について、法的な視点でとらえ、考えられるようになること。 問題や紛争(トラブル)の解決に向けて法的な思考で対処し、あるいはそのようなトラブルを回避できるようになるための基礎的な法的知識を身につけること。				
【授業概要】	法学を専門としない者を前提に、しかし専門としないゆえに知っておくべき法学の基本を学ぶ。具体的には、「日常生活の中の法」をイメージしながら、次のような内容を軸に学習する。 1.法とは何か、ということ、および日本の司法制度の概要を学ぶ。 2.法律の読み方・考え方の基礎を学ぶ。 3.憲法、民法、刑法を中心に、その基礎を概観し、法的なものの見方、考え方の基礎を学ぶ。				
【授業方法】	基本的には、毎回、レジュメを配布し、これにのって講義形式で授業を行う。 ただし、感染症拡大の影響により、オンライン講義(穴あき配布レジュメ+レジュメ、オンライン解説資料を用いての学習)となる可能性がある。				
【準備学習】					
【授業展開】	第 1 回 ガイダンス+日常生活と法 第 2 回 法とは何か その 1(法・法律・道徳、法源、法の分類・分野、法の歴史) 第 3 回 法とは何か その 2(法・法律・道徳、法源、法の分類・分野、法の歴史) 第 4 回 日本の司法制度、裁判 第 5 回 法律の読み方・考え方 — 法律の構造、用語 第 6 回 憲法 — 憲法の意義、人権 第 7 回 憲法 — 人権規定と諸問題 第 8 回 憲法 — 統治機構 第 9 回 民法 — イントロダクション 第 10 回 民法 — 人 第 11 回 民法 — 物 第 12 回 民法 — 行為 第 13 回 刑法 — イントロダクション 第 14 回 刑法 — 罪刑法定主義 第 15 回 刑法 — 犯罪の成立 第 16 回 試験  ※講義の順序や内容は、講義の状況(理解度、進捗状況)によって変更可能性あり。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	オンラインによる小テスト(30%)＋期末試験(70%)で評価する。 オンラインによる小テストは講義終了後毎回実施する。また、当該小テストの受験をもって講義への出席を確認するものとする。期末試験は講義全体(15回)の2/3以上の出席がある者のみ受験可能とする。期末試験は、授業で取り上げる内容(i.e. 日本の司法制度をはじめとした法(学)全般の理解、憲法・民法・刑法の基礎的な知識の習得、そしてその基礎的な知識を使って一定の問題について検討できるか)の理解について試験を行う。				
【テキスト】	石山文彦編『ウォーミングアップ法学 第2版』(ナカニシヤ出版、2021)				
【参考書】	授業の初回で指示する。				
【備考】	なし				
【旧カリキュラム読み替え科目】	(なし)				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	

【科目名】	ビジネスロー	Business Law
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度前期
【科目責任者】		
【担当教員】	本庄 淳志	
【授業目標】		
●授業目的	ビジネス・ローの中核である労働法の基本的な枠組みを理解し、「働くこと」をめぐる最近のニュースについて、法的にどのような問題があるのか説明することができる。	
●到達目標	ビジネス・ローの中核である労働法の基本的な枠組みを理解するとともに、働き方が大きく変化・多様化するなかで、最近のニュースやそれをめぐる法的論点を手掛かりとしつつ、働くことやそれをとりまく問題を自分自身のキャリアの問題としても考えることができる。	
【授業概要】	<p>労働法とは、「働く人」をとりまく基本ルールです。現代社会では、よほどのお金持ちか、自分で会社等を経営する場合、あるいは年金生活者などを別にすると、多くの方は会社(または国や地方公共団体等)に雇用されて生計をたてます。これは、労働契約に基づくものであり、労働者と使用者との間には、一定の法的関係が生まれます。労働者と使用者は法理念的には対等な関係にありますが、現実にはさまざまな格差があり、法による利益調整が不可欠となります。この講義では、こうした労働者と使用者をとりまく労働法上のテーマを扱います。</p> <p>労働</p>	
【授業方法】	<p>授業の実施方法は大学全体の方針にもよりますが、隔週で2コマ連続・対面での実施を基本としつつ、受講者の希望もふまえ、Zoomによるオンライン(ライブ・双方向)で実施する可能性があります。実施方法について詳しくは初回のガイダンス時に説明します。</p> <p>時間割にもよりますが、授業の開始・終了時刻は他の授業と異なる可能性が高いです(昼休みをは挟んで2コマの場合→昼休みも続けて授業をしつつ2コマ目の終了を早くするなど)。</p> <p>以下のような授業展開を予定しています。 (1)2コマ分の授業(隔週)を1セットとしま</p>	
【準備学習】		
【授業展開】	<p>初回に受講生の人数等を見て決定しますが、現時点では以下の内容で予定しています。 以下はあくまで仮のもので、この授業では全テーマを体系的に学ぶことよりは、参加者の関心に応じて学習対象を広げていくことが理想と考えており、扱う内容も学生の希望や関心に応じて随時変えていくつもりです。</p> <p>第01回 ガイダンス - ビジネスローとしての労働法、日本の雇用システムと法 第02回 労働法の適用対象 ① 第03回 労働法の適用対象 ② 第04回 採用・試用期間 ① 第05回 採用・試用期間 ② 第06回 賃金 ① 第07回 賃金 ② 第08回 労働時間 ① 第09回 労働時間 ② 第10回 労働契約の終了 ① 第11回 労働契約の終了 ② 第12回 非典型雇用 ① 第13回 非典型雇用 ② 第14回 非典型雇用 ③ 第15回 まとめ</p>	
【履修条件】	<p>この授業では、法的枠組みを意識しつつ、より実践的で大きなテーマ(たとえば、最近のコロナ禍のなかでの働き方の変化や展望など)を扱います。 法律の特別な素養は必要なく、雇用社会／働き方の変化に関心を持ち、課題に積極的に取り組む熱意ある学生であれば歓迎します。出席は当然の前提ですが、受講生にはより積極的な参加を求めます。</p>	
【評価方法】	日々の授業への参加、および、必要に応じて期末レポートにより評価します。	
【テキスト】	高橋賢司=橋本陽子=本庄淳志『テキストブック労働法』(中央経済社、2021年)	

【参考書】				
【備考】	<p>日本型雇用慣行の変質、働き方改革、フリーランスの増加、コロナ禍のなかでの働き方の変化など、雇用情勢が大きく変化しつつあるなかで、多くの皆さんにとって「就職(仕事)」は何よりも気になる事柄だと思います。現実問題として、多くの人は人生の大部分を「仕事」に費やすのであり、仕事の充実、人生そのものの充実と密接な関係がありそうです。</p> <p>いま、日本の雇用社会は大きな変革期にあり、従来の常識は必ずしも通用しません。少子高齢化やグローバル化のなかで、雇用社会はこれからも日々、常に変化していくでしょう。こうした変化を敏感にくみ取り、変化をふまえた戦略を持つことこそ、皆さんの職業人生を充実させる一助となるはずです。いまこそ、教育の職業的意義を真剣に再考すべきときであり、社会が大学／教育に求める内容も変化してきています。</p> <p>現在、労働法上の紛争が著しく増加するなかで、皆さん自身にとって、「雇用社会の基本ルール」として、労働法の知見がきわめて重要となっています。この授業では、細かな知識の習得とともに、大きなシステムの変化にも目を配ることで、皆さんの目前に迫る雇用社会の全体像をイメージしてもらうことを目指します。</p> <p>皆さんの将来に直結することでもありますし、ぜひ、主体的／積極的な受講を希望します。</p>			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	行政経営管理論	Public Management and Administration			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】					
【担当教員】	*小西 敦				
【授業目標】					
●授業目的	行政機関、行政管理及び行政経営について、その意義と実際を把握した上で、「行政管理」と「行政経営」を比較しつつ、これからの行政のあり方について議論できるようになること。				
●到達目標	行政機関、行政管理及び行政経営に関する基本的な概念と行政実務の要点を理解し、知識として身につけ、それらに基づいて、「行政管理」と「行政経営」を比較して、それぞれの長所と短所を踏まえつつ、これからの行政のあり方について、自分の意見を提示し、議論できるようになること。				
【授業概要】	本授業では、我が国の国及び地方自治体の行政管理及び行政経営について、その基本的な概念やその実際を把握します。そのために、教科書の指定箇所等を読み込んで、検討し、理解点や疑問点をコメントにまとめて、発表するなどして、概念を理解し、知識を得るとともに、自分の考えを深めます。				
【授業方法】	本授業は、原則として教室における対面で行います。 ただし、COVID-19の感染状況等によって、Zoomによる同時並行方式等に変更する回がありますので、ユニパの掲示、登録アドレスへの連絡や授業中の連絡に注意してください。				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>【 】は、テキストの指定箇所。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス</li> <li>地方公務員【第30章】</li> <li>地方自治体の事務と権限【第25章】</li> <li>中央省庁【第14章】</li> <li>行政改革と行政管理【第23章】</li> <li>官民関係の見直し【第7章】</li> <li>新公共管理(NPM)と新しい公共【第8章】</li> <li>執行機関【第28章】</li> <li>地方議会と住民自治【第29章】</li> <li>日本の地方自治制度と中央地方関係の理論【第24章】</li> <li>大都市行政【第31章】</li> <li>広域行政【第32章】</li> <li>行政ネットワーク【第15章】</li> <li>日本の行政システム【終章】</li> <li>全体のまとめ</li> </ol> <p>参加者の理解度等に応じ適宜、講義の進捗・順番等を変更することもあります。</p>				
【履修条件】	(既習指定科目など)特になし。 テキストとして真淵勝(2020)『行政学 新版』有斐閣が必携です。 本授業では、主体的な学びの姿勢を重視します。				
【評価方法】	授業への取り組み(5割程度)とA4で3枚以上(参考文献リストを除く)の分量の最終レポート(5割程度)によって評価します。				
【テキスト】	真淵勝『行政学 新版』有斐閣、2020年:本授業の受講には必携です。 このほかに、課題文献を指定することがあります。				
【参考書】	<p>ヤン=エリック・レーン著、稲継裕昭訳(2017)『テキストブック政府経営論』勁草書房</p> <p>北山俊哉・稲継裕昭(2021)『テキストブック 地方自治 第3版』東洋経済新報社</p> <p>原田久(2022)『行政学 第2版』法律文化社</p>				
【備考】	国や自治体で政策立案・政策評価・予算編成等に携わった担当教員の行政実務経験を授業内容に反映するように努めます。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【科目等履修生】	履修可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【交換留学生】	履修可(テキスト必読なので、テキストの内容を理解できる日本語読解力を有すること)

【科目名】	公共ガバナンス論	Public Governance
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】 2024 年度後期
【科目責任者】	*松岡 清志	
【担当教員】	*松岡 清志	
【授業目標】		
●授業目的	近年の行政改革、および「公共」を取り巻く環境の変化に伴い、NPO、NGO、その他の組織が公共部門に果たす役割は高まりつつあります。このような変化の時代における公共ガバナンスについて、事例と理論を架橋することによって、多面的に捉えることが本講義のねらいです。	
●到達目標	現代の公共部門における多様な主体による営みを理解し、今後のあり方について考える視点を涵養することを目標とします。 具体的には、政府や地方自治体以外のアクターが公共的な活動に関与するようになったのはいかなる背景、経緯によるものを理解すると共に、これらのアクターの活動および政府や地方自治体との協働の現状と課題について理解し、今後求められる協働の様態はいかなるものであるかを考えられるようになることが目標です。	
【授業概要】	ガバナンス論が注目されるようになった背景、ガバナンス論の概要、サードセクターをめぐる理論について解説を行います。また具体的なアクターとしての非営利組織(NPO 等)、指定管理者制度、自治会・町内会、地域自治組織等について、現状も含めて解説を行います。	
【授業方法】	事前に提供した資料をもとに、板書を中心とした補足説明を交えて講義を行います。また、公共ガバナンスをめぐる時事トピックについても適宜解説を行います。 講義内では受講者のみなさんに意見をうかがう機会もありますので、講義への積極的な関心を持って受講してください。 講義内容について質問がありましたら、どうぞ遠慮なくお尋ねください。	
【準備学習】		
【授業展開】	第1回 イン트로ダクション 第2回 なぜ「公共ガバナンス」なのか 第3回 ガバナンスとNPM 第4回 公共ガバナンスとは 第5回 ガバナンス論の発展 第6回 コミュニティ・ガバナンス 第7回 サードセクターをめぐる理論 第8回 日本における非営利法人制度 第9回 指定管理者制度 第10回 自治会・町内会 第11回 地域自治組織 第12回 オープンガバメントとシビックテック 第13回 オープンイノベーション 第14回 具体的な政策分野におけるガバナンスの様態 第15回 総括 ※内容、進度は状況により変更する場合がございます。	
【履修条件】	地域マネジメント論、行政経営管理論、政策過程論などを履修されると、理解が深まるものと思われます。	
【評価方法】	学期中に数回実施する出席ミニレポート 20%と学期末に実施する試験 80%を合算して評価を行います。	
【テキスト】	特に指定しません。講義資料については事前にオンライン上で提示致しますので、各自ダウンロードまたは印刷のうえ、ご参加ください(教室での資料配布は原則として行いませんのでお気をつけください)。	
【参考書】	縣公一郎・藤井浩司(編)『コレク政策研究』成文堂、2007。 縣公一郎・藤井浩司(編)『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版部、2016。 秋吉貴雄『入門公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論新社、2017。 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎(第3版)』有斐閣、2020。 宇野二郎・長野基・山崎幹根(編)『テキストブック地方自治の論点』ミネルヴァ書房、2022。 金川幸司(編著)『公共ガバナンス論—サードセクター・住民自治・コミュニティ』晃洋書房、2018。 北山俊哉・稲継裕昭(編)『テキストブック地方自治(第3版)』東洋経済新報社、2021。 曾我謙悟『日本の地方政府 1700 自治体の実態と課題』中央公論新社、2019。 田尾雅夫、吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009。 西岡晋・廣川嘉裕(編)『行政学』文眞堂、2021。	

	<p>藤井浩司・縣公一郎(編)『コレーク行政学』成文堂、2007。  藤巻秀夫(編著)『地方自治の法と行財政』八千代出版、2012。  その他、講義中にご紹介いたします。</p>				
【備考】	<p>担当者は、2020 年度までデジタル・ガバメントに関する研究機関に在籍し、国および地方自治体におけるデジタル技術の活用、公共サービス提供における行政と民間および個人の協働などについて研究を行うとともに、行政機関の先行事例に関する調査やガイドライン作成の支援を行った経験を有しております。本講義の後半を中心に、これらの経験を踏まえた公共ガバナンスに関する最近の動向についても解説する予定です。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】	<p>自治体経営論 I (旧カリキュラム、新カリキュラム(~H21))。H21 年度入学生までは自治体経営論 I として登録される。</p>				
【社会人聴講生】	<p>受入可能です。但し、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>	【科目等履修生】	<p>受入可能です。但し、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>	【交換留学生】	<p>受入可能です。但し、講義は原則として日本語で行います。また、評価方法につきましては同一の条件となりますのでご了承ください。</p>

【科目名】	地域マネジメント論	Regional Management
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度後期
【科目責任者】	西野勝明	
【担当教員】	*西野勝明	
【授業目標】		
●授業目的	<p>・現在、地域を取り巻く厳しい環境変化として、自然災害の頻発やパンデミック、国際的な戦争・紛争といった短期的危機、人口・企業の減少、AI・ネット通販などの産業の新潮流、米中覇権争いといった長期的・構造的危機が挙げられるが、中でも地域の人口・企業の減少問題は予想以上に深刻な影響を与えつつあり、現在の地方創生策では、とても十分な対策とはならず、地域は自立し自ら地域をマネジメントすることが求められている。地域マネジメントのための理論と手法、地方創生と地域創生、先進事例、自治体の役割と実態、まちづくり、住民運動などを学んで「持続可能な地域の経済社会を担う人材」を増やす。</p> <p>・多くの学生が地域の発展なくして国全体の発展がないことを理解する</p>	
●到達目標	<p>地域を巡る短期・長期の厳しい環境変化（特に人口減少問題）を現実の問題として捉えられ、地域が主体的な「地域創生」への転換が求められていることを理解する。地域に関わる理論や具体的な事例を学ぶことで実践的な思考と手法を獲得し、自治体、地域経済と企業の課題などについて政策提言するなど、地域マネジメントを考えることができる。</p>	
【授業概要】	<p>・地域を巡る厳しい環境変化（短期・長期・構造的）を取り上げる</p> <p>・地域の人口減少問題と東京圏一極集中を取り上げ、それへの国の対策である地方創生の現状と課題を取り上げる</p> <p>・地域マネジメントの理論と政策を、地域マネジメントのベストプラクティス（先進事例）、地域産業の振興、まちづくり、危機管理、自治体の経営改革、住民運動などにおいて、理論、事例を交えた講義と学生同士のディスカッションで学んでいく。</p> <p>・地域に関する仕事（自治体、地方団体、地方金融機関、地域企業）を志望する学生に有益となる知識、情報、データ等を</p>	
【授業方法】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は対面で行う（ただし、感染症等の状況変化によって変更される場合がある）</li> <li>2. 当日の講義資料（パワーポイント）に基づく講義と、配布資料、講義後に提出されたコメントカード（B5・1枚）で出された質問への回答を行う。</li> <li>3. できるだけ学生とのインタラクションをとりたい</li> <li>4. DVDの資料を活用した講義があり、視聴後ディスカッションを行う。</li> </ol>	
【準備学習】		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（本講義の概要）、職業としての公的業務と能力・スキル</li> <li>2. 地域の持続可能性を脅かす環境変化・その1「短期的危機」（テキスト第1章、第4章5）</li> <li>3. 危機管理：DVD・大島町・ディスカッション</li> <li>4. 地域の持続可能性を脅かす環境変化・その2「長期的・構造的危機」（テキスト第1章2、3）</li> <li>5. 地域の人口減少問題と東京圏一極集中（長期的・構造的危機）（テキスト第2章）</li> <li>6. 地方創生から地域創生へ（テキスト第3章）</li> <li>7. 求められる地域マネジメント（テキスト第4章）、地域マネジメントの理論と手法：地域産業政策（テキスト第5章1～3）</li> <li>8. 地域マネジメントの理論と手法：産業集積、ソフトイノベーション（テキスト第5章4、5）</li> <li>9. 環境変化への適応：DVD：湯布院・ディスカッション</li> <li>10. 地域マネジメントのベストプラクティス（香港、薩摩藩）（テキスト第7章）</li> <li>11. 自治体の役割と理論そして制度</li> <li>12. 自治体の実態（静岡県の実例など）</li> <li>13. 自治体の経営改革（テキスト第6章）</li> <li>14. まちづくり、住民運動</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
【履修条件】	特になし	
【評価方法】	講義後提出のコメントカード（B5・1枚）と試験（感染症の状況によって変更する可能性がある）	
【テキスト】	西野勝明『構造的変革期の地域マネジメントと地域創生』時事通信社、2,140円（税込、大学内で購入の場合）	
【参考書】	<p>村松岐夫編『テキストブック地方自治 第2版』東洋経済新報社（海外の地方自治、理論の部分など）</p> <p>北山俊哉、稲継裕昭編『テキストブック地方自治 第3版』東洋経済新報社（実務的な部分など）</p>	
【備考】	1. 自治体（静岡県庁）、国（経済産業省）、海外（米国ロサンゼルス）、シンクタンクで、財政、企画、産業政策、企業	



	支援等について実務経験のある教員が担当する。 2. 地域に関する仕事(自治体、地方金融機関、地域企業、地方団体など)を志望する学生は履修することを勧める。						
【旧カリキュラム 読み替え科目】	自治体経営論Ⅱ(旧カリキュラム、新カリキュラム(~H21))。						
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	

【科目名】	政策過程論	Policy Science
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度後期
【科目責任者】		
【担当教員】	*小西 敦	
【授業目標】		
●授業目的	政策について、課題認識、政策立案、政策実施、政策評価及び政策改善という各過程を意識しつつ、過程の間のつながりも踏まえて、政策に関する基本的な概念や事実を理解し、議論できるようになること	
●到達目標	政策について、課題認識、政策立案、政策実施、政策評価及び政策改善という各過程を意識しつつ、過程の間のつながりも踏まえて、官僚制、政策評価、行政責任、予算編成等の政策に関する基本的な概念や事実を自分自身で整理して、知識として獲得し、それに基づいて、自分の意見を、言語化して提示することができるようになること。	
【授業概要】	本授業では、前半において、官僚制に関する理論や政策決定のモデル等を学びます。 中盤において、政策の計画・実施・評価・改善という政策サイクルや行政責任等を学びます 後半において、予算編成過程や主体、決算について主に国を中心に検討します。その後、地方財政の制度とその課題について、考えを深めます	
【授業方法】	本授業は、原則として教室における対面で行います。 ただし、COVID-19の感染状況等によって、Zoomによる同時並行方式等に変更する回がありますので、ユニバの掲示、登録アドレスへの連絡や授業中の連絡に注意してください。	
【準備学習】		
【授業展開】	<p>【 】は、テキストの指定箇所。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス</li> <li>官僚制の合理性と非合理性【第1章】</li> <li>政策決定のモデル【第4章 4-1～4-3】</li> <li>PDCA・PDS【別途配付資料】</li> <li>政策課題【第4章 4-4～4-6】</li> <li>政策実施【第5章 5-1】</li> <li>政策評価【第5章 5-2】</li> <li>政策評価の実際【別途配付資料】</li> <li>政府の失敗【第6章】</li> <li>予算編成過程【第19章】</li> <li>予算編成主体【第20章】</li> <li>予算と決算の実際【別途配付資料】</li> <li>決算の意義【第22章】</li> <li>日本の行政システムの特徴【終章】</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>参加者の理解度等に応じ適宜、講義の進度・順番等を変更することもあります。</p>	
【履修条件】	教科書として真淵勝(2020)『行政学 新版』有斐閣が必携です。	
【評価方法】	課題提出等授業への取り組み(5割程度)とA4で3枚以上(参考文献リストを除く)の分量の最終レポート(5割程度)によって評価します。	
【テキスト】	教科書:真淵勝『行政学 新版』有斐閣、2020年:本授業の受講には必携です。 このほかに、課題文献を指定することがあります。	
【参考書】	森脇俊雅(2010)『政策過程』ミネルヴァ書房 山谷清志(2011)『政策評価』ミネルヴァ書房 岩崎正洋(2012)『政策過程の理論分析』三和書籍 佐藤満(2018)『政策過程論』慈学社出版 南島和久(2020)『政策評価の行政学』晃洋書房	
【備考】	本授業は、新カリキュラム(2024年度入学者から施行)では廃止となりますので、履修を希望される方は、2024年度に履修することを強く推奨します。 主体的な学びの姿勢を重視します。 国や自治体で政策立案・政策評価・予算編成等に携わった担当教員の行政実務経験を授業内容に反映するように努めます。	
【旧カリキュラム】		

読み替え科目】					
【社会人聴講生】	聴講可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【科目等履修生】	履修可(通常の履修学生と同様のレポート等による評価を受けること)	【交換留学生】	履修可(テキスト必読のため、テキストの内容を理解できる日本語読解力を有すること)

【科目名】	情報科学概論	Computer Science		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】				
【担当教員】	*小田 紘久			
【授業目標】				
●授業目的	「情報科学」に関する基礎的な事柄の概要の習得			
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの基本機能と計算する機会から知識増幅を支援する機械への発展について理解する。</li> <li>・コンピュータハードを実現するための2進数、ブール代数、トランジスタ、メモリのしくみについて理解する。</li> <li>・簡単なデジタル回路の設計やマイコンと電子回路について理解する。</li> <li>・基本ソフトウェアと表計算ソフト、文字入力ソフトなどの応用ソフトウェアの誕生について理解する。</li> <li>・プログラミングの基礎についてアセンブラや順次・選択・繰り返し構造などについて理解する。</li> <li>・デジタル化のためのサンプリング定理・量子化や色空間</li> </ul>			
【授業概要】	コンピュータの仕組み、情報数学(ブール代数・論理演算・論理回路)、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズムとプログラミング、情報理論(シャノンのエントロピー定理、情報圧縮の理論、誤り訂正符号の理論)、視覚・聴覚による情報、ニューラルネットワーク等、情報科学の基礎的な事柄の概要を原理に立ち返って解説する。			
【授業方法】	原則として配布する講義録にしたがって進める。技術の背景や本質的な意味について理解できるようにする。対面での実施を原則とする。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. コンピュータの仕組み①(プログラマブル、電子デジタル化、ノイマン型など)</li> <li>3. コンピュータの仕組み②(マイコンと周辺回路、計算処理から知的能力の増幅支援へ)</li> <li>4. 情報数学の基礎(ブール代数、真理値表、ベン図、双対の原理など)</li> <li>5. 論理演算と論理回路(ド・モルガンの定理、正論理と負論理、最小万能演算系など)</li> <li>6. ハードウェア基礎(トランジスタの原理、記憶素子(メモリ)のしくみと用途など)</li> <li>7. ハードウェア応用(デジタル回路の設計、カルノー図、加算回路など)</li> <li>8. ソフトウェア基礎(オペレーティングシステム、表計算ソフト、文字入力ソフトなど)</li> <li>9. アルゴリズムとプログラミング(アセンブラ、順次・選択・繰り返し構造など)</li> <li>10. シャノンの情報量と平均情報量(エントロピー)に関する定理</li> <li>11. 符号圧縮理論と誤り訂正符号理論</li> <li>12. 視覚・聴覚による情報(サンプリング定理、エイリアシング、色空間、階調表現など)</li> <li>13. 画像処理、画像認識、画像生成</li> <li>14. ニューラルネットワーク、ディープラーニング、パターン認識概説</li> <li>15. 総括</li> </ol>			
【履修条件】	(既習指定科目など)			
【評価方法】	講義中の課題 50%、レポート 50% で評価する。			
【テキスト】	講義録は講義時に配布する。			
【参考書】	授業の際に紹介する。			
【備考】	担当教員は機械メーカーにおけるシステム管理経験を有しており、コンピュータや情報技術に関する幅広い知識に基づいて講義を進める。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報科学概論			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	情報理論	Information Theory		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期	
【科目責任者】				
【担当教員】	*小田 紘久			
【授業目標】				
●授業目的	「情報理論」の基礎的な知識を習得する。			
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報理論・情報学における情報と一般に使用される情報の違いを理解する。</li> <li>・情報量のビットとデータ量のビットの違いについて理解する。</li> <li>・10 進数と 2 進数の違いについて理解する。</li> <li>・事象の発生確率から情報量を導出し、情報量と事象系の平均情報量(エントロピー)について理解する。</li> <li>・アナログデータをデジタル化するためのサンプリング定理について理解する。</li> <li>・情報源符号化の理論について理解する。</li> <li>・ベイズの定理を理解したのち、条件付き確率、相互情報量を理解する。</li> <li>・ハフマンのデータ圧縮アルゴリズムなどを</li> </ul>			
【授業概要】	1940 年代後半のシャノンの研究が基礎になって始まったデータ圧縮、信頼できるデータ通信が可能かアナログデータをデジタルデータへと変換する時、どの程度の間隔でサンプリングすればよいかといった命題は情報理論という数学的理論をもたらした。情報理論は現在、携帯電話などでの通信技術やコンパクトディスク(CD)をはじめとしてデジタル化の基礎理論となっており、その後の情報技術の急速な発展に結びついている。また、本講義においてはデータサイエンスの基礎となる内容についても講義する。			
【授業方法】	基本的には提供する資料にしたがって進める。Excel 上でデータを処理分析したり、音声処理ソフト、形態素解析ソフトなどのコンピュータソフトウェアを操作しながら、各項目の本質的な理解を深める。 対面での実施を原則とする。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに、情報理論・情報学における情報、情報の歴史</li> <li>2. 2進数、ビット</li> <li>3. 事象の発生確率と情報量</li> <li>4. シャノンによる事象の情報量と事象系の平均情報量(エントロピー)に関する定理</li> <li>5. 情報の表現(文字データ、数値データ、音声データ、画像データ)、サンプリング定理</li> <li>6. 情報源符号化の理論(可変長/固定長、瞬時復号可能、一意復号可能)</li> <li>7. クラフトの不等式、マクミランの不等式</li> <li>8. ベイズの定理と条件付き確率、相互情報量</li> <li>9. データ圧縮概説、ハフマンのデータ圧縮アルゴリズム</li> <li>10. 雑音がある場合の誤り訂正符号、ハミング符号</li> <li>11. フーリエ級数とフーリエ変換</li> <li>12. 統計的言語処理と N-gram、形態素解析、パープレキシティ、データマイニングと相関ルール</li> <li>13. パターン認識の基礎</li> <li>14. 音声処理と音声認識</li> <li>15. 総括</li> </ol>			
【履修条件】	(既習指定科目など)			
【評価方法】	講義中の課題 50%、レポート 50% で評価する。			
【テキスト】	テキスト、資料、ソフトウェアは講義の際に配布する。			
【参考書】	授業の際に紹介する。			
【備考】	担当教員は機械メーカーにおけるシステム管理経験を有しており、コンピュータや情報技術に関する幅広い知識に基づいて講義を進める。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報理論			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	アルゴリズムとデータ構造 I	Algorithms and Data Structures I				
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度後期			
【科目責任者】	武藤伸明					
【担当教員】	武藤伸明					
【授業目標】						
●授業目的	いくつかの基本的なアルゴリズムを取り上げ、アルゴリズムの考え方、アルゴリズムの C 言語プログラミングとしての実現、その性能評価などについて学習する。					
●到達目標	基本的なアルゴリズムのいくつかを学び、実装するスキルを身につける。また、性能を意識したプログラミングができるようになる。					
【授業概要】	アルゴリズムの習得に重点をおいて、プログラミング技術を学ぶ。基礎的な問題を提示し、その有効な解法（アルゴリズム）の習得と、プログラムの作成を演習形式で行う。特に、数論の基礎的な問題（最大公約数、素数）、数値計算の基礎（2 分法、Newton 法、モンテカルロ法など）、から題材を取り上げる。作成されたプログラムの性能評価や、C 言語のプログラミングスタイルなども扱う。					
【授業方法】	Web サイトで配布する資料に沿って、演習形式で行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. C 言語の基本文法</li> <li>3. 最大公約数</li> <li>4. ユークリッドの互除法 (1)</li> <li>5. ユークリッドの互除法 (2)</li> <li>6. プログラムの性能評価</li> <li>7. モンテカルロ法</li> <li>8. ランダムウォーク (1)</li> <li>9. ランダムウォーク (2)</li> <li>10. モンテカルロ法の応用例 (1)</li> <li>11. モンテカルロ法の応用例 (2)</li> <li>12. プログラミングのスタイル</li> <li>13. 素数 (1)</li> <li>14. 素数 (2)</li> <li>15. おわりに</li> </ol>					
【履修条件】	情報処理演習、プログラミングの単位を取得済みであること。					
【評価方法】	授業への取り組み (50%) およびレポート (50%) によって評価する。					
【テキスト】	授業中に適宜指示する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	オブジェクト指向プログラミング	Object-Oriented Programming				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之					
【授業目標】						
●授業目的	オブジェクト指向プログラミング言語を用いたプログラミングの考え方を理解し、オブジェクトの設計やオブジェクトを連携させたプログラム開発の基礎を習得する。					
●到達目標	オブジェクトやクラスについて各種概念(フィールドとメソッド、コンストラクタ、継承、アクセス修飾子、メソッドのオーバーロード、多態性とオーバーライド、インターフェースとその実装、UML等)が理解できる。					
【授業概要】	オブジェクト指向プログラミング言語(Java言語)によるプログラミングについて、統合開発環境(IDE)を用いた演習を行う。クラスベースのオブジェクト指向プログラミング言語(Java言語、C++言語、C#言語等)に共通する各種概念(クラスとオブジェクト、フィールドとメソッド、コンストラクタ、継承、アクセス修飾子、メソッドのオーバーロード、多態性とオーバーライド、インターフェースとその実装、UML等)について説明する。授業の初期にはGUIアプリケーションを題材とした演習を行い、中盤からGUIアプリケーションを題					
【授業方法】	毎回配布する資料に沿って演習を進める。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせる場合がある。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 はじめに 2 統合開発環境の確認 3 基本文法と制御構文 4 オブジェクトとクラス 5 オブジェクト設計 6 UML、継承、アクセス修飾子 7 GUIアプリケーション1 8 GUIアプリケーション2 9 インタフェースとイベント処理 10 インナークラス 11 例外処理 12 タイマー、キー入力、マウス処理 13 Web API の活用 14 クラスライブラリの活用 15 総括					
【履修条件】						
【評価方法】	授業への取り組み 40%と課題の提出 60%。					
【テキスト】						
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	プログラミングⅢ					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	アルゴリズムとデータ構造 II	Algorithms and Data Structures II		
【配当年次】	3 年	【開講時期】	2024 年度前期	
【科目責任者】				
【担当教員】	* 六井 淳			
【授業目標】				
●授業目的	プログラムによって問題を解くときに必要なアルゴリズムとデータ構造とについて理解し、それらをプログラムおよび一般情報処理に応用できるようになることを目標とする。			
●到達目標	プログラムによって問題を解くときに必要なアルゴリズムとデータ構造とについて理解し、それらをプログラムおよび一般情報処理に応用できるようになることを目標とする。			
【授業概要】	問題を解くための良質なプログラムを作成するには、問題を効率よく処理するアルゴリズムとともに、そのための適切なデータ構造の知識が必要である。アルゴリズムやデータ構造は、実際にプログラムを作成することにより理解を深めることができる。 本講では、アルゴリズムとデータ構造について講義形式で説明し、その後、プログラムで実装する実習を行い、アルゴリズムの理解を深めるようにする。これらの知識や理解をコンピュータによる一般的な情報処理にも応用できるようにする。			
【授業方法】	配布プリントに沿った講義形式を主体に、演習を行いながら理解を深める。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス + 準備</li> <li>2. データ構造1: 数値の表現</li> <li>3. データ構造2: 演算と関数</li> <li>4. データ構造3: 探索と計算量</li> <li>5. アルゴリズム1: 数値とアルゴリズム</li> <li>6. アルゴリズム2: 確率と期待値</li> <li>7. アルゴリズム3: ソートと再帰</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. アルゴリズム4: 動的計画法1</li> <li>10. アルゴリズム5: 動的計画法2</li> <li>11. クエリ処理: スタックとキュー</li> <li>12. クエリ処理: 連想配列と文字列ハッシュ</li> <li>13. アルゴリズム応用: 色々なサーチアルゴリズム</li> <li>14. アルゴリズム応用: グラフアルゴリズム</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
【履修条件】	プログラミングとアルゴリズムとデータ構造 I(プログラミング I,II)を履修済みであること。 加えて、同時期に開講されるオブジェクト指向プログラミング(プログラミング III)を履修していることが望ましい。			
【評価方法】	中間試験(50%)、期末試験(50%)の合計点数により評価する。			
【テキスト】	講義中に適宜提示する			
【参考書】	高橋麻奈 著 「やさしい Java 」 SB クリエイティブ			
【備考】	IT 企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。 本講義は原則、対面講義ですが、感染症拡大の際には、オンライン講義に切り替わる可能性があります。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】



【科目名】	データベース	Database				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	相良 陸成					
【担当教員】	相良 陸成					
【授業目標】						
●授業目的	講義やデータベース実習を通して、情報検索とデータベースを全般的に理解することを目標とする。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報検索システムの進んだ使い方を演習を通して習得する。</li> <li>・データベース管理システムの主な特徴・機能を理解する。</li> <li>・リレーショナル型データベースの考え方とデータベース言語 SQL の使い方を、MySQL を用いた演習を通して習得する。</li> <li>・リレーショナル型データベースの設計手法を習得する。</li> </ul>					
【授業概要】	<p>大量のデータを扱うためには効率的な検索技術が欠かせない。データの保存・管理・検索機能を提供することにより、情報の流通性を上げ、業務の効率化を促進するデータベースの役割が増してきている。</p> <p>そこで、本科目ではデータベースや情報検索の基礎概念から最先端のデータベース技術までを概説する。特にデータモデルとして関係モデル(リレーショナル型データモデル)に重点を置いて説明する。座学の講義だけでなく、情報検索の実習、SQLを使ったデータベース作成などの実習を行なうことにより、データベースをより深く理解することを目的と</p>					
【授業方法】	基本的には講義形式で授業を行う。データベースについての理解を深めるために、データベースからの情報検索とデータベース作成の実習を行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. データベースの仕組みと歴史</li> <li>3. 情報検索とデータベース</li> <li>4. 情報検索実習</li> <li>5. データベース管理システム</li> <li>6. リレーショナル型データベース(データ構造と整合性制約)</li> <li>7. リレーショナル型データベース(関係代数)</li> <li>8. データベース言語(SQL)</li> <li>9. データベース言語実習 II (MySQL)</li> <li>10. データベース言語実習 II (MySQL)</li> <li>11. データベース言語実習 II (MySQL)</li> <li>12. データモデル・データベース設計手法</li> <li>13. データベース設計手法</li> <li>14. データベース設計手法</li> <li>15. 進んだ話題・まとめ</li> </ol>					
【履修条件】	パソコンの使用経験があること。					
【評価方法】	授業への取り組み(20%)、実習(30%)、期末試験(50点)により評価する。 ただし、出席数が不足する場合は不可とする。					
【テキスト】						
【参考書】	<p>増永 良文 (著)『リレーショナルデータベース入門—データモデル・SQL・管理システム・NoSQL』サイエンス社</p> <p>吉川 正俊 (著)『IT Text データベースの基礎 L』オーム社</p>					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	データベース					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	画像処理と認識		Image processing and recognition		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。		【開講時期】	2024 年度後期	
【科目責任者】	杉山 岳弘				
【担当教員】	*杉山 岳弘				
【授業目標】					
●授業目的	「画像データ」の基礎的な知識を習得し、図形処理や画像処理および画像認識の基本を学ぶ。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像の特性を理解し、適切なソフトウェアを選び、基本的な画像処理を行うことができるようになる。</li> <li>・画像処理ソフトウェアを操作し、画像に対して目的の加工を行うことができるようになる。</li> <li>・画像認識の基本的な技術を理解して、画像認識のプログラムを作成することができるようになる。</li> </ul>				
【授業概要】	<p>「画像」の最小単位である「ピクセル」と画像解像度の概念を解説し、線画像、白黒画像・カラー画像のデータ構造について講義する。それらを理解した後に、図形の作成や画像ファイルの読み込みを解説する。続いて画像処理の基本的なテクニックを画像処理プログラミング「Processing」を中心として、補足的に画像処理ソフト「フォトショップ」などを用いて学習する。画像処理や画像認識のプログラミングの基本的な学習をした後、画像処理を使ったコラージュ・合成写真・ロゴ等の制作を通じてそれまで学習した内容をより深く理解する。</p>				
【授業方法】	公開した講義録にしたがって進める。授業は講義と各自がコンピュータを実際に操作する実習形式で進める。最後の課題制作では作品の提出を義務付ける。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに(座学)</li> <li>2. ピクセルと画像解像度～コンピュータディスプレイの画像表示の原理～(座学)</li> <li>3. 線図形とベクトルデータ</li> <li>4. 画像データのフォーマット(座学)</li> <li>5. 画像処理プログラミングの準備(Processing 準備: 座学と演習併用)</li> </ol> <p>以下はすべて演習形式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 標準化・量子化とバイナリーデータの入出力</li> <li>7. 図形処理の基本演習(図形の作成と拡大縮小・回転)</li> <li>8. 画像処理の基本演習1(各種画像データの表示・保存)</li> <li>9. 画像処理の基本演習2(画像演算・フィルタ処理)</li> <li>10. 画像処理の基本演習3(各種選択範囲設定方法と画像のカットアンドペースト)</li> <li>11. 画像処理の基本演習4(オブジェクトの描写と移動)</li> <li>12. 画像処理の基本演習5(レイヤーとアニメーション)</li> <li>13. 総合演習1: 課題「コラージュ」、「合成写真」、「ロゴ」など制作</li> <li>14. 総合演習2: 自由課題</li> <li>15. 総括・授業評価</li> </ol>				
【履修条件】	<p>簡単な C プログラミング言語を理解していること。また、本科目は画像処理に関して「初級者向き」の講義・演習であり、「教育業界志望者向け」の内容を含んでいる。本科目の履修に当たっては、これらの点をよく理解すること。なお、コンピューター台数の制約上、受講希望者多数の場合は受講制限を設ける可能性がある。また、科目の性質上、教職課程履修学生を優先する。</p>				
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の基準により評価する。</li> <li>1. 授業中に出題する課題(毎回課題がある。提出状況および達成度): 35%</li> <li>2. 毎回の授業のまとめ(ワークシートの提出状況および達成度): 35%(1.と同じ条件とする。)</li> <li>3. 総合課題(オリジナル作品作成とそのプレゼンテーション: 学生相互の評価も含む): 30%</li> </ul> <p>・正当な考慮すべき理由なく、3回(6コマ)以上欠席した者は「不可」とする。</p>				
【テキスト】	授業のときに資料等を配布する。				
【参考書】	授業中、必要に応じて紹介する。				
【備考】	IT ベンチャーでソフトウェア開発業務経験を有する教員が、画像処理のプログラミングを指導する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	画像処理演習				
【社会人聴講生】	条件付きで受入 ・プログラミングの知識を有する方	【科目等履修生】	条件付きで受入 ・プログラミングの知識を有する方	【交換留学生】	

【科目名】	メディア処理論	Multimedia information processing				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	和田和美					
【担当教員】	和田和美					
【授業目標】						
●授業目的	新しい情報メディア環境の出現が我々に何をもちたすかを理解して、情報メディアの新しい利用形態と表現手法を身につけることを目的とする。そのために、マルチメディア表現の実習を通して、さまざまなメディアの特性を実感・理解し、デジタル編集・オーサリングの技術を理解・取得することを目標とする。					
●到達目標	マルチメディア表現についての理解を深め、ウェブサイト制作の技術取得とその実践を目指す。					
【授業概要】	近年、コンピュータとインターネットの進化によって、マルチメディアが広く深く生活の中に浸透し、我々の日常的な思考やコミュニケーションに大きな変化をもたらししている。このような新しい情報メディア環境の出現が我々に何をもちたすかその影響力について考えながら、情報メディアの新しい利用形態と表現手法を身につけるために、マルチメディア表現の実習を行う。					
【授業方法】	<p>講義と実習を取り混ぜた授業を行っていきます。またグループワークを実施します。</p> <p>実習で使用するツール等を解説しながら、具体的に PC を使用して、配布するマニュアルやサンプルデータを元に作業を進めます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大や災害等が発生した際には、状況を見ながら遠隔授業（Zoom による同時双方向型）に切り替える場合があります。</p>					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. マルチメディアのアーキテクチャ</li> <li>3. マルチメディアとユーザビリティ</li> <li>4. インターネットのマルチメディア表現</li> <li>5. グラフィック処理：電子出版と電子テキスト(DTP とドキュメントパブリッシング)</li> <li>6. ウェブグラフィック処理：情報検索とナビゲーション</li> <li>7. ウェブデザイン：レイアウトのワークフロー</li> <li>8. ウェブデザイン：スタイルシートの設定</li> <li>9. オープンソースライブラリの活用</li> <li>10. レスポンシブウェブ・デザイン制作の考え方</li> <li>11. 動画制作と公開・共有</li> <li>12. デバイス毎の表現方法</li> <li>13. 最終課題制作と評価</li> </ol>					
【履修条件】						
【評価方法】	出席と合わせて、課題の制作、プレゼンテーション、レポートをもとに評価する。					
【テキスト】	<p>授業で指定する。</p> <p>基本的には授業で使用するマニュアル、サンプルデータを随時配布。</p>					
【参考書】						
【備考】	授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	マルチメディア論					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人工知能	Artificial Intelligence			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】					
【担当教員】	大久保誠也				
【授業目標】					
●授業目的	人工知能に関する主要な手法や技術について、知識や使用方法を体得すること。				
●到達目標	人工知能の分野で使用される、いくつかの基本的な技術について理解する。 各技術がどういう場面で使用されるのか、どういう条件や準備が必要なのか、何が可能なのかについて理解する。				
【授業概要】	近年、人工知能は目覚ましい発展を遂げ、さまざまな分野への応用が期待されている。人工知能がどういうものかや、何ができるのか、どのように利用すればよいのかを知ることは、これからの情報処理を考える上で重要なことである。 本授業では、人工知能に関する基本的な知識や、主要な技術について、講義と演習を行う。 15 回の講義のうち、前半では人工知能とは何かについてや、その考え方について取り扱う。後半では、主要な技術の基本的な部分について説明するとともに、実際に計算機上で実行する演習を行う。				
【授業方法】	授業の前半は講義を、後半は演習ならびにレポートを行う。  【新型コロナウイルス感染症に対する対応】 感染拡大等がみられた場合、Zoom による講義に切り替える場合があります。				
【準備学習】					
【授業展開】	01: はじめに 02: 人工知能とは何か 03: 知識と行動 04: 基本的な探索 05: ヒューリスティクスな手法 06: 推論 07: 決定木 08: モンテカルロ法の基礎 09: モンテカルロ法の演習 10: 機械学習の基礎 11: 機械学習の演習 12: ニューラルネットワークとディープラーニングの基礎 13: ニューラルネットワークとディープラーニングの演習 14: 近年の動向 15: おわりに **： 期末試験				
【履修条件】					
【評価方法】	レポートならびに課題(70%)ならびにテスト(30%)による。 なお、出席回数が足りない場合は不可とする。				
【テキスト】					
【参考書】	授業中に適時、提示する。				
【備考】	計算機実習にて講義を行います。 ただし、受講人数が席数を上回る場合は、抽選が実施される可能性があります。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	人工知能				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	可。ただし、講義は日本語のみです。

【科目名】	情報セキュリティ	Information Security					
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期				
【科目責任者】							
【担当教員】	大久保誠也						
【授業目標】							
●授業目的	情報を扱う上で必要となる情報セキュリティに関する知識を体得すること。						
●到達目標	<p>情報セキュリティに関する基本的な概念を獲得すること。</p> <p>情報を扱う際に必要となる基本的な知識を身につけること。</p> <p>現代社会で情報を守るために使用されている基本的技術を理解すること。</p>						
【授業概要】	<p>インターネットが発達し、多くの情報を扱うようになった現在、情報の適切な扱いは非常に重要なことである。その際、情報セキュリティに関する技術や知識は、多くの場面で利用されている。たとえば、他者に知られてはいけない情報を通信する場合には、通信内容は暗号化してやり取りされる必要がある。他にも、情報システムやネットワークを管理・運用し、扱う情報資産を安全に保ち続けるためには、情報セキュリティの知識が必要となる。</p> <p>本授業では、情報セキュリティに関する基本的な知識についての講義と演習を行う。</p> <p>15回の授業のうち、</p>						
【授業方法】	<p>授業の前半は講義を、後半は演習ならびにレポートを行う。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症に対する対応】</p> <p>感染拡大等がみられた場合、Zoomによる講義に切り替える場合があります。</p>						
【準備学習】							
【授業展開】	<p>01:はじめに</p> <p>02:情報セキュリティの目的</p> <p>03:情報セキュリティに対する脅威と対策</p> <p>04:暗号の目的とその歴史</p> <p>05:秘密鍵暗号</p> <p>06:公開鍵暗号</p> <p>07:疑似乱数</p> <p>08:一方向関数とハッシュ値</p> <p>09:電子署名</p> <p>10:安全な通信</p> <p>11:認証</p> <p>12:情報セキュリティポリシー</p> <p>13:情報倫理</p> <p>14:近年の動向</p> <p>15:おわりに</p> <p>**:期末試験</p>						
【履修条件】							
【評価方法】	<p>レポート(55%)ならびに期末テスト(45%)による。</p> <p>なお、出席回数が足りない場合は不可とする。</p>						
【テキスト】							
【参考書】	授業中に適時、提示する。						
【備考】	計算機実習室を利用する関係上、受講人数が席数を超えた場合は、抽選が行われる可能性があります。						
【旧カリキュラム読み替え科目】	特になし。						
【社会人聴講生】	不	可	。	【科目等履修生】	不可。	【交換留学生】	不可。

【科目名】	Web システム開発演習	Web-based System Development PracticeWeb-based System Development Practice				
【配当年次】	3 年	【開講時期】	2024 年度後期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之					
【授業目標】						
●授業目的	Web システム/Web アプリケーションのアーキテクチャについて学び、サーバサイド、クライアントサイドにおける主要技術について演習を通じて理解する。					
●到達目標	自ら Web システムの構成を考え、構築できるようになる。					
【授業概要】	インターネットが高度に普及した現代において、あらゆるシステムやサービスが Web 化されており、我々の生活に無くてはならない状況となっている。本科目では、Web システムの基本的なアーキテクチャについて学び、Web フレームワークやデータベースなどのサーバサイド技術、HTML5/CSS3/JavaScript によるクライアントサイド技術について演習を通じて理解する。また、試験的な Web システムを設計し、実際に構築することで理解を深める。					
【授業方法】	毎回配布する資料に沿って演習を進める。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせて実施する場合がある。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 はじめに 2 Web システムの構成要素と HTTP 3 HTML と CSS 4 3 層アプリケーションモデルと MVC 5 サーバサイド技術 (Web フレームワークとプログラミング言語) 6 サーバサイド技術 (データベース連携) 7 クライアントサイド技術 (JavaScript1) 8 クライアントサイド技術 (JavaScript2) 9 クライアントサイド技術 (JavaScript3) 10 クライアントサイド技術 (DOM) 11 クライアントサイド技術 (Ajax) 12 REST と Web API 13 Web システム設計と構築 1 14 Web システム設計と構築 2 15 総括					
【履修条件】						
【評価方法】	授業への取り組み 40%と課題の提出 60%。					
【テキスト】						
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	ネットワーク・アプリケーション					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報システム開発論	Information System Development				
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期			
【科目責任者】	池田 哲夫					
【担当教員】	*池田哲夫					
【授業目標】						
●授業目的	主として大規模な情報システムの開発に関して、ソフトウェアエンジニアリングを意識して学ぶ。					
●到達目標	<p>情報システムの設計・開発の代表的な工程(プロセス)に関して、その工程の役割・主要な技法を習得する。</p> <p>情報システムの共通的なトピックであるプロジェクトマネジメントに関して、特にスケジューリングと見積りに関して、役割と主要な技法を習得する。</p> <p>UMLを用いての演習を通して、設計・開発の実際をより深く習得する。</p>					
【授業概要】	情報システムの開発・管理・保守を効率的に行う為に必要な基礎知識とそれらを実際に試して、問題の困難さを正確に体験する為に演習を重視して授業を進める。狭い意味での情報システム開発にとどまらず、情報システムの管理・運用についても講義を行う。					
【授業方法】	具体的な大規模情報システム開発を想定して、実習を可能な限り組み込んで、単なる耳学問に終わらせないように工夫して授業する。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめにー情報社会と情報システム</li> <li>2. 情報システムの開発・運用</li> <li>3. 情報システムの要件定義(構造化手法、UML)</li> <li>4. 情報システムのシステム設計(構造化手法)</li> <li>5. 情報システムのシステム設計(UML)</li> <li>6. 情報システムのハードウェア設計</li> <li>7. 情報システムのプログラミング、テスト</li> <li>8. 情報システムの保守・運用</li> <li>9. プロジェクトマネジメント(スケジュール管理)</li> <li>10. プロジェクトマネジメント(見積り)</li> <li>11. 情報システム構築の実際(演習)1</li> <li>12. 情報システム構築の実際(演習)2</li> <li>13. 情報システム構築の実際(演習)3</li> <li>14. 品質管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>					
【履修条件】	(既習指定科目など) 「情報処理演習」や「プログラミング I」などのプログラミング実習を含む科目の履修経験があること。					
【評価方法】	期末試験、情報システム構築演習、授業への取り組みをもとに総合的に評価する。					
【テキスト】						
【参考書】	<p>中所 武司(著),「ソフトウェア工学(第3版)(情報科学こんせぷつ7)」,朝倉書店</p> <p>河村 一樹(著),「情報システム設計・開発技術」,近代科学社</p> <p>松本吉弘(監訳),「ソフトウェアエンジニアリング基礎知識体系—SWEBOK—」,オーム社</p>					
【備考】	各種社内システムの設計開発経験を有する教員がその経験を踏まえて、講義を行う。					
【旧カリキュラム読み替え科目】	応用ソフトウェア工学					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	経営情報システム探究	Exploring management information systems				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	大久保 あかね					
【担当教員】	大久保 あかね					
【授業目標】						
●授業目的	経営情報システム、情報ネットワーク、オンラインツアー、IoT、ビッグデータなどの情報システムに関連する最近のトピックスについて探究する。 具体的には、テーマを設定し、多様な資料・文献・調査などを通して深く掘り下げるとともに、発表と議論を重ね、深く理解する。					
●到達目標	最近のトピックスや最新の技術に興味を持ち、自ら進んでインターネット上の情報を中心に調査し、パワーポイントなど電子ツールを活用して発表し、あるいは他者の発表について高い関心を持ち、質疑や意見表明をできる能力を身につける。					
【授業概要】	経営情報システム、情報ネットワーク関連の最近のトピックスについて、発表形式を中心に、比較的深く学習する。 具体的には、インターネットを使った仮想店舗・直販店の動向、オンライントラベルエージェントやオンラインツアーなど、企業におけるIT活用事例などについての雑誌記事や論文を指定するので、学生はこれらを読み、プレゼンテーションツールを利用して内容を発表してもらう。 他の学生は発表を聞いて、質問、討議を行い、理解を深めるという形式で進める。学生には事前に記事や論文を与えて、読んでもらい、発表、討議					
【授業方法】	発表者が用意したプレゼン資料をもとに、プレゼンテーションツールや映像機器を利用して調査内容を分かりやすく発表する。 他の受講者は発表を聞いて、質問、討議を行い、理解を深めるという形式で進める。 発表・ディスカッションの持ち時間は基本的に30分程度を想定、毎回の講義で2名～3名ずつ交互に発表を行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: 講義の進め方</li> <li>2. 論文・海外ジャーナルの検索方法</li> <li>3. 実店舗とネットショップの連携戦略</li> <li>4. EC(電子商取引)</li> <li>5. インターネット広告</li> <li>6. Online Travel Agent の動向</li> <li>7. Online Tour の活用</li> <li>8. IoT、ビッグデータの活用</li> <li>9. 企業経営へのIT活用 概要</li> <li>10. CRM(顧客管理システム)の活用</li> <li>11. SCM(サプライチェーン・マネジメント)の活用</li> <li>12. KM(知識管理システム)の活用</li> <li>13. 業務の電子化と効率向上</li> <li>14. ケーススタディ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> ※受講生の研究の方向性に合わせて適宜調整する					
【履修条件】	特になし					
【評価方法】	授業への取り組み 50%、発表 50%					
【テキスト】	適宜配布する。					
【参考書】	講義の中で適宜指定する					
【備考】	特になし					
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報処理応用					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可



【科目名】	情報社会と情報倫理	Information Society and Information Ethics
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】 2024 年度後期
【科目責任者】	千川剛史	
【担当教員】	千川剛史	
【授業目標】		
●授業目的	受講者は、この授業に真摯に取り組むことによって、情報化による社会の変化を多面的に理解しながら、知的所有権の重要性やコンピューターセキュリティの必要性について理解できる。さらに、情報社会において必要とされる道徳や倫理について、また、情報通信技術による社会問題の解決や社会変革の可能性と課題について自らの見解を論理的に考え、表明できるようになります。	
●到達目標	1. 情報化による社会の変化を多面的に理解できる。 2. 知的所有権の重要性やコンピューターセキュリティの必要性について理解できる。 3. 情報社会において必要とされる道徳や倫理について、また、情報通信技術による社会問題の解決や社会変革の可能性と課題について自らの見解を論理的に考え、表明できる。	
【授業概要】	1990 年代後半からのパソコン、携帯電話、インターネットの急速な普及に象徴される情報化の進展によって人々のコミュニケーション様式や行動様式に大きな変化が見られるようになりました。 そうした社会の変化に伴って、人と人の関係のあり方を規定する社会的ルールとしての道徳や倫理、法も大幅に変わらざるをえない状況となっている。 そこで、この授業では、まず、情報社会論の観点から、情報化による社会の変化を多面的にとらえます。 次に、情報化の進展によって発生する社会的諸問題として、アプリケーションソフトや音楽ソ	
【授業方法】	ユニバを使用して授業を行う。必ず、教科書とユニバで配付された資料を熟読して、ユニバを用いて毎回の授業の課題に取り組むこと。	
【準備学習】		
【授業展開】	1 オリエンテーション ・ユニバに掲載された「授業概要」と「第1回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答 ○事前学習: 本授業のシラバスを熟読する。 ○事後学習: 「授業概要」と「第1回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレス(hoshikawa@ostuma.ac.jp)にメールで連絡する。 2 情報化とはなにか ・ユニバに掲載された「第1回授業の課題の講評」と「第2回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答 ○事前学習: 第1回授業の課題について、解答をユニバに記載する。 ○事後学習: 「第1回授業の課題の講評」と「第2回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。 3 情報化の進展状況 ・ユニバに掲載された「第2回授業の課題の講評」と「第3回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答 ○事前学習: 第2回授業の課題について、解答をユニバに記載する。 ○事後学習: 「第3回授業の課題の講評」と「第4回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。 4 情報化による日常生活の変容 ・ユニバに掲載された「第3回授業の課題の講評」と「第4回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答 ○事前学習: 第3回授業の課題について、解答をユニバに記載する。 ○事後学習: 「第3回授業の課題の講評」と「第4回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。 5 著作権等の知的所有権に関わる問題の事例: アプリケーションソフトおよび音楽ソフトの不正コピー・使用の問題 ・ユニバに掲載された「第4回授業の課題の講評」と「第5回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答 ○事前学習: 第4回授業の課題について、解答をユニバに記載する。	

○事後学習:「第4回授業の課題の講評」と「第5回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 6 ハッキングの問題・コンピューターウイルス被害の問題

・ユニバに掲載された「第5回授業の課題の講評」と「第6回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第5回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第5回授業の課題の講評」と「第6回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 7 アダルトおよび出会い系サイトの問題・インターネット上の誹謗中傷トラブル

・ユニバに掲載された「第6回授業の課題の講評」と「第7回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第6回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第6回授業の課題の講評」と「第7回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 8 問題解決への取り組み・情報化の進展にふさわしい社会的ルールとしての情報倫理のあり方

・ユニバに掲載された「第7回授業の課題の講評」と「第8回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第7回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第7回授業の課題の講評」と「第8回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 9 情報化による市民活動の変容

・ユニバに掲載された「第8回授業の課題の講評」と「第9回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第8回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第8回授業の課題の講評」と「第9回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 10 阪神・淡路大震災における情報ボランティアの活動

・ユニバに掲載された「第9回授業の課題の講評」と「第10回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第9回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第9回授業の課題の講評」と「第10回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 11 日本海重油災害におけるインターネットを活用した支援活動

・ユニバに掲載された「第10回授業の課題の講評」と「第11回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第10回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第10回授業の課題の講評」と「第11回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 12 三宅島噴火災害におけるインターネットを活用した支援活動

・ユニバに掲載された「第11回授業の課題の講評」と「第12回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第11回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第11回授業の課題の講評」と「第12回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

#### 13 平成19年新潟県中越沖地震及び平成21年台風9号佐用町水害における情報通信技術(ICT)を活用した支援活動

・ユニバに掲載された「第12回授業の課題の講評」と「第13回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答

○事前学習:第12回授業の課題について、解答をユニバに記載する。

○事後学習:「第12回授業の課題の講評」と「第13回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。

	<p>14 東日本大震災における情報通信技術(ICT)を活用した支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 13 回授業の課題の講評と解説」と「第 14 回授業の内容と課題」についての解説と質疑応答</li> <li>○事前学習: 第 13 回授業の課題について、解答をユニパに記載する。</li> <li>○事後学習: 「第 13 回授業の課題の講評」と「第 14 回授業の内容と課題」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。</li> </ul> <p>15 情報通信技術の活用による社会問題解決・社会変革の可能性と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 14 回授業の課題の講評」についての解説と質疑応答</li> <li>○事前学習: 第 14 回授業の課題について、解答をユニパに記載する。</li> <li>○事後学習: 「第 14 回授業の課題の講評」について質問や意見があれば、担当教員のメールアドレスにメールで連絡する。</li> </ul>				
【履修条件】	(既習指定科目など) 特になし。				
【評価方法】	毎回の授業の課題に対する受講者の解答と質疑応答について成績の評価を行う。				
【テキスト】	「デジタルネットワーキングの展開」干川剛史 晃洋書房 2014 年 2,700 円(税別)				
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務省「情報通信白書」<a href="https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/">https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/</a></li> <li>・「公共圏の社会学」干川剛史 法律文化社 2001 年 2,500 円(税別)</li> <li>・「公共圏とデジタルネットワーキング」干川剛史 法律文化社 2003 年 2,700 円(税別)</li> <li>・「デジタルネットワーキングの社会学」干川剛史 晃洋書房 2006 年 2,400 円(税別)</li> <li>・「災害とデジタルネットワーキング」干川剛史 青山社 2007 年 1,905 円(税別)</li> <li>・「情報化とデジタルネットワーキングの展開」干川剛史 晃洋書房 2009 年 2,400 円(税別)</li> <li>・「現代と社会学」干川剛史 同友館 2016 年 3,000 円(税別)</li> </ul>				
【備考】	<p>2023 年後期の集中講義は、新型コロナウイルス等の感染症の感染が拡大した場合は、オンライン授業(オンデマンド方式)で実施する。そこで、11 月下旬から 1 月上旬までの 5 週間に分けて以下の日程で 15 回の授業を実施する。</p> <p>&lt;第1週: 2024 年 11 月 18 日(月)~11 月 23 日(土)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「授業概要の説明」を読み、第 1 回~第 3 回授業の課題についての解答をユニパに記載する。</li> </ul> <p>&lt;第2週: 11 月 25 日(月)~11 月 30 日(土)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 1 回~第 3 回授業の課題の講評」を読み、第 4 回~第 6 回授業の課題についての解答をユニパに記載する。</li> </ul> <p>&lt;第3週: 12 月 2 日(月)~12 月 7 日(土)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 4 回~第 6 回授業の課題の講評」を読み、第 7 回~第 9 回授業の課題についての解答をユニパに記載する。</li> </ul> <p>&lt;第4週: 12 月 9 日(月)~12 月 13 日(土)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 7 回~第 10 回授業の課題の講評」を読み、第 10 回~第 12 回授業の課題についての解答をユニパに記載する。</li> </ul> <p>&lt;第5週: 年 12 月 16 日(火)~12 月 20 日(土)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニパに掲載された「第 10 回~第 12 回授業の課題の講評」を読み、第 13 回~第 15 回授業の課題についての解答をユニパに記載する。</li> </ul> <p>※2024 年 12 月 23 日(月)の週に、「第 13 回~第 15 回授業の課題の講評」をユニパに掲載するので、読むこと。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生受入不可	【科目等履修生】	科目等履修生受入不可	【交換留学生】	交換留学生受入可

【科目名】	情報と職業	Information and Business	
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期
【科目責任者】	*高橋 等		
【担当教員】	*高橋 等		
【授業目標】			
●授業目的	<p>本講義を履修することにより、情報関連産業の概要と特色を知り、情報のスペシャリストとして求められる職業能力について理解することを目的とする。</p> <p>また、高校教員を目指す学生には、高校生に対しての職業指導の具体的な方法を習得することを目的とする。</p>		
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報関連産業の概要と特色を把握し、求められる職業能力について説明できる。</li> <li>・様々な働き方と関連する制度や法律について説明できる。</li> <li>・情報関連産業に携わる技術者としての職業倫理観を持つ。</li> <li>・高校生に対して企業選択のアドバイスができる。</li> </ul>		
【授業概要】	<p>情報化の進展により、企業活動のあらゆる場面で情報技術を持つ人材が求められている。しかし、企業が求める人材の能力は多種多様であり経営環境も常に変化している。本授業では、情報関連産業の実態を概観し、求められる人材の育成と職業能力について理解を深めていく。また、独立した働き方として、Web マーケティング、コンテンツ制作、ICTベンチャーなどを取り上げ、情報産業の多様性に触れる。</p> <p>さらに、情報に係わる職業人として必要なコミュニケーション能力やプロジェクトマネジメント能力、情報技術者としての職業倫理について</p>		
【授業方法】	<p>情報関連の職業や雇用は常に変化するので、新しい資料やトピックを収集・紹介し、学生自らが問題とその解決方法を探る授業を行う。</p> <p>また、職業倫理とプログラムマネジメントのテーマでは、模擬授業やゲーミングを取り入れたアクティブラーニングを行う。</p> <p>なお、毎回振り返りシートを作成して授業内容の定着を行う。</p> <p>新型コロナウイルスなどの感染症の感染拡大がみられた場合、遠隔授業（Zoomによる同時双方向型またはオンデマンド動画配信）に切り替えることがある。</p>		
【準備学習】			
【授業展開】	<p>第1回 ガイダンス 職業・労働に関するアンケート</p> <p>第2回 雇用と職業指導に関する法律(1)</p> <p>第3回 雇用と職業指導に関する法律(2)</p> <p>第4回 情報通信産業の発展(コンピュータの歴史から)</p> <p>第5回 情報通信産業の現状(情報通信白書から)</p> <p>第6回 情報通信産業の展望(スマートICT, G空間, ビッグデータ)</p> <p>第7回 企業研究プレゼンテーション</p> <p>第8回 Webマーケティング(Webと広告)</p> <p>第9回 ICTベンチャー(Webショップ)</p> <p>第10回 情報通信産業における職種と資格</p> <p>第11回 プロジェクトマネジメント(理論編)</p> <p>第12回 プロジェクトマネジメント(体験ゲーム)</p> <p>第13回 職業と情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報技術者の倫理とモラル(事例編)</p> <p>第15回 情報技術者の倫理とモラル(指導編)</p> <p>第16回 総括 高校の職業指導</p>		
【履修条件】	無し		
【評価方法】	毎時間の振り返りシート、演習課題(ICT関連企業の調査と発表)、レポート等の成績で評価する。		
【テキスト】	授業時に配布する。		
【参考書】	<p>『情報と職業 (IT Text)』駒谷 昇一、楠本 範明、辰己 丈夫 オーム社</p> <p>『情報と職業 (情報教育シリーズ)』近藤 勲 丸善</p> <p>『情報と職業—高度情報社会におけるキャリア形成』豊田 雄彦、鈴木 和雄、加藤 晃 日本教育訓練センター</p> <p>『インターネットにかかわる仕事—ウェブデザイナー ネットワークエンジニア 情報セキ (知りたいなりたい職業ガイド)』ヴィットインターナショナル企画室 (編さん) ほるぷ出版</p> <p>『キャリア開発と職業指導: 大学・高校のキャリア教育支援』伊藤 一雄、堀内 達夫、佐藤 史人 法律文化社</p>		

	『情報産業と社会』(高校教科書) 鎌田宗憲 他 実教出版				
【備考】	<p>高等学校教科「情報」の教員免許取得に必修の科目である。</p> <p>教職課程以外でも情報関連の職業に興味関心のある学生には有益な内容であり参加を歓迎する。</p> <p>高校教員と教育委員会指導主事の経験を有する者が、高校での就職指導の現状や関連官庁との連携について講義する。</p>				
【旧カリキュラム 読み替え科目】	特に無し。				
【社会人聴講生】	聴講可(聴講条件なし)	【科目等履修生】	履修可(履修条件なし)	【交換留学生】	受入可(受入条件なし)

【科目名】	情報工学実習	Information Engineering Practice			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭 武藤伸明 渡邊貴之 大久保誠也				
【授業目標】					
●授業目的	コンピュータのハードウェアやコンピュータを使った計測・制御などの基本技術を身につける。				
●到達目標	電気回路の計測からコンピュータを使った計測制御までの基礎的事項を理解できるようになる。				
【授業概要】	オームの法則などの電気回路の基礎についての実習、論理素子を構成する半導体の特性に関する実習、論理回路の実習、計測の基礎についての実習、コンピュータを使った計測・制御の実習など、コンピュータのハードウェアと計測・制御についての実習を基礎から応用まで幅広く行う。				
【授業方法】	電子回路、論理回路、計測・制御などの実習を行う。それぞれの実習はグループ単位で行い、実習終了後に実習レポートを提出する。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のガイダンス</li> <li>2. 計測の基礎</li> <li>3. 電気回路</li> <li>4. 半導体の特性測定</li> <li>5. 電子回路製作1</li> <li>6. 電子回路製作2</li> <li>7. 論理回路1(組合せ回路)</li> <li>8. 論理回路2(順序回路)</li> <li>9. パソコンの周辺装置制御</li> <li>10. センサーの特性</li> <li>11. パソコンを使った計測・制御1</li> <li>12. パソコンを使った計測・制御2</li> <li>13. 簡易ロボット製作</li> <li>14. 簡易ロボットの制御</li> <li>15. 総括・授業評価</li> </ol>				
【履修条件】	(既習指定科目など) 実習施設の制約から高等学校の情報科教員免許状を取得しようとしている者を優先する。				
【評価方法】	レポートや製作物などから総合的に評価する。				
【テキスト】	テキストとして独自に作成した実習指導書を用いる。 参考書は実習内容に応じて随時指定する。				
【参考書】					
【備考】	対面授業形式で実習を行うため、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、新型コロナウイルス感染対策の観点から履修人数の制限を行う。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	テキストマイニング	Text Mining		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	六井 淳			
【担当教員】	*六井 淳			
【授業目標】				
●授業目的	<p>テキストマイニングは、自然言語処理技術とデータマイニング技術を組み合わせて、文書あるいは文書集合から有用な情報を取り出す技術である。企業戦略立案のための web 上のテキストデータや、SNS データの分析や、経営学・心理学・教育学における各種アンケートの自由記述文の分析など応用分野は拡大している。</p> <p>この授業では、講義および実習を通して、テキストマイニング技術の基礎を理解することを目標とする。</p>			
●到達目標	<p>自然言語処理の基礎を理解すること。</p> <p>機械学習と組み合わせた最新のテキストマイニング手法を修得すること。</p> <p>python を用いた演習を通して解析技法を、修得すること。</p> <p>WEB からのデータ収集、分析手法を修得すること。</p>			
【授業概要】	<p>本講義では、テキストマイニングについて基礎から解説を行う。自然言語をコンピュータで処理するために、事前にもどのような処理しておくのか、どのように単語や文章を解析するのか、自動翻訳などのタスクを実行させるためにどのような処理を行うのかについて解説する。実際に、WEB からデータを抽出し、python を使った演習を行うことで、試行錯誤を通して実践的な技能を身に着ける。</p>			
【授業方法】	Python を使った演習課題を通して、理論の理解と分析方法について理解を進める。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自然言語処理とは何か</li> <li>3. 自然言語処理の基礎</li> <li>4. 知識表現</li> <li>5. 述語論理</li> <li>6. 形態素解析</li> <li>7. 文章分析</li> <li>8. マルコフ連鎖</li> <li>9. ニューラルネット</li> <li>10. 文章合成</li> <li>11. 高度な文章分析</li> <li>12. 観光テキスト解析1</li> <li>13. 観光テキスト解析2</li> <li>14. SNS データ解析1</li> <li>15. SNS データ解析2</li> </ol>			
【履修条件】	前期の機械学習を履修済みであること。合格していることが望ましい。			
【評価方法】	座学に関連する試験(40%)、演習に関連するレポート(30%)、応用に関連するレポート(30%)の合計点数により評価する			
【テキスト】	適宜配布			
【参考書】	赤石 雅典 (著), 江澤 美保 (著) 現場で使える! Python 自然言語処理入門 (AI & TECHNOLOGY)			
【備考】	<p>本講義は、IT 企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。</p> <p>本講義は原則、対面講義であるが、感染症拡大の際には遠隔講義に切り替わることがある。</p>			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】

【科目名】	シミュレーション	Simulation				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之					
【授業目標】						
●授業目的	社会・経済・経営・理工学などあらゆる分野において重要な手法である計算機シミュレーションの基礎について、オブジェクト指向プログラミングによる演習を行う。					
●到達目標	社会・経済・経営・理工学などあらゆる分野において重要な手法である計算機シミュレーションの基礎について理解し、オブジェクト指向プログラミングを通じて簡単なシミュレーションを実行できるようになる。					
【授業概要】	シミュレーションとは、社会現象や自然現象を数理モデル化し、それらの振る舞いを計算機で模擬することである。これにより、低コストにその現象を予測し、様々な条件下での結果の変動や、極端な条件の設定などができる。本科目では、シミュレーション技術の基礎となる数学的な背景を確認し、その後、幾つかの分野のモデリングとシミュレーションの事例について解説し、オブジェクト指向プログラミングによる演習を行う。					
【授業方法】	毎回配布する資料に沿って演習を進める。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせる場合がある。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 はじめに 2 シミュレーション実行環境の確認 3 シミュレーションで必要となる数値計算プログラミング1 4 シミュレーションで必要となる数値計算プログラミング2 5 決定的モデルのシミュレーション1 6 決定的モデルのシミュレーション2 7 確率的モデルのシミュレーション1 8 確率的モデルのシミュレーション2 9 カオスモデルのシミュレーション 10 経営分野のシミュレーション 11 経済分野のシミュレーション 12 セルとエージェントによるシミュレーション 13 複雑ネットワークのシミュレーション 14 シミュレーションと最適化 15 総括					
【履修条件】						
【評価方法】	授業への取り組み 40%と課題の提出 60%。					
【テキスト】						
【参考書】	伊藤, 草薙, "コンピュータシミュレーション(改訂2版)", オーム社, 2019年.					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可



【科目名】	データサイエンス実習	Data Science Practice				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	武藤伸明					
【担当教員】	武藤伸明、大久保誠也、井本智明、天野政紀、小田紘久、相良陸成					
【授業目標】						
●授業目的	データサイエンス、特にデータアナリシスの分野においては、多変量解析、機械学習などの基礎となる理論を学ぶだけでなく、データや分析の目的に適した適切な分析手法を体得し、状況に応じて活用できる能力が重要である。このような状況に応じた分析手法および活用能力の習得を目的とする。					
●到達目標	各種データの分析手法を学び活用できること。					
【授業概要】	組合せ論、テキストデータ分析、機械学習、複素関数、ゲーム、時系列データ分析の分野を取り上げ、各分野における目的に応じたデータ分析の方法論を学び、具体的なデータを用いて実際にデータ分析を行い、目的達成に役立てるまでの過程を学ぶ。理論のみならず、現実のデータを使用した実習を交え、総合的に学習する。					
【授業方法】	配布プリントに沿った講義形式を主体に、実習(演習)も取り入れる。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(武藤)</li> <li>2. 組合せ論におけるデータ分析の方法(武藤)</li> <li>3. 組合せ論におけるデータ分析の実践(武藤)</li> <li>4. テキストデータ分析の方法(相良)</li> <li>5. テキストデータ分析の実践(相良)</li> <li>6. 機械学習によるデータ分析の方法(小田)</li> <li>7. 機械学習によるデータ分析の実践(小田)</li> <li>8. 複素関数の特性の分析(天野)</li> <li>9. 複素関数の応用(天野)</li> <li>10. ゲームにおけるデータ分析の基礎(大久保)</li> <li>11. ゲームにおけるデータ分析の方法(大久保)</li> <li>12. ゲームにおけるデータ分析の実践(大久保)</li> <li>13. 時系列データ分析の基礎(井本)</li> <li>14. 時系列データ分析の方法(井本)</li> <li>15. 時系列データ分析の実践(井本)</li> </ol>					
【履修条件】	人工知能、機械学習、データマイニングなど、人工知能関連の科目群を履修していることが望ましい。					
【評価方法】	授業への取組 40%、レポート 60%で総合的に判断する。					
【テキスト】	なし					
【参考書】	なし					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報ネットワーク	Information Network				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	武藤 伸明					
【担当教員】	武藤 伸明、大久保 誠也					
【授業目標】						
●授業目的	インターネット、イントラネット、携帯電話などを含む情報通信ネットワークの基本的仕組みを理解し、それらの実際の活用例について学習する。					
●到達目標	現在のインターネット社会を構築する要素技術について基本的な知識を身につける。					
【授業概要】	最近進展の著しい情報通信ネットワークの基礎について解説する。また、インターネットを利用するソフトウェアのしくみについて学ぶ。具体的には、ネットワークの基礎概念、インターネットの仕組み、インターネットを活用したアプリケーション、携帯電話などの情報通信機器による通信の仕組みを学ぶ。また、最新の情報技術について学生が調査発表する。					
【授業方法】	講義を主とする。適宜行うミニレポートにより理解度を計る。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 インターネットの歴史 2 インターネットの基盤技術 3 インターネットとIP 4 インターネットとTCP 5 Web (1) 6 Web (2) 7 Web (3) 8 電子メール、その他 9 情報の圧縮 10 情報の誤り訂正 11 電信、電話、移動体通信 12 ネットワーク技術の調査 (1) 13 ネットワーク技術の調査 (2) 14 その他の話題 15 まとめ					
【履修条件】	なし					
【評価方法】	ミニレポート (80%)、ネットワーク技術の調査 (20%)					
【テキスト】	初回の講義の際に指示する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	プログラミングⅣ	Computer Programming Ⅳ				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之					
【授業目標】						
●授業目的	C++言語等によるプログラミングを通じて、データ抽象およびオブジェクト指向プログラミングについて理解を深める。					
●到達目標	オブジェクト、クラス、メンバ関数、アクセス制御、コンストラクタとデストラクタなどの概念が理解できるようになる。					
【授業概要】	C++言語等を用いて、データ抽象化の概念を学ぶ。その基本であるクラス、メンバ関数、アクセス制御、コンストラクタとデストラクタなどの概念を、簡単なクラス構築の実習を行いつつ学習する。					
【授業方法】	資料を配布し、適宜、小テスト・確認テストで理解度を確認する。					
【準備学習】						
【授業展開】	1. はじめに 2. C から C++へ、小テスト 3. クラス、小テスト 4. メンバ関数、確認テスト 5. 演算子とそのオーバーロード、小テスト 6. コンストラクタとデストラクタ、小テスト 7. 情報隠蔽、中間試験 8. 複素数クラスの構築 (1)、小テスト 9. 複素数クラスの構築 (2)、小テスト 10. new と delete、小テスト 11. バッグとセット、確認テスト 12. 応用問題 (1) 13. 応用問題 (2) 14. 応用問題 (3) 15. 総括 期末試験					
【履修条件】	(既習指定科目など) 情報コースに在籍し、プログラミング I, II, III, アルゴリズムとデータ構造、情報科学概論の単位を取得していること。 2018年度以降入学生は履修不可(この科目は2018年度以降の新カリキュラムでは廃止済み)。					
【評価方法】	授業への参加態度および提出物によって評価する。					
【テキスト】	柴田 望洋「新・明解 C++入門編」SB クリエイティブ					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	離散プログラミング演習					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ネットワーク管理	Network Administration				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	渡邊貴之					
【担当教員】	渡邊貴之					
【授業目標】						
●授業目的	情報通信ネットワーク管理技術を習得する。					
●到達目標	情報通信ネットワークの基本的な管理ができるようになる。					
【授業概要】	情報通信ネットワーク構築のためのセキュリティや設計方法と運用管理の実際を扱う。					
【授業方法】	教科書及び配布する資料に基づいて進め、毎回の小テスト・確認テストで理解度を確認する。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネットワークシステム設計の基礎知識(1) OS、Protocol(TCP/IP)、サーバアプリケーション、複数 OS 混在環境:Samba</li> <li>2. ネットワークシステム設計の基礎知識(2) routing, Name service, DHCP, NAT, filtering, firewall</li> <li>3. ネットワークのセキュリティの基礎知識 暗号化(DES,RSA)、認証、セキュリティポリシー、小テスト</li> <li>4. Web サーバの導入1(実習)</li> <li>5. Web サーバの導入2(実習)</li> <li>6. Web サーバの導入3(実習)</li> <li>7. Web サーバの導入4(実習)</li> <li>8. Web サーバの導入5(実習)、小テスト</li> <li>9. ルーティング・プロトコル, ルーティング機器の設定(実習)</li> <li>10. メールサーバの導入1(実習)</li> <li>11. メールサーバの導入2(実習)、小テスト</li> <li>12. メールリストの設定(実習)</li> <li>13. メールリストの運用1(実習)</li> <li>14. メールリストの運用2(実習)、小テスト</li> <li>15. Firewall の導入(実習)、小テスト</li> </ol>					
【履修条件】	<p>(既習指定科目など)</p> <p>情報コースに在籍し、情報リテラシ2、情報ネットワーク、情報セキュリティ、情報科学概論、情報理論の単位を取得していること。</p> <p>2018年度以降入学生は履修不可(この科目は2018年度以降の新カリキュラムでは廃止済み)。</p>					
【評価方法】	授業への取り組み(小テスト)30%、課題の提出 30%、期末試験 40%					
【テキスト】	宮保 憲治/田窪 昭夫/武川 直樹/八槇 博史、(情報工学レクチャーシリーズ)ネットワーク技術の基礎 (第2版)、森北出版					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	微分と積分	Differential and Integral Calculus		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	天野 政紀			
【担当教員】	天野 政紀			
【授業目標】				
●授業目的	微分法、積分法を習得すること。			
●到達目標	一変数関数の微分・積分の概念を理解し、計算することができるようになる。 多変数関数の偏微分・全微分の概念を理解し、計算することができるようになる。			
【授業概要】	関数に対する演算である微分と積分は、あらゆる科学の基礎となります。この授業では多変数関数の微分法に重点を置き授業を行います。実際に多くの例題を各自計算することにより、理解を深められるように、授業を進めます。			
【授業方法】	基本的には対面で、講義資料とテキストに沿って講義と演習により進める。 感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。 オンラインの場合は講義資料を pdf ファイルで配布し、Zoom で資料の解説を行う。			
【準備学習】				
【授業展開】	1 関数の基礎概念 2 指数関数、対数関数 3 微分係数、導関数 4 様々な関数の導関数 5 平均値の定理、テイラーの定理 6 関数の増減、凹凸 7 定積分 8 置換積分、部分積分 9 多変数関数 10 多変数関数の偏微分と全微分 11 合成関数の微分法 12 高次偏導関数 13 極値問題 14 条件付極値 15 総括			
【履修条件】	(既習指定科目など) なし			
【評価方法】	授業時の演習、宿題と期末テストにより評価する。			
【テキスト】	テキスト: 石村園子 「やさしく学べる微分積分」 共立出版			
【参考書】				
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】	基礎数学			
【社会人聴講生】	条件付きで受入	【科目等履修生】	条件付きで受入	【交換留学生】

【科目名】	行列とベクトル	Matrices and Vectors			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	小林みどり				
【担当教員】	沖本まどか、小林みどり				
【授業目標】					
●授業目的	線形代数学の基礎を理解すること				
●到達目標	1. 行列や行列式の性質を理解する 2. 行列や行列式を連立1次方程式へ応用し、その解の性質を明らかにできる 3. サラスの公式・クラメールの公式を活用できる				
【授業概要】	行列による表現とその演算は、経済学、経営学、社会学、情報処理、統計学など、殆どあらゆる分野において、現象を表現しその性質を理解する上で不可欠の道具である。この授業では、その計算方法を学ぶことが主になる。				
【授業方法】	テキストに沿って講義と演習により進める。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 ベクトルと行列 2 行列の乗法 3 逆行列 4 行列の基本変形 5 行列の階数 6 連立1次方程式 7 逆行列の計算 8 行列式 9 行列式の基本性質 10 クラメルの公式 11 ベクトル空間 12 線形写像 13 内積空間 14 固有値 15 総括 または まとめ				
【履修条件】	(既習指定科目など) なし。				
【評価方法】	小テスト(10%)、課題(50%)、期末試験(40%)により評価する				
【テキスト】	・石村園子「やさしく学べる線形代数」 共立出版				
【参考書】	・戸田盛和、浅野功義共著『行列と1次変換(理工系の数学入門コース 2)』岩波書店(1989) ・高杉豊、馬場敬之共著『演習 線形代数キャンパス・ゼミ』マセマ出版社(2022)				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営数学 I				
【社会人聴講生】	聴 講 不 可	【科目等履修生】	受講不可	【交換留学生】	受講不可

【科目名】	経営数学	Mathematics for Business			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	小林みどり				
【担当教員】	小林みどり				
【授業目標】					
●授業目的	経営の問題の中には、数学的に定式化され、解かれるものが多く存在する。そのため、本講義では経営の問題に数学がどのように応用され解かれるかを学ぶ。高校までのように数学の問題を数学で解くのではなく、数学の抽象性という特徴を活かして、経営上のあるいは日常の種々の問題に対して数学モデルを作成し、理論を適用して数学的に解くという考え方を学ぶ。論理的な思考力を身につけるとともに批判的思考力も身につける。				
●到達目標	経営上のあるいは日常の種々の問題に対して数学的な考え方を適用して解くことができ、その際に適用した理論を理解して説明できるようになる。毎回の授業を積み重ねることで、数学的・論理的な考え方を習得でき、様々な場面で活かすことができるようになる。論理的思考力だけでなく批判的思考力も習得できる。				
【授業概要】	数学の経営への応用といっても多岐にわたり、この講義ですべてを解説することはできない。本学部の他の講義（経営工学など）でもそれについて取り上げているので、ここでは、それらの講義と重ならない応用について扱う。取り上げるテーマは、すべて経営上のあるいは日常の具体的な問題である。本講義では、知識や方法を覚えるのではなく、考え方や論理を理解することに重点をおく。				
【授業方法】	テキストに沿って講義形式で進め、テキスト終了後はプリントを配布し、スライドを用いて講義を行う。毎回、テキストやプリントの問題を解くことで内容の定着をはかる。テキストの内容の基本テスト 1 回と、プリントに関連したレポート作成を行う。授業展開の順番が入れ替わる可能性がある。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 はじめに(オリエンテーション) 2 最大割当て問題 3 最大費用割当て問題 4 順序づけ問題 5 誤り訂正符号 6 郵便配達問題 7 集合場所問題 8 最短道路網 9 不動点定理 10 クリティカルシンキング 論理の基礎 11 推論への応用 12 事実の把握 13 発表バイアス 14 取り上げた例の偏り 15 まとめ				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	基本テスト 40%、レポート 30%、授業への取り組み 30% の総合評価とする。				
【テキスト】	小林みどり著「文科系のための応用数学入門」共立出版(2021)とプリント配布				
【参考書】	・宮川公男「経営数学入門」実教出版 ・刀根薫「オペレーションズ・リサーチ読本」日本評論社				
【備考】	テキストとプリントに沿って、スライドを用いて講義形式で説明していく。 テキストは各自で購入して持参のこと。プリントは配布する(遠隔授業のときは掲示する)。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営数学応用 I				
【社会人聴講生】	受入可(若干名)	【科目等履修生】	受入可(若干名)	【交換留学生】	受入可(若干名)

【科目名】	確率論	Probability Theory				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	井本 智明					
【担当教員】	井本 智明					
【授業目標】						
●授業目的	基礎的な確率論を学習することで、統計分析の意味を数理的に理解できるようにする。 講義は状況に応じ、対面とオンラインを柔軟に使い分けて実施します。					
●到達目標	データ分析のための礎となる確率論を、数理統計学の見地も含め、理解してもらう					
【授業概要】	確率論は、種々の偶然現象を解、分析するための数学的方法であり、統計学を理解する上でも必須の学問である。これは数学の諸分野はもちろん、自然科学、社会科学、人文科学等と深く関わる学問であり、経済学、経営学 の分野でも様々な手法が盛んに考えられている。 本講義では、確率論の基礎概念を導入し、確率分布や関連する重要定理、また統計学への応用を見ていく。					
【授業方法】	講義とコンピュータ実習を行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	1 確率論の基礎知識 2 古典的確率問題 3 条件付き確率 4 ベイズの定理とその応用 5 確率変数と分布関数 6 離散確率分布 7 連続確率分布 8 代表的な確率分布 9 多変量確率変数 10 統計学への応用:最尤法 11 統計学への応用:ベイズ推定 12 多変量確率変数の期待値 13 モーメント母関数 14 大数の法則と中心極限定理 15 モンテカルロシミュレーション					
【履修条件】	基礎数学Ⅰ、もしくは微分積分の基礎を理解していることが望ましい。					
【評価方法】	確認テスト含む授業への取り組み（70%）、レポート（30%）によって評価する。					
【テキスト】	講義 1週間前にプリントやファイルを配布					
【参考書】	大平徹「確率論 講義ノート 場合の数から確率微分方程式まで」森北出版 鳥脇純一郎「工学のための確率論」オーム社出版 丸山哲郎「コロモゴロフの確率論入門」森北出版 など					
【備考】	なし					
【旧カリキュラム 読み替え科目】	経営数学Ⅱ					
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	受講可	
					【交換留学生】	受講可（日本語での聞き取りが可能であることを前提とする）



【科目名】	基礎統計学Ⅱ	Introduction to Statistics Ⅱ		
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	*東野定律			
【担当教員】	*東野定律			
【授業目標】				
●授業目的	経営学や経済学などの社会科学においては、統計学の基礎知識は不可欠である。この授業では、前期の経営統計学Ⅰを継承して、統計学の最も基本である検定と推定の考え方を解説する。このとき、正規分布、t分布、 $\chi^2$ 分布、F分布が決定的な役割を演ずるので、これらの取り扱い方を徹底的に学習する。これによって、多変量解析や実験計画法のような高度な統計手法にも、容易に進めるように配慮する。			
●到達目標	検定と推定の理論的な内容を理解する。			
【授業概要】	統計学は、各種のフィールド・データを処理するための不可欠な道具である。 この授業では、まず母集団と試料の考え方を明らかにし、ついで計量値と計数値にたいする検定と推定の基本的な方法を解説する。検定と推定の主な対象としては平均を取り上げ、付随的に分散や分散比も扱う。また、独立なデータに対する平均の加法性と分散の加法性も、平均や分散にかかわる各種の計算の基本となっているので、この考え方も丁寧に解説する。			
【授業方法】	なお、本年度は基本的に対面授業とし、感染状況によってはオンデマンド講義に切り替える。なるべく多くの例をとりあげて解説する。理解が困難と思われる内容は数式の誘導とともに、背後にある基本概念の説明に努める。高校で確率・統計を履修していない学生にも理解できるように授業をすすめる。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母集団と試料の考え方</li> <li>2 確率分布と正規分布</li> <li>3 推定の考え方</li> <li>4 区間推定</li> <li>5 平均の推定(<math>\sigma</math> 既知の場合と未知の場合)</li> <li>6 T分布による推定</li> <li>7 中間まとめ</li> <li>8 検定の考え方</li> <li>9 平均値の検定</li> <li>10 T分布表による検定</li> <li>11 母平均の差に対する検定</li> <li>12 <math>\chi^2</math>乗分布と分散の推定</li> <li>13 F分布と分散比の推定</li> <li>14 適合度検定と分割表の扱い方</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
【履修条件】	(既習指定科目など) 基礎統計学Ⅰを既に履修していることが望ましい。			
【評価方法】	出席状況、中間テスト、期末テストにより総合的に評価する。			
【テキスト】				
【参考書】				
【備考】	担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営統計			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	数理統計学	Mathematical Statistics					
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期				
【科目責任者】	井本 智明						
【担当教員】	井本 智明						
【授業目標】							
●授業目的	効率的な経営や政策を目指すには、データ収集と適切な分析による決断は欠かせない。そのための手法を数理統計学を通して学んでいく。						
●到達目標	データ分析手法の中身を理解し、適切な利用と解釈ができるようにする。						
【授業概要】	統計学は科学における各種のフィールド・データを的確に処理するための実践的学問であるが、それを背後から支えているのは数学における理論である。この授業では、数理統計学における理論から統計的仮説検定の意味合いを理解し、実践的問題に利用していく。特に、品質管理において大きな役割を果たす様々な分散分析法を丁寧に解説し、社会科学における各種データの解析に実験計画法がいかにも有効であるかを明らかにしていく。						
【授業方法】	講義とともに、設定した課題による演習問題による演習を行う。 講義は状況に応じ、対面とオンラインを柔軟に使い分けて実施します。						
【準備学習】							
【授業展開】	1 データ収集と分析 2 統計的仮説検定と二種類の誤り 3 対応のある2群の比較 4 対応のない2群の比較 5 一元配置による実験計画とデータ構造 6 一元配置分散分析法 7 最適条件の推測(一元配置の場合) 8 繰り返しのない二元配置による実験計画とデータ構造 9 繰り返しのない二元配置分散分析法と乱塊法 10 最適条件の推測(二元配置の場合) 11 繰り返しのある二元配置による実験計画とデータ構造 12 繰り返しのある二元配置分散分析 13 直交表とは 14 直交表に基づく実験計画 15 直交表に基づく分散分析 16 まとめ						
【履修条件】	なし						
【評価方法】	確認テスト含む授業への取り組み(70%)、レポート(30%)によって評価する。						
【テキスト】	講義 1 週間前にプリントやファイルを配布						
【参考書】	・石村貞夫ら『入門はじめての分散分析と多重比較』東京図書 ・鷲尾 泰俊『実験計画法入門』日本規格協会 ・中里博明ら『品質管理のための実験計画法テキスト』日科技連 など						
【備考】	なし						
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営工学応用						
【社会人聴講生】	受	講	可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可(日本語での聞き取りが可能であることを前提とする)

【科目名】	多変量解析	Multivariate Analysis				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	野口理子					
【担当教員】	野口理子					
【授業目標】						
●授業目的	多変量のデータの統計的な扱い方について理解し、分析を行なう手法を身に着ける。					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多変量のデータに対する分析手法への理解を深める。</li> <li>・講義で学んだ分析手法を実際のデータに適用できるようになる。</li> </ul>					
【授業概要】	経済社会の現象を分析するための手法である多変量解析法について講義を行なう。実際のデータを用いて解析を行なうための知識の習得を目指す。					
【授業方法】	講義及び演習によって進める。新型コロナウイルス感染症の拡大がみられた場合、遠隔授業に切り替えることがある。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 統計的手法の基礎</li> <li>3. 回帰分析(1)</li> <li>4. 回帰分析(2)</li> <li>5. 回帰分析(3)</li> <li>6. 回帰分析(4)</li> <li>7. 主成分分析(1)</li> <li>8. 判別分析(1)</li> <li>9. 判別分析(2)</li> <li>10. 判別分析(3)</li> <li>11. クラスター分析(1)</li> <li>12. クラスター分析(2)</li> <li>13. クラスター分析(3)</li> <li>14. その他の多変量解析の手法</li> <li>15. 総括</li> </ol>					
【履修条件】	なし					
【評価方法】	出席状況、確認課題、最終課題によって評価する。					
【テキスト】	なし					
【参考書】	永田靖、棟近 雅彦「多変量解析法入門」、サイエンス社 菅民郎「Excelで学ぶ多変量解析入門—Excel2013/2010 対応版—」、オーム社 菅民郎「例題とExcel演習で学ぶ多変量解析 回帰分析・判別分析・コンジョイント分析編」オーム社 菅民郎「例題とExcel演習で学ぶ多変量解析 因子分析・相関分析・クラスター分析編」オーム社 長畑秀和「多変量解析へのステップ」、共立出版株式会社 その他、授業中に適宜紹介する。					
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営統計応用Ⅱ					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	

【科目名】	時系列分析	Time Series Analysis			
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	* 馬場 康維				
【担当教員】	* 馬場 康維				
【授業目標】					
●授業目的	時系列データの特徴をみるための基本的な手法を学ぶこと。				
●到達目標	現実世界の時系列に触れる機会があるときに、時系列によって表される現象を正しく読み解く力をつけること。そのために必用となる時系列のモデルについて理解しモデルフィッティング、モデル選択の基礎を身につけること。				
【授業概要】	時間の経過とともに変動する量を継続的に観察して得たデータを時系列データといいます。この授業では、株価などの身近な時系列データや公的統計、継続的な調査データ等を題材にして、その特徴を調べる方法や時系列モデルを用いた分析手法を学習します。				
【授業方法】	PCを使い講義と例題の演習を並行して進めます。 エクセル操作でできる簡単な例題により分析実習をします。 分析実習の結果を学習の確認のためにレポートとして提出します。				
【準備学習】					
【授業展開】	1 時系列のプロット 2 指数、変化率、対数変換 3 演習 4 トレンド、循環変動、季節変動、不規則変動 5 移動平均と季節調整 6 演習 7 定常性と自己相関 8 金融時系列 9 演習 10 収益率 11 債券の価格変動 12 演習 13 株価の変動と幾何ランダム・ウォーク・モデル 14 回帰モデルと構造変化 15 演習				
【履修条件】	統計学の基礎的な科目を履修していることが望ましい				
【評価方法】	期末試験はレポートの提出です。このレポート 20%、授業中に行った実習のレポートの 80%程度のウエイトで採点します。				
【テキスト】	資料を配付します。				
【参考書】					
【備考】	集中講義です。 官庁に勤務した経験や官公庁の各種委員会で公的統計のあり方に関する検討に加わった経験を活かして実際のデータの見方、分析の注意点について解説します。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生受入可 条件: 統計学の基礎を学習していること パソコンが使えること エクセル、ワード、が使えること	【科目等履修生】	科目等履修生受入可 条件: 統計学の基礎を学習していること パソコンが使えること エクセル、ワード、が使えること	【交換留学生】	交換留学生受入可 授業は日本語です。 条件: 統計学の基礎を学習していること パソコンが使えること エクセル、ワード、が使えること

【科目名】	情報数学	Mathematics for Information Science			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	天野 政紀				
【担当教員】	天野 政紀				
【授業目標】					
●授業目的	代数学の基礎となる数学上の概念を理解すること。				
●到達目標	群, 環, 体, 束, ブール代数の簡単な代数構造を理解できる。				
【授業概要】	<p>経営情報学部の情報分野では、コンピューターによる計算を多く扱うことから、数学の「代数学」と呼ばれる分野の知識が必要になることがある。</p> <p>代数学とは、簡単に言うと集合に足し算や掛け算などの演算(もちろんそれ以外のものもある)を込めたとき、その集合の元がどのような組み合わせで分布しているか、というような構造を研究する分野である。</p> <p>この講義では、そのような演算を入れた集合(群, 環, 体, 束, ブール代数)の概念と性質を学習する。</p>				
【授業方法】	<p>基本的には対面で、講義資料とテキストに沿って講義と演習により進める。</p> <p>感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。</p> <p>オンラインの場合は講義資料を pdf ファイルで配布し、Zoom で資料の解説を行う。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合</li> <li>2 写像</li> <li>3 関係</li> <li>4 代数系と群</li> <li>5 色々な群</li> <li>6 部分群</li> <li>7 剰余群</li> <li>8 同型</li> <li>9 巡回群</li> <li>10 環・体1</li> <li>11 環・体2</li> <li>12 束</li> <li>13 ブール代数</li> <li>14 演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	(既習指定科目など) なし				
【評価方法】	レポートと試験により評価する。				
【テキスト】					
【参考書】	<p>参考書 1: 國廣昇「東京大学工学教程基礎系数学代数学」丸善出版</p> <p>参考書 2: 裕文夫「論理と代数の基礎」培風館</p>				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報数学				
【社会人聴講生】	条件付きで受入	【科目等履修生】	条件付きで受入	【交換留学生】	

【科目名】	数理工学	Mathematical Engineering		
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】				
【担当教員】	* 六井 淳			
【授業目標】				
●授業目的	<p>今日、私たちの身のまわりは、ますます巨大化・複雑化し、各専門分野の技術が融合した形態をとるようになっていきます。このような環境を安全かつ効率的に運用・制御していくには、数学的構造に着目して問題解決の方法を見出す分野横断的な「数理的思考」が不可欠です。</p> <p>本講義では、様々な環境において利用される数学的構造を把握する力を養うため、数学的な諸知識・テクニックを学ぶ。</p>			
●到達目標	<p>本講義では、数学的構造に着目して問題解決の方法を見出す分野横断的な「数理的思考」を養うことを目的とする。</p>			
【授業概要】	<p>数学は様々な現象を理解するのに必要不可欠なツールである。このため、大学の講義では様々な数学的手法が登場し、いかにツールとしての数学を利用するかではなく、数学そのものを理解することに翻弄されてしまい、本来の目的である現象への理解が進まなくなる。</p> <p>本講義では、高等学校までに学んだ数学を基礎として、新たな知識を交えながら、使える数学の習得を目指す。</p>			
【授業方法】	講義だけでなく、演習(実習)をも取り入れた形で授業を行う。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 高校数学の復習1</li> <li>3 高校数学の復習2</li> <li>4 関数と市場メカニズム</li> <li>5 二次関数と独占市場</li> <li>6 変化を理解するための微分</li> <li>7 変化を理解するための積分</li> <li>8 中間試験</li> <li>9 指数・対数のもたらす金利世界</li> <li>10 モデル構築のための微分方程式</li> <li>11 数列で理解する貯蓄</li> <li>12 現象表現のための常微分方程式</li> <li>13 微分を用いた利潤最大化の原理</li> <li>14 数理シミュレーション</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
【履修条件】	情報数学とその既習指定科目群を履修していることが望ましい。			
【評価方法】	中間試験(50%)、期末試験(50%)の合計点数により評価する。			
【テキスト】	講義中に適宜提示する			
【参考書】				
【備考】	<p>平成23(2011)年度以前の入学者は「数理モデル序論」として履修する。</p> <p>IT企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。本講義は原則、対面授業です。感染症の状況が悪化した場合には遠隔講義にて行われます。</p>			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	基礎統計学演習	Introduction to Practical Statistics		
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	*東野定律			
【担当教員】	*東野定律			
【授業目標】				
●授業目的	経営経済をはじめとする社会問題におけるいろいろなデータ分析のための、基本的な統計処理とその応用について理解を深める。			
●到達目標	経営経済をはじめとする社会問題におけるいろいろなデータ分析のための、基本的な統計処理とその応用について理解を深める。			
【授業概要】	記述統計や推測統計の手順を具体例を使用しながら説明する。			
【授業方法】	講義でコンピュータを使用しながら、いろいろなデータを Excel といった統計処理ソフトの手順に沿って分析する。なお、本年度は基本的に対面授業とし、感染状況によってはオンデマンド講義に切り替える。			
【準備学習】				
【授業展開】	1 度数分布表とヒストグラム 2 平均と分散と標準偏差 3 散布図と相関係数 4 回帰直線・近似曲線 5 中間まとめ 6 乱数発生 正規分布 7 確率分布 カイ2乗分布 t分布 F分布 8 区間推定 母平均 母比率 9 仮説の検定 2つの母平均の差 10 一元配置の分散分析 11 クロス集計表と独立性の検定 12 探索的分析 13 重回帰分析 14 判別分析 15 期末まとめ  以上をオンデマンド講義で実施する。			
【履修条件】	基礎統計学 I をすでに履修していることが望ましい。			
【評価方法】	課題提出状況、中間および期末試験により総合的に評価する。			
【テキスト】	石村 友二郎 他「Excel で学ぶ医療・看護のための統計入門」 東京図書 注：テキストのデータを使用しますので、忘れずに購入してください。			
【参考書】	講義の中で、紹介する。			
【備考】	担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	離散数学	Discrete Mathematics			
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	天野 政紀				
【担当教員】	天野 政紀				
【授業目標】					
●授業目的	(1) 数学の論理を正しく理解し、活用できるようになる。 (2) 集合論の基礎を身に付け、応用できるようになる。 (3) 計算機科学の基礎となる剰余計算、素因数分解、互除法などを理解し、アルゴリズム的思考方を身に付ける。				
●到達目標	互除法のアルゴリズムを理解して応用することで、最大公約数を求めたり剰余群の元の逆元を求めることなどを 含め、剰余計算全般ができるようになる。				
【授業概要】	集合、写像などの集合論の基礎を学ぶことにより、数学的概念の理解に努め、定義に基づいた厳密な理論展開を 習得する。 また、同値類の中でも特に整数の剰余類に着目し、小学校から取り扱ってきた割り算とその余りについての数学 的構造に触れる。 更に、それらが計算機科学において重要な役割を演じることを互除法などの基本的アルゴリズムを通して学ぶ。				
【授業方法】	基本的には対面で、講義資料とテキストに沿って講義と演習により進める。 感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。 オンラインの場合は講義資料を pdf ファイルで配布し、Zoom で資料の解説を行う。				
【準備学習】					
【授業展開】	1. 命題論理 2. 述語論理 3. 集合 4. 集合と写像 5. 全射と単射 6. 関係 (同値関係と同値類, 商集合) 7. 整数の性質 1 (剰余定理, ユークリッド互除法) 8. 整数の性質 2 (素数, 素因数分解, エラトステネスの篩) 9. 合同式 1 (合同式, 剰余類, 合同方程式) 10. 合同式 2 (剰余類の逆元, 零因子) 11. 中国剰余定理 12. オイラーの定理 13. RSA 暗号 14. 演習 15. まとめ				
【履修条件】					
【評価方法】	講義中の活動、レポート、期末試験等によって総合的に評価する。				
【テキスト】	小倉久和 著 『はじめての離散数学』 近代科学社 (2011)				
【参考書】					
【備考】	H24(2012) 年度以前入学者は「集合と写像」に読み替える。				
【旧カリキュラム 読み替え科目】					
【社会人聴講生】	条件付きで受入	【科目等履修生】	条件付きで受入	【交換留学生】	



【科目名】	代数学応用	Special Lectures in AlgebraSpecial Lectures in Algebra			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	小林みどり				
【担当教員】	小林みどり				
【授業目標】					
●授業目的	代数学は数学の一分野としても重要であるが、情報科学に盛んに応用されている。さらに近年では、経済学、経営学などの社会科学への応用についても注目されている。そのため本講義では、代数学の基礎である初等整数論、次に抽象代数学、さらにグラフ理論について学び、それらの応用についても理解することを目的とする。				
●到達目標	代数学の基礎概念を理解し、専門用語や考え方を学び、的確な証明法を習得し、論理的思考力を身につけるとともに、代数的構造について理解する。具体的には、初等整数論、抽象代数学、グラフ理論について学ぶ。そして暗号などへの代数学の応用についても理解を深める。				
【授業概要】	本講義では、初等整数論、抽象代数学、グラフ理論を学ぶ。初等整数論では、自然数や整数の基本的な性質とその原理について、さらに素数を法とする整数で作られる有限体について学ぶ。抽象代数学では、まず、2 項演算、同値関係、類別について学び、そして、群、環、体などの代数的構造について学ぶ。グラフ理論では、連結性やサイクルなど、グラフのいろいろな性質について学ぶ。さらに、暗号などへの応用についても理解する。				
【授業方法】	講義では、定理とその証明が中心となるが、演習問題を多くこなすことで、内容がしっかり身につくようにする。理解が進むように具体的な例を多く取り入れる。随時、プリントを配布し、受講者による輪講形式で読み進めていく。輪講形式のため対面授業を行う予定であるが、感染症拡大の影響により遠隔授業（Zoom による同時双方向型）に切り替える可能性もある。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整除の理論、方程式</li> <li>2. 素数、合同式、オイラーの関数</li> <li>3. 法 <math>p</math> の世界、原始根と指数、フェルマーの小定理</li> <li>4. 集合と2項演算、単位元、逆元</li> <li>5. 関係、同値関係、類別</li> <li>6. 順序関係とそのグラフ</li> <li>7. 半群とモノイド</li> <li>8. 群の定義と例、可換群、巡回群、部分群</li> <li>9. 正規部分群、剰余類群</li> <li>10. 環の定義と例、多項式環、剰余類環、整域</li> <li>11. 体の定義と例、有限体、無限体、標数</li> <li>12. 有向グラフと無向グラフ</li> <li>13. 連結性、到達可能性</li> <li>14. 木、生成木、サイクル</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
【履修条件】	高等学校数学科の教員免許状の取得を希望する学生、および数学に高い関心を持っている学生。ただし、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、離散数学を受講していること。				
【評価方法】	授業への取り組み 30%、課題 20%、試験 50%によって評価する。				
【テキスト】	プリントを配布する。				
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松坂和夫「代数系入門」岩波書店(数学入門シリーズ3) ?岩波書店, 新装版 (2018)</li> <li>・裕 文夫「初等代数学」森北出版</li> <li>・石村園子「やさしく学べる離散数学」共立出版</li> <li>・深見哲造「代数系とグラフ理論」培風館</li> <li>・遠山 啓「初等整数論」日本評論社</li> </ul>				
【備考】	輪講形式で行うため、履修学生は毎回、担当部分を発表する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	代数学特別講義				
【社会人聴講生】	不可(輪講形式(ゼミ形式)のため)	【科目等履修生】	不可(輪講形式(ゼミ形式)のため)	【交換留学生】	不可(輪講形式(ゼミ形式)のため)

【科目名】	幾何学応用	Special Lectures in GeometrySpecial Lectures in Geometry				
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	武藤 伸明					
【担当教員】	武藤 伸明					
【授業目標】						
●授業目的	ユークリッド幾何学および、数式を用いた幾何学的概念の取り扱いについて学習する。					
●到達目標	ユークリッド幾何学、座標系やベクトルを用いた幾何学について、知識と生徒に教える能力を身に着ける。					
【授業概要】	まず古典的なユークリッド幾何学について学ぶ。そのあとに数式を用いた幾何学的対象の取り扱いについて学ぶ。まず平面図形の数式による扱いを学び、二次曲線、曲線の媒介変数表示、極座標、ベクトル表現などについて詳しく論ずる。その後で立体図形の扱いについて学ぶ。					
【授業方法】	輪講形式の講義とともに、設定した課題による演習問題などを行う。					
【準備学習】						
【授業展開】	1. ユークリッド幾何学 (1) 2. ユークリッド幾何学 (2) 3. ユークリッド幾何学 (3) 4. 平面図形と数式 (1) 5. 平面図形と数式 (2) 6. 二次曲線 (1) 7. 二次曲線 (2) 8. 曲線の媒介変数表示 9. 極座標 10. 平面図形とベクトル 11. 立体図形とベクトル (1) 12. 立体図形とベクトル (2) 13. 位相と距離 (1) 14. 位相と距離 (2) 15. 位相と距離 (3)					
【履修条件】	高等学校数学科の教員免許状の取得を希望する学生、および数学に高い関心を持っている学生。ただし、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、離散数学を受講していること。					
【評価方法】	授業への取り組み (50%)、レポート等 (50%) によって評価する。					
【テキスト】	一樂重雄, 集合と位相 そのまま使える答えの書き方, 講談社, 2016.					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】						
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	解析学応用	Special Lectures in CalculusSpecial Lectures in Calculus				
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期			
【科目責任者】	四之宮 佳彦					
【担当教員】	四之宮 佳彦					
【授業目標】						
●授業目的	逆三角関数の定義を理解し、それらの関数の導関数や不定積分、定積分の問題演習を通して逆三角関数を理解する。また2変数関数の偏微分と重積分の計算問題に取り組む。					
●到達目標	偏微分、重積分を含めた微積分の計算に習熟し、高等学校の数学を指導する力を十分に備え、情報学や経済学など他の分野において活用できる力を備えることを目標とする。					
【授業概要】	三角関数の逆関数を定義し、それらの関数の導関数を求め、解析学で扱うほとんどの関数の不定積分や定積分が可能になることを理解してもらう。また、広義積分の定義を述べ定積分の拡張を計る。さらに2変数関数の理解を深め、偏微分、重積分の定義を行い、講義と演習を並行して進める。					
【授業方法】	講義と例題の演習を並行して進める。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のために授業をオンラインに切り替える可能性があります。					
【準備学習】						
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逆三角関数の定義</li> <li>2. 逆三角関数の導関数</li> <li>3. 分数関数の不定積分(逆三角関数に関わる関数を中心として)</li> <li>4. 無理関数の不定積分(逆三角関数に関わる関数を中心として)</li> <li>5. 定積分の定義</li> <li>6. 微分積分の基本定理</li> <li>7. 定積分の計算 I</li> <li>8. 定積分の計算 II</li> <li>9. 広義積分の計算</li> <li>10. 2変数関数について</li> <li>11. 1階、2階偏微分の計算</li> <li>12. 偏微分の応用(曲面の極値やラグランジュの乗数法など)</li> <li>13. 累次積分の計算</li> <li>14. 2重積分の定義</li> <li>15. 2重積分の計算</li> </ol>					
【履修条件】	高等学校数学科の教員免許状の取得を希望する学生、および数学に高い関心を持っている学生。ただし、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、離散数学を受講していること。					
【評価方法】	期末テストにより評価する。					
【テキスト】	テキスト:『微分積分』矢野 健太郎、石原 繁(著)裳華房 参考書:授業時に紹介する。					
【参考書】						
【備考】						
【旧カリキュラム読み替え科目】	～2017 入学生までは「解析学特別講義」					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	機械学習	Machine LearningMachine Learning
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度前期
【科目責任者】		
【担当教員】	* 六井 淳	
【授業目標】		
● 授業目的	機械学習はビッグデータ解析、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能、パターン認識など含む、我々を賢く支援し、安全な社会を構築するための革新的な基幹技術である。本講義を通して、機械学習の理論を理解し、実践的演習によって実際のデータを分析・活用できるようになることを目的とする。	
● 到達目標	基本的な機械学習とパターン認識について理解し、メディア情報を利用した知能プログラミングができるようになることを目標とする。	
【授業概要】	機械学習理論はビッグデータ解析、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能、パターン認識など含む、我々を賢く支援し、安全な社会を構築するための革新的な基幹技術である。本講義では、講義と実習によって実践的な知識を習得する。	
【授業方法】	配布プリントに沿った講義形式を主体に、演習を行いながら理解を深める。	
【準備学習】		
【授業展開】	第1回. イントロダクション 第2回. Python の基礎 1 第3回. Python の基礎 2 第4回. データ加工技術 第5回. 教師あり学習: 直線モデル 第6回. 教師あり学習: 平面モデル 第7回. 教師あり学習: 回帰モデル 第8回. 教師あり学習: クラス分類 第9回. 教師あり学習: 多クラス分類 第10回. 深層学習: ニューラルネット 第11回. 深層学習: 微分と勾配法 第12回. 深層学習: 誤差逆伝搬法 第13回. 教師なし学習: K-mean 第14回. 教師なし学習: ガウスモデル 第15回. 実践課題	
【履修条件】	数理工学を履修済みであることが望ましい	
【評価方法】	レポート(70%)、出席点(30%)の合計点数により評価する。	
【テキスト】	講義中に適宜提示する	
【参考書】		
【備考】	IT企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が、その経験を活かして、本実習を講義する。本講義は原則、対面講義ですが、感染症拡大の際にはオンライン講義に切り替わる可能性があります。	
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	【科目等履修生】	【交換留学生】

【科目名】	観光産業論(経営情報総合 E)	Tourism Industry
【配当年次】	2 年	【開講時期】 2024 年度前期
【科目責任者】	* 北上 真一	
【担当教員】	* 北上 真一	
【授業目標】		
● 授業目的	グローバルな情報を含め、観光産業(観光関連産業を含む、以下同様)の公表された統計数値などを分析し、旅行業を始めとした観光産業の歴史から、将来のシナリオを研究。将来の課題を含め、観光関連産業全体を総合的に理解することを目的とします。	
● 到達目標	Travel Voice 社のメルマガに登録をし、日々、最新の観光産業(観光関連産業を含む、以下同様)の情報を取得し、観光産業の公表された統計数値などを分析。観光産業の歴史から将来のシナリオを研究、観光産業全体を総合的に理解することで、将来にわたる観光産業の課題に対して、自らの意見をまとめ、他の人と議論し、内容を精査・発展していくことができるまでを目標とします。	
【授業概要】	現状や将来における旅行業・観光業の理解を深めるため、まずは、日本人の国内旅行や海外旅行の歴史と市場変化や課題を学習し、理解を深める。また、コロナ禍前、近年、非常に注目をされていたインバウンド市場についてもマーケットの特性を理解すると同時に、日本とグローバルの観光業の違いを学習・理解する。さらに、IT の進化において、どのような変化や影響がおこっているかを学び、post コロナには、最初に市場をリードすると言われる「ジェネレーション Z(Z 世代)」に向けた取り組みについて、グループなどで研究を行い、post コロナ	
【授業方法】	講義の中では、Google Form を活用したクイズや小テストなども行いますので、ケイタイを準備しておいてください。さらに、学生個人またはグループによる研究成果の発表やプレゼンテーションも行います。また、外部からの講師を招き、講義も予定しています。2023 年度の外部講師は、㈱静岡銀行地方 創生執行役員部長中村 智浩氏、グループ課長 井出 雄大氏、大井川鐵道グループの再生などを実践されたサンクスグループ(株) 代表取締役前田 忍氏でした。今年度は、決まり次第、連絡します。	
	尚、カリキュラムは	
【準備学習】		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 旅行・観光産業とは？</li> <li>2. 近代観光産業の始まりとその歴史</li> <li>3. 国内旅行・観光マーケットの変遷と現状</li> <li>4. 海外旅行・観光マーケットの変遷と現状</li> <li>5. 旅行業ビジネスの展開(店頭販売、メディア販売) I</li> <li>6. 旅行業ビジネスの展開(オンライン・トラベル・エージェント) II</li> <li>7. インバウンド・マーケットの変遷と現状・課題 I</li> <li>8. インバウンド・マーケットの変遷と現状・課題 II</li> <li>9. 日本の観光産業とグローバルの観光産業 I</li> <li>10. 日本の観光産業とグローバルの観光産業 II</li> <li>11. IT とインターネットの進化による市場変化と対応 I</li> <li>12. IT とインターネットの進化による市場変化と対応 II</li> <li>13. 今後の観光産業への課題と提言 I</li> <li>14. 今後の観光産業への課題と提言 II (グループ研究)</li> <li>15. 今後の観光産業への課題と提言 III (グループ発表)</li> </ol>	
【履修条件】	2 年生以上対象 ※1 年生で観光学概論を履修してあることが望ましい。	
【評価方法】	授業への取り組み(授業への貢献度、クラスパーティシペーション)40%、小テスト・個人レポート 30%、個人・グループ発表 20%、グループへの貢献度 10%によって評価する。	
【テキスト】	授業開始時に適宜指示をする。	
【参考書】	観光庁などの発表データや JATA、UNWTO 等の発行書物やレポートを中心に、授業開始時に適宜指示をする。TravelVoice 社( <a href="https://www.travelvoice.jp/">https://www.travelvoice.jp/</a> )のメルマガに登録して、常に最新の観光産業情報をキャッチし、情報をアップデートすることを必須とする。	
【備考】	PC の基本的なアプリを使いこなせることが望ましい。 長年、旅行業での実務経験を活かし、新規ビジネスの企画・開発、業態開発やサービスの立ち上げから事業した経験や ICT を利用したビジネス(EC サイトや旅行関連に関わる e ビジネスの「企画・開発・販売など」)の経験に基	

	<p>づき、将来、社会にでて、実践や実務の中で、実際に役に立つ授業を進めていきます。</p> <p>特許第 5806907 取得(ビジネスモデル特許)「旅行販売システムおよび旅行販売方法」(<a href="https://www.j-platpat.inpit.go.jp/p0200">https://www.j-platpat.inpit.go.jp/p0200</a>)における共同発明者の一人。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】	特になし。				
【社会人聴講生】	<p>コロナの感染状況にも寄りますが、原則、受け入れます。但し、与えられた課題や復習などに、しっかり時間が取れることを条件とします。</p> <p>また、グループ学習も毎回取り入れますので、学生と議論できることを条件とします。</p>	【科目等履修生】	<p>原則、受け入れます。但し、与えられた課題や復習などに、しっかり時間が取れることを条件とします。</p>	【交換留学生】	<p>原則、受け入れます。但し、授業についていける日本語の語学力を持ち、与えられた課題や復習などに、しっかり時間が取れることを条件とします。</p>

【科目名】	観光経営人材論(経営情報総合 F)	Management & Human Resources Development for Tourism Business	
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度後期
【科目責任者】	* 北上 真一		
【担当教員】	* 北上 真一		
【授業目標】			
●授業目的	観光産業(観光関連産業を含む、以下同様)における将来の経営人材となりえるために、財務・会計の知識やキャッシュ・フローの概念、マーケティングを理解し、「経済性分析」の基本である投資計画と資金の時間的価値などを中心に理解を進める。さらには、簡単な統計学やマーケティングなどを理解して、航空業界の「イールド・マネジメント」、ホテル業界の「レベニュー・マネジメント」の基本と基礎を理解していくこと目的とする。		
●到達目標	観光産業における将来の経営人材のためのキャッシュ・フローの概念やマーケティングを理解。投資計画と資金の時間的価値を中心とした演習問題やケーススタディを活用して「経済性分析」の基本を学ぶ。さらに、簡単な統計学なども理解して、今後、AI の活用などにより、現在、航空業界で益々、進化・高度化していくであろう「イールド・マネジメント」の基本から、大手外資系のホテルを中心に、議論されている「レベニュー・マネジメント」の基礎を理解し、マーケティング視点にたった、価格設定の合理性などを議論できることを目的とする。		
【授業概要】	観光産業における経営人材として、経営学の面から、必要な財務・会計の初級基礎、およびキャッシュ・フローの概念について、投資計画と資金の時間的価値を中心とした「経済性分析」の演習を通じて理解をより深める。 また、観光産業においても、IT の進化に伴い、劇的に変化を続けるマーケットを理解し、簡単な統計学を学ぶことで、航空業界・ホテル業界のイールド・マネジメントやプロパティ・マネジメントを中心に、最近の新しい研究分野であるレベニュー・マネジメントの初歩、特に、ホスピタリティ・インダストリーにおける価格の決定方法・		
【授業方法】	HBS(ハーバード・ビジネス・スクール)などでも用いられているケーススタディ(ショートケース)による学習方法(事例研究)も取り入れ、より実際のビジネスの理解を深めていく学習も行います。 講義の中では、Google Form を活用したクイズや小テストなども行いますので、ケイタイを準備しておいてください。 さらに、講義に加えて、EXCEL を利用した経済性分析(投資計画と資金の時間的価値)の計算や、小テスト・学生個人、グループによる研究成果のプレゼンテーションなどを行います。  また、外部講師の講義・質		
【準備学習】			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光産業基礎Ⅰ(数値による理解)</li> <li>2. 観光産業基礎Ⅱ(インバウンド・マーケット)</li> <li>3. キャッシュ・フローと経済性分析Ⅰ「投資計画と資金の時間的価値の理解 1」</li> <li>4. キャッシュ・フローと経済性分析Ⅱ「投資計画と資金の時間的価値の理解 2」</li> <li>5. キャッシュ・フローと経済性分析Ⅲ「投資計画と資金の時間的価値の理解 3」</li> <li>6. 日本の観光産業における課題研究・討議Ⅰ</li> <li>7. 日本の観光産業における課題研究・討議Ⅱ</li> <li>8. 日本の観光産業における課題研究発表</li> <li>9. イールド・マネジメントとレベニュー・マネージメント</li> <li>10. レベニュー・マネージメント基礎Ⅰ(価格とは?)</li> <li>11. レベニュー・マネージメント基礎Ⅱ(価格とマーケティング)</li> <li>12. レベニュー・マネージメント基礎Ⅲ(EXCEL を利用した実践)</li> <li>13. レベニュー・マネージメント基礎Ⅳ(EXCEL を利用した実践)</li> <li>14. 上記を利用したグループ研究</li> <li>15. 上記研究のグループ発表</li> </ol>		
【履修条件】	本授業は、2 年生以上が対象であるが、財務会計やキャッシュ・フローの基本を勉強・理解した上での履修を薦めます。 ※3・4 年生の場合、就職活動による制約もあるので、そのあたりは考慮します。その代わりに、授業に出られない場合も、その授業での課題を復習しておくことを望みます。 同時に、観光学概論を履修してあることが望ましいですが、経営の基礎になりますので、観光産業以外の経営学に興味のある人も受け入れます。		
【評価方法】	授業への取り組み(授業への貢献度・クラスパーティシペーション)40%、小テスト・個人レポート 30%、個人・グループ発表 20%、グループへの貢献度 10%によって評価する。		
【テキスト】	授業開始時に適宜指示をする。		
【参考書】	観光庁などの発表データや JATA、UNWTO 等の発行書物やレポートを中心に、授業開始時に適宜指示をする。		

	経済性分析やレベニュー・マネジメント関連のテキスト・資料などは、授業ごとに渡します。				
【備考】	<p>EXCEL の基本を使いこなせることが望ましい。</p> <p>長年、旅行業での実務経験を活かし、新規ビジネスの企画・開発、業態開発やサービスの立ち上げから事業した経験や ICT を利用したビジネス (EC サイトや旅行関連に関わる e ビジネスの「企画・開発・販売など」) の経験に基づき、将来、社会にでて、実践や実務の中で、実際に役に立つ授業を進めていきます。</p> <p>特許第 5806907 取得 (ビジネスモデル特許) 「旅行販売システムおよび旅行販売方法」 (<a href="https://www.j-platpat.inpit.go.jp/p0200">https://www.j-platpat.inpit.go.jp/p0200</a>) における共同発明者に一人。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】	特になし。				
【社会人聴講生】	原則、受け入れます。但し、課題に対しての時間を割けることを条件とします。	【科目等履修生】	原則、受け入れます。但し、課題に対しての時間を割けることを条件とします。	【交換留学生】	原則、受け入れます。但し、授業を受講できる日本語の語学力を持っており、課題に対しての時間を割けることを条件とします。



【科目名】	観光マネジメント(経営情報特別講義 G)	Tourism Management			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	カウクルアムアン アムナー				
【担当教員】	カウクルアムアン アムナー				
【授業目標】					
●授業目的	観光ビジネス経営及び観光地域マネジメントを理解できる。				
●到達目標	1. 観光産業における観光ビジネスの経営を理解することができる。 2. 地域における観光発展について計画することができる。				
【授業概要】	ホスピタリティやトラベル・ビジネスをはじめとする、観光マネジメントは観光企業の経営のみならず、観光地や地域を示す「Destination」の創造も重要なマネジメントの課題になっている。本講義では、「観光ビジネスの経営」と「地域創造のための観光マネジメント」の2部に分かれる。観光ビジネスや地域における観光発展について理解を深めることを目的とする。				
【授業方法】	観光経営の理論を講義するだけではなく、事例紹介やゲスト・スピーカーを招き意見交換をおこない、学生自らが観光マネジメントのあるべき姿を考える力を身につける。授業では学生が観光地域づくりについてプレゼンテーションをおこなう。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回 イントロダクション 「観光ビジネスの経営」第2回～第7回 第2回 第1章 観光システム 第3回 第2章 ホスピタリティの経営 第4回 第3章 宿泊産業経営1 第5回 第3章 宿泊産業経営2 第6回 第4章 観光産業における観光商品化 第7回 第5章 持続可能なツーリズム 「地域創造のための観光マネジメント」第8回～第14回 第8回 第6章 観光地の経営・計画1 第9回 第6章 観光地の経営・計画2 第10回 第6章 観光地の経営・計画3 第11回 第7章 観光地域マーケティングの枠組み1 第12回 第7章 観光地域マーケティングの枠組み2 第13回 第8章 観光地域マーケティング戦略1 第14回 第8章 観光地域マーケティング戦略2 第15回 まとめ				
【履修条件】	なし。				
【評価方法】	・提出されたレポート、プレゼンテーション、授業への取り組み 計 60点満点 ・定期試験 40点満点				
【テキスト】	講義のなかで適宜指示をする。				
【参考書】	NPO 法人 観光力推進ネットワーク・関西、日本観光研究学会関西支部「地域創造のための観光マネジメント」学芸出版社、2016年 山口一美・椎野信雄「はじめての国際観光学－訪日外国人旅行者を迎えるために－」創成社、2018年				
【備考】	なし。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	英文のテキストを理解できること。	【交換留学生】	可

【科目名】	国際観光論(経営情報特別講義 H)	International Tourism			
【配当年次】	2 年	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	カウクルアムアン アムナー				
【担当教員】	カウクルアムアン アムナー				
【授業目標】					
●授業目的	国際観光ビジネスの現状や発展などの概要を理解することができる。 インバウンド観光戦略に取り組み、振興に貢献できる人材育成をめざす。				
●到達目標	国際観光と持続可能な観光振興・観光政策の関連を理解することができる。				
【授業概要】	国際観光は今まさに大交流時代を迎えている。国際観光ビジネスの振興は、日本経済や地域経済を再生するだけでなく、国と国をつなぐツールでもあり、持続可能なものでなければならない。静岡県においても、海外からの観光客を増やす、いわゆるインバウンドの重要性は高まっている。本講義では、「国際観光ビジネスの現状」、「国際観光戦略」、「国際観光と持続可能」の3つを課題とする。3つの課題から、国際観光ビジネスや地域経済にあたる影響について理解を深めることを目的とする。				
【授業方法】	国際観光の理論だけでなく、事例や実際にマーケットでおきているケースもとりあげ、学生自らが国際観光のあるべき姿を考える力を身につける。国際観光ビジネスの活性化だけでなく、静岡県など地域のグローバル化についても検討をおこなう。授業は講義以外にも、学生がプレゼンテーションをおこなったり、外国人にインタビューをしたり、英語を用いたりと多彩なスタイルである。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回 インTRODクシヨン 第2回 国際観光に関する観光システムと国際観光歴史 第3回 国際観光と観光ビジネス 第4回 海外における観光客のパターンと観光理論1 第5回 海外における観光客のパターン1と観光理論2 第6回 海外における観光客のパターン1と観光理論2 第7回 国際観光におけるサステナブル・ツーリズム 1(イギリスの事例として) 第8回 国際観光におけるサステナブル・ツーリズム 2(イギリスの事例として) 第9回 世界のインバウンド・アウトバウンド観光の動向 1 第10回 世界のインバウンド・アウトバウンド観光の動向 2 第11回 日本のインバウンド観光の動向 第12回 日本のインバウンド観光戦略の取り組み 第13回 静岡県のインバウンド観光戦略の取り 1 第14回 静岡県のインバウンド観光戦略の取り 2 第15回 国際観光目的地の紹介発表 (グループ・プレゼンテーション)				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	・提出されたレポート、プレゼンテーション、授業への取り組み 計 80点満点 ・定期試験 20点満点				
【テキスト】	講義のなかで適宜指示をする。				
【参考書】	山口一美・椎野信雄「はじめての国際観光学ー訪日外国人旅行者を迎えるためにー」創成社、2018 年 カウクルアムアン アムナー (矢ヶ崎典隆 訳)「11 章:タイのテルタにおける自然保護とエコツーリズム」矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明 編『シリーズ地誌トピックス 2 ローカリゼーション 地域へのこだわり』朝倉書店、2018 年、pp 110-122.				
【備考】	英文資料の利用が多い。 グループ・プレゼンテーションは英語で行なう。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	観光政策論(経営情報特別講義 I)	Tourism Policies		
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	寺崎竜雄			
【担当教員】	寺崎竜雄			
【授業目標】				
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行政機関等における観光担当者、観光協会・DMO(観光地域づくり法人)等における地域の観光振興の牽引者、観光関連領域で事業を展開する民間企業等における観光ビジネスの実践者、等として活動するために求められる観光政策に関する基礎知識を習得する。</li> <li>○ 持続可能な観光振興には、「観光旅行者」「経済・産業」「地域資源」「地域住民」がそれぞれ良好な状態に保たれていることが大切であり、その実現に向けた観光政策・施策に必要な視点・考え方を理解する。</li> <li>○ 豊かな人生の糧となる観光の実現、幸福な暮らしの基盤となる地域社会づくりを目指す観光振興策に対する関心・興味を創出する。</li> </ul>			
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わが国の政策として観光振興が着目され、推進されてきた経過を社会背景の変遷とともに理解する。</li> <li>○ 地域社会において、観光に求められる役割とそれを実現するための方策について考察する。</li> <li>○ 持続可能な観光の重要性とその実現に向けた諸施策に関する関心を深める。</li> </ul>			
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光が果たしてきた役割と観光政策の変遷をその時の社会背景とともに解説する。</li> <li>○ 観光政策の根拠となる法制度を実例をまじえて解説する。</li> <li>○ 観光振興の現状と課題を具体的な実例を踏まえながら解説する。</li> </ul>			
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講義形式による授業。</li> <li>○ 毎回授業終了時にリアクションペーパーを作成し提出する。</li> <li>○ 前回のリアクションペーパー記載内容に関するグループディスカッションとその発表を求めることもある。</li> <li>○ 期間中に課題レポートの提出を求める。</li> </ul>			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 オリエンテーション 第2回 観光関連法制度と政策の変遷 第3回 観光立国推進基本法 第4回 さまざまなツーリズム(1) 第5回 さまざまなツーリズム(2) 第6回 自然観光地における利用と保全 第7回 文化観光地における利用と保全 第8回 温泉まちづくり 第9回 地域における観光振興策の実例(1) 第10回 地域における観光振興策の実例(2) 第11回 オーバーツーリズムとキャリングキャパシティ 第12回 協働型管理による地域資源管理 第13回 災害からの復興ツーリズム 第14回 持続可能な観光 第15回 まとめ			
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光学概論を履修し、単位を修得していることが望ましい。</li> <li>○ 初回講義には必ず出席すること。</li> <li>○ 日本経済や地域社会、そして各自の人生において大切な役割をもつ観光政策の現状と課題等について、実例を用いた分かり易い解説を心掛けるので、観光マネジメントメジャー希望者以外の学生の受講も歓迎する。</li> </ul>			
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出席状況、授業への取組姿勢、リアクションペーパー・課題レポートの提出状況等から総合的に判断する(100%)。期末筆記試験は実施しない。</li> <li>○ 授業に3回以上欠席した場合は、全体の成績評価(100点満点)から1回につき10点ずつ減点する。</li> </ul>			
【テキスト】	必要に応じ講義中に提示する			
【参考書】	必要に応じ講義中に提示する			
【備考】	観光領域専門のシンクタンクにおいて観光振興に関する実践的研究や、政府や地方公共団体等からの委託調査・研究の経験を有した教員が、わが国および各地域の観光政策の現状や今後の方向性について解説する。			
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営情報特別講義 I			
【社会人聴講生】	聴	講	可	
【科目等履修生】	聴講可		【交換留学生】	聴講可

【科目名】	観光経済学(経営情報特別講義 J)	Tourism Economics
【配当年次】	2年	【開講時期】 2024年度後期
【科目責任者】	寺崎竜雄	
【担当教員】	寺崎竜雄	
【授業目標】		
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行政機関等における観光担当者、観光協会・DMO(観光地域づくり法人)等における地域の観光振興の牽引者、観光関連領域で事業を展開する民間企業等における観光ビジネスの実践者、等として活動するために求められる観光経済分析に関する基礎知識を習得する。</li> <li>○ わが国において観光は輸出産業として日本経済を支える重要な役割を担っていること、人口減少・少子高齢化が進展する地方において誘客に伴う観光消費は地域活性化・地方創生に大きく貢献していることを理解する。</li> <li>○ 観光立国として日本経済・地域経済のエンジン役を担う観光産業に対する興味・関心を創出する。</li> </ul>	
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 訪日外国人旅行者の増加をはじめとして観光が広く着目されるようになった背景を、観光消費がもたらす経済効果および我が国経済における観光産業の役割等の側面から理解する。</li> <li>○ 地域振興・地方創生における観光消費や経済波及効果の状況を把握し、波及効果の高め方を考察する。</li> <li>○ 観光旅行者の意識と行動を表す各種統計データの状況と取得方法や分析方法に関する関心を深める。</li> </ul>	
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光経済分析のもととなる旅行市場と観光統計の状況と、データの取得方法、分析方法を実際に用いられている統計データをもとに解説する。</li> <li>○ 観光消費がもたらす経済波及効果を解説する。</li> <li>○ 旅行者の意識と行動を各種データによって分析・解説する。</li> </ul>	
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講義形式による授業。</li> <li>○ 毎回授業終了時にリアクションペーパーを作成し提出する。</li> <li>○ 前回のリアクションペーパー記載内容に関するグループディスカッションとその発表を求めることもある。</li> <li>○ 期間中に課題レポートの提出を求める。</li> </ul>	
【準備学習】		
【授業展開】	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回 旅行市場と観光統計</li> <li>第3回 日本人の国内旅行市場</li> <li>第4回 日本人の海外旅行市場</li> <li>第5回 訪日外国人旅行市場</li> <li>第6回 地域の観光統計</li> <li>第7回 産業連関分析と経済波及効果</li> <li>第8回 消費者満足と再利用意向</li> <li>第9回 観光産業(旅行業)</li> <li>第10回 観光産業(宿泊施設・観光施設・運輸業)</li> <li>第11回 コロナ禍における旅行動向</li> <li>第12回 近年の観光経済トピック(1)</li> <li>第13回 近年の観光経済トピック(2)</li> <li>第14回 近年の観光経済トピック(3)</li> <li>第15回 まとめ</li> </ul>	
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光学概論を履修し、単位を修得していることが望ましい。</li> <li>○ 初回講義には必ず出席すること。</li> <li>○ 日本経済や地域社会、そして各自の人生において大切な役割をもつ観光経済の現状と課題等について、実例を用いた分かり易い解説に心掛けるので、観光マネジメントメジャー希望者以外の学生の受講も歓迎する。</li> </ul>	
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出席状況、授業への取組姿勢、リアクションペーパー・課題レポートの提出状況等から総合的に判断する(100%)。期末筆記試験は実施しない。</li> <li>○ 授業に3回以上欠席した場合は、全体の成績評価(100点満点)から1回につき10点ずつ減点する。</li> </ul>	
【テキスト】	必要に応じ講義中に提示する	
【参考書】	必要に応じ講義中に提示する	
【備考】	観光領域専門のシンクタンクにおいて観光振興に関する実践的研究や、政府や地方公共団体等からの委託調査・研究の経験を有した教員が、観光の経済効果や観光マーケティングなどについて解説する。	
【旧カリキュラム読み替え科目】	経営情報特別講義J	
【社会人聴講生】	聴講可	【科目等履修生】 聴講可
		【交換留学生】 聴講可

【科目名】	観光調査法(経営情報特別講義 K)	Research Methods for Tourism		
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期	
【科目責任者】	大久保あかね			
【担当教員】	大久保あかね			
【授業目標】				
●授業目的	観光調査の目的と方法を学び、観光産業や地域振興に貢献する能力を身につけることを目的とする。			
●到達目標	観光調査に関して、複数の手法を理解する。 また課題発見、解決方法、結果の予測、調査の設計とデータ収集、また情報分析などの実践的知識を習得することを目標とする。			
【授業概要】	観光産業や地域振興に資するために、観光客の回遊行動情報などを調査・収集し、分析することは重要である。本講義では、観光情報の収集方法、分析方法、分析結果の可視化方法と、それらを目的達成に活用する方法論について学ぶ。特に、近年は ICT デバイスを用いた観光情報の収集と分析が注目されており、本講義でも重点を置いて学修する。			
【授業方法】	講義、および、必要に応じて PC を用いた具体的な演習、グループもしくは個人での実習を交えて、観光調査と分析の理論と実践を学ぶ。 状況に応じて、身近な観光事象を観察・調査するなどの簡単なフィールドワークを実施する場合があります。フィールドワークに関しては、講義の中で説明し、参加の可否や方法を検討しますので、講義内での情報に注視してください。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 観光調査の目的</li> <li>3. 観光調査の変遷(事例)</li> <li>4. 観光調査の課題設定と計画策定</li> <li>5. 観光情報の収集(調査票による情報収集)</li> <li>6. 観光情報の収集(ICT 技術による情報収集)</li> <li>7. 観光情報分析の理論と方法(伝統的な分析手法)</li> <li>8. 観光情報分析の理論と方法(統計の基本)</li> <li>9. 観光情報の可視化手法(位置情報の可視化)</li> <li>10. 観光情報の可視化手法(テキスト情報の可視化)</li> <li>11. 観光調査の実践(1)調査の企画と予備調査</li> <li>12. 観光調査の実践(2)本調査</li> <li>13・14. 観光調査の実践(3)結果の分析と考察、発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
【履修条件】	あらかじめ観光学概論を履修し、理解していること。 そのほか、観光マネジメントメジャーの科目を可能な限り受講し、理解を深めておくことが望ましい。			
【評価方法】	授業への取り組み 40%、レポート、プレゼンテーション、小テストなど 60%で評価する。			
【テキスト】	『観光と地域振興』大久保あかね、中央経済社			
【参考書】	講義開始時に適宜			
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】	観光情報特別講義 K			
【社会人聴講生】	社会人聴講生の聴講を歓迎します。 ただし、グループワークなどにも一般学生とともに参加していただくことを希望します。	【科目等履修生】	科目等履修生の聴講を歓迎します。 ただし、グループワークなどにも一般学生とともに参加していただくことを希望します。	【交換留学生】

【科目名】	観光情報システム(経営情報特別講義 L)		Tourism Information System		
【配当年次】	3年		【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大久保あかね				
【授業目標】					
●授業目的	観光の様々な局面において、広く活用されている情報システムの理論と実用例を学び、情報技術を観光分野に活用する能力を身につけることを目的とする。				
●到達目標	観光に関連する情報に関して、歴史的変遷、諸法規などの概要を理解し、観光者、観光産業、また地方自治体等のそれぞれの視点で情報を分析、また効果的な発信方法を理解、実践できるようにしたい。				
【授業概要】	観光客にとって情報技術は、観光地に関する情報の獲得、交通や宿泊や食事やレジャーの確保、観光体験の情報発信の手段として使われている。一方、観光産業の側からは、良質のサービスを効率よく提供するための資源の配分、サービスの特色のアピールと集客の手段として用いられる。観光地や自治体の立場からは、地域の観光イメージの確立と観光客の誘導、観光戦略の策定のためのツールとして用いられる。これらの情報技術の理論と具体的な活用事例を学び、観光において情報技術を活用する能力を身につける。				
【授業方法】	講義、および、必要に応じて PC を用いた具体的な演習、グループもしくは個人での実習を交えて、観光情報システムの理論と実践を学ぶ。 状況に応じて、身近な観光地などのフィールドワークを行う場合があります。その場合は、事前に告知し、希望を取りますので、講義内での連絡事項を注視してください。				
【準備学習】					
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 観光情報分析の目的と方法</li> <li>3. 観光客の視点:観光情報の収集</li> <li>4. 観光客の視点:観光サービスの確保</li> <li>5. 観光客の視点:観光体験の発信</li> <li>6. 観光客の視点:事例研究(発表①)</li> <li>7. 観光産業の視点:観光サービス情報の発信</li> <li>8. 観光産業の視点:サービス改善のための情報活用</li> <li>9. 観光産業の視点:事例研究(発表②)</li> <li>10. 観光地域の視点:観光地域の分析と情報発信</li> <li>11. 観光地域の視点:観光地域の戦略策定</li> <li>12. 観光地域の視点:事例研究(発表③)</li> <li>13. 観光情報システムの活用</li> <li>14-15 まとめ(グループ発表)</li> </ol>				
【履修条件】	あらかじめ観光概論を履修しておくこと。 また2年次までに修得可能な観光マネジメントメジャーの諸科目を履修し、理解していることが望ましい。				
【評価方法】	授業への取り組み(グループワーク等における積極的な関与など)40% レポート、プレゼンテーション、小テストなど60%で評価する。				
【テキスト】	講義開始時に適宜指示する				
【参考書】	講義開始時に適宜指示する				
【備考】	日常的に新聞などから幅広く情報を収集する習慣をつけること。 観光白書などの各種統計を閲覧することをお勧めします。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	観光情報特別講義 L				
【社会人聴講生】	社会人の聴講を歓迎します。 ただし、グループワークなどにも一般学生とともに参加していただくことを希望します。	【科目等履修生】	科目等履修生の聴講を歓迎します。 ただし、グループワークなどにも一般学生とともに参加していただくことを希望します。	【交換留学生】	受講可

【科目名】	観光まちづくり論	Tourism and Community Design				
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期			
【科目責任者】	内海 佐和子					
【担当教員】	内海 佐和子					
【授業目標】						
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりの基礎が理解できるようになる</li> <li>・リビングヘリテージを主とした世界遺産に対する知識を深め、理解できるようになる</li> <li>・国内外の世界遺産を例に、地域振興の実態やまちへの観光地化の影響を理解できるようになる</li> </ul>					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産リスト登録は良い影響だけでなく、まちや住民に対し様々な功罪を生むという現実を理解できるようになる</li> <li>・他人との意見を集約し、第三者に対し自身の意見を正しく伝えられるようになる</li> </ul>					
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりの基礎を理解したうえで、都市観光によるまちづくりを理解する</li> <li>・国内外の世界遺産を通じた地域振興を理解する</li> <li>・世界遺産となった歴史的町並みへの観光地化の影響を理解する</li> </ul>					
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の授業の後、前半の講義内容を踏まえたグループワークを行う</li> <li>・不定期に評価対象となるミニツッペーパーが課される</li> </ul>					
【準備学習】						
【授業展開】	第1回: ガイダンス 第2回: 観光まちづくりとは 第3回: 都市観光とまちづくり 第4回: 世界遺産と観光地化 1-白川郷 第5回: 世界遺産と観光地化 2-中国 麗江 第6回: 世界遺産と観光地化 3-ベトナム ホイアン 1 第7回: 世界遺産と観光地化 4-ベトナム ホイアン 2 第8回: 観光まちづくりの中間まとめ 第9回: リビングヘリテージの世界遺産における観光的課題の探求 1 第10回: リビングヘリテージの世界遺産における観光的課題の探求 2 第11回: 中間プレゼンテーション 第12回: リビングヘリテージの世界遺産における観光的課題の検討 1 第13回: リビングヘリテージの世界遺産における観光的課題の検討 2 第14回: 最終プレゼンテーション 第15回: まとめ					
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光学概論の単位を取得していることが望ましい</li> <li>・初回講義には必ず出席すること</li> </ul>					
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間まとめ、ミニツッペーパー、プレゼンテーション、報告書、履修態度などにより総合的に評価する</li> <li>・評価対象、評価方法、配点比率、欠格条件など評価に関わる詳細は講義内で説明する</li> <li>・欠席回数が4回以上になった場合、1回につき10点減点とする</li> <li>・欠席による減点方法の詳細も講義内で説明する</li> </ul>					
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の教科書なし</li> <li>・事前にプリントデータを渡すので、印刷し講義に持参する</li> </ul>					
【参考書】	必要に応じて、講義中に適宜、紹介する					
【備考】	アクティブラーニングでの積極性、グループワークでの協調性が必要となる または、それらを身につけるチャンスとなる講義である					
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可 但し、日本人学生とのディスカッションが可能な日本語能力が必要である

【科目名】	地方創生論	Regional Revitalization				
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期			
【科目責任者】	内海 佐和子					
【担当教員】	内海 佐和子					
【授業目標】						
●授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な地域活性化の事例を知ることができる</li> <li>・そのうえで、地域活性化の有効性のみならず、功罪も理解できるようになる</li> <li>・グループワークを通じ、地域資源を発見し、活用提案できるようになる</li> </ul>					
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化を理解できるようになる</li> <li>・地域資源を発見する思考ができるようになる</li> <li>・他人との意見を集約し、第三者に対し自身の意見を正しく伝えることができるようになる</li> </ul>					
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生の基礎を理解する</li> <li>・まちづくりに対する住民組織の活動を理解する</li> <li>・地域資源の見つけ方および、その活用方法を理解する</li> </ul>					
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の授業の後、前半の講義内容を踏まえたグループワークを行う</li> <li>・不定期に評価対象となるミニツツペーパーが課される</li> </ul>					
【準備学習】						
【授業展開】	第1回: ガイダンス 第2回: 地方創生の現状と課題 第3回: 中心市街地活性化とまちなか居住 第4回: 住民組織によるまちづくり 第5回: 町並み保存と観光地化 第6回: 地域資源と地域活性化 1 第7回: 地域資源と地域活性化 2 第8回: 地方創生と地域資源の中間まとめ 第9回: まち歩きによる地域資源の発見 第10回: 地域資源の活用の検討 第11回: 中間プレゼンテーション 第12回: 地域資源の活用提案 1 第13回: 地域資源の活用提案 2 第14回: 最終プレゼンテーション 第15回: まとめ					
【履修条件】	初回講義には必ず出席すること					
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間まとめ、ミニツツペーパー、プレゼンテーション、報告書、履修態度などにより総合的に評価する</li> <li>・評価対象、評価方法、配点比率、欠格条件など評価に関わる詳細は講義内で説明する</li> <li>・欠席回数が4回以上になった場合、1回につき10点減点とする</li> <li>・欠席による減点方法の詳細も講義内で説明する</li> </ul>					
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の教科書なし</li> <li>・事前にプリントデータを渡すので、印刷し講義に持参する</li> </ul>					
【参考書】	必要に応じて、講義中に適宜、紹介する					
【備考】	アクティブラーニングでの積極性、グループワークでの協調性が必要となる または、それらを身につけるチャンスとなる講義である					
【旧カリキュラム 読み替え科目】	なし					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可 但し、日本人学生とのディスカッションが可能な日本語能力が必要である



【科目名】	異文化コミュニケーション	Intercultural Communication		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	*高畑 幸			
【担当教員】	*高畑 幸			
【授業目標】				
●授業目的	異文化コミュニケーションに関する基礎概念を理解する。			
●到達目標	人間が育った文化的背景により形成されるコミュニケーション行動の特徴について理解を深め、異文化コミュニケーションが持つ意味を考察する。英語をはじめとする外国語が使われている国や地域の歴史、社会、文化についても理解を深める。			
【授業概要】	テーマ:異文化コミュニケーション 異文化コミュニケーションの基礎概念、自己アイデンティティ、文化、異文化障壁、言語・非言語コミュニケーション、カルチャーショック等に関する講義を行う。そして、受講生による事例研究報告をしてもらう。			
【授業方法】	講義と授業中のグループ討議、報告等を組みあわせて行う。 基本的に対面で行う。			
【準備学習】				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化コミュニケーションを学ぶ目的と意義</li> <li>2. 異文化コミュニケーションの基礎概念</li> <li>3. 自己とアイデンティティ</li> <li>4. 異文化コミュニケーションの障壁</li> <li>5. 深層文化の研究</li> <li>6. 映画で見る異文化コミュニケーション</li> <li>7. 言語コミュニケーション</li> <li>8. 非言語コミュニケーション</li> <li>9. カルチャーショックと適応のプロセス</li> <li>10. 対人コミュニケーション</li> <li>11. ドキュメンタリーで見る異文化コミュニケーション</li> <li>12. 異文化コミュニケーション・トレーニングの実践</li> <li>13. 受講生による事例研究報告(1)</li> <li>14. 受講生による事例研究報告(2)</li> <li>15. 受講生による事例研究報告(3)</li> </ol>			
【履修条件】	特になし			
【評価方法】	授業への参加(発言、報告、グループ討議)50%、レポート50%。			
【テキスト】	石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人、2013、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書。 *本書をもとに作成したレジメを毎回配布します。レジメだけでも授業は理解できますが、自分でさらに学びたい人は本書を購入してください。			
【参考書】	池田理知子編著、2010、『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房。			
【備考】	外資系企業での勤務経験(3年)と法廷通訳経験(日本語・フィリピン語、29年間で約500件)を持つ教員が、言葉や文化が違う人びととのコミュニケーションの困難さとそれを克服する方法について具体例を用いて講義を行うことにより、受講生の理解度が高まるようにします。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	受 入 れ 可 能	【科目等履修生】	受入れ可能	【交換留学生】

【科目名】	観光人類学	Anthropology of Tourism		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	川崎一平			
【担当教員】				
【授業目標】				
●授業目的	本授業の目的は、人類の「観光」現象に関わる多様な行為、態度、そして意識、価値や考え方について、社会人類学的視点から理解を深めることができるようになることである。現代社会において、観光は商業的価値を生み出すばかりではなく、ホスト/ゲストという社会的関係を構築し、またそれに伴う新たな社会的価値や生活スタイルを誕生させている。ここでは、1990年代以降の人類学における観光研究の変容を概観しつつ、観光現象を経済・社会関係・生活様式にまたがる広範な領域に関連づけ、文化の問題としてその社会的インパクトを理解できるようにしていく。			
●到達目標	文化・社会人類学の基本的な視点について理解できるようになる。そのうえで、「観光現象」に関わる文化・社会人類学の問題意識と対象について理解を深め、観光に関わる今日の社会現象について知見を述べることができるようにする。			
【授業概要】	社会(文化)人類学は、異文化異社会を対象(フィールド)として、当該社会に生起する森羅万象から当事者の論理や考え方を解明しようとしてきた。そのトピックは親族研究、社会組織、神話儀礼など多岐に渡ってきたが、今日のグローバル化、科学技術・情報技術の進展による大きな社会的変化を前にして、現代的現象をも扱うようになった。本授業では、担当者自身のフィールドワークに基づいて、パプアニューギニア、インドネシア、沖縄・奄美、和歌山県熊野地方、小笠原島での「観光現象」をテーマとして、社会人類学の理解を深めていきたい。			
【授業方法】	初回を除き、授業各回の初めに前回の復習を行う。前回授業の内容について、履修者は回答できるようにしておくこと。また授業ではパワーポイント資料を用いるが、資料は配信する予定なので適宜活用すること。毎回授業の終わりには「ミニツッパーパー」にて、授業内容の確認と質問を記入、回収する。質問への回答は、翌週の授業においてフィールドバックする。教科書はなし、参考書等は授業内で紹介する。			
【準備学習】				
【授業展開】	第1回 オリエンテーション: 授業の目的、内容、方法、評価等の留意事項。 第2回 社会人類学とは: 対象と方法、もの/ことの捉え方、問題意識について 第3回 観光現象を人類学する: 人類の移動、旅、観光 第4回 観光人類学の射程: 文化の商品化、ホスト・ゲスト論、観光文化の誕生 第5回 秘境観光「カニバルツアー」: パプアニューギニアの観光現象とその問題 第6回 未開の観光とエコツーリズム: パプアニューギニアの観光開発 第7回 観光開発の影響: パプアニューギニアのエスニックグループ化 第8回 観光文化とジェンダー: パプアニューギニア女性の社会文化運動 第9回 自然と文化の客体論: パプアニューギニアの環境・開発・観光 第10回 観光文化の担い手たち: セビックに生きるツアーガイドの生き方 第11回 文化は誰のものなのか: 沖縄・南西諸島の観光文化とその主体 第12回 非観光と社会変化: 奄美群島における年中行事の継続と観光 第13回 聖地巡礼の観光開発: メディアと観光。コンテンツ・ツーリズムを考える 第14回 環境・開発・観光: スマート社会の「観光」と「まなざし」 第15回 まとめ 課題提出			
【履修条件】	履修条件は、なし。			
【評価方法】	中間の小レポート 50%、まとめのレポート 50%。出席は評価点とはしない。			
【テキスト】	なし			
【参考書】	授業において示す			
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】

【科目名】	経営情報特別講義D(地域金融論)	Special Lecture in Management and Information D
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度後期
【科目責任者】		
【担当教員】	*八木 真樹 他	
【授業目標】		
●授業目的	「大学の授業は実利社会でどう活かされているか」をテーマに、あらゆる業種と接点のある銀行員を通して学生の皆さんにリアルな実利社会を一足先に覗き見てもらい、静岡県の経済や企業、またそれに関わる地域金融機関の役割や地域企業との関わりについて理解を深めることを目的とする。地域金融論だけでなく、就職活動を取り巻く環境や世の中の経済情勢などについても取り上げ、学生の皆さんが自信を持って実利社会に進み行くことができるようになることも目的とする。	
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから社会で活躍する学生の皆さんが関わる社会・企業がどのようなものであるか理解する。</li> <li>・銀行員の視点から行う財務分析などにより、企業と会計の関わりを理解する。</li> <li>・社会の変化に伴う金融機関の新しい業務や取り組みについて知る。</li> </ul>	
【授業概要】	<p>清水銀行グループの役職員が講義を担当し、「大学の授業は実利社会でどう活かされているか」をテーマに、学生の皆さんに一足先に社会を覗き見てもらう講義を提供します。</p> <p>最近時の経済環境や業種毎の特徴、企業のライフステージに応じた経営改善支援、銀行員による決算書の見方等、学生の皆さんが大学で学んでいる会計学が実利社会でどう活かされているのかをイメージしていただきます。SDGs や脱炭素への取り組み、DX、キャッシュレス、女性活躍等、今、実際に世の中や地域金融機関で起こっていることやその変化について事例をもとに講義</p>	
【授業方法】	<p>対面での講義形式を予定しています。</p> <p>ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、講義形式を変更する可能性があります。</p>	
【準備学習】		
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講挨拶、銀行の仕事と役割 ～大学の授業は実利社会でどう活かされているか これから学ぶことの全体像を見てみましょう～</li> <li>2. 世の中にはどんな業種があるか ～過去、現在の経済環境を踏まえて～</li> <li>3. 就活応援講座</li> <li>4. 新たな社会の課題と未来社会を見据えた地方銀行の取り組み ～新しい資本主義、SDGs、脱炭素、DX、キャッシュレス、美術展・富士山静岡交響楽団への協賛、エスパルスの後援～</li> <li>5. 金融経済教室① 「今から始める資産形成～お金にも働いてもらおう～」</li> <li>6. お客さまの未来をともに考える地方銀行のサポート ～決算書の見方と財務分析～</li> <li>7. お客さまの未来をともに考える地方銀行のサポート ～企業のライフステージとステージ毎の経営改善支援～</li> <li>8. 地域のお客さまの未来を共創する地方銀行のサポート 「海外進出支援」</li> <li>9. 地域のお客さまの未来を共創する地方銀行のサポート 「事業承継・M&amp;A」「医療・介護」</li> <li>10. 地域のお客さまの未来を共創する地方銀行のサポート 「販路開拓支援」「公的補助金制度の活用支援」</li> <li>11. 地域のサステナブルな成長を支える「女性活躍」</li> <li>12. 社会で SHINKA する県大卒業生 「先輩による社会人講座」</li> <li>13. 金融経済教室② 「今から始める資産形成～人生を長く楽しく生きるために～」</li> <li>14. 経営層講話</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
【履修条件】	特に無し	
【評価方法】	講義への取り組み及び修了試験にて評価します。	
【テキスト】	授業実施時に資料を配布し、資料に沿って講義を行います。	

【参考書】	清水銀行・静岡県立大学編(2020)、『人<財>こそが、地域の礎』、静岡新聞社ほか、各回の担当講師が紹介する場合があります。			
【備考】	清水銀行グループの現役従業員が、その知識や経験を活かし、事例を交えた講義を行います。			
【旧カリキュラム 読み替え科目】	旧カリキュラムの学生は受講できません。			
【社会人聴講生】	【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	アドバンスト・イングリッシュA	Advanced English A
【配当年次】	3年	【開講時期】 2024年度前期
【科目責任者】	堀内 裕晃	
【担当教員】	堀内 裕晃	
【授業目標】		
●授業目的	<p>この授業では主として英語で自分の意見を的確に表現する練習をします。また、適宜英文を的確に要約する練習も行います。的確な要約や意見表明には技を必要としますが、その技の習得を授業の目的とします。英語での要約や意見表明の技は、日本語での要約、議論、プレゼンテーションの際にも役立ちます。ぜひ英語力同様日本語力もアップして、豊かな言語知識と言語使用力を培ってもらえればと思っています。</p> <p>扱う英文はアカデミックな内容ですが、極度に専門化されたものではなく、教養としても役立つものです。グローバルな問題、国際情勢、社会、文化、歴史、経済・経営等、受講生のみなさんの興味・関心も聞きながら進めていこうと思っています。みなさんの教養力のアップも目的の視野に入っています。</p> <p>英語で自分の意見を的確に表現するための練習では、英語表現のバリエーションと英文の論理的な展開に注意しながら、表現のための技を学習していきます。この技を学習することで、英語を書く時だけでなく、読む時も英語表現や英文の展開を意識するようになります。そのように英文に接することで英語を書く力がますます強化されます。</p> <p>これまで培ってきた英語力に基づき、英語の受信力と発信力を高めたいと思っています。日本語力のアップも相乗効果的な狙いと考えていますので、社会人になってからも、資料の要約やプレゼンテーションにも活かすことのできるような内容を考えています。</p>	
●到達目標	<p>①英文パッセージの内容に対して、自分の意見を英語で的確に表現できるようになること。</p> <p>②英文パッセージの内容と構成を正確に理解し、的確な要約ができるようになること。</p>	
【授業概要】	<p>これまでの英語の授業で培った英語力を土台にして、自分の意見を英語で表現する際の技を勉強していきます。その際、(1)語彙力、(2)基本的な構文・文法を的確に使いこなす力、(3)英文の展開力・構成力のさらなる強化が必要ですので、これらを演習を通じて強化していきます。英文の的確な要約という点では、英文全体の正確な内容理解とどこを重視して要約していくかの見極めが重要になりますので、これらを演習を通じて強化していきます。</p> <p>扱う英文はアカデミックな内容ですが、極度に専門化されたものではなく、教養としても役立つもの</p>	
【授業方法】	教科書とプリント教材を用いて演習方式で進めます。	
【準備学習】		
【授業展開】	<p>各回の基本的な授業展開は以下の通りです。1つのUnitが1回で終わりきらない時は2回にまたがって行います。</p> <p>①教科書やプリント教材を用いて、英文の内容に対する自分の意見を述べる練習をします。テキストに書かれている技に沿って、各人の意見をまずメモ的にまとめて、それをどのように構造化するかということを考えながら意見文を書く練習をします。この練習の繰り返しで意見文を書く技を習得していきます。</p> <p>②適宜英文を要約するためのどの部分に注意したらよいかということに集中しながら、要約をしていきます。この練習の繰り返しで要約の技を習得していきます。</p>	
【履修条件】	1、2年生配当の英語4科目計8単位の単位をすべて取得した学生に限ります。TOEICスコアは600点以上であるのが望ましいですが、それ以下でも意欲のある人は歓迎します。	
【評価方法】	授業時に取り組む課題評価(70%)、期末試験(30%)。	
【テキスト】	Academic Writing Strategies、中谷安男(著)、金星堂。	
【参考書】	『英文解釈要約精講』、峯村純一郎・竹内一誠・相原仁郎(著)、開拓社。	
【備考】		
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	不	可
【科目等履修生】		
【交換留学生】		

【科目名】	アドバンスト・イングリッシュB	Advanced English B		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	堀内 裕晃			
【担当教員】	堀内 裕晃			
【授業目標】				
●授業目的	<p>この授業では前期に引き続き主として英語で自分の意見を的確に表現する練習をします。また、適宜英文を的確に要約する練習も行います。的確な要約や意見表明には技を必要としますが、その技の習得を授業の目的とします。英語での要約や意見表明の技は、日本語での要約、議論、プレゼンテーションの際にも役立ちます。ぜひ英語力同様日本語力もアップして、豊かな言語知識と言語使用力を培ってもらえればと思っています。</p> <p>扱う英文はアカデミックな内容ですが、極度に専門化されたものではなく、教養としても役立つものです。グローバルな問題、国際情勢、社会、文化、歴史、経済・経営等、受講生のみなさんの興味・関心も聞きながら進めていこうと思っています。みなさんの教養力のアップも目的の視野に入っています。</p> <p>英語で自分の意見を的確に表現するための練習では、英語表現のバリエーションと英文の論理的な展開に注意しながら、表現のための技を学習していきます。この技を学習することで、英語を書く時だけでなく、読む時も英語表現や英文の展開を意識するようになります。そのように英文に接することで英語を書く力がますます強化されます。</p> <p>これまで培ってきた英語力に基づき、英語の受信力と発信力を高めたいと思っています。日本語力のアップも相乗効果的な狙いと考えていますので、社会人になってからも、資料の要約やプレゼンテーションにも活かすことのできるような内容を考えています。</p>			
●到達目標	<p>①英文パッセージの内容に対して、自分の意見を英語で的確に表現できるようになること。</p> <p>②英文パッセージの内容と構成を正確に理解し、的確な要約ができるようになること。</p>			
【授業概要】	<p>これまでの英語の授業で培った英語力を土台にして、自分の意見を英語で表現する際の技を勉強していきます。その際、(1)語彙力、(2)基本的な構文・文法を的確に使いこなす力、(3)英文の展開力・構成力のさらなる強化が必要ですので、これらを演習を通じて強化していきます。英文の的確な要約という点では、英文全体の正確な内容理解とどこを重視して要約していくかの見極めが重要になりますので、これらを演習を通じて強化していきます。</p> <p>扱う英文はアカデミックな内容ですが、極度に専門化されたものではなく、教養としても役立つもの</p>			
【授業方法】	教科書とプリント教材を用いて演習方式で進めます。			
【準備学習】				
【授業展開】	<p>各回の基本的な授業展開は以下の通りです。1つのUnitが1回で終わりきらない時は2回にまたがって行います。</p> <p>①教科書やプリント教材を用いて、英文の内容に対する自分の意見を述べる練習をします。テキストに書かれている技に沿って、各人の意見をまずメモ的にまとめて、それをどのように構造化するかということを考えながら意見文を書く練習をします。この練習の繰り返しで意見文を書く技を習得していきます。</p> <p>②適宜英文を要約するためのどの部分に注意したらよいかということに集中しながら、要約をしていきます。この練習の繰り返しで要約の技を習得していきます。</p>			
【履修条件】	1、2年生配当の英語4科目計8単位の単位をすべて取得した学生に限ります。TOEICスコアは600点以上であるのが望ましいですが、それ以下でも意欲のある人は歓迎します。			
【評価方法】	授業時に取り組む課題評価(70%)、期末試験(30%)。			
【テキスト】	Academic Writing Strategies、中谷安男(著)、金星堂。			
【参考書】	『英文解釈要約精講』、峯村純一郎・竹内一誠・相原仁郎(著)、開拓社。			
【備考】				
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	【交換留学生】

【科目名】	教育原理A	The Essentials of Education A			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	角替弘規				
【担当教員】	角替弘規				
【授業目標】					
●授業目的	教育とは人が社会の中に生れ落ちて人間としての生活を営んでいくうえで決して欠くことのできない重要な社会的営みである。この授業では教育という社会的営みがどのような場で行われ、誰がどのように考えそこに関わってきたのか、時代や社会の文脈に沿いながら考察する。さらに今日の教育の在り方を考える際に欠かせない近代学校教育の成立と、それを背後から支えた近代的子ども観の成立について理解を深め、今後の生涯学習社会を展望する。				
●到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。				
【授業概要】	人間社会の進展とともに教育のあり方も変化してきた。特に今日の教育のあり方は近代社会の成立と密接なかわりを持っている。この講義では、人間社会の進展の経緯と教育のあり方を概観するとともに、特に近代学校教育の展開に注目し、その意義を明らかにする。また、公教育のあり方についても検討する。				
【授業方法】	講義				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回:「教育」とはいかなる営みか 第2回:教育を支える思想の潮流 第3回:欧米における教育の歴史－近代公教育の成立まで 第4回:日本における教育の歴史(1)－学校と教育の近代化 第5回:日本における教育の歴史(2)－戦後教育改革以降の教育 第6回:教育課程とカリキュラム・マネジメント 第7回:子どもの権利条約と日本の学校教育 第8回:教育の公共性 第9回:教育の機会均等 第10回:子どもの貧困と教育 第11回:社会的養護によって育つ子どもの教育 第12回:外国につながる子ども 第13回:多様な性を生きる子ども 第14回:人口減少社会と生涯学習 第15回:まとめ 教育と社会のこれからを展望する				
【履修条件】	原則として教員免許の取得を目指す学生であること。				
【評価方法】	原則として3分の2以上の出席が必要。 課題提出及び筆記試験にて評価し、60点以上で合格とする(学則通り)。				
【テキスト】	藤田由美子・谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理 多様性と新たなるつながりの地平へ』学文社				
【参考書】	適宜指示する。				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	不	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	教育原理B	The Essentials of EducationB	
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度前期
【科目責任者】	飯田浩之		
【担当教員】	飯田浩之		
【授業目標】			
●授業目的	<p>「教育」なるものは何か、「教育」なるものは何を基盤に成り立っているのかを理念的・思想的に学ぶとともに、その具体的な様相を歴史のなかに探り、その先にある現代の教育問題・教育課題について理解・考察する力を身につける。以て、教職に就く者としての構えを形成する。</p> <p>・テーマ:教育なるものの成り立ちと現代の教育問題・教育課題 －その理念・思想的理解と歴史的探究－</p>		
●到達目標	<p>(1)現実の教育問題・教育課題に目を向けるとともに、それを「他人の事」としてではなく「自分の事」として受け止めて考える力や構えを身につける。</p> <p>(2)(1)をベースに、「教育」という営みの本質や成立要件等、「教育の原理」について自ら学び、考える意欲・関心・態度を身につける。</p> <p>(3)身につけた意欲・関心・態度をもとに、先人たちが教育についてどのように考えてきたのか、教育という営みをどのように形づくってきたのかを知識として理解する。</p> <p>(4)理解した知識を使って自分なりに「教育」という営みがどのような営みで</p>		
【授業概要】	<p>(1)「教育」なるものの普遍的な側面と個別的な側面に目を止めつつ、「教育」とは、どのような営みであるのかを考え、理解する。</p> <p>(2)「教育」なる営みが成り立つためには何が必要かを、様々な角度から考え、理解する。</p> <p>(3)(2)で考え、理解したことを踏まえて、教育の歴史について、特に「近代」に焦点を合わせて学ぶとともに、歴史を踏まえて、現代の教育問題・教育課題について考察する。</p> <p>(4)「教育」なるものを支える「子ども」「家族」「学校」についての見方や考え方を、先人たちの見方や考え方を踏まえつつ理念的・思想</p>		
【授業方法】	配布する資料(文献)を読み進めながら講義形式で授業を進めます。説明のために図表などを板書することもあります。基本は講義形式ですが、そのなかで質疑応答を交えたり相互に意見交換を行ったり、履修者の積極的な参加を求めながら双方向的に授業を行います。		
【準備学習】			
【授業展開】	<p>第1回:「教育」なるものの営みの普遍性と個別性－「教育」とはいかなる営みか－</p> <p>第2回:教育に関する必要と要求－教育の成立要件(1)－</p> <p>第3回:教育に関する期待と希望－教育の成立要件(2)－</p> <p>第4回:教育に関する制度と組織－教育の成立要件(3)－</p> <p>第5回:教育に関する物的・人的環境－教育の成立要件(4)－</p> <p>第6回:近代社会成立前の教育－子ども・家族・学校の歴史(1)－</p> <p>第7回:近代社会の成立と教育－子ども・家族・学校の歴史(2)－</p> <p>第8回:近代社会の発展と教育－子ども・家族・学校の歴史(3)－</p> <p>第9回:近代社会の変質と教育－子ども・家族・学校の歴史(4)－</p> <p>第10回:歴史的にみた現代の教育問題・教育課題－「近代社会」「近代教育」の相対化－</p> <p>第11回:「子ども」について見方・考え方－教育の理念・思想と現実(1)</p> <p>第12回:「家族」について見方・考え方－教育の理念・思想と現実(2)</p> <p>第13回:「学校」について見方・考え方－教育の理念・思想と現実(3)</p> <p>第14回:理念・思想からみた現代の教育問題・教育課題－「分化・多様化 VS.統合」「卓越 VS.平等」「社会化 VS.個性化」をめぐって－</p> <p>第15回:まとめ:教育の問題解決、課題達成に向けて－教育と社会のこれからを展望する－ 定期試験は実施しない。</p>		
【履修条件】	「教職科目」であることの意味をよく考え、「教職」とのつながりを重視して履修してください。		
【評価方法】	授業終了時に課題として課す「課題レポート」により評価する。授業への取り組みも評価する。		
【テキスト】	テキストは使用しない。必要な資料(文献)は事前に電子ファイルでお渡しして、それぞれでプリントしていただきます。資料はかなりの量になります。パソコン等の画面で見ての対応は不可能ですので、プリントアウトして授業に臨んでください。		
【参考書】	新井保幸編著『教育基礎学』培風館、2010年		
【備考】	・配布する資料(文献)を読み進めながら、資料に書かれていることについて私が解説したり補足したりしながら授		



	<p>業を進めます。説明のために図表などを板書することもあります。基本は講義形式ですが、そのなかで履修者の皆さんに意見を求めたり、皆さんで相互に意見交換をしていただいたりしたいと思います。質問や問題の提起も、適宜、受け付けます。履修者の皆さんの積極的な参加を求めながら双方向的に授業を行いたいと思っていますので、受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で受講するようお願いいたします。そのためにも、【準備学習】をしてください。</p> <p>・授業では、資料(文献)に拠りつつも、資料に書かれていることを超えて話をします。話のなかで、私自身の「教育」についての見方や考え方、いわば「私の“教育原理”」のようなものもお示しします。「教育」についての見方や考え方が決して一つではないことを前提にしながら授業を進め、そのなかで履修者の皆さんが「教育」についてどのように見て、どのように考えるかを問いたいと思っていますので、皆さんも逆に私に問いかけるような姿勢で授業に臨んでいただければと思っています。</p>				
【旧カリキュラム 読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受入を可としますが、「教職科目」であることを承知のうえ、履修してください。	【科目等履修生】	受入を可としますが、「教職科目」であることを前提に履修してください。	【交換留学生】	受入を可としますが、「教職科目」ですので授業は教員免許の取得を目的とする履修者を中心に進めます。

【科目名】	教師論	Studies on the Teacher			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	中村 真二				
【担当教員】	中村 真二				
【授業目標】					
●授業目的	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身につけ、教職への意欲を高めること。				
●到達目標	今日の学校教育の現状と課題を把握でき、今日そして今後求められる教員の役割や在り方、また資質や能力について自らの見解を持つ。 そして、一つの職業、あるいは進路としての教職への、自らの適性について熟考する。				
【授業概要】	吉田松陰など古来からの優れた教育者と現在の教師を具体的に取り上げ、実例を通して教師論に入っていく。教師をとりまく諸条件(教育関係法規、学校組織等)などの基礎知識は講義にて実施するが、グループ別の研究討議も行い、学生に自分自身の教師像を考究させる。				
【授業方法】	対面で実施。ただし、感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。 講義及びグループに分かれての研究討議により授業をすすめる。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回:はじめに＝序論「教育という職業は存在するか」 第2回:我が国の教育者 第3回:講師の聖職性 第4回:現代教師論 第5回:我が国の学校制度と教師 第6回:学校組織の中の教師 第7回:教育法規と教師 第8回:人事・給与と教師 第9回:危機管理と教師 第10回:研修と教師 第11回:教師の守備範囲 第12回:生徒・保護者と教師 第13回:職業としての教師 第14回:生徒と教師の関係論 第15回:まとめ 定期試験				
【履修条件】	教職受講者				
【評価方法】	授業への取り組みと提出課題等を総合して評価する。				
【テキスト】					
【参考書】					
【備考】	教職課程 教員養成 採用試験 専門職  感染症拡大状況などにより授業方法に変更の可能性がある。 授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。  教員の変更により、内容が変更となる場合がある。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	教育課程・特別活動論	Study on Curriculum and Extra Curricular Activities		
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期	
【科目責任者】	吉澤 勝治			
【担当教員】	吉澤 勝治			
【授業目標】				
●授業目的	教育課程と特にその一領域である特別活動の意義と目標を把握し、内容の取扱いや指導計画の作成と指導の在り方について学びながら、教員としての取り組みに必要な資質と指導力の習得を図るとともに、教員採用試験の関係分野対応力を育成する。			
●到達目標	学校教育活動の全体像を把握し、教職任務の基本を理解して、生徒指導力の定着へ向けた研鑽をしながら、教員採用試験の関係分野対応力を具える。			
【授業概要】	学校の教育活動内容や方法に関する計画的・組織的な全体計画である教育課程の編成基準となる学習指導要領の主旨理解に努めるとともに、教科活動と並んで学校生活を充実させ豊かな人間性・社会性の育成を目指す特別活動を多面的に捉え、諸活動の理解深化と実践の基本を習得する。			
【授業方法】	理論的理解を基本として、関連する具体的問題への対応力を習得し、教職観の確立を図りつつ、テキストの内容に関する設問に対応した受講者の回答・演習等を対面方式により展開して、実践力の向上を図る。なお、今後の状況により、レポート提出を主とする方式に変更する可能性がある。			
【準備学習】				
【授業展開】	<p>授業計画：</p> <p>第1回：講義展開の方法について理解し、教育課程・特別活動の位置づけを確認・演習する。</p> <p>第2回：海外特に米国とわが国の「カリキュラム・教育課程」の枠組みの特徴を比較考察する。</p> <p>第3回：教育課程・特別活動の意義、定義、目的を理解し、学習指導要領との関連を把握する。</p> <p>第4回：学習指導要領に関する法制とその変遷を辿って、同要領の重要性を認識する。</p> <p>第5回：学習指導要領の変遷における骨格を理解して、同要領の時代性に着目する。</p> <p>第6回：学習指導要領に由来する教育課程の諸基準に関する認識を深める。</p> <p>第7回：学習指導要領総則に関する解説を読解して、教育活動を進める要諦を学習する。</p> <p>第8回：教育課程編成の一般方針を学び、要点を把握する。</p> <p>第9回：各教科・科目の履修単位に関する規定を概観し、運用法を習得する。</p> <p>第10回：教育課程の編成に際する主要な配慮事項を学び、実践力の基礎を培う。</p> <p>第11回：特別活動の三分野を概観し、具体的展開も含めてそれぞれの意義把握を深める。</p> <p>第12回：特別活動の現状と課題を把握し、家庭や地域などとの連携の在り方を考察する。</p> <p>第13回：特別活動に関する指導計画策定の意義を確認し、具体的展開を演習する。</p> <p>第14回：教育課程・特別活動に関する評価の基本を理解する。</p> <p>第15回：講義の各解説や各回指示の諸資料に関する補説を通して、総括を図る。</p>			
【履修条件】	教職課程履修者を対象とする。			
【評価方法】	定期筆記試験の結果及び毎時の受講状況を総合判定して評価する。 なお、「授業方法」に変更のある場合には、(レポート等)別途指示・案内をする。			
【テキスト】	1「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説『総則編』」(文部科学省) 2「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説『特別活動編』」(文部科学省)			
【参考書】	教育関連特殊時事問題(新聞記事等)の適宜紹介			
【備考】	高校関連教職経験から、教育活動の基本を成す「教育課程」の理論を踏まえてその活用に努めた実績を活かし、教職志望者にその要諦を示して実践力の定着を図る。 教員の変更により、内容が変更となる場合がある。			
【旧カリキュラム読み替え科目】				
【社会人聴講生】	教職課程履修希望者に限り、履修の可否につき面談対応する。	【科目等履修生】	教職課程に深い関心を寄せる学生に限り、履修如何につき面談対応する。	【交換留学生】

【科目名】	教育における情報通信技術の活用	Utilization of ICT in education			
【配当年次】	2年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭				
【授業目標】					
●授業目的	教育における情報通信技術活用の意義を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について学ぶ。また、情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。				
●到達目標	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、校務における情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、児童及び生徒への情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法についての理解を深め、関連する基礎的な知識・技能を習得する。				
【授業概要】	学習指導や校務における情報通信技術活用の意義を理解するとともに、情報通信技術を効果的に活用するための基礎的な知識・技能を身に付けるために、関連する理論や方法、情報技術活用の事例などについて学ぶ。また、児童及び生徒を対象とした情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導の進め方を理解し、授業事例についての学びや関連する演習を通して、指導のための基礎的な知識・技能を身に付ける。座学だけではなく、パソコン等を使った実習や演習も積極的に取り入れる。				
【授業方法】	対面で授業を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。講義を中心として授業をすすめるが、必要に応じてパソコンなどを使った実習や演習も実施する。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回:情報通信技術の進展と社会での活用 第2回:教育における情報通信技術活用の意義と理論 第3回:教育における情報通信技術活用の事例 第4回:情報通信技術を効果的に活用した学習指導 第5回:校務における効果的な情報通信技術の活用 第6回:情報モラルと情報活用能力を育成するための指導法 第7回:情報モラルと情報活用能力の育成の指導事例・演習 第8回:まとめ				
【履修条件】	教職課程受講生				
【評価方法】	授業終了時に課題として課す「レポート」などにより評価する。授業への取組みも評価に加える。				
【テキスト】	教科書は使用しないで、必要な資料はプリントして配布する。				
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の情報化に関する手引 - 追補版 - (令和2年6月)」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html</a></li> <li>・「スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びにむかう 情報モラルの授業」?今度珠美, 稲垣俊介 (日本標準)</li> <li>・情報化社会の新たな問題を考えるための教材&lt;児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き&gt; <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm</a></li> </ul>				
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】	受入不可				
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	生徒指導・進路指導論	Student Guidance			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度前期		
【科目責任者】	中村 真二				
【担当教員】	中村 真二				
【授業目標】					
●授業目的	組織的に生徒指導(進路指導)を進めていくために必要な知識、技能や素養を身につける。				
●到達目標	生徒指導の原理、進路指導・職業指導の理論と方法を学ぶ。				
【授業概要】	生徒指導(進路指導)の意義や原理を理解するとともに、すべての生徒を対象とした指導の進め方を理解し、あわせて生徒が抱える個別の課題への指導の進め方についても理解する。				
【授業方法】	対面で実施。ただし、感染症拡大の影響により、オンラインに切り替える可能性がある。 講義が中心になるが、全体あるいはグループに分かれての研究討議を随時行い、学生の主体的な姿勢を確立させたい。				
【準備学習】					
【授業展開】	第1回:生徒指導の意義と原理 第2回:教育課程における生徒指導の位置づけ 第3回:各教科、道徳教育などにおける生徒指導の意義 第4回:集団指導・個別指導の方法原理 第5回:生徒指導体制と教育相談体制 第6回:学校における生徒指導体制 第7回:基本的な生活習慣と校内規律 第8回:生徒理解 第9回:生徒指導に関する法制度 第10回:個別の課題 第11回:関係機関との連携 第12回:進路指導・キャリア教育の意義と原理 第13回:すべての生徒を対象とした進路指導のあり方 第14回:個別の進路指導のあり方 第15回:まとめ 定期試験				
【履修条件】	教職受講者				
【評価方法】	授業への取り組みと提出課題等を総合して評価する。				
【テキスト】	適宜指示する。				
【参考書】	「解説教育六法 2016年度版」三省堂				
【備考】	教員の変更により、内容が変更となる場合がある。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	教職実践演習(高)	Seminar on Education Practices			
【配当年次】	4年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭、鈴木直義				
【授業目標】					
●授業目的	これまでに身につけた資質能力が、教員として最小限必要なものとして形成されているかを最終的に確認する。将来、教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。				
●到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習体験や講義をもとに教育現場の現状を適切に把握し、問題点を抽出する力、それらを理解し解決する力を養い、教育・支援の最前線に立つ担当者としての実践的能力と意欲の確立を図る。</li> <li>2. 信頼される人間関係、相互協力の関係を構築するためのコミュニケーション能力と専門的知識・技能を養う。</li> <li>3. 教員として求められる基礎的な能力や知識の確認とそれらを総合的に活用する方法を実践させ確認する。</li> </ol>				
【授業概要】	教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教育内容等の指導力などに関する事項について、組織経営や人間関係構築の視点から、グループ討議、事例研究、模擬授業(授業設計)やフィールドワーク(学校現場等の見学・調査)などの方法を取り入れながら研究し授業を行う。				
【授業方法】	<p>各回の授業は教職についての実践を念頭に置いて、適宜テーマに最適な外部講師をお招きして、講義や実習・演習をバランスよく組み合わせて実施する。</p> <p>学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握するための履修カルテを作成し、それを踏まえた指導を行う。</p> <p>感染症拡大の状況によっては、Zoomを使ってオンラインで授業を実施する。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>(事前準備作業 自己診断(アンケート)を実施 ※前期終了前(教育実習終了後)にアンケートを実施)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(授業の目的と到達目標の確認、課題の認識とその克服方法の検討)</li> <li>2. 教育実習体験等にもとづく教育現場の状況と課題の確認(取り組むべき課題の明確化)</li> <li>3. 教育現場が抱える課題(講義とグループ討議)(国際関係学部と合同講義)</li> <li>4. 教育現場における教師の役割1(組織・体制、組織経営と組織力、学級作りのポイント)</li> <li>5. 教育現場における教師の役割2(生徒、保護者、地域社会に対する責任、倫理)</li> <li>6. 組織内外における人間関係構築と組織経営(問題解決のためのコーディネート力)</li> <li>7. 人間関係構築のためのトレーニング(グループワークによる実践と自己理解、その解説)</li> <li>8. 教育相談、キャリア支援とそのコミュニケーションスキル</li> <li>9. 教師のストレス・マネジメント(燃えつきないためのメンタル・ケア)</li> <li>10. ICTの授業への導入と学習支援環境構築技術</li> <li>11. 生徒理解(現職教員の講演とグループ討議)</li> <li>12. (最近の教育界の状況を基にした)授業設計と模擬授業1</li> <li>13. (最近の教育界の状況を基にした)授業設計と模擬授業2</li> <li>14. 現職教員とのフリーディスカッション(新たに生まれた疑問等の解決)</li> <li>15. まとめ(目指す教師像と意思決定)</li> </ol> <p>定期試験</p>				
【履修条件】	教職課程の学生のみに開講します。				
【評価方法】	授業の事前事後のレポートと授業中の発言発表や受講に際しての能動性などを総合的に評価する。正当な理由もなく無届けで3回欠席した場合はその時点で受講を放棄したものと見做し、以後の授業への出席を認めず、単位認定もしない。				
【テキスト】	担当教員が授業時に適宜資料等を配布する。				
【参考書】	教育実習ノート、文部科学白書				
【備考】	感染症拡大状況などにより授業方法に変更の可能性がある。授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	数学科教育法 I	Teaching Method of Mathematics I			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	坂本 正彦				
【担当教員】	坂本 正彦				
【授業目標】					
●授業目的	(1) 高等学校数学科の目標、指導内容についての基本的なことについての理解と習得できる (2) 高等学校数学科の目標を達成するための教材分析・評価ができる (3) 高等学校数学科の目標を達成するための新たな教材を開発できる視点をもつことができる (4) 高等学校数学科の目標を達成するための授業を実践できる力を身につけることができる (5) 高等学校数学科の目標を達成するための指導案が作成できる				
●到達目標	(1) 高等学校数学科の目標、指導内容について理解し、授業設計に具体化できる (2) 高等学校数学科の教材を分析・評価したり、新たな教材を開発し、学習指導に反映できる (3) 高等学校数学科の授業のつくり方を理解し、それに基づいて実践するときの留意点を把握する (4) 4年次の教育実習に向けた教材研究が行える				
【授業概要】	数学科教育法 I では、上記授業目標のうち(1)、(2)にウェイトをおく。 高等学校数学科の教育目的や教育目標に示された数学的活動と数学的な見方・考え方について学び、それをどのように実際の授業で実現していくのかについて考察する。 後期科目である数学科教育法 II では、具体的な指導案作成を行うので、そのことを念頭に置いて、数学科の 4 領域それぞれにおいて、幾つかの単元を取り上げ、それぞれにおいてどのような授業が目指されるべきかについて検討する。 問題発見・解決の過程を重視した教材の選択や、新たな教材の開発を試み				
【授業方法】	講義とともに、課題を設定して学生とともにディスカッションを行い、よりよい結論を得ると同時に、どのような根拠によって結論に至ったのかについて明らかにしていく。				
【準備学習】					
【授業展開】	1. 数学教育の目的と目標 2. 算数・数学科における小学校・中学校・高等学校のカリキュラム 3. 高等学校数学科の指導内容と教材〈数と式〉(1) 4. 高等学校数学科の指導内容と教材〈数と式〉(2) 5. 高等学校数学科の指導内容と教材〈関数〉(1) 6. 高等学校数学科の指導内容と教材〈関数〉(2) 7. 高等学校数学科の指導内容と教材〈幾何〉(1) 8. 高等学校数学科の指導内容と教材〈幾何〉(2) 9. 高等学校数学科の指導内容と教材〈確率・統計〉(1) 10. 高等学校数学科の指導内容と教材〈確率・統計〉(2) 11. ICT の効果的な活用(1) 12. ICT の効果的な活用(2) 13. 数学科における試験と評価(1) 14. 数学科における試験と評価(2) 15. 数学教育の課題と展望 上記の内容は、一般的といえる数学科教授法の内容にまとめてあるが、受講者の関心に応じて、内容の入れ替え、変更も考えている。初回の授業で何を学びたいか、何ができるようになりたいかについての聞き取りを行い、できるだけ受講者の希望が活かせるような内容構成にしていく予定である。				
【履修条件】	高等学校の数学科教員免許状を取得しようとしていること。				
【評価方法】	授業への出席、レポート、授業中の活動、振り返りシートの提出状況によって評価する。				
【テキスト】	高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編 文部科学省 著 学校図書発行 高等学校数学科教科書(数学 I, II, III, A, B で、受講者自身が使ったもので良い)				
【参考書】	(復刻版)算数・数学教育と数学的な考え方, 中島健三著, 東洋館出版社, ISBN 978-4-491-03130-9 いかにして問題をとくか, G.Polya 著, 柿内賢信訳, 丸善株式会社 ISBN 978-4621045930				
【備考】	受講者の関心に応じて、講義を進めていく上で必要と考えられる参考書は、その都度紹介する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 れ 可 能	【科目等履修生】	受入れ可能	【交換留学生】	受入れ可能

【科目名】	数学科教育法Ⅱ	Teaching Method of Mathematics Ⅱ			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度後期		
【科目責任者】	坂本 正彦				
【担当教員】	坂本 正彦				
【授業目標】					
●授業目的	(1) 高等学校数学科の目標、指導内容についての基本的な理解と習得 (2) 高等学校数学科の教材を分析・評価できる力と、新たな教材を開発できる力の育成 (3) 高等学校数学科の授業を実践するための確かな指導力の育成 (4) 4年次の教育実習に向けた教材研究の方法について理解し、実践できる				
●到達目標	(1) 高等学校数学科の目標、指導内容について理解し、授業設計に具体化できる (2) 高等学校数学科の教材を分析・評価したり、新たな教材を開発し、学習指導に反映できる (3) 高等学校数学科の授業のつくり方を理解し、それに基づいて実践するときの留意点を把握する (4) 4年次の教育実習に向けた教材研究が行える				
【授業概要】	数学科教育法Ⅱでは、上記授業目標のうち(2)、(3)にウェイトをおく。 高等学校数学科の各内容について、指導上の留意点を把握する。 続いて、指導上の留意点を踏まえた上で、効果的な教材や指導展開を検討する。 さらに、学習指導案を作成し、模擬授業を行い、事後検討会で望ましい授業の在り方を考察する。 それらを通して、高等学校数学科教員としての基礎的な資質を養い、教材研究、授業方法等、実践的な知識、技術に習熟できるように授業を展開する。				
【授業方法】	数学教育についての講義とともに、課題を設定して学生とともにディスカッションを行い、よりよい結論を得ると同時に、どのような根拠によって結論に至ったのかについて明らかにしていく。また、講義の終盤では、来年度予定されている教育実習に向けて、具体的な実習を予定している。教育実習にむけて、どのような準備をしていかなければならないかについて、具体的に検討する場面を設けることを予定している。				
【準備学習】					
【授業展開】	1. よい数学の授業とは 2. 高等学校数学科の指導上の留意点<数と式>(1) 3. 高等学校数学科の指導上の留意点<数と式>(2) 4. 高等学校数学科の指導上の留意点<関数>(1) 5. 高等学校数学科の指導上の留意点<関数>(2) 6. 高等学校数学科の指導上の留意点<幾何>(1) 7. 高等学校数学科の指導上の留意点<幾何>(2) 8. 高等学校数学科の指導上の留意点<確率・統計>(1) 9. 高等学校数学科の指導上の留意点<確率・統計>(2) 10. 学習指導案の作成(1) 11. 学習指導案の作成(2) 12. 模擬授業(1) 13. 模擬授業(2) 14. 模擬授業(3) 15. 高等学校数学科における授業改善 受講者の関心に応じて、内容の入れ替え、変更を行う場合もある。 上記の内容は、一般的といえる数学科教授法の内容にまとめてあるが、受講者の関心に応じて、内容の入れ替え、変更も考えている。初回の授業で何を学びたいか、何ができるようになりたいかについての聞き取りを行い、できるだけ受講者の希望が活かせるような内容構成にしていく予定である。				
【履修条件】	数学科教育法Ⅰを履修し、高等学校の数学科教員免許状を取得しようとしていること。				
【評価方法】	授業への出席、レポート、授業中の活動等によって評価する。				
【テキスト】	高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編 文部科学省 著 学校図書発行 高等学校数学科教科書(数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、Bで、受講者自身が使ったもので良い)				
【参考書】	(復刻版)算数・数学教育と数学的な考え方、中島健三著、東洋館出版社、ISBN 978-4-491-03130-9 いかにして問題をとくか、G.Polya 著、柿内賢信訳、丸善株式会社 ISBN 978-4621045930				
【備考】	受講者の関心に応じて、講義を進めていく上で必要と考えられる参考書は、その都度紹介する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受け入れ可能	【科目等履修生】	受入れ可能	【交換留学生】	受入れ可能



【科目名】	情報科教育法 I	Teaching Method of Informatics I			
【配当年次】	3 年	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭				
【授業目標】					
●授業目的	<p>高等学校の「情報」を担当する教員育成を目的に、共通教科「情報」および専門教科「情報」の両方に含まれる科目群の教育を主として、中等教育における情報教育の教科教育法について以下の目標及びテーマで学ぶ。</p> <p>(1)カリキュラム、教育目標、育成を目指す資質・能力の理解</p> <p>(2)学習内容についての深い理解</p> <p>(3)学習内容についての教材開発力の育成</p>				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「情報」の指導内容について理解する。</li> <li>・教科「情報」の教材を分析・評価したり、新たな教材を開発するための基礎力を身に付ける。</li> <li>・教科「情報」の授業のつくり方を理解、それに基づいて実践するときの留意点を把握する。</li> </ul>				
【授業概要】	<p>初等中等教育における情報教育の理念や目的について説明する。続いて、高等学校の共通教科「情報」と専門教科「情報」の内容について述べる。情報の科学的理解、情報活用のための実践力育成、情報社会への参画、協調的コミュニケーション育成のための学習指導法について説明し、「総合的な学習の時間」との協調について述べる。高等学校での情報教育の内容と方法について、各教科を例に授業体系と指導法を考える。最後に、情報機器と教材の活用、情報教育の学習指導案の作成と学習評価方法について述べる。</p>				
【授業方法】	<p>座学による講義が中心となるが、受講生によるプレゼンテーションなどを積極的に講義の中に取り入れる。また、学習指導案の作成なども行う。</p> <p>感染症拡大の状況によっては、Zoom を使ってオンラインで授業を実施する。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>第1回:教科「情報」のカリキュラム</p> <p>第2回:教科「情報」の教育目標、育成すべき資質・能力</p> <p>第3回:初等中等教育における情報教育</p> <p>第4回:教科「情報」の理念と設立の経緯</p> <p>第5回:情報の科学的理解とその学習指導</p> <p>第6回:情報活用のための実践力育成とその学習指導</p> <p>第7回:情報社会への参画と協調的コミュニケーションの学習指導</p> <p>第8回:教科「情報」と「総合的な学習の時間」の協調</p> <p>第9回:教科「情報」の学習指導要領の改訂</p> <p>第10回:情報教育の授業設計</p> <p>第11回:情報教育の内容と方法 1(普通教科「情報」)</p> <p>第12回:情報教育の内容と方法 2(専門教科「情報」)</p> <p>第13回:情報機器と教材の活用</p> <p>第14回:情報教育の学習指導案の作成</p> <p>第15回:情報教育の学習評価方法</p>				
【履修条件】	<p>教職受講者</p> <p>「情報科教育法Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。</p>				
【評価方法】	<p>授業への取り組み状況や提出されたレポートなどから総合的に判断する。</p>				
【テキスト】	<p>久野靖・辰己丈夫監修「情報科教育法 改訂3版」オーム社</p> <p>文部省「高等学校学習指導要領解説 情報編」開隆堂出版</p>				
【参考書】	<p>駒谷昇一、山川修、中西通雄、北上始、佐々木整、湯瀬裕昭共著「IT Text(一般教育シリーズ) 情報とネットワーク社会」オーム社</p>				
【備考】	<p>感染症拡大状況などにより授業方法に変更の可能性がある。</p> <p>授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	情報科教育法Ⅱ	Teaching Method of Informatics Ⅱ			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	湯瀬裕昭				
【担当教員】	湯瀬裕昭				
【授業目標】					
●授業目的	<p>「情報科教育法Ⅰ」に引き続き、高等学校の共通教科「情報」及び専門教科「情報」における情報教育の教科教育法について、模擬授業などを通して以下の目標及びテーマで実践的に学ぶ。</p> <p>(1)学習内容についての深い理解  (2)学習内容についての教材開発力の育成  (3)授業設計・授業実践力の育成</p>				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「情報」の指導内容について理解する。</li> <li>・教科「情報」の教材を分析・評価したり、新たな教材を開発するための基礎力を身に付ける。</li> <li>・教科「情報」の授業のつくり方を理解、それに基づいて実践するときの留意点を把握する。</li> </ul>				
【授業概要】	<p>良い授業を行うためには、事前の準備が欠かせない。授業の事前の準備として学習指導案の作成や教材の準備などがある。共通教科「情報」では、授業の中で実習を行うため、実習の準備も欠かせない。この講義では、模擬授業を通して、学習指導案の作成、教材の作成、教材の活用、情報機器の活用、模擬授業の実施、模擬授業の評価など情報の授業に必要な事柄を一通り体験し、情報教育の教科教育法について実践的に学習を進める。</p>				
【授業方法】	<p>実際に学習指導案や試験問題を作成し、模擬授業と模擬試験を行う。模擬授業の様子をビデオ撮影し、そのビデオを見ながら模擬授業の振り返りと評価を行う。また、模擬試験についても評価を行い、授業と評価の両方を体験する。</p> <p>感染症拡大の状況によっては、Zoomを使ってオンラインで授業を実施する。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>第1回：座学型授業の教材研究と指導上の留意点  第2回：演習型授業の教材研究と指導上の留意点  第3回：授業設計の方法1：情報機器の活用  第4回：授業設計の方法2：学習評価の考え方  第5回：授業設計の方法3：学習指導案の作成  第6回：模擬授業の目的と授業評価  第7回：模擬授業と授業評価1（座学型授業）  第8回：模擬授業と授業評価2（演習型実習）  第9回：模擬授業と授業評価の振り返りと授業改善  第10回：模擬授業と授業評価3（改善した座学型授業）  第11回：模擬授業と授業評価4（改善した演習型授業）  第12回：試験問題の作成と評価  第13回：模擬試験の模擬試験評価  第14回：情報教育の研究の動向  第15回：高等学校における情報教育の課題と展望</p>				
【履修条件】	「情報科教育法Ⅰ」を履修していること。				
【評価方法】	試験やレポート、授業への取り組み状況などから総合的に判断する。				
【テキスト】	<p>文部省「高等学校学習指導要領解説 情報編」開隆堂出版  久野靖・辰己丈夫監修「情報科教育法 改訂3版」オーム社</p>				
【参考書】	岡本敏雄・西村和典「教職必修・情報科教育のための指導法と展開例」実況出版				
【備考】	感染症拡大などの状況によりオンライン授業に変更の可能性がある。授業方法等に変更のある場合は、別途指定・案内する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	商業科教育法 I	Methodology of Business Education I			
【配当年次】	カリキュラムにより異なります。	【開講時期】	2024 年度前期		
【科目責任者】	*岡田修二				
【担当教員】	*岡田修二				
【授業目標】					
●授業目的	商業科教育の意義・内容を深く理解するとともに、変化しつつある今日の商業環境の中で、働く者にとって不可欠な教育としての「商業科教育」のあり方について考察する。また、経済社会全体にとっての商業科教育の役割を理解することによって、商業科教育が人間形成に寄与するものであることを学ぶ。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業教育の意義、目標及び教科の組織を理解し、商業教育の各分野、各科目の構成を理解する。</li> <li>・基礎的科目の目標や内容について、指導者として理解する。</li> <li>・指導者として適切な指導方法、生徒への接し方を身に付ける。</li> </ul>				
【授業概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業教育の意義・目標及び教科の組織や体系について理解し、商業教育に関する各分野、各科目のねらいと内容について理解を図る。</li> <li>・基礎的科目の指導内容、指導方法等について理解を図る。</li> <li>・商業科教員としての望ましい在り方等について理解を図る。</li> </ul>				
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を中心としてすすめるが、授業中の質疑応答を積極的に行う。</li> <li>・学生自身の模擬授業や発表を重視し、指導力を養う。</li> <li>・諸般の事情により遠隔授業を行うことがある。</li> </ul>				
【準備学習】					
【授業展開】	第 1 週 商業教育の意義及び必要性 第 2 週 商業教育と進路 第 3 週 商業教育の歴史 第 4 週 学習指導要領の変遷 第 5 週 現行学習指導要領のねらい 第 6 週 学習内容の体系と各科目 第 7 週 教科の基礎科目 第 8 週 課題研究と総合実践 第 9 週 マーケティング分野の科目構成 第 10 週 マネジメント分野の科目構成 第 11 週 会計分野の科目構成 第 12 週 ビジネス情報分野の科目構成 第 13 週 基礎科目の指導内容と留意点 第 14 週 総合的な学習の時間と商業教育 第 15 週 教育課程の編成 定期試験				
【履修条件】	教職受講者				
【評価方法】	授業への出席状況、授業態度、授業中の提出物、発表及びテスト等により総合的に評価する。				
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「21 世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」日本商業教育学会編(実教出版)</li> <li>・高校教科書「ビジネス基礎」(具体的な教科書については授業の中で支持する)</li> </ul>				
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新商業教育論」岡田修二ほか編著(多賀出版)</li> <li>・「教職必修 最新商業科教育法 新訂版」日本商業教育学会(実教出版株式会社)</li> </ul>				
【備考】	教職に対する強い関心、意欲、態度を持って授業に臨んでほしい。  文部省教科調査官・公立高校での高等学校校長の経験を活かし、指導内容や指導方法の在り方等の指導・助言を行う。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	商業科教育法Ⅱ	Methodology of Business Education Ⅱ			
【配当年次】	3年	【開講時期】	2024年度後期		
【科目責任者】	*岡田修二				
【担当教員】	*岡田修二				
【授業目標】					
●授業目的	商業科教育の意義・内容を深く理解するとともに、変化しつつある今日の商業環境の中で、働く者にとって不可欠な教育としての「商業科教育」のあり方について考察する。また、経済社会全体にとっての商業科教育の役割や商業科教員としての使命を理解することによって、商業科教育が人間形成に寄与するものであることを学ぶ。				
●到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「商業」の中核的、発展的科目の内容を理解する。</li> <li>・高等学校における商業科教員としての資質や役割等について理解する。</li> <li>・指導者として適切な指導方法、生徒への接し方を身に付ける。</li> </ul>				
【授業概要】	商業科教育法Ⅰの学習を踏まえ、模擬授業実践などをとおして商業の各科目の指導内容、指導上の留意点及び評価の観点についてさらに深い理解を図る。				
【授業方法】	<p>講義を中心としてすすめるが、授業中の質疑応答を積極的に取り入れる。また、模擬授業実践を通して指導内容や指導方法の理解を図る。</p> <p>諸般の事情により遠隔授業を行うこともある。</p>				
【準備学習】					
【授業展開】	<p>第1週 マーケティング分野の指導と留意点</p> <p>第2週 マネジメント分野の指導と留意点</p> <p>第3週 会計分野の指導と留意点</p> <p>第4週 ビジネス情報分野の指導と留意点</p> <p>第5週 学習評価の理念と実際</p> <p>第6週 多様な指導方法と機器の活用</p> <p>第7週 年間指導計画の作成</p> <p>第8週 学習指導案の作成－1</p> <p>第9週 学習指導案の作成－2</p> <p>第10週 模擬授業実践－1</p> <p>第11週 模擬授業実践－2</p> <p>第12週 模擬授業実践の評価</p> <p>第13週 商業教育と学校運営</p> <p>第14週 特色ある取り組み事例</p> <p>第15週 魅力ある商業教育を目指して</p> <p>定期試験</p>				
【履修条件】	「商業科教育法Ⅰ」を履修していること。				
【評価方法】	授業への出席状況、授業態度、授業中の提出物、発表及びテスト等により総合的に評価する。				
【テキスト】	<p>高校教科書「マーケティング」小林 一、篠田勝之(実教出版)</p> <p>「21世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」日本商業教育学会編(実教出版)</p>				
【参考書】	講義内容に応じて適宜指示する。				
【備考】	<p>教職に対する強い関心、意欲、態度を持って授業に臨んでほしい。</p> <p>文部省教科調査官、公立高校での校長の経験を活かし、指導内容や指導方法の在り方等の指導・助言を行う。</p>				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	受 入 不 可	【科目等履修生】	受入不可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	海外英語研修 A	Offshore Seminar in English A
【配当年次】	1	【開講時期】 2023 年度
【科目責任者】	-	
【担当教員】	-	
【授業目標】		
●授業目的	英語でのキャンパス生活体験を通して、英語圏の文化の理解を深め、英語コミュニケーション能力の実質的な向上を図る。	
●到達目標	-	
【授業概要】	協定大学等(以下、研修機関)にて下記・春季に開催される下記英語研修プログラム(3~4週間)に参加し、所定の授業を修了する。 参加募集については、学生室および国際交流室から案内があるので掲示等に注意されたい。	
【授業方法】	研修参加者は以下の事項に留意し、研修の成果を上げるように努力する。 (1) 授業に遅刻しない。 (2) 予習・復習を必ずする。 (3) 欠席する場合、研修機関の担当講師に連絡する。 (4) 積極的に授業に参加する。	
【授業展開】	<p>【認定方法】</p> <p>(1) 英語クラスのレベルに関係なく、研修機関の3~4週間のコースを修了した学生に2単位を与える。</p> <p>(2) 「海外英語研修」の単位は、在学中に最大3回で認定する。 なお、同一の大学において複数回履修することは認めない。</p> <p>(3) 成績は本学で認定する。</p> <p>(4) 学生は所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。 ア 「海外英語研修単位認定申請書」 イ 認定されたコースの修了証の原本とそのコピー ウ 研修機関の担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、原本とそのコピー</p> <p>※ただし、本学入学以前に修了したものについては認められない。 また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。</p>	
【履修条件】	特になし。	
【評価方法】	研修機関からの評価レポートの評価による。	
【テキスト】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【参考書】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【備考】		
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可

【科目名】	海外英語研修 B	Offshore Seminar in English B
【配当年次】	1	【開講時期】 2023 年度
【科目責任者】	-	
【担当教員】	-	
【授業目標】		
●授業目的	英語でのキャンパス生活体験を通して、英語圏の文化の理解を深め、英語コミュニケーション能力の実質的な向上を図る。	
●到達目標	-	
【授業概要】	協定大学等(以下、研修機関)にて下記・春季に開催される下記英語研修プログラム(3~4週間)に参加し、所定の授業を修了する。 参加募集については、学生室および国際交流室から案内があるので掲示等に注意されたい。	
【授業方法】	研修参加者は以下の事項に留意し、研修の成果を上げるように努力する。 (1) 授業に遅刻しない。 (2) 予習・復習を必ずする。 (3) 欠席する場合、研修機関の担当講師に連絡する。 (4) 積極的に授業に参加する。	
【授業展開】	<p>【認定方法】</p> <p>(1) 英語クラスのレベルに関係なく、研修機関の3~4週間のコースを修了した学生に2単位を与える。</p> <p>(2) 「海外英語研修」の単位は、在学中に最大3回で認定する。 なお、同一の大学において複数回履修することは認めない。</p> <p>(3) 成績は本学で認定する。</p> <p>(4) 学生は所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。</p> <p>ア 「海外英語研修単位認定申請書」 イ 認定されたコースの修了証の原本とそのコピー ウ 研修機関の担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、原本とそのコピー</p> <p>※ただし、本学入学以前に修了したものについては認められない。 また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。</p>	
【履修条件】	「海外英語研修 A」の単位を修得済みであること。	
【評価方法】	研修機関からの評価レポートの評価による。	
【テキスト】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【参考書】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【備考】		
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可

【科目名】	海外英語研修 C	Offshore Seminar in English C
【配当年次】	1	【開講時期】 2023 年度
【科目責任者】	-	
【担当教員】	-	
【授業目標】		
●授業目的	英語でのキャンパス生活体験を通して、英語圏の文化の理解を深め、英語コミュニケーション能力の実質的な向上を図る。	
●到達目標	-	
【授業概要】	協定大学等(以下、研修機関)にて下記・春季に開催される下記英語研修プログラム(3~4週間)に参加し、所定の授業を修了する。 参加募集については、学生室および国際交流室から案内があるので掲示等に注意されたい。	
【授業方法】	研修参加者は以下の事項に留意し、研修の成果を上げるように努力する。 (1) 授業に遅刻しない。 (2) 予習・復習を必ずする。 (3) 欠席する場合、研修機関の担当講師に連絡する。 (4) 積極的に授業に参加する。	
【授業展開】	<p>【認定方法】</p> <p>(1) 英語クラスのレベルに関係なく、研修機関の3~4週間のコースを修了した学生に2単位を与える。</p> <p>(2) 「海外英語研修」の単位は、在学中に最大3回で認定する。 なお、同一の大学において複数回履修することは認めない。</p> <p>(3) 成績は本学で認定する。</p> <p>(4) 学生は所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。</p> <p>ア 「海外英語研修単位認定申請書」 イ 認定されたコースの修了証の原本とそのコピー ウ 研修機関の担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、原本とそのコピー</p> <p>※ただし、本学入学以前に修了したものについては認められない。 また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。</p>	
【履修条件】	「海外英語研修 A」及び「海外英語研修 B」の単位を修得済みであること。	
【評価方法】	研修機関からの評価レポートの評価による。	
【テキスト】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【参考書】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【備考】		
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可

【科目名】	海外英語研修 D	Offshore Seminar in English D
【配当年次】	1	【開講時期】 2023 年度
【科目責任者】	-	
【担当教員】	-	
【授業目標】		
●授業目的	英語でのキャンパス生活体験を通して、英語圏の文化の理解を深め、英語コミュニケーション能力の実質的な向上を図る。	
●到達目標	-	
【授業概要】	協定大学等(以下、研修機関)にて、オンラインで開催される英語研修プログラム(3~4週間)に参加し、所定の授業を終了する。 参加募集については、学生室及び国際交流室から案内があるので、掲示等に注意されたい。	
【授業方法】	研修参加者は、下記事項に留意し、研修の成果を上げるように努力する。 (1)授業に遅刻しない。 (2)予習・復習を必ずする。 (3)欠席する場合、研修機関の担当講師に連絡する。 (4)積極的に授業に参加する。	
【授業展開】	<p>【認定方法】</p> <p>(1)英語クラスのレベルに関係なく、オンラインで行う3~4週間のコースを修了した学生に1単位を与える。 (2)「海外英語研修」の単位は、在学中に最大で3回認定する。 (3)成績は本学で認定する。 (4)学生は所定の期日までに、事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。ア「海外英語研修単位認定申請書」 イ 認定されたコースの修了証の原本とそのコピー ウ 研修機関の担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合は、原本とそのコピー</p> <p>※ただし、本学入学以前に修了したものについては認められない。また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。</p>	
【履修条件】	特になし。	
【評価方法】	研修機関からの評価レポートの評価による。	
【テキスト】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【参考書】	研修機関指定のテキスト・教材を使用する。	
【備考】		
【旧カリキュラム読み替え科目】		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可